

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SEE11S034S		専門教育科目 幼児教育学領域	保育原理Ⅰ Principle of Early Childhood Care and EducationⅠ		2単位	必 修	講 義	1年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標									
学修教育目的	保育の意義及び目的について理解し、保育に関する法令及び制度を学修する。また、保育所保育指針における保育の基本原則について理解し、保育の目標、内容、環境、方法、子どもの理解に基づく保育の過程を学修する。								
	キーワード 保育の意義 保育制度 保育の基本 幼児教育の思想		学修教育目標	日本の保育の現状と課題について理解し、保育所保育指針を基に保育を巡る課題に対応できる力を身につけることを目指す。					
授業科目の概要及び学修上の助言									
保育とは何か、保育の対象、保育の制度等、保育の基本を学習する。また、諸外国や我が国の保育思想の変遷を学ぶことによって、現在の保育の在り方を考える。 毎回授業後に内容理解の確認を行うので、わからないことは自ら積極的に質問すること。									
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能									
秋学期の「保育原理Ⅱ」の理解につながる。 保育の原理を知ることは、すべての科目へと繋がることとなると認識すること。									
教 科 書					参考書・リザーブドブック				
書 名：新しい保育講座Ⅰ 保育原理 著者名：渡邊英則・高嶋景子・大豆生田啓友・三谷大紀 編著 出版社：ミネルヴァ書房					書 名：平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定子ども園教育保育要領解説書 著者名：内閣府 文部科学省 厚生労働省 出版社：チャイルド本社 その他、授業中に適宜紹介する。				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。		保育の原理、特性、環境、方法について理解する。						◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。								
③	子どもの発達に関する知識を身につける。								
④	子どもの発達に関する技能を身につける。								
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。								
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。								
授業科目における社会人基礎力の育成目標									
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）					
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性		保育に関連する内容について、情報を収集しようとする。					○
		② 働きかけ力							
		③ 実行力							
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力		保育に関連する今日の問題を分析し、理解する。					◎
		② 計画力		保育に関連する今日の問題を分析、理解したうえで解決に向けた準備をしようとする。					△
		③ 創造力							
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力							
		② 傾聴力							
		③ 柔軟性							
		④ 状況把握力		保育現場における保育者の役割を理解する。					△
		⑤ 規律性							
		⑥ ストレスコントロール力							
4. 倫理観		① 倫理性		保育者としての資質を身に付ける。					○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			55		45					100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		45		10					55
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		10		15					25
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価				20					20
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
保育所保育指針における保育の基本原則について理解したうえで、保育の目標と方法を具体的に学ぶ。					保育の意義及び目的について理解し、保育に関する法令及び制度を学修する。また、保育所保育指針における保育の基本原則について理解する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	保育とは何か	面接講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 2 回 ／	保育の対象と場	面接講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 3 回 ／	子どもの発達(1) —乳幼児期の発達特性—	面接講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 4 回 ／	子どもの発達(2) —子どもの発達過程—	課題研究による授業	テキストの予習・復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 5 回 ／	保育の制度(1) —保育所、幼稚園、認定こども園—	課題研究による授業	テキストの予習・復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 6 回 ／	保育の制度(2) —幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領—	課題研究による授業	テキストの予習・復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 7 回 ／	諸外国の保育制度	課題研究による授業	テキストの予習・復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 8 回 ／	諸外国の保育思想	課題研究による授業	テキストの予習・復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 9 回 ／	わが国の保育思想	課題研究による授業	テキストの予習・復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 10 回 ／	保育内容(1) —「保育内容」の構造—	課題研究による授業	テキストの予習・復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 11 回 ／	保育内容（2） —保育において配慮すること—	面接講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 12 回 ／	保育の方法	面接講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 13 回 ／	保育課程・教育課程	面接講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 14 回 ／	指導計画	面接講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SEE31F034A		専門教育科目 幼児教育学領域	保育原理Ⅱ Principle of Early Childhood Care and Education Ⅱ		2 単位	必 修	講 義	1 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標									
学修教育目的	「保育原理Ⅰ」で学修した基本知識を踏まえ、保育者としての技能向上を図る。また、保育所・幼稚園をめぐる保育行政の動向と今日的課題とに注目する。								
キーワード	保育の意義 保育所の役割 保育行政 保育思想	学修教育目標	保育所・幼稚園実習に向けて適切な指導計画案を作成し、実践できる技能を獲得することを目指す。 授業では、保育実践例をもとに保育者の援助・指導・助言や指導計画案を作成する。						
授業科目の概要及び学修上の助言									
「保育原理Ⅰ」で学習した、保育とは何か、保育の対象、保育の制度等、保育の基本を確認し、理解を深める。 諸外国や我が国の保育思想の変遷を学ぶことによって、現在の保育の在り方を深く考える。 毎回授業後に内容理解の確認を行うので、わからないことは積極的に質問すること。									
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能									
「保育原理Ⅰ」を理解したうえで、「保育原理Ⅱ」では、より深い学習へと向かうことを意識すること。 保育の原理を知ることが、すべての科目へと繋がることとなると認識すること。									
教 科 書					参考書・リザーブドブック				
書 名：新しい保育講座1 保育原理 著者名：渡邊英則・高嶋景子・大豆生田啓友・三谷大紀 編著 出版社：ミネルヴァ書房					書 名：平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定子ども園教育保育要領解説書 著者名：内閣府 文部科学省 厚生労働省 出版社：チャイルド本社 その他、授業中に適宜紹介する。				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。								
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。								
③	子どもの発達に関する知識を身につける。								
④	子どもの発達に関する技能を身につける。								
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		保育の原理、特性、方法に、思想について理解し、専門職としての使命感、責任感、倫理観を身に付ける。						◎
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。								
授業科目における社会人基礎力の育成目標									
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性		保育に関連する内容について、積極的に情報を収集しようとする。					◎
		② 働きかけ力							
		③ 実行力							
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力		保育に関連する今日的問題を分析、理解する。					◎
		② 計画力		保育に関連する今日的問題を分析、理解したうえで解決に向けた準備をしようとする。					△
		③ 創造力							
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力							
		② 傾聴力							
		③ 柔軟性							
		④ 状況把握力		保育現場における保育者の役割を理解する。					○
		⑤ 規律性							
		⑥ ストレスコントロール力							
4. 倫理観		① 倫理性		保育者としての資質を身に付ける。					○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
		総 合 評 価 割 合	55		45					100
評 価 の 指 標	知識に関する評価	45		10						55
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価	10		15						25
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価			20						20
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
専門職としての使命感、責任感、倫理観を身に付け、保育行政の動向と今日的課題とに注目し理解できる。					「保育原理Ⅰ」で学修した基本知識を踏まえ、保育者としての技能向上を図る。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	保育の原理	面接講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 2 回 ／	保育所の役割	面接講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 3 回 ／	保育の制度	面接講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 4 回 ／	諸外国における保育の思想と歴史（1） —子ども観と保育思想—	課題研究による授業	テキストの予習・復習	30
	レポート内容による評価			
第 5 回 ／	諸外国における保育の思想と歴史（2） —保育施設の創設—	課題研究による授業	テキストの予習・復習	30
	レポート内容による評価			
第 6 回 ／	我が国の保育の歴史（1） —幼稚園の成立と発展—	課題研究による授業	テキストの予習・復習	30
	レポート内容による評価			
第 7 回 ／	我が国の保育の歴史（2） —子守学校から託児施設、保育所へ—	課題研究による授業	テキストの予習・復習	30
	レポート内容による評価			
第 8 回 ／	保育課程と保育計画	課題研究による授業	テキストの予習・復習	30
	レポート内容による評価			
第 9 回 ／	保育の方法の基本	課題研究による授業	テキストの予習・復習	30
	レポート内容による評価			
第 10 回 ／	保育の形態	課題研究による授業	テキストの予習・復習	30
	レポート内容による評価			
第 11 回 ／	健康・安全と保育	面接講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 12 回 ／	保育者の自己評価	面接講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 13 回 ／	保育所の自己評価、第三者評価	面接講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 14 回 ／	保育士の資質・任務・職業倫理	面接講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SEE11S035S	専門教育科目 幼児教育学領域	保育士入門 A Guide to a Childcare Worker		2 単位	必 修	講 義	1 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	保育者の役割や倫理、制度的位置づけについて学び、保育士の専門性について考察し、理解する。また、保育者間の連携・協働、専門機関・自治体・関係機関等との連携・協働について理解する。保育者としての資質・専門性の向上のための組織的取り組み、保育者としてのキャリア形成の意義について理解する。							
	キーワード 保育者の役割 協働 仲間 成長	学修教育目標	1. 保育者の役割と倫理、協働について理解する。 2. 保育士の制度的な位置づけ、専門性について理解する。					
授業科目の概要及び学修上の助言								
保育者の 1 日、保育の本質等、保育者としての基本を学ぶ。また、保育者同士、保護者との協働や連携の重要性を学び、自分の目指すべき保育者像を考える。 わからないことは積極的に質問し、解決しようとする姿勢を持つこと。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
「保育原理Ⅰ」「保育原理Ⅱ」と関連し、保育の基本を学ぶ中で、学び続ける姿勢、他者との共生について考えること。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
教科書の指定はありません。 必要に応じプリントを配布します。				書 名：保育者論 著者名：汐見 稔幸・大豆生田 啓友 出版社：ミネルヴァ書房 その他。授業中に適宜紹介する				
		学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。							
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。							
③	子どもの発達に関する知識を身につける。							
④	子どもの発達に関する技能を身につける。							
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	保育者の役割と倫理、協働について理解する。						◎
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。							
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性		保育者の役割について、積極的に情報収集をしようとする。				○
		② 働きかけ力						
		③ 実行力						
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力		保育者の役割について分析し、理解する。				◎
		② 計画力						
		③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力						
		② 傾聴力						
		③ 柔軟性						
		④ 状況把握力		保育者の役割について理解し、状況に合わせた行動ができる。				○
		⑤ 規律性		保育者の役割について理解し、ルールにのっとって行動を律する。				△
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性		保育者としての資質を身に付ける。				◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			55		35				10	100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		45		10					55
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		10		15					25
	チームワークに関する評価				5					5
	関心・意欲に関する評価				5				10	15
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
保育者の役割と倫理、協働について理解する。 専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。					保育者の役割と倫理、協働について理解する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	保育者の一日	面接授業 講義、演習、コメントシート	教科書の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価 コメントシート			
第 2 回 ／	保育の本質	面接授業 講義、演習、コメントシート	教科書の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価 コメントシート			
第 3 回 ／	豊かな環境をつくる ――遊びをさせる保育者――	面接授業 講義、演習、コメントシート	教科書の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価 コメントシート			
第 4 回 ／	保育の展開 ――絵本を通して豊かな生活を生み出す――	面接授業 講義、演習、コメントシート	教科書の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価 コメントシート			
第 5 回 ／	保育者の協働（1） ――保護者との協働――	面接授業 講義、演習、コメントシート	教科書の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価 コメントシート			
第 6 回 ／	保育者の協働（2） ――子育てコミュニティの中核として――	面接授業 講義、演習、コメントシート	教科書の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価 コメントシート			
第 7 回 ／	小学校との連携	面接授業 講義、演習、コメントシート	教科書の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価 コメントシート			
第 8 回 ／	保育者になるまでの学び	面接授業 講義、演習、コメントシート	教科書の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価 コメントシート			
第 9 回 ／	学び合う保育者	面接授業 講義、演習、コメントシート	教科書の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価コメントシート			
第 10 回 ／	児童養護施設における保育者	面接授業 講義、演習、コメントシート	教科書の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価 コメントシート			
第 11 回 ／	保育者の責務	面接授業 講義、演習、コメントシート	教科書の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価 コメントシート			
第 12 回 ／	保育者の在り方と歴史（1） ――戦前まで――	面接授業 講義、演習、コメントシート	教科書の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 13 回 ／	保育者の在り方と歴史（2） ――戦後の保育に関する動向と保育者――	面接授業 講義、演習、コメントシート	教科書の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価 コメントシート			
第 14 回 ／	子育て環境と保育者の役割の変化・保育者の専門性	面接授業 講義、演習、コメントシート	教科書の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価 コメントシート			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
SEE33S036S		専門教育科目 幼児教育学領域		保育課程論 Course of Nursing		2 単位	必 修	講 義	3 年次	春学期	
授業科目の学修教育目的・目標											
学修教育目的	幼稚園・保育所・認定子ども園では教育課程・保育計画・指導計画に基づいて保育が展開される。これらの基盤となる子どもの捉えかたや保育者としての援助の視点について解説し、保育計画の立案について学ぶ。										
	保育計画・立案 保育実践 環境づくり 指導計画		学修教育目標	乳幼児にとっての環境・指導計画の考えかた、教育課程や保育計画等保育課程について必要な知識の獲得を目指す。							
授業科目の概要及び学修上の助言											
保育における計画の意義と重要性を理解したうえで、保育計画の必要性を学ぶ。 長期、短期の保育計画の作成と留意事項を学び、実際に各年齢の指導計画を立案することを課題とする回があるので、それまでに分からないことがあれば質問し、解決しておくこと。											
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能											
保育計画には、乳幼児の発達の理解が必要であり、また実習時に指導計画を立案することが求められることを認識しておくこと。											
教 科 書					参考書・リザーブドブック						
書 名：保育の指導計画と実践演習ブック 著者名：門谷真希・山中早苗 編著 出版社：ミネルヴァ書房					書 名：平成 29 年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定子ども園教育保育要領解説書 著者名：内閣府 文部科学省 厚生労働省 出版社：チャイルド本社 その他、授業中に適宜紹介する。						
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）							
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。										
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。										
③	子どもの発達に関する知識を身につける。										
④	子どもの発達に関する技能を身につける。										
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。										
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。			保育計画・立案をすることができ、実施した後の計画を改善する全体構造が理解できる。						◎	
授業科目における社会人基礎力の育成目標											
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性			保育の計画について積極的に情報収集しようとする。						◎
		② 働きかけ力									
		③ 実行力									
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力			自分の立てた保育計画の問題点を考えようとする。						△
		② 計画力			保育計画について理解し、保育計画を立てようとする。						◎
		③ 創造力									
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力									
		② 傾聴力									
		③ 柔軟性			様々な状況を想定し、保育計画を立てようとする。						○
		④ 状況把握力			様々な状況に合わせ、問題点を考えて保育計画を立てようとする。						△
		⑤ 規律性									
		⑥ ストレスコントロール力									
4. 倫理観		① 倫理性			保育者としての資質を身に付ける。						○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
		総 合 評 価 割 合	55		45					100
評 価 の 指 標	知識に関する評価	40		20						60
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価	15		20						35
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価			5						5
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
保育計画・立案をすることができ、実施した後の計画を改善し再度立案することができる。					保育計画・立案をすることができ、実施した後の計画を改善する全体構造が理解できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	保育における計画の意義と重要性	面接講義、演習	教科書の予習・復習	30
	授業参加状況による意欲の評価、コメントシート			
第 2 回 ／	保育所における保育計画	面接講義、演習	教科書の予習・復習	30
	授業参加状況による意欲の評価、コメントシート			
第 3 回 ／	保育所保育指針・幼稚園教育要領	面接講義、演習	教科書の予習・復習	30
	授業参加状況による意欲の評価、コメントシート			
第 4 回 ／	保育における計画の変遷	課題研究による授業	教科書の予習・復習	30
	レポート内容による評価			
第 5 回 ／	保育課程と保育計画の実施と指導計画	課題研究による授業	教科書の予習・復習	30
	レポート内容による評価			
第 6 回 ／	長期の指導計画の作成と留意事項	課題研究による授業	年間指導計画について調べる	30
	レポート内容による評価			
第 7 回 ／	短期の指導計画の作成と留意事項	課題研究による授業	月間指導計画について調べる	30
	レポート内容による評価			
第 8 回 ／	日案・週案の考え方・立て方	課題研究による授業	週案について調べる	30
	レポート内容による評価			
第 9 回 ／	指導計画（1） 0～2 歳児の指導計画の考え方	課題研究による授業	おおむね 0～2 歳の指導計画を考える	30
	レポート内容による評価			
第 10 回 ／	指導計画（2） 3～5 歳児の指導計画の考え方	課題研究による授業	おおむね 3～5 歳の指導計画を考える	30
	レポート内容による評価			
第 11 回 ／	指導計画（3） 0～2 歳児の指導計画の作成	面接講義、演習	おおむね 0～1 歳の指導計画を完成させる	30
	授業参加状況による意欲の評価、指導計画表			
第 12 回 ／	指導計画（4） 3～5 歳児の指導計画の作成	面接講義、演習	おおむね 3～5 歳の指導計画を完成させる	30
	授業参加状況による意欲の評価、指導計画表			
第 13 回 ／	小学校における計画との関係	面接講義、演習	おおむね 5 歳の指導計画と小学校での指導目標のつながりを調べる。	30
	授業参加状況による意欲の評価、指導計画表			
第 14 回 ／	保育課程の見直しと評価	面接講義、演習	保育所児童保育要録、幼稚園幼児指導要録、認定こども園こども要録について調べる	30
	授業参加状況による意欲の評価			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SEE31F037S		専門教育科目 幼児教育学領域		子ども家庭福祉論 Child and Family Welfare Theory		2単位	必 修	講 義	1年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標										
学修教育目的	子ども・家庭を取り巻く社会情勢や、児童虐待・貧困等の諸問題について理解し、子ども家庭福祉の理念や施策・実践について学修する。									
キーワード	児童の最善の利益 子どもの人権擁護			学修教育目標	1. 子ども・家庭にかかわる諸問題を知り、子ども家庭福祉の理念ならびに制度と実施体系について理解すること、2. 子ども家庭福祉の現状と課題を理解し、実践できる能力を身に付けることを目指す。					
授業科目の概要及び学修上の助言										
まず子ども家庭福祉の理念と歴史の変遷、ならびに子どもの人権擁護について学修する。その上で、現代社会における子ども及び家庭をとりまく状況や現代的課題を取り上げて実情を知り、子ども家庭福祉の理念が実現されているのか、また制度が有効に機能しているのか等について検討する。そのような学修を通して、現代社会における子ども家庭福祉の意義と役割、今後取り組むべき課題についてディスカッションやレポート作成などを通して考えていく。										
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能										
「社会福祉論」「社会的養護論」「子ども家庭支援論」を学修するための基盤となる。 各回の予習として、次回分の授業範囲のテキストを通読しておくこと。										
教 科 書					参考書・リザーブドブック					
書 名：子ども家庭福祉論 著者名：山縣文治 出版社：ミネルヴァ書房					なし					
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。			子ども及び家庭の福祉に関する理念や法律・制度についての知識を得る。						◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。									
③	子どもの発達に関する知識を身につける。									
④	子どもの発達に関する技能を身につける。									
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。			子どもの最善の利益を主として考慮した実践を行うことができる。						○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。			子ども及び家庭をとりまく現代的課題を知り、取り組むことができる。						◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標										
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性			子ども家庭福祉の理念に基づき、主体的に児童及び家庭に関ることができる。					○
		② 働きかけ力			子ども及び家庭をとりまく現代的課題について問題であると認識し、自ら働きかけることができる。					○
		③ 実行力			子ども及び家庭の福祉に関する法律や制度を必要に応じて活用することができる。					○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力			子ども及び家庭をとりまく現代的課題を知り、問題を早期発見することができる。					◎
		② 計画力			発見された問題を解決するための方法について検討し計画を立てることができる。					○
		③ 創造力			問題解決のためのソーシャルアクションを実践することができる。					○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力								
		② 傾聴力								
		③ 柔軟性								
		④ 状況把握力								
		⑤ 規律性								
		⑥ ストレスコントロール力								
4. 倫理観		① 倫理性			児童家庭福祉の倫理・理念に基づき、児童及び家庭に働きかけることができる。					◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55		45					100
評価の指標	知識に関する評価		55		30					85
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価				15					15
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について十分に理解している。 子どもの人権擁護について理解し、実践に生かすことができる。 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について十分に理解し、活用できる。 子ども家庭福祉の現状と課題について十分に理解し、取り組むことができる。 子ども家庭福祉の動向と展望について十分に理解している。					現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解している。 子どもの人権擁護について理解している。 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解している。 子ども家庭福祉の現状と課題について理解している。 子ども家庭福祉の動向と展望について理解している。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	子ども家庭福祉の歴史と子どもの権利 1 子ども観の変遷	面接授業	（予習として）テキスト第 3 章 1. 2. を読み、内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること。	予習 30 復習 30
第 2 回 ／	子ども家庭福祉の歴史と子どもの権利 2 子どもの権利	面接授業	（予習として）テキスト第 3 章 3 を読み、内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること。	同上
第 3 回 ／	子ども家庭福祉の歴史と子どもの権利 3 子ども家庭福祉の歴史の変遷	面接授業	（予習として）テキスト第 4 章を読み、内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること。	同上
第 4 回 ／	子ども家庭福祉の歴史と子どもの権利 4 子ども家庭福祉の理念と概念	面接授業	（予習として）テキスト第 2 章を読み、内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること。	同上
第 5 回 ／	子どもをめぐる問題と子ども家庭福祉の支援 1 少子化社会における子どもの健全育成	面接授業	（予習として）テキスト第 1. 8. 9 章を読み、内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること。	同上
第 6 回 ／	子どもをめぐる問題と子ども家庭福祉の支援 2 子どもの貧困	面接授業	（予習として）テキスト第 13 章 1. を読み、内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること。	同上
第 7 回 ／	子どもをめぐる問題と子ども家庭福祉の支援 3 子ども虐待	面接授業	（予習として）テキスト第 11 章を読み、内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること。	同上
第 8 回 ／	子どもをめぐる問題と子ども家庭福祉の支援 4 子ども虐待と DV	面接授業	（予習として）第 7 回で指示する。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること。	同上
第 9 回 ／	子どもをめぐる問題と子ども家庭福祉の支援 5 ひとり親家庭の現状と支援	面接授業	（予習として）テキスト第 13 章 2. を読み、内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること。	同上
第 10 回 ／	子どもをめぐる問題と子ども家庭福祉の支援 6 母子保健の取り組み	面接授業	（予習として）テキスト第 7 章を読み、内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること。	同上
第 11 回 ／	子どもをめぐる問題と子ども家庭福祉の支援 7 障がいのある子どもへの支援	面接授業	（予習として）テキスト第 14 章を読み、内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること。	同上
第 12 回 ／	子どもをめぐる問題と子ども家庭福祉の支援 8 社会的養護	面接授業	（予習として）テキスト第 10 章を読み、内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること。	同上
第 13 回 ／	子どもをめぐる問題と子ども家庭福祉の支援 9 少年非行	面接授業	（予習として）テキスト第 12 章を読み、内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること。	同上
第 14 回 ／	子ども家庭福祉の制度と実施体系 1 子ども家庭福祉にかかわる関係機関と専門職	面接授業	（予習として）テキスト第 5 章を読み、内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること。	同上

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SEE32S038S	専門教育科目 幼児教育学領域	社会福祉論 Social Welfare Theory		2 単位	必 修	講 義	2 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	子ども・家庭を取り巻く社会情勢や、児童虐待・貧困等の福祉需要について理解し、社会福祉における子ども家庭支援の視点や制度・実践について学修する。							
	社会福祉の理念・意義 利用者の権利擁護 社会福祉の制度と実施体系 相談援助		学修教育目標	1. 社会福祉の理念・意義ならびに子ども家庭福祉への視点について理解すること、2. 社会福祉の制度と実施体系ならびに相談援助の理論と方法を理解し、実践できる能力を身に付けることを目指す。				
授業科目の概要及び学修上の助言								
まず、今日の社会における社会福祉の意義について学ぶ。その上で、社会福祉の理念・制度について学修し、それらを運営するための実施機関や行財政のシステム、利用者の権利擁護のシステムについて知る。 さらに、児童にかかわる専門職となった際に必要となる、他の専門職・資格等、他職種について知識を得て、連携のあり方について学ぶ。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
「子ども家庭福祉」で学んだ内容を基礎とし、より対象を拡げて学ぶ。 「社会的養護論」「子ども家庭支援」を学修するための基盤となる。								
教 科 書				参考書・リザーブブック				
書 名：社会福祉への招待 著者名：北川清一 川向雅弘 出版社：ミネルヴァ書房				なし				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。		社会福祉に関する理念や法律・制度についての知識を得る。					◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。							
③	子どもの発達に関する知識を身につける。							
④	子どもの発達に関する技能を身につける。							
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		社会福祉における利用者の保護にかかわる仕組みについて理解し、実践する。					○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		対象者をとりまく社会の現代的課題を知り、取り組むことができる。					○
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性	自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。					○
		② 働きかけ力	周囲の人を動かして目標を達成するパワーを持って働きかけている。					○
		③ 実行力	失敗を怖れずに、とにかくやってみようとする果敢さを持って、取り組むことができる。					○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力	適切に状況を把握し、課題を見つけ解決しようすることができる。					◎
		② 計画力	作業のプロセスを明らかにして優先順位をつけ、実現性の高い計画を立てられる。					○
		③ 創造力	従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。					○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力						
		② 傾聴力						
		③ 柔軟性						
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性	建学の精神「教育は徳なり」を深く理解し、教員・保育士としての責任と自覚を持ち、自分の能力を他人のためにいかそうとすることができる。					◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
		総 合 評 価 割 合	55		45					100
評 価 の 指 標	知識に関する評価	55		30						85
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価			15						15
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷について十分に理解する。 社会福祉の制度や実施体系等について理解し、活用することができる。 社会福祉における相談援助について理解、実践することができる。 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解し、実践することができる。 社会福祉の動向と課題について十分に理解する。					現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷について理解する。 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。 社会福祉における相談援助について理解する。 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。 社会福祉の動向と課題について理解する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷 1 社会福祉の概念	面接授業	（予習として）テキスト第 1 章を読み内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること。	予習 30 復習 30
第 2 回 ／	現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷 2 社会福祉の理念	面接授業	（予習として）テキスト第 2 章を読み内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること。	同上
第 3 回 ／	現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷 3 日本の社会福祉のあゆみ	面接授業	（予習として）テキスト第 4 章を読み内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること。	同上
第 4 回 ／	現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷 3 海外の社会福祉のあゆみ	面接授業	（予習として）テキスト第 5 章を読み内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること。	同上
第 5 回 ／	社会福祉の制度と実施体系 1 社会保障制度と社会福祉	面接授業	（予習として）第 4 回の授業で指示する。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること。	同上
第 6 回 ／	社会福祉の制度と実施体系 2 社会福祉行財政	面接授業	（予習として）第 5 回の授業で指示する。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること。	同上
第 7 回 ／	社会福祉の制度と実施体系 3 社会福祉の実施機関と施設	面接授業	（予習として）第 6 回の授業で指示する。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること。	同上
	小レポート			
第 8 回 ／	社会福祉における援助 1 社会福祉の対象	面接授業	（予習として）テキスト第 10 章を読み内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること。	同上
	小レポート			
第 9 回 ／	社会福祉における援助 2 社会福祉の援助	面接授業	（予習として）テキスト第 9 章を読み内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること。	同上
	小レポート			
第 10 回 ／	社会福祉における援助 3 社会福祉の利用過程	面接授業	（予習として）テキスト第 7 章を読み内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること。	同上
	小レポート			
第 11 回 ／	社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み 1 利用者保護の必要性	面接授業	（予習として）テキスト第 7 章を読み内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること。	同上
	小レポート			
第 12 回 ／	社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み 2 利用者保護の仕組み	面接授業	（予習として）テキスト第 7 章を読み内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること。	同上
第 13 回 ／	社会福祉の動向と課題 1 現代の貧困問題	面接授業	（予習として）テキスト第 6 章を読み内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること。	同上
第 14 回 ／	社会福祉の動向と課題 2 社会的排除	面接授業	（予習として）テキスト第 6 章を読み内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること。	同上

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SEE32F039S		専門教育科目 幼児教育学領域		社会的養護論 Social Protective Care Theory		2 単位	必 修	講 義	2 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標										
学修教育目的	児童虐待の増加や顕在化等にともない、子どもを社会的に養育し保護する社会的養護の役割は重要性を増している。子どもの人権擁護をふまえた社会的養護の理念ならびに制度や実施体系について、また社会的養護の対象や形態、専門職等について学修する。									
	キーワード		子どもの人権擁護 家庭養護 施設養護 家庭支援		学修教育目標	1．現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。 2．子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 3．社会的養護の制度や実施体系等について理解し、実践に活用できる。 4．社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解し、実践できる。 5．社会的養護の現状と課題について理解し、実践に生かすことができる。				
授業科目の概要及び学修上の助言										
保育所保育と並び、保育士の重要な役割である社会的養護下の子どもたちに対する支援を学ぶ科目である。 まず、子どもの人権擁護や保育士等の倫理と責務など、社会的養護の基本を十分理解したうえで、社会的養護の意義や歴史的変遷、制度や実施体系について学ぶ。 また施設養護の実施体系や、社会的養護下にある子どもへの支援の実際については、適宜事例検討やグループワークを交えて学ぶ。										
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能										
「子ども家庭福祉」における学びを基礎として本科目を学びます。 さらに本科目を理論的基盤とし、演習科目である「社会的養護演習」の学びに発展させます。										
教 科 書					参考書・リザーブブック					
書 名：基本保育シリーズ 社会的養護 I 著者名：相沢 仁、林 浩康 出版社：中央法規					なし					
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。			現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。						◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。									
③	子どもの発達に関する知識を身につける。									
④	子どもの発達に関する技能を身につける。									
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。			社会的養護における子どもの人権擁護及び自立支援等について理解する。 保育士等の倫理と責務について理解する。						○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。			社会的養護と子ども家庭福祉との関連性及び子どもの権利擁護について理解する。 社会的養護の現状と課題について理解する。						◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標										
分類(4 つの力)		能力要素(13 の要素)		授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性		自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。						○
		② 働きかけ力		周囲の人を動かして目標を達成するパワーを持って働きかけている。						○
		③ 実行力		失敗を怖れずに、とにかくやってみようとする果敢さを持って、取り組むことができる。						○
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力		適切に状況を把握し、課題を見つけ解決しようとすることができる。						◎
		② 計画力		作業のプロセスを明らかにして優先順位をつけ、実現性の高い計画を立てられる。						○
		③ 創造力		従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。						○
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力								
		② 傾聴力								
		③ 柔軟性								
		④ 状況把握力								
		⑤ 規律性								
		⑥ ストレスコントロール力								
4. 倫理観		① 倫理性		建学の精神「教育は徳なり」を深く理解し、教員・保育士としての責任と自覚を持ち、自分の能力を他人のためにいかそうとすることができる。						◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
		総 合 評 価 割 合		55		45				
評 価 の 指 標	知識に関する評価		55		30					85
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価				15					15
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について十分に理解する。 社会的養護の制度や実施体系等について理解し、活用することができる。 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解し、実践できる。 社会的養護の現状と課題について理解し、自ら課題を発見できる。					現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 社会的養護の現状と課題について理解する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷 1 社会的養護の理念と概念	面接授業	（予習として）テキスト第 1 章を読み、内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること。	予習 30 復習 30
第 2 回 ／	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷 2 社会的養護の歴史の変遷	面接授業	（予習として）テキスト第 2 章を読み、内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること。	同上
第 3 回 ／	社会的養護の基本 1 子どもの人権擁護と社会的養護	面接授業	（予習として）テキスト第 3 章を読み、内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること。	同上
第 4 回 ／	社会的養護の基本 2 社会的養護の基本原則	面接授業	（予習として）テキスト第 4 章を読み、内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること。	同上
第 5 回 ／	社会的養護の基本 3 社会的養護における保育士等の倫理と責務	面接授業	（予習として）テキスト第 5 章を読み、内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること。	同上
第 6 回 ／	社会的養護の制度と法体系	面接授業	（予習として）テキスト第 6 章を読み、内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること。	同上
第 7 回 ／	社会的養護の対象・形態・専門職 1 施設養護① 乳児院	面接授業	（予習として）テキスト第 7 章を読み、内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること。	同上
第 8 回 ／	社会的養護の対象・形態・専門職 2 施設養護② 児童養護施設	面接授業	（予習として）テキスト第 7 章を読み、内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること。	同上
第 9 回 ／	社会的養護の対象・形態・専門職 3 施設養護③ 児童自立支援施設	面接授業	（予習として）テキスト第 7 章を読み、内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること。	同上
第 10 回 ／	社会的養護の対象・形態・専門職 4 施設養護④ 児童心理治療施設	面接授業	（予習として）テキスト第 7 章を読み、内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること。	同上
第 11 回 ／	社会的養護の対象・形態・専門職 5 施設養護⑤ 母子生活支援施設	面接授業	（予習として）テキスト第 7 章を読み、内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること。	同上
第 12 回 ／	社会的養護の対象・形態・専門職 6 家庭養護① 里親・ファミリーホーム	面接授業	（予習として）テキスト第 10 章を読み、内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること。	同上
第 13 回 ／	社会的養護の対象・形態・専門職 7 家庭養護② 特別養子縁組	面接授業	（予習として）第 12 回で指示する。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること。	同上
第 14 回 ／	社会的養護の対象・形態・専門職 8 社会的養護にかかわる専門職	面接授業	（予習として）テキスト第 11 章を読み、内容を確認しておくこと。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、小レポートの内容に反映させること。	同上

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SEE33S040S	専門教育科目 幼児教育学領域	社会的養護演習 Exercise for Social Protective Care		1 単位	必 修	演 習	3 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	「社会的養護論」で学んだ知識を踏まえて、社会的養護の内容について具体的に理解する。施設養護及び家庭養護の実際を知り、社会的養護における支援の計画・記録・自己評価の実際について、また社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実践について演習を通じて修得する。							
	子どもの権利擁護 保育士の倫理 日常生活支援・心理的支援・自立支援		学修教育目標	授業では施設養護ならびに家庭養護の特性及び実際、また社会的養護における家庭支援について具体例を示して学ぶことにより、専門的技術を修得することをめざす。				
授業科目の概要及び学修上の助言								
「社会的養護論」で学んだ理論を基盤とし、一人ひとりの子どものニーズに応じた養育・支援を行うための技術を身につけることを目的として、ロールプレイ、事例検討、支援計画作成等の演習を多く実施する。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
本科目を学ぶための理論的基盤である「社会的養護論」の学修内容を復習しておくこと。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
書 名：基本保育シリーズ 社会的養護Ⅱ 著者名：相沢 仁、村井 美紀 出版社：中央法規				なし				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。		施設養護及び他の社会的養護の実際について学ぶ。 社会的養護を通して、家庭支援、子ども家庭福祉、地域福祉について理解や認識を深める。					○
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。		社会的養護に関わる相談援助の方法と技術について理解する。					◎
③	子どもの発達に関する知識を身につける。							
④	子どもの発達に関する技能を身につける。							
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		社会的養護における子どもの権利擁護や保育士等の倫理について理解する。					◎
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		個々の児童に応じた支援計画を作成し、日常生活の支援、治療的支援、自立支援等の内容について具体的に学ぶ。					◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4 つの力)		能力要素(13 の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性		集団や組織の中で自分の役割と責任を判断し、主体的に取り組むことができる。				○
		② 働きかけ力		集団や組織の中でリーダーシップを発揮し、他者や組織を動かしながら目標達成に向けて働きかけることができる。				○
		③ 実行力		失敗を怖れずに、とにかくやってみようとする果敢さを持って、取り組むことができる。				○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力		現状を正しく認識するための情報収集や分析ができる。				○
		② 計画力		問題解決のプロセスを明らかにし、優先順位をつけて計画を立てることができる。				○
		③ 創造力		様々な知識・技能等を組み合わせ、問題の解決に対して新たな方法を考えることができる。				○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力						
		② 傾聴力						
		③ 柔軟性		立場の異なる相手の背景や事情を理解することができる。				○
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性		建学の精神「教育は徳なり」を深く理解し、教員・保育士としての責任と自覚を持ち、自分の能力を他人のためにいかそうとすることができる。				◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55		45					100
評価 の 指標	知識に関する評価		30		15					45
	技能に関する評価		25		15					40
	応用力に関する評価									
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価				15					15
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解し実践できる。 施設養護及び他の社会的養護の実際について十分に理解する。 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について具体的に理解し実践できる。 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解し実践できる。 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解や認識を十分に深める。					子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について理解する。 施設養護及び他の社会的養護の実際について十分に理解する。 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	社会的養護の内容 1 社会的養護における子どもの理解	面接授業	（予習として）テキスト第 2 章を読み、内容を確認しておくこと。 （復習として）実践力を養うため、適宜、演習課題を与える。指示された期日までに完成させて提出すること。	予習 30 復習 30
第 2 回 ／	社会的養護の内容 2 日常生活支援	面接授業	（予習として）テキスト第 3 章を読み、内容を確認しておくこと。 （復習として）実践力を養うため、適宜、演習課題を与える。指示された期日までに完成させて提出すること。	同上
第 3 回 ／	社会的養護の内容 3 治療的支援	面接授業	（予習として）テキスト第 4 章を読み、内容を確認しておくこと。 （復習として）実践力を養うため、適宜、演習課題を与える。指示された期日までに完成させて提出すること。	同上
第 4 回 ／	社会的養護の内容 4 自立支援 1	面接授業	（予習として）テキスト第 5 章を読み、内容を確認しておくこと。 （復習として）実践力を養うため、適宜、演習課題を与える。指示された期日までに完成させて提出すること。	同上
第 5 回 ／	社会的養護の内容 5 自立支援 2	面接授業	（予習として）テキスト第 5 章を読み、内容を確認しておくこと。 （復習として）実践力を養うため、適宜、演習課題を与える。指示された期日までに完成させて提出すること。	同上
第 6 回 ／	社会的養護の実際 1 児童養護施設の生活特性および実際	面接授業	（予習として）テキスト第 6 章を読み、内容を確認しておくこと。 （復習として）実践力を養うため、適宜、演習課題を与える。指示された期日までに完成させて提出すること。	同上
第 7 回 ／	社会的養護の実際 2 乳児院の生活特性および実際	面接授業	（予習として）テキスト第 6 章を読み、内容を確認しておくこと。 （復習として）実践力を養うため、適宜、演習課題を与える。指示された期日までに完成させて提出すること。	同上
第 8 回 ／	社会的養護の実際 3 家庭養護の生活特性および実際	面接授業	（予習として）テキスト第 8 章を読み、内容を確認しておくこと。 （復習として）実践力を養うため、適宜、演習課題を与える。指示された期日までに完成させて提出すること。	同上
第 9 回 ／	社会的養護にかかわる専門的技術 1 社会的養護に関わる相談援助の知識・技術とその実践	面接授業	（予習として）テキスト第 12 章を読み、内容を確認しておくこと。 （復習として）実践力を養うため、適宜、演習課題を与える。指示された期日までに完成させて提出すること。	同上
第 10 回 ／	社会的養護にかかわる専門的技術 2 保育の専門性に関わる知識・技術とその実践	面接授業	（予習として）テキスト第 11 章を読み、内容を確認しておくこと。 （復習として）実践力を養うため、適宜、演習課題を与える。指示された期日までに完成させて提出すること。	同上
第 11 回 ／	社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価 1 アセスメントと個別支援計画の作成	面接授業	（予習として）テキスト第 9 章を読み、内容を確認しておくこと。 （復習として）実践力を養うため、適宜、演習課題を与える。指示された期日までに完成させて提出すること。	同上
第 12 回 ／	社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価 2 記録及び自己評価	面接授業	（予習として）テキスト第 10 章を読み、内容を確認しておくこと。 （復習として）実践力を養うため、適宜、演習課題を与える。指示された期日までに完成させて提出すること。	同上
第 13 回 ／	今後の課題と展望 1 社会的養護における家庭支援	面接授業	（予習として）テキスト第 14 章を読み、内容を確認しておくこと。 （復習として）実践力を養うため、適宜、演習課題を与える。指示された期日までに完成させて提出すること。	同上
第 14 回 ／	今後の課題と展望 2 社会的養護と社会的排除	面接授業	（予習として）第 13 回で指示する。 （復習として）実践力を養うため、適宜、演習課題を与える。指示された期日までに完成させて提出すること。	同上

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
SEE32S041S		専門教育科目 幼児教育学領域		ジュニア栄養学（子どもの食と栄養） Child Nutrition（Food and Nutrition of Children）		2単位	必 修	講 義	2年次	春学期	
授業科目の学修教育目的・目標											
学修教育目的	幼児児童期の発育発達において栄養は大きな影響を及ぼす。近年食育が重要視されるのも、この時期の発達の程度が生涯の健康で豊かな人間性を育むうえで基盤となるとの認識からである。また、栄養学は保育の現場で必ず求められる知識である。これらを理解し、子どもの健全な発育とその後の健康を実現するために必要な子どもの栄養に関する知識を学修する。										
	キーワード		子ども 食生活 栄養 食育	学修教育目標	・健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的な知識を身につける。 ・子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。 ・食育の基本とその内容及び食育のための環境を地域社会・文化とのかかわりの中で理解する。 ・家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ。 ・特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。						
授業科目の概要及び学修上の助言											
子どもの栄養と食生活は生涯にわたる健康の基礎となる。本科目では、健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養、食の安全性に関する基礎的知識を学び、自らが望ましい食生活を考え実践する力を培うとともに、子どもの年齢や発育・発達過程における食生活との関連や食生活に特別な配慮が必要な子どもへの対応について学ぶ。また食を通した保護者への支援や保育実践に係る食育の基本と内容について概説する。 授業外学習では、①事前・事後に教科書等を読み予習・復習に努めること。②日頃より子どもの食をめぐるメディア情報等に関心を持つこと。③自己の食生活、社会の中での食生活に関心を持ち、考える習慣を持つことを求めたい。											
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能											
「ジュニア栄養学演習（子どもの食と栄養）」の理解につながる。											
教 科 書					参考書・リザーブドブック						
書 名：子どもの食と栄養 著者名：太田百合子、堤ちはる編著 出版社：羊土社					なし						
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）							
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。										
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。										
③	子どもの発達に関する知識を身につける。			子どもの発育発達と食生活の関連を理解し、空所補充問題や記述式問題に正しく答えることができる。						◎	
④	子どもの発達に関する技能を身につける。			子どもの発育発達に応じた適切な食事の援助方法を理解し、実践できるようになる。						○	
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。			子どもにとって「食事」は生命の維持、発育発達に欠かせないものであることを深く理解するとともに、子どもの「食を営む力」の基礎を培う食育の実践者であることを自覚する。						◎	
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。			本講義の学びを活用し、子どもの状況に応じた教育や支援、保護者支援について、自分なりに考えを提示し、文章や口頭で説明することができるようになる。						○	
授業科目における社会人基礎力の育成目標											
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性			受け身ではなく積極的な姿勢で授業に臨むことができる。						○
		② 働きかけ力									
		③ 実行力									
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力									
		② 計画力									
		③ 創造力			問題解決にあたり、さまざまな思考をすることができる。						○
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力									
		② 傾聴力			他の人の考えを理解しようと心がけることができる。						○
		③ 柔軟性									
		④ 状況把握力									
		⑤ 規律性									
		⑥ ストレスコントロール力									
4. 倫理観		① 倫理性			相手の立場に立って行動することができる。						△

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			45	15			10		30	100
評価の指標	知識に関する評価		25	15					5	45
	技能に関する評価								5	5
	応用力に関する評価		10				10		5	25
	チームワーク力に関する評価								5	5
	関心・意欲に関する評価		10						10	20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養、食の安全に関する基礎的知識を理解し、それらを活用し、生活者として望ましい食生活を実践している。 2. 子どもの成長や状況に応じた栄養、食生活を理解し、他者に説明ができる。 3. 食育の基本と内容を理解し、他者に説明できる。					1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養、食の安全に関する基礎的知識を理解し、それらを活用し、生活者として望ましい食生活の実践に努めている。 2. 子どもの成長や状況に応じた栄養、食生活を理解している。 3. 食育の基本と内容を理解している。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション 授業の目的、進め方について 子どもの健康と食生活（1） 子どもの心身の健康と食生活・現状と課題	面接授業	予習：シラバスをよく読み、授業内容の把握に努める 復習：授業内容をまとめる	30 30
	ワークシート			
第 2 回 ／	子どもの健康と食生活（2） 子どもの心身の健康と食生活・現状と課題	面接授業	予習：教科書の範囲を読んでおく 復習：授業内容をまとめる	30 30
	ワークシート			
第 3 回 ／	栄養に関する基本的知識(1) 栄養素の種類と機能　－栄養の基本的概念・炭水化物・脂質・たんぱく質－	面接授業	予習：教科書の範囲を読んでおく 復習：授業内容をまとめる	30 30
	小テスト			
第 4 回 ／	栄養に関する基本的知識(2) 栄養素の種類と機能　－ミネラル・ビタミン・水分－	面接授業	予習：教科書の範囲を読んでおく 復習：授業内容をまとめる	30 30
	小テスト			
第 5 回 ／	栄養に関する基本的知識(3) 食事摂取基準　－献立作成・調理の基本・衛生管理－	面接授業	予習：教科書の範囲を読んでおく 復習：授業内容をまとめる 課題作品の制作	30 30
	ワークシート			
第 6 回 ／	栄養に関する基本的知識(4) 課題「幼児向け食育揭示物」	課題研究による授業	予習：幼児向けの食育媒体について調べておく 復習：授業内容をまとめる	60 30
	作品			
第 7 回 ／	子どもの発育発達と食生活(1) 乳児期　－乳児期の授乳、離乳	面接授業	予習：教科書の範囲を読んでおく 復習：授業内容をまとめる	30 30
	ワークシート			
第 8 回 ／	子どもの発育発達と食生活(2) 乳児期　－乳児期の授乳、離乳－	面接授業	予習：教科書の範囲を読んでおく 復習：授業内容をまとめる	30 30
	小テスト			
第 9 回 ／	子どもの発育発達と食生活(3) 乳児期　－乳児期の授乳、離乳 調乳演習	面接授業	予習：教科書の範囲を読んでおく 復習：授業内容をまとめる（レポート）	30 60
	演習レポート			
第 10 回 ／	子どもの発育発達と食生活(4) 幼児期　－幼児期の心身の発達と食生活－	面接授業	予習：教科書の範囲を読んでおく 復習：授業内容をまとめる	30 30
	ワークシート			
第 11 回 ／	子どもの発育発達と食生活(5) 幼児期　－幼児期の心身の発達と食生活	面接授業	予習：教科書の範囲を読んでおく 復習：授業内容をまとめる	30 30
	小テスト			
第 12 回 ／	子どもの発育発達と食生活(6) 課題「離乳食」	課題研究による授業	予習：離乳食の作り方について調べておく 復習：レポートの作成	30 60
	課題レポート			
第 13 回 ／	食育の基本と内容（1） 食育　－食育の内容、計画、評価	面接授業	予習：教科書の範囲を読んでおく 復習：授業内容をまとめる	30 30
	ワークシート			
第 14 回 ／	食育の基本と内容（2） 食育　－食育の内容、計画、評価	面接授業	予習：教科書の範囲を読んでおく 復習：授業内容をまとめる 最終レポートの作成に向けて文献調査	30 120
	小テスト			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SEE32F042S		専門教育科目 幼児教育学領域		ジュニア栄養学演習（子どもの食と栄養） Child Nutrition Exercise (Food and Nutrition of Children)		2単位	必 修	演 習	2年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標										
学修教育目的	子どもの発育・発達と健康な生活の基本としての食育の意義や栄養に関する基礎知識を学ぶ。心身の健康を獲得する上で重要な乳児児童期の食事献立案や食生活改善案を討議する。また、家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題、関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえた必要な配慮について理解し、その実践方法を身につける。									
	キーワード	子ども 食生活 食育	学修教育目標	学童期・思春期の栄養と食生活について学び、実際に学童食やおやつ等を作る理論と技術を習得し、食育活動が企画実施できる。 子どもの食と栄養について、授乳期から学童期・思春期にいる発達段階に応じた食生活の重要性を考える確かな能力を身につけている。						
授業科目の概要及び学修上の助言										
ジュニア栄養学（子どもの食と栄養）で学んだ知識を基礎に、子どもの発育・発達過程における食生活を、調理実習を交え理解していく。また食物アレルギーを始めとする食生活に特別の配慮が必要な子どもの現状やその対応についても学ぶ。食育については、子どもをめぐる食の問題の現状を把握し、保育所や学校等で行われている食育を理解するとともに、将来の食育実践者として子どもや保護者への支援を考えていく。 なお演習等は、グループで行うため、求められる役割を理解し、協調性を持って臨むこと。また調理実習については、新型コロナウイルス感染症の拡大状況により中止することがある。										
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能										
「ジュニア栄養学（子どもの食と栄養）」で得た知識を発展させる。 調理実習では、エプロン、三角巾（バンダナ可）、タオルを用意すること。										
教 科 書						参考書・リザーブドブック				
書 名：子どもの食と栄養 著者名：太田百合子、堤ちはる編著 出版社：羊土社 （春学期「ジュニア栄養学（子どもの食と栄養）」で使用した教科書）						なし				
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。									
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。									
③	子どもの発達に関する知識を身につける。			食を通した子どもの発育発達を理解し、空所補充問題や記述式問題に正しく答えることができる。◎						
④	子どもの発達に関する技能を身につける。			子どもの発育発達に応じた適切な食事や援助方法を理解し、実践できるようになる。◎						
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。			子どもにとって「食事」は生命の維持、発育発達に欠かせないものであることを深く理解するとともに、子どもの「食を営む力」の基礎を培う食育の実践者であることを自覚する。◎						
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。			本演習や関連する科目の学びを活用し、子どもの状況に応じた教育や支援、保護者への支援について、自分なりに考えを提示し、文章や口頭で説明することができるようになる。○						
授業科目における社会人基礎力の育成目標										
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性			受け身ではなく積極的な姿勢で授業に臨むことができる。○					
		② 働きかけ力								
		③ 実行力								
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力								
		② 計画力								
		③ 創造力			問題解決にあたり、さまざまな思考をすることができる。○					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力			自分の考えや質問に対する回答を解りやすく説明することができる。○					
		② 傾聴力			他の人の考えを理解しようと心がけることができる。○					
		③ 柔軟性								
		④ 状況把握力			さまざまな状況を把握し、的確な判断ができる。○					
		⑤ 規律性								
		⑥ ストレスコントロール力			さまざまなストレスに対して対応できる力を養うことができる。○					
4. 倫理観		① 倫理性			相手の立場に立って行動することができる。△					

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常的狀況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
		総 合 評 価 割 合	45	10	10	15			20	100
評 価 の 指 標	知識に関する評価	15	10	5	3			5	38	
	技能に関する評価				3				3	
	応用力に関する評価	15			3			5	23	
	チームワーク力に関する評価				3				3	
	関心・意欲に関する評価	15		5	3			10	33	
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
1. 子どもの成長や状況に応じた栄養、食生活を理解し、他者にわかるように説明ができる。 また適切な食事や間食の提供や、食事指導ができる。 2. 食育の基本と内容を理解し、保育所や教育現場などに相応しいものを企画実施できる。					1. 子どもの成長や状況に応じた栄養、食生活を理解し、自分なりに説明ができる。また 適切な食事や間食を提供できる。 2. 食育の基本と内容を理解し、保育所や教育現場などに相応しいものを企画できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション 授業の目的、進め方について 子どもの健康と食生活	オンデマンドによる遠隔授業	予習：シラバスをよく読み、授業内容の把握に努める 復習：授業内容を復習しておく	30
	コメントシート			
第 2 回 ／	栄養に関する基本的知識 栄養素の種類と機能 食事日記	オンデマンドによる遠隔授業	予習：資料を読んでおく 復習：授業内容を復習しておく 課題を仕上げて提出する	30 30
	演習課題、コメントシート			
第 3 回 ／	学童期・思春期の発育・発達と食生活（1）	オンデマンドによる遠隔授業	予習：資料を読んでおく 復習：授業内容を復習しておく	30 30
	コメントシート			
第 4 回 ／	学童期・思春期の発育・発達と食生活（2） 課題研究「企業の子ども向け食育の取り組み」	課題研究による授業	予習：資料を読んでおく 復習：授業内容を復習しておく 課題を仕上げて提出する	30 30
	レポート			
第 5 回 ／	食育の基本と内容(1) 保育所指針と保育所における食育	面接授業	予習：資料を読んでおく 復習：授業内容を復習しておく	30 30
	小テスト（1～3 回授業内容について）			
第 6 回 ／	食育の基本と内容（2）小学生の食育	面接授業	予習：資料を読んでおく 復習：授業内容を復習しておく	30 30
	演習課題			
第 7 回 ／	保育所等児童福祉施設における給食と学校給食 グループワーク 「これまでに経験した給食の内容と食育について」	面接授業	予習：資料を読んでおく 復習：授業内容を復習しておく	30 30
	コメントシート			
第 8 回 ／	特別な配慮を要する子どもの食と栄養（1） 食物アレルギー	面接授業	予習：資料を読んでおく 復習：授業内容を復習しておく	30 30
	小テスト（5～8 回授業内容について）			
第 9 回 ／	食中毒予防と衛生管理 調理実習の説明	面接授業	予習：資料を読んでおく 復習：授業内容を復習しておく	30 30
第 10 回 ／	調理実習 学童食	面接授業 調理実習	予習：資料を読んでおく 復習：調理実習レポートを作成して提出に備える	30 30
	レポート			
第 11 回 ／	調理実習 おやつ	面接授業 調理実習	予習：資料を読んでおく 復習：調理実習レポートを作成して提出に備える	30 30
	レポート			
第 12 回 ／	特別な配慮を要する子どもの食と栄養(2) 疾病や体調の悪いとき	面接授業	予習：資料を読んでおく 復習：授業内容を復習しておく	30 30
	コメントシート			
第 13 回 ／	グループワーク 子どもの食に関する個別テーマを決定し、発表ための媒体および 原稿づくり	面接授業 演習（グループワーク）	予習：資料を読んでおく 発表テーマを考える 復習：発表に向けて練習を行う	60 30
	活動記録			
第 14 回 ／	グループワーク 発表会 まとめ	面接授業 演習（グループワーク）	予習：期末レポートの作成に向けて準備する 復習：期末レポートを作成し提出する	60 90
	活動記録およびコメントシート			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SEE32S043S		専門教育科目 幼児教育学領域		乳児保育 Infant Care and Education		2 単位	必 修	講 義	2 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標										
学修教育目的		乳児保育の意義・目的・歴史的変遷・役割と、保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題を学修する。また、乳児の発育・発達を踏まえた保育内容を理解し、職員間の連携・協働や保護者、関連機関等との連携について学修する。								
キーワード		乳児保育（意義・理解・役割） 援助・専門知識・実技		学修教育目標		・乳児保育の意義・目的と役割について理解する。 ・保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 ・3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 ・乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。 ※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。				
授業科目の概要及び学修上の助言										
・乳児保育の意義・目的・歴史的変遷・役割と、保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題を学修する。また、乳児の発育・発達を踏まえた保育内容を理解し、職員間の連携・協働や保護者、関連機関等との連携について学修する。 ・受講生の方がイメージしやすい様に具体的な事例を通じて乳児保育の実践を学習する。 ・実際に乳児や養育者との触れ合う機会が持てるように、近隣の保育（園）所や子育て支援センター等で観察保育や体験を実施する。 ・授業では、ワークシートと個々にポートフォリオを作成し授業のまとめとする。 ・乳幼児期の子どもを取り巻く現状に関心を持ち、気づいたことや疑問に思うことなどを話し合い、今の保育問題についても学外からの専門家を招いて共に考えることも視野に授業の展開を構築する。 ・教育訓練技法の一つであるロールプレイング技法を適時、授業の中で取り入れる。 ・日頃から乳幼児期の親子に関心を持ち、保育問題に目を向ける。 ・保育所（園）、幼稚園施設などへのボランティアやインターンシップ活動には積極的に参加を促し、現地レポーターとして授業等で発表しプレゼンテーション能力を高める。										
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能										
・学外連携活動を活かし、保育園等の施設見学、保育体験など子どもと触れ合う機会を演習として取り入れる。 ・教育（保育）実習を意識し、出身の保育所、幼稚園でボランティアや手伝い等をして、乳幼児と接触する機会を多く持つことを勧める。 ※自身での体験学習が就職試験のときに活かせる。 ・毎回の授業での配布物は、ファイリング保存しポートフォリオとして乳児保育演習Ⅱ等の関連科目に活用する。毎回の受講時には、「iPad」を持参する。 ※他の科目で学ぶことを乳児保育の実践という視点で統合する。										
教 科 書				参考書・リザーブドブック						
書 名：赤ちゃんから学ぶ「乳児保育」の実践力 著者名：古橋紗人子編著 出版社：保育出版社 萌文書林 書名：乳児保育Ⅱアクティブラーニング対応 著者名：尾野明美・小湊真衣・菊池篤子 出版社：萌文書林 ・必要に応じて資料等を配布する。				書 名：保育所保育指針幼稚園教育要領 幼帆連携型認定こども園教育・保育要領解説とポイント 著者名：汐見稔幸 監修 無藤隆 監修 ミネルヴァ書房編集部 編 出版社：ミネルヴァ書房 ・『めばえる心はぐくむ心』～赤ちゃんとお母さんの記録～等の視聴覚教材を授業時にて適宜紹介する。						
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。			乳児保育意義・目的と役割について理解する。						◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。									
③	子どもの発達に関する知識を身につける。			3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。						◎
④	子どもの発達に関する技能を身につける。									
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。			保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。						○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。									
授業科目における社会人基礎力の育成目標										
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性	乳児保育に関心を持ち、自発的に取り組むことができる。							◎
		② 働きかけ力								
		③ 実行力	自らが設定した目標が達成できるよう努力する。							○
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力								
		② 計画力								
		③ 創造力								
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力	自身の考えを相手に分かるように話すことができる。							○
		② 傾聴力	相手の意見を最後までしっかり聞くことができる。							○
		③ 柔軟性								
		④ 状況把握力	自身の役割を把握し、行動することができる。							○
		⑤ 規律性								
		⑥ ストレスコントロール力								
4. 倫理観		① 倫理性								

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コンテスト等)	合 計
総 合 評 価 割 合			45	6	10	25	4	10		100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		25	4	5	5				39
	技能に関する評価		12		5	6	2			25
	応用力に関する評価					5	2	5		12
	チームワーク力に関する評価					5				5
	関心・意欲に関する評価		8	2		4		5		19
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
乳児期の発達の特徴と保育者の関わりについて理解できる。					乳児保育の基本について理解を深めることができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション （講義内容の説明、進め方、成績評価の説明等） 乳児保育の基本的な考え方	＊ 1 4 回全て対面授業 講義、グループトーク、発表、まとめ	シラバスを事前に読んでおく。 予習：養育者や母子手帳などから自身の誕生について調べ、レポートとしてまとめる。	60
	ワークシート			
第 2 回 ／	乳児期の生活を知る（乳児としての日課）＊視聴覚教材使用	講義、VHS 視聴、グループトーク、発表、まとめ	予習：乳児期の（身体的・精神的）発達について調べてレポート提出。 予習：乳児期を対象とした絵本や手遊びを調べる。	60
	ワークシート・課題レポート			
第 3 回 ／	乳児期の遊びと保育者の役割（絵本の読み語り・手遊びの紹介及び実践）	講義、発表、グループトーク、発表、まとめ	復習：保育所保育指針の関係する箇所を読む。 予習：次の授業に関係する保育者の役割と援助について調べてくる。	60
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 4 回 ／	乳児期の食事と保育者の役割（食事介助のあり方・授乳・箸の指導についての実践・食事をめぐるトラブルの原因と対策）	講義、グループトーク、発表、まとめ	復習：保育所保育指針の関係する箇所を読む。 予習：次の授業に関係する保育者の役割と援助について調べてくる。	60
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 5 回 ／	乳児期の睡眠と保育者の役割（子守唄等、寝かせ方の工夫についての実践）	講義、演習、グループトーク、発表、まとめ	復習：保育所保育指針の関係する箇所を読む。 予習：次の授業に関係する保育者の役割と援助について調べてくる。	60
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 6 回 ／	乳児期の排泄と保育者の役割（オムツ交換・自立への援助及びトイレトレーニングの工夫についての実践）	講義、演習、グループトーク、発表、まとめ	復習：保育所保育指針の関係する箇所を読む。 予習：次の授業に関係する保育者の役割と援助について調べてくる。 課題図書（授業におけるおススメ書籍の紹介より）レポート提出	60
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 7 回 ／	乳児期の健康・安全（事故防止・健康管理の工夫について）	講義、グループトーク、発表、まとめ	復習：保育所保育指針の関係する箇所を読む。 予習：次の授業に関係する保育者の役割と援助について調べてくる。	60
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 8 回 ／	乳児期の子どもの居場所（季節を取り入れた保育室の環境づくりの実技）	講義、演習、グループトーク、発表、まとめ	復習：保育所保育指針の関係する箇所を読む。 予習：次の授業に関係する保育者の役割と援助について調べてくる。	60
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 9 回 ／	乳児期の子どもの居場所（遊び活動の場の環境づくりの実技）	講義、演習、グループトーク、発表、まとめ	復習：保育所保育指針の関係する箇所を読む 予習：次の授業に関係する保育者の役割と援助について調べてくる	60
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 10 回 ／	家庭とのつながり①（新入園児を迎える準備と留意点）	講義、演習、グループトーク、発表、まとめ	復習：保育所保育指針の関係する箇所を読む。 予習：次の授業に関係する保育者の役割と援助について調べてくる。	60
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 11 回 ／	家庭とのつながり②（登園、降園ときの配慮点）	講義、演習、グループトーク、発表、まとめ	復習：保育所保育指針の関係する箇所を読む。 予習：次の授業に関係する保育者の役割と援助について調べてくる。	60
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 12 回 ／	家庭とのつながり③（個人面談・保育相談ときの配慮）	講義、演習、グループトーク、発表、まとめ	復習：保育所保育指針の関係する箇所を読む。 予習：次の授業に関係する保育者の役割と援助について調べてくる。	60
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 13 回 ／	保育環境と生活の仕方①（人的環境・物的環境を保育に生かす工夫）	講義、演習、グループトーク、発表、まとめ	復習：保育所保育指針の関係する箇所を読む。 予習：次の授業に関係する保育者の役割と援助について調べてくる。	60
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 14 回 ／	保育環境と生活の仕方②（保育園施設の見学）	講義、演習、グループトーク、発表、まとめ	復習：保育所保育指針の関係する箇所を読む。 予習：見学を通し、自身の課題発見につなげる。	60
	ワークシート・課題レポート・実践演習			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SEE32F044S		専門教育科目 幼児教育学領域		乳児保育演習 Infant Care and Education Exercise		1 単位	必 修	演 習	2 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標										
学修教育目的	乳児期の発達特性を踏まえた援助や関わりの基本を理解する。教育と養護のねらいや内容等について学修する。乳児の生活や遊びと保育の方法、環境について理解し、子どもの発達段階や保育の状況に応じた配慮を含んだ具体的な指導計画を作成する。									
キーワード	乳児保育・乳児期の発達・援助・ねらい・目的・内容・方法			学修教育目標	・3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 ・養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 ・乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。 ・上記を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。 ※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。					
授業科目の概要及び学修上の助言										
・乳児期の発達特性を踏まえた援助や関わりの基本を理解する。教育と養護のねらいや内容等について学修する。乳児の生活や遊びと保育の方法、環境について理解し、子どもの発達段階や保育の状況に応じた配慮を含んだ具体的な指導計画を作成する。 ・受講生の方がイメージしやすいように、具体的な実例を通じて乳幼児保育の実践を学習する。 ・実際に乳児や養育者との触れ合う機会が持てるように、近隣の保育（園）所や子育て支援センター等で保育ボランティア体験を実施する。 ・乳幼児期の子どもを取り巻く現状に関心を持ち、気づいたことや疑問を話し合い、今の保育問題についても学外からの専門家を招いて共に考えることも視野に授業の展開を構築する。 ・教育訓練技法の一つであるロールプレイング技法を適時、授業の中で取り入れる。 ・保育所（園）、幼稚園施設などへのボランティアやインターンシップ活動には積極的に参加を促し、現地レポーターとして授業等で発表しプレゼンテーション能力を高める。 ・授業では、ワークシートと個々にポートフォリオを作成し授業のまとめとする。										
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能										
・日頃より乳幼児期の親子に関心を持ち、保育問題に目を向ける。 ・教育（保育）実習を意識し、出身の保育所、幼稚園でボランティアや手伝い等をして、乳幼児と接触する機会を多く持つことを勧める。 ※自身での体験学習が就職試験のときに活かせる。 ・毎回の授業での配布物は、ファイリング保存しポートフォリオとして活用する。毎回の受講時には、「iPad」を持参する。										
教 科 書				参考書・リザーブドブック						
書 名：赤ちゃんから学ぶ「乳児保育」の実践力 著者名：古橋紗人子編著 出版社：保育出版社 書 名：乳児保育Ⅱアクティブラーニング対応 著者名：古橋紗人子編著 尾野明美・小湊真衣・菊池篤子 出版社：保育出版社 萌文書林 ・必要に応じて資料等を配布する。				書 名：保育所保育指針幼稚園教育要領 幼帆連携型認定こども園教育・保育要領解説とポイント 著者名：汐見稔幸 監修 無藤隆 監修 ミネルヴァ書房編集部 編 出版社：ミネルヴァ書房 ・『めばえる心はぐくむ心』～赤ちゃんとお母さんの記録～等の視聴覚教材を授業時にて適宜紹介する。						
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。			保育者に求められる知識や技能について、ねらいや内容等を理解する。						◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。									
③	子どもの発達に関する知識を身につける。									
④	子どもの発達に関する技能を身につける。			子どもとの触れ合い遊びの意義と内容を理解する。						◎
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。			保育者を意識し、乳児との適切な関わり合いができる。						◎
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。									
授業科目における社会人基礎力の育成目標										
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性				これまでに学修してきた保育の知識や実技などを生かし、自発的に取り組むことができる。				◎
		② 働きかけ力								
		③ 実行力				自らが設定した目標が達成できるよう努力する。				○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力								
		② 計画力								
		③ 創造力								
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力				自分の意見を具体的に分かりやすく伝えることができる。				○
		② 傾聴力				相手の意見を最後までしっかり聞くことができる。				○
		③ 柔軟性								
		④ 状況把握力				自身の役割を把握し、行動することができる。				○
		⑤ 規律性								
		⑥ ストレスコントロール力								
4. 倫理観		① 倫理性								

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			45	10	12	20	5	8		100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		20	4	6	5	2			37
	技能に関する評価		17	2	6	6	2			33
	応用力に関する評価		5	2		3	1	5		16
	チームワーク力に関する評価					4				4
	関心・意欲に関する評価		3	2		2		3		10
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
保育実習に向けて、乳児期の発達と乳児保育の目的、内容、方法が身に付いている。					乳児期の保育の特性を理解し、必要な環境や援助ができる力を身につける。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション （講義内容の説明、進め方、成績評価の説明等） ・乳児期の重要性	＊ 1 4 回全て対面授業 講義、グループトーク、発表、まとめ	シラバスを事前に読んでおく。 授業時に適時指示した課題（以下、毎回、時間共に同じ）	60
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 2 回 ／	親子の関わりを知る（地域子育て支援を見学）	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 3 回 ／	乳児期の対人関係の発達と保育者の対応	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 4 回 ／	乳児保育の望ましい環境の実例①（保育室と保育環境）	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 5 回 ／	乳児保育の望ましい環境の実例②（コーナー保育・テーマに沿った保育など）	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 6 回 ／	乳児保育の望ましい環境の実例③（身近な自然物を使った・安全管理）	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 7 回 ／	乳児保育の計画と評価①（保育課程・計画・記録・評価）	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 8 回 ／	乳児保育の計画と評価②（指導計画と配慮点）	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 9 回 ／	乳児保育の計画と評価③（指導計画の作成）	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 10 回 ／	観察記録の取り方（乳児の観察・理解・援助の視点）	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 11 回 ／	乳児保育の展開①（教材づくり）	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 12 回 ／	乳児保育の展開②（討議・発表）	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 13 回 ／	乳児保育における保健と安全（一時預かり・夜間保育）	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 14 回 ／	乳児保育における家庭との連携（保護者とのコミュニケーションの取り方）	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SEE33S045S		専門教育科目 幼児教育学領域		障がい児保育 Handicapped-child Childcare		2 単位	必 修	講 義	3 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標										
学修教育目的	障がい児保育を支える理念についての理解を深め、併せて障がい児保育の歴史と現状、今後の課題について学修する。									
	キーワード		学修教育目標		障がい児その他の特別な配慮を要する子どもの個別的な保育上の配慮・具体的な状況における保育方法について理解し、相談機関等の種類と内容を理解することを目指す。					
授業科目の概要及び学修上の助言										
授業では様々な事例を紹介し、障がい児保育の状況や保護者への援助ありかたについて学修する。 障がい児保育の歴史、理念を学び、その学びを基礎として障がいの特徴を理解する。次に、個別にどのような援助が必要であるのかを考察する。その際、事例を交えて考察をしていくので、求められた時には積極的に意見を発表すること。										
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能										
「障がい児保育Ⅱ」の、基礎となる科目である。なぜ、障がい児保育の歴史や理念を学び、実践へとつなげる必要があるのかを理解したうえで、個別への配慮や今後の課題を学修すること。										
教 科 書						参考書・リザーブブック				
書 名：障がい児保育の基本と課題 著者名：井村 圭壯・今井 慶宗 出版社：学文社						授業時にて適宜紹介する。				
No.	学 科 教 育 目 標				学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。				障がい児保育の歴史や理念を理解し、個別への援助の方法を考える。					◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。									
③	子どもの発達に関する知識を身につける。									
④	子どもの発達に関する技能を身につける。									
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。									
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。									
授業科目における社会人基礎力の育成目標										
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性			支持を待つのではなく、自発的に物事に取り組む。					○
		② 働きかけ力								
		③ 実行力								
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力			現状を分析し、目的や課題を明らかにする。					◎
		② 計画力								
		③ 創造力								
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力								
		② 傾聴力			相手の意見に丁寧に耳を傾ける謙虚な姿勢を持つ。					○
		③ 柔軟性								
		④ 状況把握力								
		⑤ 規律性			規律や礼儀をはじめ、社会人としてのルールや約束を守る。					○
		⑥ ストレスコントロール力								
4. 倫理観		① 倫理性			保育者としての責任と自覚を持ち、自分の能力を他人のために生かそうとする。					○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			50		30				20	100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		40		20				20	80
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価		10		10					20
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
障がい児その他の特別な配慮を要する子どもの個別的な保育上の配慮・具体的な状況における保育方法について理解し、相談機関等の種類と内容を理解することを目指す。					障がい児保育の歴史や理念を理解し、今後の課題について学修する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション （講義内容の説明、進め方、成績評価の説明等） ・ 障がい児保育について	面接講義、演習	教科書の予習復習 授業時に適時指示した課題	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 2 回 ／	障がい児保育の歴史	面接講義、演習	教科書の予習復習 授業時に適時指示した課題	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 3 回 ／	障がいの発生 ・ 障がい児保育の理念	面接講義、演習	教科書の予習復習 授業時に適時指示した課題	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 4 回 ／	障がいの理解と援助 ・ 視覚障害	課題研究による授業	教科書の予習復習 授業時に適時指示した課題	30
	レポート内容による評価			
第 5 回 ／	障がいの理解と援助 ・ 聴覚障害	課題研究による授業	教科書の予習復習 授業時に適時指示した課題	30
	レポート内容による評価			
第 6 回 ／	障がいの理解と援助 ・ 知的発達遅滞	課題研究による授業	教科書の予習復習 授業時に適時指示した課題	30
	レポート内容による評価			
第 7 回 ／	障がいの理解と援助 ・ 肢体不自由・運動障害	課題研究による授業	教科書の予習復習 授業時に適時指示した課題	30
	レポート内容による評価			
第 8 回 ／	障がいの理解と援助 ・ 軽度発達障害（1）	課題研究による授業	教科書の予習復習 授業時に適時指示した課題	30
	レポート内容による評価			
第 9 回 ／	障がいの理解と援助 ・ 軽度発達障害（2）	課題研究による授業	教科書の予習復習 授業時に適時指示した課題	30
	レポート内容による評価			
第 10 回 ／	障がいの理解と援助 ・ クラスの中の「気になる子」	課題研究による授業	教科書の予習復習 授業時に適時指示した課題	30
	レポート内容による評価			
第 11 回 ／	保育計画における支援と援助（1） ・ 障害のある子どもに学ぶ保育実践	面接講義、演習	教科書の予習復習 授業時に適時指示した課題	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 12 回 ／	保育計画における支援と援助（2） ・ 障害のある子どものケース会議	面接講義、演習	教科書の予習復習 授業時に適時指示した課題	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 13 回 ／	保育所・幼稚園と専門機関との連携	面接講義、演習	教科書の予習復習 授業時に適時指示した課題	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 14 回 ／	家庭・地域との連携と援助	面接講義、演習	教科書の予習復習 授業時に適時指示した課題	30
	授業参加状況による意欲の評価、			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SEE33F046S		専門教育科目 幼児教育学領域	障がい児保育演習Ⅰ Handicapped-Child Childcare ExerciseⅠ		1 単位	必 修	演 習	3 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標									
学修教育目的	障がい児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障がいのある子ども及びその保育について理解する。また、個々の子どもの特性や心身の発達に応じた援助や配慮について理解するとともに、特別な配慮を要する子どもへの理解と援助を学び、子どもの保育における計画の作成や実際の援助の具体的な方法について学修する。								
キーワード	障がい児保育 障害福祉・援助法・実践		学修教育目標	・ 障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。 ・ 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。 ・ 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。 ・ 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。 ・ 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。 ・ 子ども理解とその子どもの生活環境をしっかりと把握した視点を持ち、適切な関わりや対応策を考察する力を養う。					
授業科目の概要及び学修上の助言									
・ 障がい児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障がいのある子ども及びその保育について理解する。また、個々の子どもの特性や心身の発達に応じた援助や配慮について理解するとともに、特別な配慮を要する子どもへの理解と援助を学び、子どもの保育における計画の作成や実際の援助の具体的な方法について学修する。 ・ 乳幼児をめぐる様々な問題の理解と対応の基礎的知見を提供する。 ・ 臨床的諸問題の解決への糸口として、支援学校や支援学級、保育所等での体験学習を交え、討議を活発化し方策の選択の幅を広げ、学外からの専門家を招いて共に考えることも視野に授業の展開を構築する。 ・ 事例の紹介をして、その対応を様々な視点から考える。 ・ 客観的な現状把握、プロセスを踏まえ、それぞれの事象に合った対応策を討論し、 多くの視点を身につける。 ・ 授業では、ワークシートと個々にポートフォリオを作成し授業の振り返りとまとめとする。									
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能									
保育実習や教育実習での実体験を基に、配慮を要する子どもを視点にプレゼンテーションや討議を実施する。 ・ 保育所（園）、幼稚園施設などへのボランティアやインターンシップ活動には積極的に参加を促し、現地レポーターとして授業等で発表する。 ・ 授業のたびに課題レポートを提出する。事前学習・ふり返りを重視する。 ・ 毎回の授業での配布物は、ファイリング保存しポートフォリオとして障がい児保育演習Ⅱ等の関連科目に活用する。毎回の受講時には、「iPad」を持参する。									
教 科 書				参考書・リザーブドブック					
書 名：実践事例に基づく障害児保育ちょっと気になる子へのかかわり 著者名：七木田敦 出版社：保育出版社 書 名：障害児保育ワークブックインクルーシブ保育・教育をめざして 著者名：星山麻木編著 出版社：萌文書林				書 名：基礎から学ぶ障害児保育 2017 著者名：小川英彦 出版社：ミネルヴァ書房 書 名：〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント 著者名：汐見稔幸 監修 無藤隆 監修 ミネルヴァ書房編集部 編 出版社：ミネルヴァ書房					
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。		保育者に求められる知識や技能について、ねらいや内容等を理解する。						◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。								
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		心身の障害とその理解。						◎
④	子どもの発達に関する技能を身につける。								
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		障がい児保育の実際と対応策・課題について理解する。						◎
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。								
授業科目における社会人基礎力の育成目標									
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性		これまでに学修してきた知識や実技などを生かし、自発的に取り組むことができる。					○
		② 働きかけ力							
		③ 実行力							
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力		現状認識と課題を明らかなするために、他者の意見を積極的に求める。					○
		② 計画力							
		③ 創造力							
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力		自分の意見を具体的に分かりやすく伝えることができる。					○
		② 傾聴力		相手の意見を最後までしっかり聞くことができる。					◎
		③ 柔軟性							
		④ 状況把握力							
		⑤ 規律性							
		⑥ ストレスコントロール力							
4. 倫理観		① 倫理性							

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			45	10	13	25		7		100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		22	4	5	8		5		44
	技能に関する評価		12	2	2	8		2		26
	応用力に関する評価		8	2	4	3				17
	チームワーク力に関する評価					3				3
	関心・意欲に関する評価		3	2	2	3				10
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
子ども理解とその子どもの生活環境をしっかり把握した視点を持ち、適切な関わりや対応策を考察することができる。					障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題について理解する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション （講義内容の説明、進め方、成績評価の説明等） 障がいについての基本的な考え方	＊ 1 4 回全て対面授業 講義、グループトーク、発表、まとめ	事前にシラバスを読んでおく。 授業時に適時指示した課題（以下、毎回、時間共に同じ）	60
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 2 回 ／	障がいの理解（概念と歴史的変遷・ノーマライゼーション）	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 3 回 ／	障害児保育の基本	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 4 回 ／	障がい児の発達と援助	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 5 回 ／	肢体不自由児の理解と援助	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 6 回 ／	知的障害児の理解と援助	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 7 回 ／	視覚障害・聴覚障害・言語障害児等の理解と援助	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 8 回 ／	発達障害児の理解と援助①（ADHD－注意欠陥多動性障害、LD－学習障害等）	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 9 回 ／	発達障害児の理解と援助②（PDD－広汎性発達障害等）	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 10 回 ／	重症心身障害児、医療的ケア児の理解と援助	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 11 回 ／	その他の特別な配慮を要する子どもの理解と援助	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 12 回 ／	障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育の実際	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 13 回 ／	指導計画及び個別の支援計画の作成①	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 14 回 ／	個々の発達を促す生活や遊びの環境 保育園等の施設の見学	グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
SEE34S046A		専門教育科目 幼児教育学領域		障がい児保育演習Ⅱ Handicapped-child Childcare Exercise Ⅱ		1 単位	必 修	演 習	4 年次	春学期	
授業科目の学修教育目的・目標											
学修教育目的	障がい児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や自治体・関係機関との連携・協働について理解し、その方法を学修する。また、障がい児その他の特別な支援を要する子どもの保育に関わる保健・医療・福祉・教育における現状と課題を理解する。										
	キーワード		障害児保育 障害福祉・生活環境・実践的援助法		学修教育目標	子どもとその生活環境を理解する視点から適切な関わりや援助法を説明し実践できる。					
授業科目の概要及び学修上の助言											
・乳幼児をめぐる様々な問題の理解と対応の基礎的知見を提供する。 ・臨床的諸問題の解決への糸口として、支援学校や支援学級、保育所等での体験学習を交え、討議を活発化し、方策の選択の幅を広げる。 ・事例の紹介をして、その対応を様々な視点から考える。 ・客観的な現状把握、プロセスを踏まえ、それぞれの事象に合った対応策を討論し、学外からの専門家を招いて共に考えることも視野に授業の展開を構築し多くの視点を身につける。 ・授業では、ワークシートと個々にポートフォリオを作成し授業のまとめとする。											
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能											
・保育実習や教育実習での実体験を基に、配慮を要する子どもを視点にしたプレゼンテーションや討議を実施する。 ・保育所（園）、幼稚園施設などへのボランティアやインターンシップ活動には積極的に参加を促し、現地レポーターとして授業等で発表する。 ・毎回、授業のたびに課題レポートを提出する。 ・事前学習・ふり返りを重視する。 ・毎回の授業での配布物は、ファイリング保存しポートフォリオを関連科目にも活用する。毎回の受講時には、「iPad」を持参する。											
教 科 書					参考書・リザーブドブック						
書 名：実践事例に基づく障害児保育ちょっと気になる子へのかかわり 著者名：七木田敦 出版社：保育出版社 書 名：障害児保育ワークブックインクルーシブ保育・教育をめざして 著者名： 星山麻木編著 出版社：萌文書林					書 名：基礎から学ぶ障害児保育 2017 著者名：小川英彦 出版社：ミネルヴァ書房 書 名：〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント 著者名：汐見稔幸 監修 無藤隆 監修 ミネルヴァ書房編集部 編 出版社：ミネルヴァ書房						
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）							
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。			保育者に求められる知識や技能について、ねらいや内容等を理解する。						◎	
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。										
③	子どもの発達に関する知識を身につける。			障がいの概念や障害福祉の理念を踏まえた援助法を理解する。						◎	
④	子どもの発達に関する技能を身につける。										
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。										
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。			保育者として臨床的諸問題の対応策や援助法を理解する。						◎	
授業科目における社会人基礎力の育成目標											
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性			これまでに学修してきた知識や実技などを生かし、自発的に取り組むことができる。						○
		② 働きかけ力									
		③ 実行力									
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力			現状認識と課題を明らかなのするために、他者の意見を積極的に求める。						○
		② 計画力									
		③ 創造力									
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力			自分の意見を具体的に分かりやすく伝えることができる。						◎
		② 傾聴力			相手の意見を最後までしっかり聞くことができる。						○
		③ 柔軟性									
		④ 状況把握力									
		⑤ 規律性									
		⑥ ストレスコントロール力									
4. 倫理観		① 倫理性									

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コンテスト等)	合計
総合評価割合			45	10	13	25		7		100
評価 の 指標	知識に関する評価		22	4	5	8		5		44
	技能に関する評価		12	2	2	8		2		26
	応用力に関する評価		8	2	4	3				17
	チームワークに関する評価					3				3
	関心・意欲に関する評価		3	2	2	3				10
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
障害のある子どもに対して、保育者として適切な関わりや援助法について理解し考察することができる。					障害のある子どもに対して、様々な援助法があることを知る。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション（講義内容の説明、進め方、成績評価の説明等） 障がいについての基本的な考え方 障害のある子どもの地域社会への参加・包容（インクルーシブ保育）	＊ 1 4 回全て対面授業 講義、グループトーク、発表、まとめ	事前にシラバスを読んでおく。 授業時に適時指示した課題（以下、毎回、時間共に同じ）	60
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 2 回 ／	個々の発達を促す生活や遊びの環境	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 3 回 ／	子ども同士の関わりと育ち合い	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 4 回 ／	障害児保育における子どもの健康と安全	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 5 回 ／	職員間の連携・協働	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 6 回 ／	家庭及び自治体・関係機関との連携	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 7 回 ／	保護者や家族に対する理解と支援	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 8 回 ／	保護者間の交流や支え合いの意義とその支援	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 9 回 ／	障害児支援の制度の理解と地域における自治体や関係機関（保育所、児童発達支援センター等）の連携・協働	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 10 回 ／	小学校等との連携	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 11 回 ／	障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関わる現状と課題	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 12 回 ／	障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関わる現状と課題	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 13 回 ／	保健・医療・福祉・教育における現状と課題	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 14 回 ／	支援の場の広がりとなつながら （保育園、障がい者施設等の見学）	グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
SEE31F047S		専門教育科目 幼児教育学領域		保育内容総論 General Remarks to Contents of Nursing		2 単位	選 択	講 義	1 年次	秋学期	
授業科目の学修教育目的・目標											
学修教育目的	幼稚園、保育所の役割・機能を知り、乳幼児の豊かな発育・発達を保障していく際に必要な事項について学修する。										
	幼稚園・保育所の役割 幼稚園・保育所の機能 発達保障 保育ニーズ		学修教育目標	幼稚園教育、保育において「育みたい資質・能力」を理解し、5つの領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）のねらい及び内容の概要と各専門領域と関連性、幼児の発達に即した、主体的・対話的な深い学び等を踏まえながら、具体的指導場面を想定した保育内容を計画、実行できる。							
授業科目の概要及び学修上の助言											
幼稚園・保育所の役割・機能を学ぶ中で、現代の保育ニーズを理解する。 現代の保育ニーズは、今日の社会のどのような変化からもたらされているものなかを理解するため、ニュースや新聞などにも目を通して考えるようにすること。											
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能											
保育内容総論（演習）の基礎となる学びであることを理解し、社会事象に興味を持ち、わからないことは自ら調べるようにすること。											
教 科 書					参考書・リザーブドブック						
『保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』（ミネルヴァ 書房）					『幼稚園教育要領（最新版）』文部科学省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（最新版）』内閣府 『小学校学習指導要領（最新版）』文部科学省 『生徒指導提要（最新版）』文部科学省						
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）							
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。			保育思想の歴史的変遷をたどり、今日的意義を理解する。 現代の保育ニーズの多様性を理解する。						◎	
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。										
③	子どもの発達に関する知識を身につける。										
④	子どもの発達に関する技能を身につける。										
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。										
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。										
授業科目における社会人基礎力の育成目標											
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性			保育に関連する内容について、積極的に情報収集しようとする。						△
		② 働きかけ力									
		③ 実行力									
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力			保育内容について分析、理解する。						◎
		② 計画力			問題解決のプロセスを明らかにするため努力する。						△
		③ 創造力									
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力									
		② 傾聴力									
		③ 柔軟性			相手の意見や立場を理解し、尊重することができる。						○
		④ 状況把握力			保育者の役割を理解し、状況に応じた保育内容を考えようとする。						◎
		⑤ 規律性									
		⑥ ストレスコントロール力									
4. 倫理観		① 倫理性			保育者としての資質を身に付ける。						○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価									
評 価 方 法		試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
指標と評価割合									
総 合 評 価 割 合		55		35				10	100
評 価 の 指 標	知識に関する評価	40		10					50
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価	15		10					25
	チームワーク力に関する評価			15					15
	関心・意欲に関する評価							10	10
具 体 的 な 達 成 の 目 安									
理想的な達成レベルの目安				標準的な達成レベルの目安					
保育思想の歴史的変遷をたどり、今日的意義を理解したうえで、現代の保育ニーズの多様性を理解する。				保育思想の歴史的変遷をたどり、今日的意義を理解し、現代の保育ニーズの多様性を知る。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション ―保育者の役割	講義、演習 対面	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 2 回 ／	幼稚園教育及び保育の基本とねらい、全体構造① 総論	講義、演習 対面	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 3 回 ／	幼稚園教育及び保育の基本とねらい、全体構造② 健康	講義、演習 対面	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 4 回 ／	幼稚園教育及び保育の基本とねらい、全体構造③ 人間関係	講義、演習 対面	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 5 回 ／	幼稚園教育及び保育の基本とねらい、全体構造④ 環境	講義、演習 対面	指導案作成練習① 3 歳児	60
	確認課題、授業参加状況による意欲の評価			
第 6 回 ／	幼稚園教育及び保育の基本とねらい、全体構造④ 音楽	講義、演習 対面	指導案作成練習② 4 歳児	60
	確認課題、授業参加状況による意欲の評価			
第 7 回 ／	幼稚園教育及び保育の基本とねらい、全体構造⑤ 表現	講義、演習 対面	指導案作成練習③ 5 歳児	60
	確認課題、授業参加状況による意欲の評価			
第 8 回 ／	指導案の作成	講義、演習 対面	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 9 回 ／	幼児理解と評価の基本	講義、演習 対面	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 10 回 ／	適切な幼児理解と評価	講義、演習 対面	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 11 回 ／	教材や情報機器の研究及び有効的な活用とその実践事例	講義、演習 対面	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 12 回 ／	幼児理解と評価の実例 ―模擬保育実践事例を通しての理解―	講義、演習 対面	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 13 回 ／	小学校との連携 ―幼稚園幼児指導要録に基づく―	講義の後、事例についてディスカッションする 対面	教科書指定箇所の予習、復習	30
	ディスカッションによる意欲・応用力等の評価			
第 14 回 ／	小学校の評価の考え方と連携性について まとめ ―全体の確認と振り返り―	講義の後、事例についてディスカッションする 対面	教科書指定箇所の予習、復習	30
	ディスカッションによる意欲・応用力等の評価 確認課題による知識・応用力の評価および授業参加状況による意欲の評価			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SEE31F048S	専門教育科目 幼児教育学領域	保育内容総論（演習） General Remarks to Contents of Nursing Exercise		1 単位	必 修	演 習	1 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	保育の全体構造を知ることを通じて、保育の基本的考えを学ぶ。							
キーワード	子どもの特性 保育の5領域 総合的な指導 保育内容	学修教育目標	子どもの発達や生活を取り巻く社会的な背景及び保育の内容の歴史的変遷をたどることを通じ、子どもの実態から必要な保育内容や手だてを構想できることを目指す。 幼稚園・保育所等での実習を念頭に、保育指導計画の立案・作成をも行い、保育計画の必要性を再認識させる。					
授業科目の概要及び学修上の助言								
保育内容を総合的にとらえる視点を持つことを目標とする。遊び、生活、環境、行事等、さまざまな視点が必要となることを理解し、指導案を書けるようにすること。わからないことは積極的に質問し、保育内容の構想ができるようにすること。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
「保育原理Ⅰ」「保育原理Ⅱ」「保育内容総論」から理解を深め、保育の構想に至ることを目的とするため、総合的に物事を捉える基礎を身に付ける意義を理解し学修すること。								
教 科 書				参考書・リザーブブック				
書 名：演習 保育内容総論 著者名：酒井幸子ら編 出版社：萌文書林				なし				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。		積極的に授業に参加をし、図書館等に行き、資料の収集ができる。					○
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。		今できることに加えて、新しく知識や技能を身につけ、実演ができる。					◎
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		他の講義との兼ね合いも踏まえながら、発達に応じたあそびのイメージができる。					○
④	子どもの発達に関する技能を身につける。							
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。							
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		保育の5領域を理解し、保育を構想する力を身につけることを目的とする。					◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性	主体的に演習に参加しようとする。					◎
		② 働きかけ力						
		③ 実行力						
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力	演習を通じて保育内容の理解を深める。					○
		② 計画力	子どもを総合的に理解し、保育内容を計画する。					△
		③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力						
		② 傾聴力	他人の意見に丁寧に耳を傾ける。					○
		③ 柔軟性	相手の立場や意見を尊重し、アドバイスを受け入れようとする。					△
		④ 状況把握力	他人と協力して演習を進める中で、保育者の役割を理解する。					◎
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性	保育者としての資質を身に付ける。					△

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			45		15	20	10		10	100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		30		5					35
	技能に関する評価					5	5			10
	応用力に関する評価		15		10	5	5			35
	チームワーク力に関する評価					5				5
	関心・意欲に関する評価					5			10	15
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
保育の5領域を深く理解し、保育指導案を立てる。					保育の5領域を理解し、保育を構想する力を身につける。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	ガイダンス 子どもとは	内容を解説した後、グループディスカッションを行う オンデマンド	学修内容を小レポートにまとめる	30
	ディスカッションによる意欲・応用力等の評価			
第 2 回 ／	保育所保育指針 幼稚園教育要領について	オンデマンド	学修内容を小レポートにまとめる	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 3 回 ／	こどもと保育内容①	内容を解説した後、グループディスカッションを行う 対面	学修内容を小レポートにまとめる	30
	ディスカッションによる意欲・応用力等の評価			
第 4 回 ／	こどもと保育内容①	内容を解説した後、グループディスカッションを行う オンデマンド	学修内容を小レポートにまとめる	30
	ディスカッションによる意欲・応用力等の評価			
第 5 回 ／	環境とかかわる遊びの生活	内容を解説 オンデマンド	学修内容を小レポートにまとめる	30
	ディスカッションによる意欲・応用力等の評価			
第 6 回 ／	環境とかかわる遊びの生活	対面 屋外	学修内容を小レポートにまとめる	30
	ディスカッションによる意欲・応用力等の評価			
第 7 回 ／	環境とかかわる遊びと生活	対面 屋外	学修内容を小レポートにまとめる	30
	ディスカッションによる意欲・応用力等の評価			
第 8 回 ／	環境とかかわる遊びと生活	対面 屋外	学修内容を小レポートにまとめる	30
	ディスカッションによる意欲・応用力等の評価			
第 9 回 ／	子どもとあそび①	対面 内容を解説した後、屋外	学修内容を小レポートにまとめる	45
	知識・応用力の評価および授業参加状況による意欲の評価			
第 10 回 ／	子どもとあそび② 折り紙の指導	対面 内容を解説した後、指導案を考える	学修内容を小レポートにまとめる	45
	授業参加状況による意欲の評価			
第 11 回 ／	小学校との連携	内容を解説 オンデマンド	指導案を完成させる	45
	オンデマンドを通じた課題			
第 12 回 ／	地域をテーマとする保育内容	内容を解説 オンデマンド	指導案を完成させる	45
	オンデマンドを通じた課題作成			
第 13 回 ／	様々な子育て支援	内容を解説 オンデマンド	学修内容を小レポートにまとめる	30
	オンデマンドを通じた課題作成			
第 14 回 ／	特別な配慮を必要とする子どもの保育 保育者の専門性	内容を解説した後、グループディスカッションを行う 対面	学修内容を小レポートにまとめる	30
	ディスカッションによる意欲・応用力等の評価			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SEE31F049S	専門教育科目 幼児教育学領域	幼児理解の理論と方法 Understanding of Theories and Methods of Infant		2単位	必 修	講 義	1年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	発達心理学、幼児心理学における諸研究の方法と成果を踏まえ、幼児期の心理的側面の発達を中心に知識と理解を深める。 幼児の身体、認知、社会性といった領域で、幼児期においてどのような変化があり、それがどのような方法で研究されているかを、できるだけ多くの実証的研究を踏まえて学修する。							
	キーワード	発達心理学 幼児心理学 実証的研究	学修教育目標	（１）幼児理解についての知識を身につけ、考え方や基礎的態度が理解できる。 （２）幼児理解の方法を具体的に理解できる。				
授業科目の概要及び学修上の助言								
幼児の身体、認知、社会性といった領域で、幼児期においてどのような変化があるのかを理解することと、理解の方法を実証的研究を踏まえ学修するので、求められた時には、積極的に発言すること。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
「乳児保育」「保育内容（人間関係）」等、乳幼児の発達を理解する科目と関連するので、乳幼児の発達の基礎を理解しておくこと。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
書 名：幼児理解の理論と方法【乳幼児教育・保育シリーズ】 著者名：神長美津子他 共著 出版社：光生館				授業内で適宜指示する。				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。							
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。							
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		乳幼児の身体、認知、社会性の発達の変化を理解する。					◎
④	子どもの発達に関する技能を身につける。							
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。							
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。							
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性		物事に進んで取り組もうとする。				△
		② 働きかけ力		自分だけでなく周りの他者に働きかけ、課題に取り組もうとする。				◎
		③ 実行力						
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力		現状の課題に気づき、問題を明らかにし、解決する方法を考える。				○
		② 計画力						
		③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力						
		② 傾聴力						
		③ 柔軟性		意見の違いや立場の違いを理解する。				△
		④ 状況把握力		自分の置かれている位置を理解し、行動しようとする。				◎
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性		保育者としての自覚を持ち、他人のために行動できる。				○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
		総 合 評 価 割 合	50		40				10	100
評 価 の 指 標	知識に関する評価	40		20						60
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価	10		10						20
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価			10				10	20	
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
幼児理解の方法を具体的に理解し、実践事例の中で自らが保育者・教育者としてどのように関わるかをイメージできる。					幼児理解についての知識を身につけ、考え方や基礎的態度が理解できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	幼児理解の意義と理論（１） －幼稚園教育、保育と幼児理解	面接講義、演習	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評			
第 2 回 ／	幼児理解の意義と理論（２） －「理解する」とは	面接講義、演習	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 3 回 ／	幼児理解の意義と理論（３） －幼児の発達や学びの理解－理論と方法	面接講義、演習	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 4 回 ／	幼児理解の意義と理論（４） －遊びと幼児理解	課題研究による授業	教科書指定箇所の予習、復習	30
	レポート内容による評価			
第 5 回 ／	幼児理解の意義と理論（５） －幼児理解を深める保育者の基本的な姿勢	課題研究による授業	教科書指定箇所の予習、復習	30
	レポート内容による評価			
第 6 回 ／	幼児理解の意義と理論（６） －保幼小をつなぐ理解－幼児理解と児童理解	課題研究による授業	教科書指定箇所の予習、復習	30
	レポート内容による評価			
第 7 回 ／	幼児理解の方法（１） －幼児理解の目的と方法	課題研究による授業	教科書指定箇所の予習、復習	30
	レポート内容による評価			
第 8 回 ／	幼児理解の方法（２） －保育の実践のための記録	課題研究による授業	教科書指定箇所の予習、復習	30
	レポート内容による評価			
第 9 回 ／	幼児理解の方法（３） －クラス集団の理解と指導	課題研究による授業	教科書指定箇所の予習、復習	30
	レポート内容による評価			
第 10 回 ／	幼児理解の方法（４） －保育者の自己理解と保育の改善	課題研究による授業	教科書指定箇所の予習、復習	30
	レポート内容による評価			
第 11 回 ／	幼児理解の方法（５） －幼児のつまずきの理解とその対応	面接講義、演習	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 12 回 ／	幼児理解の方法（６） －保護者との連携と理解	面接講義、演習	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 13 回 ／	幼児理解の方法（７） －保幼小をつなぐ理解－幼児理解と児童理解	面接講義、演習	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 14 回 ／	事例を通して幼児理解とその対応を学ぶ	面接講義、演習	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SEE12F050S	専門教育科目 幼児教育学領域	子ども家庭支援論 Family Support Theory		2 単位	必 修	講 義	2 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的								
	子ども家庭支援の必要性について知り、その目的・意義ならびに支援の実施体制について学修する。							
キーワード			学修教育目標					
	子ども家庭支援の意義・目的 保育者の専門性 地域の社会資源			1. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解すること、2. 子ども家庭支援にかかわる保育士に求められる基本的態度について理解すること、3. 子育て家庭に対する支援体制と、多様な支援の展開と関係機関との連携について理解することを目指す。				
授業科目の概要及び学修上の助言								
まず子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解したうえで、子ども家庭支援にかかわる保育士の専門性について理解する。 その上で子育て家庭が抱えているニーズを理解し、多様な支援のあり方について学ぶ。 またそれを解決するための多種多様な社会資源について知り、社会資源マップを作成して、保育所、幼稚園、学校等に就職後、必要に応じて適切に活用できることを目的とする。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
「子ども家庭福祉」の学修内容を発展させ、本科目で子ども家庭支援に関する理論的学修を行い、さらに「子育て支援演習」等の実践的な学びにつなげていく。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
書 名：基本保育シリーズ 子ども家庭支援論 著者名：松原康雄、村田典子、南野奈津子 出版社：中央法規				なし				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。		家庭の意義とその機能について理解する。 子育て家庭を取り巻く社会的状況について理解する。					◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。		子育て家庭の支援体制について理解する。 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。					◎
③	子どもの発達に関する知識を身につける。							
④	子どもの発達に関する技能を身につける。							
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。							
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。							
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性	自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。					○
		② 働きかけ力	状況に応じて効果的に巻き込むための手段を活用することができる。					○
		③ 実行力	強い意志を持ち、困難な状況から逃げずに取り組み続けることができる。					○
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 問題発見力	成果のイメージを明確にして、その実現のために現段階でなすべきことを的確に把握できる。					○
		② 計画力	作業のプロセスを明らかにして優先順位をつけ、実現性の高い計画を立てられる。					○
		③ 創造力	成功イメージを常に意識しながら、新しいものを生み出すためのヒントを探している。					○
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力	事例や客観的なデータ等を用いて、具体的にわかりやすく伝えることができる。					○
		② 傾聴力						
		③ 柔軟性						
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性						

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価									
評 価 方 法		試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
指標と評価割合									
総 合 評 価 割 合		55		45					100
評 価 の 指 標	知識に関する評価	55		30					85
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価								
	チームワーク力に関する評価								
	関心・意欲に関する評価			15					15
具 体 的 な 達 成 の 目 安									
理想的な達成レベルの目安				標準的な達成レベルの目安					
子育て家庭に対する支援の意義・目的を十分に理解する。 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について十分に理解する。 子育て家庭に対する支援の体制について理解し、活用することができる。 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解し、取り組むことができる。				子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	子ども家庭支援の意義と必要性	面接授業	（予習として）テキスト第 1 章を読み、内容を理解しておく。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、演習課題等に反映させること。	予習 30 復習 30
第 2 回 ／	子ども家庭支援の目的と機能	面接授業	（予習として）テキスト第 2 章を読み、内容を理解しておく。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、演習課題等に反映させること。	同上
第 3 回 ／	家庭の状況に応じた支援 1	面接授業	（予習として）テキスト第 9 章を読み、内容を理解しておく。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、演習課題等に反映させること。	同上
第 4 回 ／	家庭の状況に応じた支援 2	面接授業	（予習として）テキスト第 9 章を読み、内容を理解しておく。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、演習課題等に反映させること。	同上
第 5 回 ／	保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援	面接授業	（予習として）第 4 回で指示する。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、演習課題等に反映させること。	同上
第 6 回 ／	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進	面接授業	（予習として）テキスト第 3 章を読み、内容を理解しておく。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、演習課題等に反映させること。	同上
第 7 回 ／	地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力	面接授業	（予習として）テキスト第 4 章を読み、内容を理解しておく。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、演習課題等に反映させること。	同上
第 8 回 ／	援助者に求められる基本的態度	面接授業	（予習として）テキスト第 8 章を読み、内容を理解しておく。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、演習課題等に反映させること。	同上
第 9 回 ／	日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成	面接授業	（予習として）テキスト第 8 章を読み、内容を理解しておく。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、演習課題等に反映させること。	同上
第 10 回 ／	保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解	面接授業	（予習として）テキスト第 15 章を読み、内容を理解しておく。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、演習課題等に反映させること。	同上
第 11 回 ／	子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供	面接授業	（予習として）第 10 回で指示する。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、演習課題等に反映させること。	同上
第 12 回 ／	子ども及び保護者の状況・状態の把握	面接授業	（予習として）第 11 回で指示する。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、演習課題等に反映させること。	同上
第 13 回 ／	支援の計画と環境の構成、支援の実践・記録・評価、・カンファレンス	面接授業	（予習として）第 12 回で指示する。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、演習課題等に反映させること。	同上
第 14 回 ／	職員間の連携・協働	面接授業	（予習として）第 13 回で指示する。 （復習として）日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、演習課題等に反映させること。	同上

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SEE33F051S	専門教育科目 幼児教育学領域	子育て支援演習 Childcare Consultation Exercise		1 単位	必 修	演 習	3 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	保育士の行う子育て支援の特性、展開ならびに支援の実際について学修する。							
	子育て支援 相談援助		学修教育目標	1. 子どもの保育を通した保護者との相互理解と信頼関係の形成など、保育の専門性を活かした子育て支援の特性について理解する。2. 支援計画の策定や支援の実践など、保育士の行う子育て支援の展開を理解する。3. 保育士の行う子育て支援とその実際について、様々な場や対象に関する実践事例を通して具体的に理解し、実践する能力を修得する。				
授業科目の概要及び学修上の助言								
「子ども家庭福祉論」「子ども家庭支援論」で学修した相談援助に関する知識を基盤とし、ロールプレイや事例検討などの演習を実施し、実際の子育て支援場面で活用できる援助技術を身につける。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
「子ども家庭福祉論」ならびに「子ども家庭支援論」で学修した子ども家庭支援に関する知識を基盤とし、本科目で演習を積み、実際に活用できる技術を習得する。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
書 名：子ども家庭福祉専門職のための子育て支援入門 著者名：才村純、芝野松次郎 他 出版社：ミネルヴァ書房				なし				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。		子育て支援の意義と原則について理解する。					○
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。		子育て支援の基本を理解する。					○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。							
④	子どもの発達に関する技能を身につける。							
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。							
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		子育て支援の実際を学び、内容や方法を理解する。 児童福祉施設ならびに地域における保護者支援の実際について理解する。					◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性		自分の強み・弱みを把握し、困難なことでも自信を持って取り組むことができる。				○
		② 働きかけ力		状況に応じて効果的に巻き込むための手段を活用することができる。				◎
		③ 実行力		失敗を怖れずに、とにかくやってみようとする果敢さを持って、取り組むことができる。				◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力		現状を正しく認識するための情報収集や分析ができる。				○
		② 計画力		問題解決のプロセスを明らかにし、優先順位をつけて計画を立てることができる。				○
		③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力						
		② 傾聴力		内容の確認や質問等を行いながら、相手の意見を正確に理解することができる。				◎
		③ 柔軟性						
		④ 状況把握力		自分にできること・他人ができることを的確に判断して行動することができる。				○
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性		相手の意思決定や権利を守りながら行動することができる。				◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			55		45					100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		55		30					85
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価				15					15
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解し、実践することができる。 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解し、実践することができる。					保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	保育士の専門性を活かした子育て支援 1 保育の専門性を活かした子育て支援とその意義	面接授業	（予習として）テキスト第 1 章を読み、内容を確認しておくこと。 （復習として）実践力を養うため、適宜、演習課題を与える。指示された期日までに完成させて提出すること。	予習 30 復習 30
第 2 回 ／	保育士の専門性を活かした子育て支援 2 子どもの保育とともに行う保護者の支援	面接授業	（予習として）テキスト第 14 章を読み、内容を確認しておくこと。 （復習として）実践力を養うため、適宜、演習課題を与える。指示された期日までに完成させて提出すること。	同上
第 3 回 ／	保育士の専門性を活かした子育て支援 3 子どもの育ちの喜びの共有	面接授業	（予習として）テキスト第 7 章を読み、内容を確認しておくこと。 （復習として）実践力を養うため、適宜、演習課題を与える。指示された期日までに完成させて提出すること。	同上
第 4 回 ／	保育士の専門性を活かした子育て支援 4 保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援	面接授業	（予習として）第 3 回で指示する。 （復習として）実践力を養うため、適宜、演習課題を与える。指示された期日までに完成させて提出すること。	同上
第 5 回 ／	保育士の行う子育て支援とその実際 1 子育て支援の内容と対象	面接授業	（予習として）テキスト第 15 章を読み、内容を確認しておくこと。 （復習として）実践力を養うため、適宜、演習課題を与える。指示された期日までに完成させて提出すること。	同上
第 6 回 ／	保育士の行う子育て支援とその実際 2 保育所等における支援	面接授業	（予習として）テキスト第 17 章を読み、内容を確認しておくこと。 （復習として）実践力を養うため、適宜、演習課題を与える。指示された期日までに完成させて提出すること。	同上
第 7 回 ／	保育士の行う子育て支援とその実際 3 地域の子育て家庭に対する支援	面接授業	（予習として）テキスト第 19 章を読み、内容を確認しておくこと。 （復習として）実践力を養うため、適宜、演習課題を与える。指示された期日までに完成させて提出すること。	同上
第 8 回 ／	保育士の行う子育て支援とその実際 4 障害のある子ども及びその家庭に対する支援	面接授業	（予習として）第 7 回で指示する。 （復習として）実践力を養うため、適宜、演習課題を与える。指示された期日までに完成させて提出すること。	同上
第 9 回 ／	保育士の行う子育て支援とその実際 5 特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援	面接授業	（予習として）第 8 回で指示する。 （復習として）実践力を養うため、適宜、演習課題を与える。指示された期日までに完成させて提出すること。	同上
第 10 回 ／	保育士の行う子育て支援とその実際 6 子ども虐待の予防と対応	面接授業	（予習として）第 9 回で指示する。 （復習として）実践力を養うため、適宜、演習課題を与える。指示された期日までに完成させて提出すること。	同上
第 11 回 ／	多様な支援の展開と関係機関との連携 1 社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働	面接授業	（予習として）第 10 回で指示する。 （復習として）実践力を養うため、適宜、演習課題を与える。指示された期日までに完成させて提出すること。	同上
第 12 回 ／	多様な支援の展開と関係機関との連携 2 保育所等を利用する子どもの家庭への支援	面接授業	（予習として）第 11 回で指示する。 （復習として）実践力を養うため、適宜、演習課題を与える。指示された期日までに完成させて提出すること。	同上
第 13 回 ／	多様な支援の展開と関係機関との連携 3 地域における子育て支援	面接授業	（予習として）第 12 回で指示する。（復習として）実践力を養うため、適宜、演習課題を与える。指示された期日までに完成させて提出すること。	同上
第 14 回 ／	多様な支援の展開と関係機関との連携 4 要保護児童等及びその家庭に対する支援	面接授業	（予習として）テキスト第 20 章を読み、内容を確認しておくこと。 （復習として）実践力を養うため、適宜、演習課題を与える。指示された期日までに完成させて提出すること。	同上

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単 位	必 選 区 分	授 業 方 法	該 当 年 次	開 講 期
SEE32S052S		専門教育科目 幼児教育学領域		保育内容（人間関係）の理論と方法 Theory and Method to Contents of Nursing (Human Relationship)		2 単位	選 択	講 義	2 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標										
学修教育目的	子どもの人間関係のひろがりを理解し、それぞれの段階における身近な人との関わりの中で、どのように自立心が育ち、人とのかかわる力が養われていくのかを学修する。									
	キーワード	人間関係 自立心 指導力	学修教育目標	幼稚園教育、保育において「育みたい資質・能力」を理解し、人との関わりに関する領域「保育内容（人間関係）」のねらい及び内容について、幼児の発達に即した、主体的・対話的な深い学びが実現する過程を踏まえながら、具体的指導場面を想定した保育内容を計画、実行できる。						
授業科目の概要及び学修上の助言										
保育の5領域の中の「人間関係」とは、何を学ぶのかを深く理解する。乳幼児がかかわる身近な人とはどのような人か、子どもはその人たちから何を学び成長していくのかを学修する。また、自らがかわってきた人たちが、自分の生き方にどのように影響しているのかを考察する。										
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能										
「幼児理解の理論と方法」「乳幼児保育」での、発達の理解との関連があるので、乳幼児の発達を理解しておくこと。										
教 科 書						参考書・リザーブドブック				
書 名：保育内容人間関係 第2版 著者名：濱名 浩 編 出版社：(株) みらい						授業内適宜指示する。				
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。									
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。									
③	子どもの発達に関する知識を身につける。									
④	子どもの発達に関する技能を身につける。									
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。									
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。			幼児教育・保育の場における諸問題と、その解決のための指導力を身につける。 ◎						
授業科目における社会人基礎力の育成目標										
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性			課題や問題に対して、解決のために積極的に取り組む。					○
		② 働きかけ力								
		③ 実行力								
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力			現状を分析し、目的や問題を明らかにする。					◎
		② 計画力			明らかにされた課題や問題の解決のための指導案を作成する。					△
		③ 創造力								
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力								
		② 傾聴力								
		③ 柔軟性			他者との意見の食い違いや、立場の違いを理解する。					△
		④ 状況把握力			課題や問題の起こる状況を把握し、行動する。					◎
		⑤ 規律性								
		⑥ ストレスコントロール力								
4. 倫理観		① 倫理性			保育者としての倫理観を身に付ける。					○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
		総 合 評 価 割 合	55		45				10	100
評 価 の 指 標	知識に関する評価	40		25						65
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価	15		10						25
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価			10						10
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
幼児の発達に即した、主体的・対話的な深い学びが実現する過程を踏まえながら、具体的指導場面を想定した保育内容を計画して実行できる。					幼稚園教育、保育において「育みたい資質・能力」を理解し、人との関わりに関する領域「保育内容（人間関係）」のねらい及び内容について理解する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション　ー保育内容（人間関係）とは	面接講義、演習	教科書の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 2 回 ／	人との関わりに関する領域「保育内容（人間関係）」の基本	面接講義、演習	教科書の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 3 回 ／	人との関わりに関する領域「保育内容（人間関係）」のねらい	面接講義、演習	教科書の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 4 回 ／	人との関わりに関する領域「保育内容（人間関係）」の内容	課題研究による授業	教科書の予習、復習	30
	レポート内容による評価			
第 5 回 ／	乳幼児の「人との関わり」① ー乳幼児の発達と人とのかかわり	課題研究による授業	教科書の予習、復習	30
	レポート内容による評価			
第 6 回 ／	乳幼児の「人との関わり」② ー人とのかかわりと遊び、遊びの中での人とのかかわり	課題研究による授業	教科書の予習、復習	30
	レポート内容による評価			
第 7 回 ／	人との関わりに関する領域「保育内容(人間関係)」の保育方法① ー指導案の作成、教材や情報機器の研究及び活用	課題研究による授業	教科書の予習、復習	30
	レポート内容による評価			
第 8 回 ／	人との関わりに関する領域「保育内容(人間関係)」の保育方法② ー指導上の留意事項	課題研究による授業	教科書の予習、復習	30
	レポート内容による評価			
第 9 回 ／	人との関わりに関する領域「保育内容(人間関係)」の保育方法③ ー評価と改善	課題研究による授業	教科書の予習、復習	30
	レポート内容による評価			
第 10 回 ／	人との関わりに関する領域「保育内容(人間関係)」の保育方法④ ー模擬保育実践事例を通しての理解ー	課題研究による授業	教科書の予習、復習	30
	レポート内容による評価			
第 11 回 ／	人とのかかわりが難しい子どもへの支援	面接講義、演習	教科書の予習、復習	30
	指導案作成による知識・応用力の評価および授業参加状況による意欲の評価			
第 12 回 ／	園、家庭、地域の生活と人とのかかわり	面接講義、演習	教科書の予習、復習	30
	指導案作成による知識・応用力の評価および授業参加状況による意欲の評価			
第 13 回 ／	小学校の授業と保育内容（人間関係）の違い	面接講義、演習	教科書の予習、復習	30
	ディスカッションによる意欲・応用力等の評価			
第 14 回 ／	これからの保育と人との関わりに関する領域 「保育内容(人間関係)」の内容	面接講義、演習	教科書の予習、復習	30
	ディスカッションによる意欲・応用力等の評価			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SEE32S053S		専門教育科目 幼児教育学領域		保育内容（人間関係）の理論と方法（演習） Theory and Method to Contents of Care and Education (Human Relationship) (Exercise)		1 単位	必 修	演 習	2 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標										
学修教育目的		幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定子ども園教育・保育要領を基に、「人間関係の発達」についての理解を深める。								
キーワード		保育所保育指針 幼稚園教育要領 人間関係 保育者の役割	学修教育目標	幼児教育・保育の場における諸問題と、その解決のための指導力を身に付けることを目指す。						
授業科目の概要及び学修上の助言										
授業はグループ活動を基本とし、他者との関わりの中での発見を大切にする。 「保育所保育指針」や「幼稚園教育要領」は、保育・教育の5領域の中の「人間関係」であることを理解すること。そのためにも、「保育所保育指針」や「幼稚園教育要領」の意義や重要性を認識しておくこと。										
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能										
「保育内容（人間関係）の理論と方法」で、乳幼児の発達を理解しておくこと。そのうえで、乳幼児の発達を支える保育者の関わりについての考察を行えるようになること。										
教 科 書						参考書・リザーブブック				
書 名：保育内容人間関係 第2版 著者名：濱名 浩 編 出版社：(株) みらい						授業中に適宜紹介する。				
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。									
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。									
③	子どもの発達に関する知識を身につける。			乳幼児期の自己の発達や他者との関係の発達について理解する。						◎
④	子どもの発達に関する技能を身につける。									
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。			自らも一人の人間として、また、専門職として乳幼児の発達を支える使命感、責任感を持って行動する。						○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。									
授業科目における社会人基礎力の育成目標										
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性		主体的に演習に参加しようとする。						◎
		② 働きかけ力								
		③ 実行力								
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力		演習を通じて、保育内容の理解を深める。						○
		② 計画力		演習を通じて、問題を解決するよう計画を立てる。						△
		③ 創造力								
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力		自分の意見をわかりやすく伝える。						△
		② 傾聴力		相手の意見を丁寧に聞く。						○
		③ 柔軟性		意見の違いや立場の違いを理解する。						△
		④ 状況把握力		他人と協力して演習を進める中で、保育者の役割を理解する。						◎
		⑤ 規律性								
		⑥ ストレスコントロール力								
4. 倫理観		① 倫理性		保育者としての資質を身に付ける。						△

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
		総 合 評 価 割 合	50		30				20	100
評 価 の 指 標	知識に関する評価	40		20						60
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価	10		10						20
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価								20	20
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
乳幼児の発達を理解し、そのうえで乳幼児の発達を支える保育者の関わりについての考察を行える。					幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定子ども園教育・保育要領を基に、「人間関係の発達」について理解する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	「人間関係」に求められること	面接講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加による評価			
第 2 回 ／	領域「人間関係」	面接講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加による評価			
第 3 回 ／	「人間関係」を育む保育	面接講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加による評価			
第 4 回 ／	遊びや生活の中での人間関係	課題研究による授業	テキストの予習・復習	30
	レポート内容による評価			
第 5 回 ／	トラブルと人間関係	課題研究による授業	テキストの予習・復習	30
	レポート内容による評価			
第 6 回 ／	道徳性の芽生え	課題研究による授業	テキストの予習・復習	30
	レポート内容による評価			
第 7 回 ／	0・1 歳児の世界	課題研究による授業	テキストの予習・復習	30
	レポート内容による評価			
第 8 回 ／	2 歳児の世界	課題研究による授業	テキストの予習・復習	30
	レポート内容による評価			
第 9 回 ／	3 歳児の世界	課題研究による授業	テキストの予習・復習	30
	レポート内容による評価			
第 10 回 ／	4 歳児の世界	課題研究による授業	テキストの予習・復習	30
	レポート内容による評価			
第 11 回 ／	5 歳児の世界	面接講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加による欲の評価			
第 12 回 ／	小学校へつなぐ	面接講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加による欲の評価			
第 13 回 ／	特別なニーズをもつ子ども	面接講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加による欲の評価			
第 14 回 ／	保育者同士の人間関係	面接講義、演習	テキストの予習・復習	30
	授業参加による欲の評価			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SEE32F054S	専門教育科目 幼児教育学領域	保育内容（言葉）の理論と方法 Theory and Method to Contents of Nursing（Language）		2 単位	選 択	講 義	2 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的								
	言葉を通じた表現の広がりや深まりを追究体験し、保育者と子ども相互間の「表現と理解」について再認識する。							
キーワード			学修教育目標					
	言葉 表現 言語発達			幼稚園教育、保育において「育みたい資質・能力」を理解し、言葉の獲得に関する領域「保育内容（言葉）」のねらい及び内容について、幼児の発達に即した、主体的・対話的な深い学びが実現する過程を踏まえながら、具体的指導場面を想定した保育内容を計画、実行できる。				
授業科目の概要及び学修上の助言								
乳幼児の言語発達状態を知り、絵本、素話、ストーリーテリング、紙芝居、エプロンシアターの特色を理解し、模擬保育をする。乳幼児期の非言語表現（ベビーサイン、ボディランゲージ）を学び、言語発達の状態を理解する。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
発達心理学、幼児心理学、精神衛生に関する科目が必要です。表現関係の技術が必要です。								
教 科 書				参考書・リザーブブック				
『幼稚園教育要領解説（最新版）』文部科学省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（最新版）』厚生労働省 『認定こども園教育要領』内閣府				『小学校学習指導要領（最新版）』文部科学省 『生徒指導提要（最新版）』文部科学省				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。		乳幼児の言語発達状態を理解する。					○
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。		さまざまな言語伝達と表現方法ができる。					◎
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		話す速さや位置、伝えるためのポイントを理解する。					△
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		乳幼児の身近な言語表現技術を身につける。					○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		ひとり一人の乳幼児の差異を考える。					○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		乳幼児の保育財（こども文化）を反映する。					○
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性		さまざまな伝達方法に積極的に取り組む。				○
		② 働きかけ力						
		③ 実行力		模擬保育でチャレンジしてみる。				△
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力		なにが原因で伝わりにくかったか考える。				○
		② 計画力		伝えるための構造化を理解する。				○
		③ 創造力		どこに手を加えればさらに面白くなるか工夫する。				○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力		模擬保育の中で改善点を指摘しあう。				○
		② 傾聴力						
		③ 柔軟性						
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性						

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
		総 合 評 価 割 合	50			50				100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		10			10				20
	技能に関する評価		10			10				20
	応用力に関する評価		10			10				20
	チームワーク力に関する評価		10			10				20
	関心・意欲に関する評価		10			10				20
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
乳幼児の突発的な反応にも臨機応変に対応できる。					柔軟にアレンジできる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション ―保育内容（言葉）とは 資料 「領域 言葉」	ボディランゲージと言語表現のトレーニングをする オンデマンド資料を使用した面接授業	伝えること・聞くことについて考える	20
	3 歳未満児の非言語表現と 3 歳以上児の言語表現の特色の理解			
第 2 回 ／	言葉の獲得に関する領域「保育内容（言葉）」の基本 資料 「保育教諭としての言葉」	活動の援助になる言葉がけのトレーニングをする オンデマンド資料を使用した面接授業	指導と援助について考える	20
	子どもの視点での命令・干渉・制限の意味の理解			
第 3 回 ／	言葉の獲得に関する領域「保育内容（言葉）」のねらい 資料 「こどもの育ちと言葉」	「ながら」活動のトレーニング オンデマンド資料を使用した面接授業	子どもの時間感覚のちがいについて考える	30
	教科と領域の違いの理解			
第 4 回 ／	言葉の獲得に関する領域「保育内容（言葉）」の内容 資料 「言葉における人的環境」	ベビーサインのトレーニング オンデマンド資料を使用した面接授業	ベビーサインのお国柄を考える	20
	喃語とベビーサインの理解			
第 5 回 ／	乳幼児のことば① ―乳幼児の発達とことば 資料 「絵本の選定」	絵本の読み語りのトレーニング オンデマンド資料を使用した面接授業	絵本について考える	10
	3 歳未満児に話すスピードと絵本の文字スペースの理解			
第 6 回 ／	乳幼児のことば② ―身体表現、コミュニケーション、人とのかかわり 資料 「乳幼児の非言語環境」	3 歳未満児との話し方のトレーニング オンデマンド資料を使用した面接授業	幼児語について考える	10
	文字のない絵本のサイズと使い方の理解			
第 7 回 ／	乳幼児のことば③ ―遊びとことば 資料 「幼児の話し言葉環境」	3 歳以上児の読み語りのトレーニング オンデマンド資料を使用した面接授業	昔話の伝承について考える	20
	ストーリー絵本の使い方の理解			
第 8 回 ／	言葉の獲得に関する領域「保育内容（言葉）」の保育方法① ―指導案の作成 資料 「ストーリーテリング」	ストーリーテリングのトレーニング オンデマンド資料を使用した面接授業	身振りや手振りについて考える	10
	素話の仕方の理解			
第 9 回 ／	言葉の獲得に関する領域「保育内容（言葉）」の保育方法② ―教材や情報機器の研究及び活用 資料 「オノマトピア」	紙芝居のトレーニング オンデマンド資料を使用した面接授業	言葉や動作の繰り返しについて考える	20
	擬音などのオノマトピアの理解			
第 10 回 ／	言葉の獲得に関する領域「保育内容（言葉）」の保育方法③ ―指導上の留意事項 資料 「エプロンシアター」	エプロンシアターのトレーニング オンデマンド資料を使用した面接授業	ナレーションとセリフの分担について考える	10
	役割分担の仕方の理解			
第 11 回 ／	言葉の獲得に関する領域「保育内容（言葉）」の保育方法④ ―評価と改善 資料 「ことば遊び」	創作テリングのトレーニング オンデマンド資料を使用した面接授業	セリフの方言特性について考える	20
	方言の理解			
第 12 回 ／	言葉の獲得に関する領域「保育内容（言葉）」の保育方法⑤ ―模擬保育実践事例を通しての理解― 資料 「ことばが気になる子の理解」	時間を食べるトレーニング オンデマンド資料を使用した面接授業	バイオリズムについて考える	10
	「みんなちがってみんないい」の発想の理解			
第 13 回 ／	小学校の授業と保育の違い 資料 「唄い語り」	添い寝読みのトレーニング オンデマンド資料を使用した面接授業	トニックネックレフレックス姿勢について考える	10
	3 歳未満児に特有の方法の理解			
第 14 回 ／	これからの保育と身近な環境との関わりに関する領域 「保育内容(言葉)」の内容 資料 「絵本を読んでもらう」	子どもに読み聞かせてもらうトレーニング オンデマンド資料を使用した面接授業	既知の絵本表現をアレンジすることについて考える	10
	3 歳以上児に特有の方法の理解			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
SEE32F055S		専門教育科目 幼児教育学領域		保育内容（言葉）の理論と方法（演習） Theory and Method to Contents of Nursing（Language） （Exercise）		1 単位	必 修	演 習	2 年次	秋学期	
授業科目の学修教育目的・目標											
学修教育目的		言葉を通じた表現の広がりや深まりを追究体験し、保育者と子ども相互間の「表現と理解」について再認識する。									
キーワード		絵本 読み語り 制作 文化			学修教育目標	保育者として子どもの発達段階の応じた豊かな表現を引き出す指導方法と技法を学び、保育の場で実践できることを目指す。					
授業科目の概要及び学修上の助言											
授業では、教材の選択・読み聞かせの実践法を学び、教材を作成して発表する等、実習での実践に役立つものとする。 0 歳から 3 歳未満児の言語発達とボディランゲージを学び、オノマトピアを強調した絵本を作り、読み聞かせをする。3 歳から 6 歳未満児の言語発達と保育財（該当年齢のこども文化）を学び、ストーリーとセリフを強調した絵本を作り、読み語りをする。											
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能											
保育内容（言葉）の理論と方法、乳幼児の言語発達に関する科目、言語表現・身体表現・造形表現に関する科目が必要です。手遊びや歌唱力が予備技能として必要です。											
教 科 書					参考書・リザーブブック						
『言葉と表現力を育む児童文化』 川勝泰介ら編 萌文書林					『保育所保育指針』厚生労働省 『幼稚園教育要領』文部科学省 『認定こども園教育要領』内閣府						
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）							
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。			乳幼児の言語発達状態を理解し、発達特性の差異に対応する。						○	
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。			3 歳未満児への読み聞かせ、3 歳以上児への読み語りができる。						◎	
③	子どもの発達に関する知識を身につける。			非言語表現とオノマトピアを理解する。						○	
④	子どもの発達に関する技能を身につける。			ボディランゲージと言語最近接領域の支援を身につける。						○	
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。			ひとり一人の乳幼児に寄り添う意味を考える。						○	
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。			乳幼児の興味・関心を反映する。						△	
授業科目における社会人基礎力の育成目標											
分類(4 つの力)		能力要素(13 の要素)			授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性			自分でプロットを立案する。						△
		② 働きかけ力									
		③ 実行力			3 歳未満児と 3 歳以上児の絵本をつくる。						◎
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力									
		② 計画力			乳幼児の興味・関心を取り入れる。						◎
		③ 創造力			オリジナルの絵本をめざす。						△
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力			読み聞かせや読み語りのポイントを評価しあう。						○
		② 傾聴力									
		③ 柔軟性			臨機応変にアレンジする方法を学ぶ。						△
		④ 状況把握力			模擬保育で乳幼児の反応を想定する。						△
		⑤ 規律性									
		⑥ ストレスコントロール力									
4. 倫理観		① 倫理性			生命を伝える内容を目指す。						○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			45		10	20	20	5		100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		9		2	4	4			19
	技能に関する評価		9		2	4	4			19
	応用力に関する評価		9		2	4	4			19
	チームワーク力に関する評価		9		2	4	4			19
	関心・意欲に関する評価		9		2	4	4	5		24
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
乳幼児一人ひとりの持ち味に対応した言語表現ができる。					乳幼児を意識した言語表現ができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	子どもの育ちと言葉と文化について（テキスト 1 章）	対面 講義	子供と遊び、文化の概念を 大きくくりでとらえる	30
	ガイダンス 子どもの文化理解 わたしと親とのあそび文化比較			
第 2 回 ／	保育の中で児童文化を考える（メディアの中の子ども）	対面	指導と援助について深める	20
第 3 回 ／	児童文化の歴史と子どもの生活	オンデマンド	子どもの生活とあそびと社会についてとらえる	30
	オンデマンドに沿って課題を作成し、提出をする。			
第 4 回 ／	地域における言葉の活動（図書館よりゲスト）	対面 講義	ゲストのはなしから子育て支援についてかんがえる。	30
	ゲストとともに考え、レポート作成			
第 5 回 ／	乳幼児のあそびうた ～わらべうた～	対面 演習	わらべ歌を振り返り、絵描き歌をつくる	30
	わらべ歌を知る、 絵描き歌をつくる			
第 6 回 ／	言葉を育てる環境① ～よみきかせ～	対面 演習	様々な絵本と出会う、絵本の分類	30
	よみきかせの実際から学ぶ			
第 7 回 ／	今日的な課題を扱った絵本	対面 演習	テーマにあった絵本を選ぶ	20
	LGBT シングル家庭などを扱った絵本から考え、分析をすることができる			
第 8 回 ／	紙芝居とは	対面 演習	身振りや手振りについて深める、ストーリーテリングの上級トレーニング	20
	紙芝居の文化、紙縛りの活用 紙芝居づくりの準備			
第 9 回 ／	紙芝居の発表	対面 演習	言葉や動作の繰り返しについて深める 紙芝居の上級トレーニング	40
	擬音などのオノマトピアの理解			
第 10 回 ／	ストーリーテリングをやってみよう	対面 演習	ストーリーテリングの理解	30
	素話の仕方の理解 身振り手振り			
第 11 回 ／	身の回りのおはなし ～ものに命が宿る？	対面 演習	グループで想像、創造力を働かせる 創作テリングの上級トレーニング	40
	お話づくりワークショップ			
第 12 回 ／	パペットとお話づくり①	オンデマンド 個人製作	パペットを作ってみる	60
	「みんなちがってみんないい」の発想の理解			
第 13 回 ／	パペットとお話づくり②	対面	パペットとお話づくり	30
	パペットの操作とおはなしづくり			
第 14 回 ／	まとめ おはなし発表会	対面 実習 演習	既知の絵本表現をアレンジすることについて深める	90

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SEE32F056S	専門教育科目 幼児教育学領域	保育内容（健康）の理論と方法 Theory and Method to Contents of Nursing (Health)		2 単位	選 択	講 義	2 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	乳幼児の健康と子どもが健康的に生活するのに必要な助言と援助ができること。							
キーワード	健康領域、乳幼児の心身の特徴、基本的な指導事項	学修教育目標	幼稚園教育、保育において「育みたい資質・能力」を理解し、心身の健康に関する領域「保育内容（健康）」のねらい及び内容について、幼児の発達に即した、主体的・対話的な深い学びが実現する過程を踏まえながら、具体的指導場面を想定した保育内容を計画、実行できる。					
授業科目の概要及び学修上の助言								
1. 乳幼児の心身の特徴と発達課題を理解し基本的な援助の留意点を理解する。 2. 幼稚園教育要領や保育所保育指針に示されている健康領域の内容と指導事項を理解する。 3. 健康領域の内容の指導案を作成できる。 4. 幼稚園教諭、保育士を目指す学生としての心構え・姿勢など望ましい態度を養う。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
乳幼児の発達に関わる他の領域「環境」、「人間関係」等における基礎的知識								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
『幼稚園教育要領解説（最新版）』文部科学省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（最新版）』厚生労働省				『小学校学習指導要領（最新版）』文部科学省 『生徒指導提要（最新版）』文部科学省				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。		健康領域の「ねらい」とねらいを達成するために内容（指導する事項）を理解する。					◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。		健康領域の「ねらい」とねらいを達成するために指導する事項を行う指導技能を身に付ける。					○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		乳幼児の心身の特徴と発達課題を理解する。					◎
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		乳幼児の心身の特徴と発達課題に即した指導が行える基本的な技能を身に付ける。					○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		乳幼児期に対する保育や教育における健康作りを行う上での使命感、安全確保などの責任感、並びに個人情報や特別な支援を有する子への合理的配慮などの倫理観を身に付ける。					◎
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		乳幼児期に対する保育や教育における健康作りの知識や技能を実習などの教育現場において活用することができる。					◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性	自らの意思で積極的に学修を進めることができる。					○
		② 働きかけ力						
		③ 実行力	目的を設定し問題が解決するまで取り組むことができる。					△
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力	現状を分析し目的や課題を明らかにすることができる。					○
		② 計画力	課題の解決に向けた具体的・実践的な方法を明らかにすることができる。					○
		③ 創造力	従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。					○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力	自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。					○
		② 傾聴力						
		③ 柔軟性						
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性						

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		30				20	100
評価 の 指標	知識に関する評価		50		20					70
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価				10					10
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価								20	20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
1. 講義内容を配布のレジメにまとめる。さらに自分のコメントを書き込める。 2. 調べ学習では積極的に行動する。さらに調べたことを発表することができる。					1. 講義内容を配布のレジメにまとめる。 2. 調べ学習では積極的に行動する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション　ー保育内容（健康）とは	面接授業（講義法）	資料の収集と整理	30
	ノート点検と観察			
第 2 回 ／	心身の健康に関する領域「保育内容（健康）」の基本	面接授業（講義法）	資料の収集と整理	30
	ノート点検と観察			
第 3 回 ／	心身の健康に関する領域「保育内容（健康）」のねらい	面接授業（講義法）	資料の収集と整理	30
	ノート点検と観察			
第 4 回 ／	心身の健康に関する領域「保育内容（健康）」の内容	面接授業（講義法と調べ学習）	資料の収集と整理	30
	ノート点検と観察			
第 5 回 ／	乳幼児の「健やかな心と身体」① ー乳幼児の発達、生活リズムや生活習慣	面接授業（講義法と調べ学習）	資料の収集と整理	30
	ノート点検と観察			
第 6 回 ／	乳幼児の「健やかな心と身体」② ー遊びと活動意欲	面接授業（講義法と調べ学習）	資料の収集と整理	30
	ノート点検と観察			
第 7 回 ／	乳幼児の「健やかな心と身体」③ ー安全と保育指導、食育	面接授業（講義法と調べ学習）	資料の収集と整理	30
	ノート点検と観察			
第 8 回 ／	心身の健康に関する領域「保育内容（健康）」の保育方法① ー指導案の作成	面接授業（講義法と調べ学習）	資料の収集と整理	30
	ノート点検と観察			
第 9 回 ／	心身の健康に関する領域「保育内容（健康）」の保育方法② ー教材や情報機器の研究及び活用	面接授業（講義法）	資料の収集と整理	30
	ノート点検と観察			
第 10 回 ／	心身の健康に関する領域「保育内容（健康）」の保育方法③ ー指導上の留意事項	面接授業（講義法）	資料の収集と整理	30
	ノート点検と観察			
第 11 回 ／	心身の健康に関する領域「保育内容（健康）」の保育方法④ ー評価と改善	面接授業（講義法）	資料の収集と整理	30
	ノート点検と観察			
第 12 回 ／	心身の健康に関する領域「保育内容（健康）」の保育方法⑤ ー模擬保育実践事例を通しての理解ー	面接授業（協働学習）	資料の収集と整理	30
	レポートの点検と協働学習の観察			
第 13 回 ／	小学校の授業と保育の違い	面接授業（協働学習）	資料の収集と整理	30
	レポートの点検と協働学習の観察			
第 14 回 ／	まとめ　ー全体の確認と振り返りー	面接授業（協働学習）	資料の収集と整理	30
	レポートの点検と協働学習の観察			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SEE32F057S		専門教育科目 幼児教育学領域		保育内容（健康）の理論と方法（演習） Theory and Method to Contents of Nursing (Health) (Exercise)		1 単位	必 修	演 習	2 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標										
学修教育目的	乳幼児の健康と子どもの健康的な生活のためには、適切な助言と援助ができることが求められている。									
	キーワード		健康と運動、リズム運動あそび		学修教育目標	幼稚園教育要領や保育所保育指針・幼保連携型認定子ども園教育・保育要領をもとに、幼児の健康を意識した保育教材の作成・指導方法の計画・実行ができることを目指す。				
授業科目の概要及び学修上の助言										
授業では、自然の中で活動することの楽しさを感じさせる教材を作り、模擬授業を行うことで進める。 1. 幼児期における運動が健康・体力に及ぼす影響を多面的に学び運動による健康作りの基本的知識や技能を習得する。 2. リズム運動などの創作を通して運動遊びの教材開発に必要な実践力を習得する。										
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能										
「保育内容（健康）の理論と方法」における乳幼児における心身の成長・発達に関する基本的な知識										
教 科 書					参考書・リザーブブック					
なし					『保育所保育指針』厚生労働省					
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。			幼児・児童における運動が健康や体力づくりに及ぼす影響についての基本的な知識の習得						◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。			幼児・児童におけるリズム運動などの運動遊び教材を開発する技能を習得する。						◎
③	子どもの発達に関する知識を身につける。			幼児・児童期における運動機能の発達に関する基本的知識を習得する。						◎
④	子どもの発達に関する技能を身につける。			幼児・児童期における運動機能の発達課題を踏まえた基本的な指導技能を習得する。						○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。			幼児・児童期における運動を通した健康作りを行う上での使命感、安全確保などの責任感、並びに個人情報や特別な支援を有する子への合理的配慮などの倫理観を身に付ける。						◎
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。			開発したリズム運動遊びなどを実習などの教育現場において活用することができる。						◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標										
分類(4 つの力)		能力要素(13 の要素)			授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性			自らの意思で積極的に学修を進めることができる。					○
		② 働きかけ力								
		③ 実行力			目的を設定し問題が解決するまで取り組むことができる。					◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力								
		② 計画力			課題の解決に向けた具体的・実践的な方法を明らかにすることができる。					◎
		③ 創造力			従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。					○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力								
		② 傾聴力								
		③ 柔軟性			自らの考えに囚われることなく意見の違いや立場の違いを理解することができる。					△
		④ 状況把握力			自分と周囲の人々や物事との状況や関係性を理解し、最適な行動をすることができる。					○
		⑤ 規律性								
		⑥ ストレスコントロール力								
4. 倫理観		① 倫理性			相手や周囲に対し道徳的に行動することができる。					△

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		10	30			10	100
評価 の 指標	知識に関する評価		50		10					60
	技能に関する評価					10				10
	応用力に関する評価									
	チームワーク力に関する評価					20				20
	関心・意欲に関する評価								10	10
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
1. 講義内容を配布のレジメにまとめる。さらに自分のコメントを書き込める。 2. リズム運動づくりでは積極的に行動する。さらにアイデアなどをだしグループにおいてリーダーシップを発揮している。					1. 講義内容を配布のレジメにまとめる。 2. リズム運動づくりでは積極的に行動する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	領域「健康」における運動遊びについて	面接授業（講義法）	資料の収集と整理	30
	ノートの点検と指導			
第 2 回 ／	幼児期における運動の発達と現状の問題点	面接授業（講義法）	資料の収集と整理	30
	ノートの点検と指導			
第 3 回 ／	幼児期における運動の意義 1（体力、調整力、安全）	面接授業（講義法）	資料の収集と整理	30
	ノートの点検と指導			
第 4 回 ／	幼児期における運動の意義 2（意欲・社会性・認知能力）	面接授業（講義法）	資料の収集と整理	30
	ノートの点検と指導			
第 5 回 ／	幼児期における運動の適時性（バランス、操作する動き・組み合わせ）	面接授業（講義法）	資料の収集と整理	30
	ノートの点検と指導			
第 6 回 ／	保護者との連携（安全、運動遊びの環境、運動遊びの習慣）	面接授業（講義法）	資料の収集と整理	30
	ノートの点検と指導			
第 7 回 ／	リズム運動遊びの創作活動 1（基本的な動き）	面接授業（創作活動と実技演習）	選曲の準備	30
	話し合い活動、動きづくり、協働活動の観察			
第 8 回 ／	リズム運動遊びの創作活動 2（音楽に合わせた動きづくり）	面接授業（創作活動と実技演習）	基本的な動きの資料収集	30
	話し合い活動、動きづくり、協働活動の観察			
第 9 回 ／	リズム運動遊びの創作活動 3（音楽に合わせた大きな動き）	面接授業（創作活動と実技演習）	基本的な動きの資料収集	30
	話し合い活動、動きづくり、協働活動の観察			
第 10 回 ／	リズム運動遊びの創作活動 4（バランス・方向展開）	面接授業（創作活動と実技演習）	基本的な動きの資料収集	30
	話し合い活動、動きづくり、協働活動の観察			
第 11 回 ／	リズム運動遊びの創作活動 5（発表会）	面接授業（発表活動）		
	話し合い活動、動きづくり、協働活動の観察			
第 12 回 ／	子どもの運動指導と健康① 縄遊び	面接授業（実技演習）	基本的な動きの資料収集	30
	話し合い活動、動きづくり、協働活動の観察			
第 13 回 ／	子どもの運動指導と健康② 集団遊び	面接授業（実技演習）	基本的な動きの資料収集	30
	話し合い活動、動きづくり、協働活動の観察			
第 14 回 ／	子どもの心と体の一体性と安全指導・安全管理	面接授業（グループ討議）		
	話し合い活動、協働活動の観察			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SEE32S058S	専門教育科目 幼児教育学領域	保育内容（環境）の理論と方法 Theory and Method to Contents of Nursing (Environment)		2 単位	選 択	講 義	2 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的								
	乳幼児を取り巻く環境の中で、乳幼児と環境の相互作用の意義と重要性、乳幼児の成長への影響について学修する。							
キーワード			学修教育目標					
	発見学習環境 自然保育 生命			幼稚園教育、保育において「育みたい資質・能力」を理解し、身近な環境との関わりに関する領域「保育内容（環境）」のねらい及び内容について、幼児の発達に即した、主体的・対話的な深い学びが実現する過程を踏まえながら、具体的指導場面を想定した保育内容を計画、実行できる。				
授業科目の概要及び学修上の助言								
自然の摂理をガイドラインとする自然保育を理解し、子どもを取り巻く人的・物的環境を再認識する。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
発達心理学、文化人類学、生命科学に関する科目が必要です。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
『幼稚園教育要領解説（最新版）』文部科学省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（最新版）』厚生労働省 『認定こども園教育要領』内閣府				『小学校学習指導要領（最新版）』文部科学省 『生徒指導提要（最新版）』文部科学省				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。		子どもを取り巻く環境保全に積極的に活動する。					△
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。		さまざまな環境づくりと危機管理ができる。					○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		乳幼児の発達特性を理解する。					○
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		乳幼児の発達を促す保育財環境を理解する。					◎
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		生命倫理を考える。					○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		子どもを取り巻く学習環境を改善する。					○
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性		子どもを取り巻く環境の調整に積極的に取り組む。				△
		② 働きかけ力		発見学習環境を調整する。				△
		③ 実行力						
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力						
		② 計画力						
		③ 創造力		どこに手を加えればさらに効果がでるか工夫する。				◎
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力						
		② 傾聴力						
		③ 柔軟性		マニュアルや思い込みを少なくする。				△
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性		生命を伝える意義を理解する。				○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			50		30	20				100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		50		30					80
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価					20				20
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
子どもを取り巻く自然環境を発見学習環境に整える。					子どもを取り巻く自然環境を理解する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション　ー保育内容（環境）とは 資料　「オリエンテーション」	近隣の自然環境を調べる オンデマンド資料を使用した面接授業	春の保育財を考える	20
	秋の自然保育財を知る			
第 2 回 ／	身近な環境との関わりに関する領域「保育内容(環境)」の基本 資料　「環境による保育」	環境構成図・指導案の書き方 オンデマンド資料を使用した面接授業	自然保育を考える	10
	こども園周辺の環境理解			
第 3 回 ／	身近な環境との関わりに関する領域「保育内容(環境)」のねらい 資料　「非言語の意思疎通」	自然素材の活用法 オンデマンド資料を使用した面接授業	自然素材の遊具について考える	10
	落ち葉や実を理解する			
第 4 回 ／	身近な環境との関わりに関する領域「保育内容(環境)」の内容 資料　「異年齢同集団の意義」	環境遊具への活用法 オンデマンド資料を使用した面接授業	環境遊具について考える	10
	環境遊具への利用を理解する			
第 5 回 ／	子どもの「環境とかかわる力」① ー乳幼児の発達と子どもの「環境とかかわる力」 資料　「保育の危機管理」	危機管理のポイント オンデマンド資料を使用した面接授業	こどもをとりまく危険性について考える	20
	周辺環境の危機管理			
第 6 回 ／	子どもの「環境とかかわる力」② ー遊びと子どもの「環境とかかわる力」 資料　「試行錯誤の環境」	環境ホルモンの除去 オンデマンド資料を使用した面接授業	環境保全について考える	10
	こども園近隣の公園や里山の利用を理解する			
第 7 回 ／	子どもの「環境とかかわる力」③ ー人とかかわりと子どもの「環境とかかわる力」 資料　「人的環境としての保育教諭」	3 歳未満児の散歩 オンデマンド資料を使用した面接授業	屋外環境について考える	10
	自然環境の調整を理解する			
第 8 回 ／	身近な環境との関わりに関する領域「保育内容(環境)」の保育方法① ー指導案の作成 資料　「総合的直観感覚」	3 歳以上児の散策 オンデマンド資料を使用した面接授業	発見学習環境について考える	20
	異年齢交流環境を理解する			
第 9 回 ／	身近な環境との関わりに関する領域「保育内容(環境)」の保育方法② ー教材や情報機器の研究及び活用 資料　「こどもの世界」	生命と環境 オンデマンド資料を使用した面接授業	飼育栽培の危険性を考える	10
	動植物との共存環境を理解する			
第 10 回 ／	身近な環境との関わりに関する領域「保育内容(環境)」の保育方法③ ー指導上の留意事項 資料　「インクルーシブ保育」	お泊り保育の内容 オンデマンド資料を使用した面接授業	時空間の環境を考える	10
	行事と環境構成			
第 11 回 ／	身近な環境との関わりに関する領域「保育内容(環境)」の保育方法④ ー評価と改善 資料　「保育から療育へ」	自然環境の変化 オンデマンド資料を使用した面接授業	自然環境の汚染について考える	10
	環境汚染による影響			
第 12 回 ／	身近な環境との関わりに関する領域「保育内容(環境)」の保育方法⑤ ー模擬保育実践事例を通しての理解ー 資料　「原風景・原体験」	混入物の危険性 オンデマンド資料を使用した面接授業	水による感覚攪乱物質の循環について考える	10
	雨水・下水・上水について			
第 13 回 ／	小学校の授業と保育の違い 資料　『「領域」と「教科」の違い』	生物循環 オンデマンド資料を使用した面接授業	自然による浄化について考える	10
	水による環境調整			
第 14 回 ／	これからの保育と身近な環境との関わりに関する領域 「保育内容(環境)」の内容 資料　「遊ぶ大人」	ガイドラインとしての自然環境 オンデマンド資料を使用した面接授業	自然の役割を考える	10
	自然環境の摂理			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
SEE32S059S		専門教育科目 幼児教育学領域		保育内容（環境）の理論と方法（演習） Exercise in Contents of Nursing（Environment）		1 単位	必 修	演 習	2 年次	春学期	
授業科目の学修教育目的・目標											
学修教育目的											
	乳幼児を取り巻く環境の中で、乳幼児と環境の相互作用の意義と重要性・乳幼児の成長への影響について学修する。										
キーワード				学修教育目標							
	保育環境 自然保育 保育財				保育現場の環境（保育室・園庭・自然等）との関わりにおける乳幼児の発育・発達への影響・期待を理解することを目指す。						
授業科目の概要及び学修上の助言											
授業では保育現場の事例を中心に、保育計画の作成・実行に必要な事項を学ぶ。 屋外と室内の保育環境を学び、自然をガイドラインに乳幼児を取り巻く物的環境と人的環境の調整をする。人的環境としてのスキルアップをする。											
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能											
「保育内容総論」、「環境による保育」に関連する科目が必要です。なんらかの特技があると望ましい。											
教 科 書					参考書・リザーブドブック						
なし					『保育所保育指針』厚生労働省 『幼稚園教育要領』文部科学省 『認定こども園教育要領』内閣府 資料は授業内で随時配布。						
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）							
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。			生命を伝えるための保育環境を理解する。						○	
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。			達成感、満足感を形にすることができる。						○	
③	子どもの発達に関する知識を身につける。			こだわることの大切さを理解する。						○	
④	子どもの発達に関する技能を身につける。			乳幼児に感動体験を伝える技術を身につける。						○	
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。			生命を考える。						△	
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。			自然環境が提示する摂理をガイドラインにする。						◎	
授業科目における社会人基礎力の育成目標											
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性			試行錯誤しながら、まずやってみる。						△
		② 働きかけ力			手抜きをせず、一生懸命に取り組む。						△
		③ 実行力									
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力									
		② 計画力									
		③ 創造力			もう一工夫アレンジしてみる。						◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力									
		② 傾聴力									
		③ 柔軟性			うまくできなくても、なんらかの形にする。						△
		④ 状況把握力									
		⑤ 規律性									
		⑥ ストレスコントロール力									
4. 倫理観		① 倫理性			危機管理のガイドラインを知る。						○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			50			25	25			100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		10			5	5			20
	技能に関する評価		10			5	5			20
	応用力に関する評価		10			5	5			20
	チームワーク力に関する評価		10			5	5			20
	関心・意欲に関する評価		10			5	5			20
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
発見学習環境を整えることができる。					自分の持ち味を人的環境として理解する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション 資料 「オリエンテーション」	イチゴとトウモロコシの栽培 オンデマンド資料を使用した面接授業	生命伝達と栽培について考える	20
	栽培作業の割り振りの理解			
第 2 回 ／	幼稚園教育要領環境と指導案のポイント 資料 「認定こども園の環境」	環境構成図・指導案の書き方 オンデマンド資料を使用した面接授業	環境による保育について考える	10
	領域環境の変遷の理解			
第 3 回 ／	春の自然環境と保育活動の展開 資料 「土を作る」	春を探す散策 オンデマンド資料を使用した面接授業	春の動植物環境について考える	10
	春の自然環境の理解			
第 4 回 ／	春の遊具環境と壁面構成の展開 資料 「壁面構成」	壁面構成の制作 オンデマンド資料を使用した面接授業	原色の不自然さについて考える	10
	保育室環境の理解			
第 5 回 ／	遊具と園庭の整備 資料 「園舎の環境」	フレーベル教育遊具 オンデマンド資料を使用した面接授業	積み木について考える	20
	遊具を屋外で使う環境の理解			
第 6 回 ／	教具と保育室の整備 資料 「保育室の環境」	モンテッソーリ教具 オンデマンド資料を使用した面接授業	知育教材について考える	10
	教材提示棚の環境の理解			
第 7 回 ／	教材遊具の条件 資料 「保育遊具の環境」	3 歳未満児の保育遊具制作 オンデマンド資料を使用した面接授業	3 歳未満児の遊具について考える	10
	「遊具は作るもの」という発想の理解			
第 8 回 ／	教材遊具の制作 資料 「生活・感覚訓練の環境」	3 歳以上児の保育遊具制作 オンデマンド資料を使用した面接授業	3 歳以上児の遊具について考える	20
	木製素材へのこだわりの理解			
第 9 回 ／	夏の自然環境と保育活動の展開 資料 「算数・言語訓練の環境」	夏を探す散策 オンデマンド資料を使用した面接授業	夏の動植物環境について考える	10
	夏の自然環境の理解			
第 10 回 ／	夏の遊具環境と保育活動の展開 資料 「援助と支援の環境」	園庭環境の危機管理 オンデマンド資料を使用した面接授業	屋外遊具について考える	10
	屋外環境の理解			
第 11 回 ／	水と泥の環境と保育材制作のスキルアップ 資料 「絵本の環境」	ドロダンゴの制作 オンデマンド資料を使用した面接授業	土ダンゴとの違いについて考える	10
	こだわりの理解			
第 12 回 ／	秋の自然環境と保育活動の展開 資料 「心を育てる環境」	秋を探す散策 オンデマンド資料を使用した面接授業	秋の動植物環境について考える	10
	秋の自然環境の理解			
第 13 回 ／	秋の遊具環境と保育活動の展開 資料 「屋外保育の環境」	あやとり紐の制作 オンデマンド資料を使用した面接授業	手作りについて考える	10
	室内遊び環境の理解			
第 14 回 ／	自然物の保育材制作のスキルアップ 資料 「生命を伝える環境」	ドングリ人形の制作 オンデマンド資料を使用した面接授業	ドングリについて考える	10
	自然物との共存環境の理解			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SEE32F060S		専門教育科目 幼児教育学領域		保育内容（表現）の理論と方法 Theory and Method to Contents of Nursing（Expression）		2単位	選 択	講 義	2年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標										
学修教育目的	「表現」する力は、社会の中で多種多様な人々と共に生きていくために必要不可欠な力である。表現の意義とねらい、現状、役割などについて学び、表現の援助に必要な技能を身に付ける。									
キーワード	造形表現 身体表現 芸術表現			学修教育目標	幼稚園教育、保育において「育みたい資質・能力」を理解し、感性と表現に関する領域「保育内容（表現）」のねらい及び内容について、幼児の発達に即した、主体的・対話的な深い学びが実現する過程を踏まえながら、具体的指導場面を想定した保育内容を計画、実行できる。					
授業科目の概要及び学修上の助言										
「表現」する力は、社会の中で多種多様な人と共に生きるうえで必要不可欠な力である。 表現の内容は、造形、身体、芸術表現と様々である、それらの意義・ねらい、現状、役割を学び、表現に必要な技術を習得するために、日ごろから子どもの表現の様子を観察しておくこと。										
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能										
「保育内容（表現）の理論と方法（演習）」										
教 科 書					参考書・リザーブブック					
『幼稚園教育要領解説（最新版）』文部科学省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（最新版）』厚生労働省					『小学校学習指導要領（最新版）』文部科学省 『生徒指導提要（最新版）』文部科学省					
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。			身体表現をはじめ、表現の基本的知識を習得する。						◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。			① を踏まえて、教師としてのスキルをアップする。						○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。			子どもの身体的発達を年齢別に習得する。						○
④	子どもの発達に関する技能を身につける。			年齢的発達から何が可能かを技術的に知る。						○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。			子どもの興味・関心を知ろうとする気持ちを積極的にもつこと。						◎
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。			学生自身が指導案を作製し、現場に出たつもりで披露し、課題を知る。						△
授業科目における社会人基礎力の育成目標										
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性			課題に対して主体的に取り組む。					◎
		② 働きかけ力								
		③ 実行力			課題目標を明確にしたうえで、努力する。					○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力								
		② 計画力			表現の方法の手順を考えていく。					△
		③ 創造力			新しい知識を取り入れて応用させる。					◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力			導入の仕方では、自分の思いを丁寧に他者に伝える。					○
		② 傾聴力			他者の意見を丁寧に聴く。					◎
		③ 柔軟性			お互いの意見をうまく調整する。					◎
		④ 状況把握力			協同的作業においては、得意なことを認め合い理解する。					△
		⑤ 規律性			時間厳守で行動する。					◎
		⑥ ストレスコントロール力								
4. 倫理観		① 倫理性			自分の能力を他者のために生かそうとする。					△

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			50	10	10	30				100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		20	5	5					30
	技能に関する評価		10			10				20
	応用力に関する評価		10							10
	チームワーク力に関する評価					10				10
	関心・意欲に関する評価		10	5	5	10				30
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
表現活動はなぜ乳幼児に必要なのかを歴史的な観点からも考えて欲しい。					実践の背景である理論的裏付けをしっかりと習得する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション　ー保育内容（表現）とは 資料　「領域　表現」	オンデマンド資料を使用した面接授業	認定こども園教育・保育要領「表現」について概説する	30
	3 歳未満児の身体表現と 3 歳以上児の心情表現の特色の理解			
第 2 回 ／	感性と表現に関する領域「保育内容（表現）」の基本 資料　「造形表現」	オンデマンド資料を使用した面接授業	創造的活動衝動について概説する	30
	創造的退行現象の理解			
第 3 回 ／	感性と表現に関する領域「保育内容（表現）」のねらい 資料　「折り紙」	オンデマンド資料を使用した面接授業	折り紙・織り紙・組み紙を製作する	30
	折り跡を使った援助の理解			
第 4 回 ／	感性と表現に関する領域「保育内容（表現）」の内容 資料　「ペープサート」	オンデマンド資料を使用した面接授業	ペープサートを製作する	30
	乳幼児の喜ぶ使い方の理解			
第 5 回 ／	「健康」「人間関係」「環境」「言葉」と「表現」の相互性	オンデマンド資料を使用した面接授業	手あそびを覚える	30
	乳幼児の喜ぶあそび方の理解			
第 6 回 ／	子どもの存在と表現① ー乳幼児の発達と表現 資料　「新粉細工」	オンデマンド資料を使用した面接授業	新粉で細工ものを製作する	30
	乳幼児と一緒に作る意味の理解			
第 7 回 ／	子どもの存在と表現② ー表現者としての子ども、他者とのかかわり 資料　「泥ダンゴ」	オンデマンド資料を使用した面接授業	泥ダンゴを製作する	30
	自然環境にこだわる			
第 8 回 ／	子どもの豊かな感性と表現を育む環境 ー時間・空間・情報・モノ・人 資料　「身体表現」	オンデマンド資料を使用した面接授業	身体表現をしてみる	30
	体内リズムに気付く			
第 9 回 ／	感性と表現に関する領域「保育内容（表現）」の保育方法① ー指導案の作成、教材や情報機器の研究及び活用 資料　「エブロンシアター」	オンデマンド資料を使用した面接授業	エブロンシアターを製作する	30
	乳幼児が喜ぶキャラクター要素を知る			
第 10 回 ／	感性と表現に関する領域「保育内容（表現）」の保育方法② ー指導上の留意事項 資料　「にじみ絵」	オンデマンド資料を使用した面接授業	にじみ絵を描いてみる	30
	原色や輪郭線の不自然さに気付く			
第 11 回 ／	感性と表現に関する領域「保育内容（表現）」の保育方法③ ー評価と改善 資料　「芸術保育」	オンデマンド資料を使用した面接授業	芸術性を伝えることを考える	30
	芸術性に気付く			
第 12 回 ／	感性と表現に関する領域「保育内容（表現）」の保育方法④ ー模擬保育実践事例を通しての理解ー 資料　「リトミック」	オンデマンド資料を使用した面接授業	外界に流れるリズムを身体で表す	30
	外界のリズムに気付く			
第 13 回 ／	小学校の授業と保育の違い 資料　「手づくり演奏」	オンデマンド資料を使用した面接授業	さまざまな器物を音楽にする	30
	音をまとめる楽しさに気付く			
第 14 回 ／	これからの保育と感性と表現に関する領域「保育内容（表現）」の内容 資料　「イベント表現」	オンデマンド資料を使用した面接授業	イベント行事の問題性を知っておく	30
	乳幼児に適した行事を考える			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SEE32F061S		専門教育科目 幼児教育学領域		保育内容（表現）の理論と方法（演習） Theory and Method to Contents of Nursing（Arthritic Expression）（Exercise）		1 単位	必 修	演 習	2 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標										
学修教育目的		幼児児童の造形表現、言語表現、イメージ表現に必要な絵本と紙芝居に関する知識と技能を修得する。また、ストーリーに合わせた身体表現や他の表現素材を使っでの表現方法など学修する。								
キーワード		乳幼児の表現活動 絵本 紙芝居	学修教育目標	イメージ表現の基礎を学び、身体表現のための必要な技能を身に付けることを目指す。						
授業科目の概要及び学修上の助言										
「表現」する力は、社会の中で多種多様な人と共に生きるうえで必要不可欠な力である。 表現の意義・ねらい、現状、役割を学び、音楽表現に必要な知識を習得するために、日ごろから子どもの表現の様子を観察しておくこと。										
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能										
「保育内容（表現）の理論と方法」										
教 科 書					参考書・リザーブドブック					
なし					幼保連携型認定こども園教育・保育要領					
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。			表現が人に与える影響と効果について専門的な知識を得る。						○
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。			子どもたちを目の前にしたとき、すぐに手遊びや素話などの導入ができる。						○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。			とくに表現力の発達についての知識を段階的に知る。						○
④	子どもの発達に関する技能を身につける。			③を踏まえて、どのような教材が選択できるのかを考える。						○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。			子どもの初期の発達を支える重要な時期であることを自覚して、表現による援助について使命感をもって実践できることを念頭におく。						△
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。			実習や保育ボランティアにおいて表現活動を実践し、自身の課題を明確にしたうえで、スキルアップを図る。						△
授業科目における社会人基礎力の育成目標										
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性			課題練習を主体的に行う。					◎
		② 働きかけ力								
		③ 実行力			どの課題まで進むのか目標を明確にしたうえで、努力する。					○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力								
		② 計画力			弾きにくい部分の練習方法を考えていく。					△
		③ 創造力			オノマトピアにするなど、応用させる。					◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力			自分の知っているお話などを、他者に伝える。					○
		② 傾聴力			他者の表現を知ろうと、聴く。					◎
		③ 柔軟性			話が異なる場合もあるが、お互いに調整する。					◎
		④ 状況把握力			協同的作業の中で、お互いの立場・能力を理解する。					△
		⑤ 規律性			時間厳守で行動する。					◎
		⑥ ストレスコントロール力								
4. 倫理観		① 倫理性			自分の能力を他者のために生かそうとする。					△

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			50	10	10	30				100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		20	5	5					30
	技能に関する評価		10			10				20
	応用力に関する評価		10							10
	チームワークに関する評価					10				10
	関心・意欲に関する評価		10	5	5	10				30
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
子どもの発達を踏まえたうえで、「絵本」「紙芝居」などの教材を年齢に合わせて考える力をつける。					乳児期と幼児期に分けて、表現の教材を理解する。 そのうえで、学生自身の表現の力量を芸術的レベルに上げる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	保育の基本と「表現」 資料 「領域 表現」	オンデマンド資料を使用した面接授業	幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「表現」について理解する	30
	乳幼児のイメージを広げる保育財			
第 2 回 ／	領域「表現」とは 資料 「紙芝居と絵本の違い」	オンデマンド資料を使用した面接授業	紙芝居の絵と絵本の絵の違いを考える	30
	紙芝居と絵本の特徴を理解する			
第 3 回 ／	子どもの発達と表現 資料 「紙芝居プロット製作」	オンデマンド資料を使用した面接授業	紙芝居のセリフと筋を考える	30
	紙芝居のナレーションの特徴を理解する			
第 4 回 ／	子どもの表現を育む① 身体による表現 資料 「紙芝居構図配置」	オンデマンド資料を使用した面接授業	紙芝居の構図を考える	30
	紙芝居の図柄の特徴を理解する			
第 5 回 ／	子どもの表現を育む② 音楽による表現 資料 「紙芝居構図配色」	オンデマンド資料を使用した面接授業	紙芝居の構図を考える	30
	紙芝居の配色の特徴を理解する			
第 6 回 ／	子どもの表現を育む③ 造形による表現 資料 「紙芝居ラミネート」	オンデマンド資料を使用した面接授業	紙芝居の仕上げを考える	30
	紙芝居の配置の特徴を理解する			
第 7 回 ／	子どもの表現を育む④ 総合的な表現 資料 「絵本プロット製作」	オンデマンド資料を使用した面接授業	絵本のセリフと筋を考える	30
	絵本のストーリーを理解する			
第 8 回 ／	表現活動の援助① 身体による表現 資料 「絵本文字の貼り付け」	オンデマンド資料を使用した面接授業	絵本のセリフを印刷する	30
	絵本のセリフを理解する			
第 9 回 ／	表現活動の援助② 音楽による表現 資料 「絵本構図配色」	オンデマンド資料を使用した面接授業	絵本の絵を考える	30
	絵本の図柄を理解する			
第 10 回 ／	表現活動の援助③ 造形による表現 資料 「絵本輪郭線と原色」	オンデマンド資料を使用した面接授業	絵本の図柄を考える	30
	絵本の配色を理解する			
第 11 回 ／	表現活動の援助④ 総合的な表現 資料 「絵本文字の境界処理」	オンデマンド資料を使用した面接授業	絵本の絵と文字を貼り合わせる	30
	絵本の台紙と文字を理解する			
第 12 回 ／	保育現場での実践と考察① 身体による表現 資料 「絵本絵と絵の境界処理」	オンデマンド資料を使用した面接授業	絵本の絵と文字の境界をぼかす	30
	絵本の縁取りを理解する			
第 13 回 ／	保育現場での実践と考察② 音楽による表現 資料 「絵本ラミネート」	オンデマンド資料を使用した面接授業	絵本の仕上げを考える	30
	絵本の仕上げ方を理解する			
第 14 回 ／	保育現場での実践と考察③ 造形による表現 資料 「絵本製本の作業」	オンデマンド資料を使用した面接授業	絵本を製本する	30
	絵本の製本の仕方を理解する			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SEC11F062S		専門教育科目 児童教育学領域		教育心理学（初等） Educational Psychology（Elementary）		2単位	必 修	講 義	1年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標										
学修教育目的										
	教育心理学は、学校や家庭、さらに社会における人格の発達に及ぼす諸要因を心理学的に解明し、幼児・児童の心身の望ましい発達や人格形成を目指すものである。教育に関連する諸事象、教授・学習過程、評価、発達、人格・適応領域、並びに集団における人間関係や障がいのある子ども達への理解、発達心理学領域もその対象となる。また、人間そのものの本質を理解することは教育心理学の重要な課題の一つでもある。「人間とは?」「生きるとは?」これらの視点も含めて、広く教育心理学を学んでいくことを目的とする。									
キーワード	教授・学習過程 評価 発達 人格 障がい 人間関係			学修教育目標	・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴が理解できる。 ・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方が理解できる。					
授業科目の概要及び学修上の助言										
教師になるために必要な心理学の理論を中心に学ぶ。本講義は教職関連課題であるため、15回の授業を通して、授業態度や物事に取り組む姿勢についても身に付けていく必要がある。「教師になる」という高い目的意識が求められる科目であることを自覚して履修すること。 主体的な学びとなるよう、各自授業ノートを準備し、学びに活かしていくことが必須である。 事前に授業資料を公開するので、各自確認し印刷して授業に臨むこと。 さらに、講義形式ではあるが、ペアワークやディスカッションを取り入れながら授業を進めていくため、積極的な姿勢で授業に臨むこと。										
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能										
「教育相談の基礎Ⅰ」と関係づけて学んでいくことで学びが深くなっていきます。										
教 科 書					参考書・リザーブドブック					
プリント配布					書 名：『教育心理学』 著者名：米澤富士雄・足立正常・倉盛一郎（編著） 出版社：北大路書房					
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。									
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。									
③	子どもの発達に関する知識を身につける。			教育心理学（子どもの望ましい発達や人格形成）に関する知識を身につけることができる。						◎
④	子どもの発達に関する技能を身につける。									
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。									
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。									
授業科目における社会人基礎力の育成目標										
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性			質問に積極的に答えることができる。					○
		② 働きかけ力			集団や組織（チーム）の中でリーダーシップを発揮し、他者（チームメイト）や組織を動かしながら目標達成の働きかけを行うことができる。					△
		③ 実行力								
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力			自分を客観的に観察し現状を把握する中で、課題を抽出し問題を解決することができる。					○
		② 計画力								
		③ 創造力			成功イメージを常に意識しながら、新しいものを生み出すためのヒントを探ることができる。					△
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力								
		② 傾聴力								
		③ 柔軟性								
		④ 状況把握力								
		⑤ 規律性								
		⑥ ストレスコントロール力								
4. 倫理観		① 倫理性			私語をしないで授業を受けることができる。					○

※1 ○:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ○:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
		総 合 評 価 割 合	50							50
評 価 の 指 標	知識に関する評価		35							35
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		15						20	35
	チームワーク力に関する評価								5	5
	関心・意欲に関する評価								25	25
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
子どもの望ましい発達や人格形成に関する知識を十分に理解している。 子ども・保護者への対応に役立つカウンセリングの知識や技法を十分に理解している。 各項目の理解度が 80%以上である。					子どもの望ましい発達や人格形成に関する知識を理解している。 子ども・保護者への対応に役立つカウンセリングの知識や技法を理解している。 各項目の理解度が 60%～80%である。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション - 教育心理学とは	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第 2 回 ／	発達と教育および発達の諸理論 - ハヴィガーストとエリクソンの発達課題 -	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第 3 回 ／	発達の諸理論 - ピアジェ・フロイト・ヴィゴツキーの理論 -	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第 4 回 ／	心身の発達（１） 幼児期から青年期における心身の発達の概要	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第 5 回 ／	心身の発達（２） 幼児期から青年期の運動発達、言語発達、認知発達及び社会性	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第 6 回 ／	心身の発達（３） 自己概念の発達と学校教育。社会性や道徳性の発達と学校教育	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第 7 回 ／	心身の発達（４） 障がいのある幼児・児童・生徒の心身の発達及び学習の過程	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第 8 回 ／	人格・個性・適応 幼児・児童の人格形成や個性	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第 9 回 ／	学習のメカニズムと動機づけ（１） 主体的学習を促す効果的な学習法及び教授法	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第 10 回 ／	学習のメカニズムと動機づけ（２） 集団における人間関係、動機づけとやる気の持続	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第 11 回 ／	学習のメカニズムと動機づけ（３） 教育評価の種類と方法	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第 12 回 ／	学校文化 家庭での学習と学校での学習の違いと指導法	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第 13 回 ／	カウンセリングの知識や技法を活かした児童・生徒理解（１） カウンセリングの知識と技法	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第 14 回 ／	カウンセリングの知識や技法を活かした児童・生徒理解（２） 実践事例からみる指導法	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
SEC11S063S		専門教育科目 児童教育学領域		教職入門（初等） Basics on Teacher Education (Elementary)		2 単位	必 修	講 義	1 年次	春学期	
授業科目の学修教育目的・目標											
学修教育目的	① 子どもの成長を援助し、子どもの成長をもって自己の喜びとする仕事が教職であること、教職が非常に人間的な仕事でやり甲斐のある素晴らしい仕事であることを認識して、学生が、教職の内容を理解し、教職に対する自らの適性を判断し、教員として働く意欲をもつようになることが授業の目的である。 ② 教員個人の職務に関する内容（教職の意義と教員の使命・資質、仕事・役割）を中心に理解することが目的である。また、教員の日常業務について、校種別（幼稚園・小学校・特別支援学校）に理解し、学生の目標とするべき教員像をもつことを目的とする。										
	キーワード	教職の意義 職務に関する内容 自己の適性 教員像			学修教育目標	① 学生が、初等教育の諸問題を視野に入れながら教職の内容を理解し、教職意識を高め、教員として働く意欲をもつことができる。 ② 教職課程を理解して、教職に課せられた責任と使命を自覚し、教職に対する自己の適性について吟味することができる。 ③ 「チームとしての学校」の学校運営、学校内外の専門家等との連携等の必要性について理解できる。					
授業科目の概要及び学修上の助言											
望ましい教師像について考察し、それを自らに重ね合わせて、目指すべき教師像とそのために身につけるべき諸要素について明らかにする。そして、最終的には教職課程における学びに対する積極的な態度の基礎を身につける。 本授業における学修活動では、自らの学校における経験を想起し、受講者どうしで充実した意見交換ができるよう、積極的に発言し、他者の意見を受容する態度で臨むことが適切である。											
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能											
教師になることを真剣に目指す者のための授業であり、教師を目指すという自覚と責任感を持って受講することを望む。											
教 科 書						参考書・リザーブドブック					
書 名：『教育学への視座』 著者名：青木久子 ほか 出版社：萌文書林						書 名：『新しい時代の教職入門』 著者名：秋田喜代美・佐藤学 出版社：有斐閣アルマ					
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）							
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。			教師の職務について基本的事項を理解し、設問に答えることができる。							○
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。										
③	子どもの発達に関する知識を身につける。			子どもの発達に関する知識を身につけ、設問に答えることができる。							○
④	子どもの発達に関する技能を身につける。										
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。			目指すべき望ましい教師像について、自分の考えを述べることができる。							◎
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。			真摯に学修に取り組み、達成すべき行動目標を自己評価することができる。							◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標											
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性			質問に積極的に答えることができる。						◎
		② 働きかけ力			授業中に自らすすんで質問することができる。						○
		③ 実行力									
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力			これまでにない新しい解決策を見つけ出すことができる。						◎
		② 計画力			レジュメづくりに時間をかけることができる。						○
		③ 創造力									
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力			自分で調べたことについて、十分に説明できる。						◎
		② 傾聴力			他の人の意見を聞き、そのことについてコメントできる。						◎
		③ 柔軟性									
		④ 状況把握力									
		⑤ 規律性									
		⑥ ストレスコントロール力									
4. 倫理観		① 倫理性			建学の精神「教育は徳なり」を体現できる。						◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
		総合評価割合	50		25				25	100
評価 の 指標	知識に関する評価	50		5					15	70
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価			20						20
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価								10	10
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
教師という仕事を理解し、今後の教職課程で積極性と責任感を持ち学ぶ意欲を持つことができる(80%以上)。					教師という仕事を理解し、教職課程に関心を持つことができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	教職の意義と教師観 教職の専門性・資質能力、教職の意義、求められる教師像	面接授業・質疑応答	【復習】 ・シラバスを読み、本授業の内容と目的を確認する。 ・授業ノートと教科書の序章を中心に講義で得た知識を確認する。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価			
第 2 回 ／	教員養成と教職課程について 教員養成制度の歴史、免許制度	面接授業・質疑応答	【予習】 本授業を履修した理由を確認しておく。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価		【復習】 講義の内容を基に、「求められる教師像」という問いに対する自分なりの答えを考える。	45
第 3 回 ／	教師の仕事（１） 他職種との違いと教職の職業的特徴	面接授業・質疑応答 ディスカッション	【予習】 前回の講話の内容を基に、教師の仕事进行を想像する。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価		【復習】 講話の内容を整理した授業ノートを確認し、「他業種との違い」という問いに対する自分なりの答えを考える。	45
第 4 回 ／	教師の仕事（２）　－教科指導－ 学習指導要領・授業をつくる（構成・デザイン・授業研究等）	面接授業・質疑応答 ディスカッション	【予習】 前回の講話の内容を基に、教師の仕事进行を想像する。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価		【復習】 講義・ディスカッションの内容から、教師の仕事の内容についてまとめる。	45
第 5 回 ／	教師の仕事（３）　－教科外指導（学級経営）－	面接授業・質疑応答 ディスカッション	【予習】 前回の講話の内容を基に、教師の仕事进行を想像する。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価		【復習】 教科書第 6 章を読む。	45
第 6 回 ／	教師の仕事（４）　－教科外指導（生活指導）－	面接授業・質疑応答 ディスカッション	【予習】 現代社会で起こっている教育問題を想起する。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価		【復習】 講義の内容を基に、「現代の教育課題」という問いに対する自分なり考えをまとめる。特に「不登校」に関連する事例をまとめる。	45
第 7 回 ／	教師の仕事（５）　－教科外指導（学級・校務分掌等）－	面接授業・質疑応答 ディスカッション	【予習】 前回の講話の内容を基に、教師の仕事进行を想像する。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価		【復習】 講義・ディスカッションの内容から、教師の仕事の内容についてまとめる。	45
第 8 回 ／	教師の仕事（６）－教科外指導（特別活動・総合的な学習等）－	面接授業・質疑応答 ディスカッション	【予習】 前回の講話の内容を基に、教師の仕事进行を想像する。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価		【復習】 講義・ディスカッションの内容から、教師の仕事の内容についてまとめる。	45
第 9 回 ／	教師の仕事（７）－教科外指導（特別支援教育）－	面接授業・質疑応答 ディスカッション	【予習】 前回の講話の内容を基に、教師の仕事进行を想像する。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価		【復習】 講義・ディスカッションの内容から、教師の仕事の内容についてまとめる。	45
第 10 回 ／	教師の仕事（８）－保護者・地域・関係諸機関との連携－ 学校協議会、生涯学習・福祉・保健衛生の各関係機関等	面接授業・質疑応答 ディスカッション	【予習】 前回の講話の内容を基に、教師の仕事进行を想像する。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価		【復習】 第 3 回―第 10 回の講義の内容をまとめ、「教師の仕事」レポートを完成させる。	45
第 11 回 ／	チームとしての学校（１） 専門性に基づくチーム体制の構築	面接授業・質疑応答 ディスカッション	【予習】 前回の講話の内容を基に、チームとしての学校进行を想像する。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価		【復習】 講義・ディスカッションの内容から、チームとしての学校の内容（１）についてまとめる。	45
第 12 回 ／	チームとしての学校（２） 学校のマネジメント機能とその強化	面接授業・質疑応答 ディスカッション	【予習】 前回の講話の内容を基に、チームとしての学校进行を想像する。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価		【復習】 講義・ディスカッションの内容から、チームとしての学校の内容（２）についてまとめる。	45
第 13 回 ／	チームとしての学校（３） 家庭、地域との関係、学校種の違い、必要な支援のあり方	面接授業・質疑応答 ディスカッション	【予習】 前回の講話の内容を基に、チームとしての学校进行を想像する。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価		【復習】 第 11 回―第 13 回の講義の内容をまとめ、「チームとしての学校」レポートを完成させる。	45
第 14 回 ／	まとめ　確認と振り返り	面接授業・質疑応答	【予習】 これまでの講義の内容を総復習する。	45
			【復習】 ポートフォリオを完成させる。	45

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとにに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SEC11S064S	専門教育科目 児童教育学領域	教職概論（初等） Introduction to Teacher Education（Elementary）		2単位	選 択	講 義	1年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	教育職員免許法施行規則で定められた「教職に関する科目」の「教職の意義等に関する科目」に対応する教職課程の必修科目である。 ① 「教職入門（初等）」において、初等教育の教員個人の職務内容を理解し、教員として働く意欲を高めることを学修した上で、教育に関する法令を詳しく理解し、それに基づく教職のあり方（服務及び身分保障、研修等）を理解することを目的とする。 ② 学校は法令に基づいた教育活動を展開することを目的とした一つの組織体であり、「組織」と学校経営の視点に立ち、組織の中の一員としての責任感と使命感のある教職を理解することを目的とする。 ③ 教職への道に進む上で、最近の教育改革の動きを認識して、新しい学校づくりをするための教育評価の概要を理解することを目的とする。							
キーワード	教職の意義・学校法令・教職の特性 アクティブ・ラーニング	学修教育目標	① 学校園という組織の中での責任感と使命感のある教員のあり方を理解できる。 ② 教育法令に基づき、学校経営の取り組みや学校改革の動きを理解できる。 ③ 学校づくりをするための教育評価の概要を理解できる。					
授業科目の概要及び学修上の助言								
教職科目の意義や教員養成の歴史を踏まえて、教育に関する基本的な用語を理解したうえで、受講生の教職志望理由を確認する。また、新学習指導要領においても、教員養成課程におけるアクティブ・ラーニングの重要性が説明されており、受講生自身の積極性や主体性を重視したい。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
新学習指導要領では、教員養成課程でも「主体的・対話的で深い学び」を求めている。また、「いじめ対策防止推進法」第 18 条では、「いじめ防止等のための対策が専門的知識に基づき適切に行われるよう教員の養成及び研修の充実を通じた教員の資質の向上」が明記されており、いじめ問題を含めた学校教育の課題について、受講者が主体的に問題意識を持つことが要求される。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
書 名：『教職入門 概論』改訂版 著者名：梨木 昭平 出版社：三恵社				書 名：『新しい時代の教職入門』 著者名：秋田喜代美・佐藤学 出版社：有斐閣アルマ 書 名：『教育キーワード137』 著者名： 出版社：時事通信社				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。		学校法令を含め、学校教育に関する基本知識を理解する。					○
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。		教育実習での講話を想定して、話し方や伝え方の技能を身につける。					◎
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		子どもの発達に関する基本的用語を理解する。					△
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		子ども同士のいじめ問題に対応できる技能を身につける。					◎
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		教職志望理由や教育実習に向けての抱負を発表することができる。					○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		実際の教育の状況を踏まえて学校現場に立ち向かう熱意を持つ。					○
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性	教職に対する主体的な日常的な興味関心を継続する。					○
		② 働きかけ力	教職に対する主体的な日常的な問題식을継続する。					○
		③ 実行力	教職に対する主体的な日常的な興味関心を発表する。					◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力	教育情勢に対する主体的な日常的な興味関心を継続する。					○
		② 計画力	教育情勢に対する主体的な日常的な興味関心を記録する。					◎
		③ 創造力	教育情勢に対する主体的な日常的な興味関心を文章にまとめる。					○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力						
		② 傾聴力						
		③ 柔軟性	教育情勢に対する主体的な興味関心を他者と交換する。					◎
		④ 状況把握力	教育情勢に対する主体的な興味関心を整理する。					◎
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性	自分自身の道徳的教育観を確認する。					◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			45	20	5	20		10		100
評価 の 指標	知識に関する評価		35	15	5					55
	技能に関する評価			5		5				10
	応用力に関する評価		10			15				25
	チームワーク力に関する評価							5		5
	関心・意欲に関する評価							5		5
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
教育公務員特例法等を踏まえた教職の特性、校務分掌を中心とした教職に関する用語、教務、生徒指導、保健指導、キャリア教育等の教育用語、学校教育法における校長、教頭等の職務がよく理解され明確な教職志望理由を発表できる。					教育公務員特例法等を踏まえた教職の特性、校務分掌を中心とした教職に関する用語、教務、生徒指導、保健指導、キャリア教育等の教育用語、学校教育法における校長、教頭等の職務がおおむね理解され教職志望理由を発表できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	教育法令について（1） 教育法令の範囲と体系、日本国憲法	課題研究	＜復習＞シラバスを読み、本授業の内容と目的を確認 授業用ノートを中心に講義で得た知識を確認	45
	教育法令の範囲と体系の理解度			
第 2 回 ／	教育法令について（2） 教育基本法、学校教育法、教員免許法、地教行法 等	課題研究	＜予習＞本授業を履修した理由を確認 ＜復習＞「教員に求められる資質」について自分の考えをまとめる	45 45
	法令を踏まえての学校の特性の理解度			
第 3 回 ／	教員の服務と身分保障（1） ー教育公務員としての教員ー 法令にもとづく教育公務員のあり方	面接授業・DVD 視聴・質疑応答	＜予習＞「教員の服務」について考える ＜復習＞「教員に求められる資質」について発表できる準備をする	45 45
	学校教育に関わる制度の理解度			
第 4 回 ／	教員の服務と身分保障（2） ー教育公務員としての教員ー 任用と勤務条件等	課題研究	＜予習＞「教員の身分保障」について調べる ＜復習＞「教員の服務」について教育法令と関連づけて考える	45 90
	教育公務員の特性の理解度			
第 5 回 ／	教員の服務と身分保障（3） ー教育公務員としての教員ー 服務	課題研究	＜予習＞教員の身分保障の歴史を調べる ＜復習＞教育公務員特例法についてまとめる	45 45
	教育公務員の特性の理解度			
第 6 回 ／	教員の資質と能力（1） 生徒の求める教師像	面接授業・DVD 視聴・質疑応答	＜予習＞教員の資質能力の形成を調べる ＜復習＞教育公務員の特性をまとめる	45 45
	教職の特性を踏まえての志望理由の説得力			
第 7 回 ／	教員の資質と能力（2） 保護者から見た望ましい教員	課題研究	＜予習＞校務分掌について調べる ＜復習＞法令研修についてまとめる	45 45
	経験・年齢による職務変化の理解度			
第 8 回 ／	教員の資質と能力（3） 同僚の求める望ましい教員の姿	課題研究	＜予習＞第 7 回までの内容を確認する ＜復習＞分掌について確認する	45 45
	校務分掌関係の用語の理解度			
第 9 回 ／	教員の資質と能力（4） 教育行政機関の求める教員像	面接授業・DVD 視聴・質疑応答	＜予習＞校長について調べる ＜復習＞分掌の任務について確認する	45 45
	校務分掌の内容の理解度			
第 10 回 ／	教員の資質能力の形成と研修 法令研修・教員のキャリアステージ	課題研究	＜予習＞学校経営・学校評価について調べる ＜復習＞校長の任務を確認する	45 45
	カリキュラムマネジメント・日本の学校教育の特色の理解度			
第 11 回 ／	学校組織 校務分掌組織、職員会議、主任制度等	課題研究	＜予習＞教育改革について調べる ＜復習＞教職の意義レポートの構想	45 45
	学校評価制度の理解度			
第 12 回 ／	学校経営について 校長のリーダーシップ、学校経営目標・学校教育目標等	面接授業・質疑応答	＜予習＞21 世紀の改革について調べる ＜復習＞従来の教育改革を確認	45 90
	最新の教育情勢の理解度			
第 13 回 ／	学校評価について 学校評価の目的・意義・役割・法制について	面接授業・質疑応答	＜予習＞採用試験について調べる ＜復習＞最近の教育改革を確認	45 45
	最新の学習指導要領の理解度			
第 14 回 ／	まとめ 確認と振り返り	面接授業・質疑応答	＜予習＞これまでの講義内容を確認 ＜復習＞ポートフォリオを完成	45 45
	採用試験における時事問題領域の理解度			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
SEC11F065S		専門教育科目 児童教育学領域		教育学概論（初等） Introduction to Education (Elementary)		2 単位	必 修	講 義	1 年次	秋学期	
授業科目の学修教育目的・目標											
学修教育目的											
	① 教育という現象の全体像を把握し、教育（特に初等教育）に関する理念と実際をおおまかに理解することを目的とする。 ② 日本及び世界の教育の歴史と発展を理解し、現代社会の変化を把握して、教育の思想について理解することを目的とする。										
キーワード	教育学の概念、教育の本質、教育制度、教育課題			学修教育目標	① 教育学の基礎理論を理解できる。 ② 社会の変化に伴いながら、変化してきた学校園の歴史や授業方法、教育課程、学力観を理解できる。 ③ 日本及び世界の教育の歴史と思想を理解できる。						
授業科目の概要及び学修上の助言											
教育学の概念、教育の本質、教育制度、教育課題を理解し、自身の教育の意義を確立するために、以下の内容で授業を進める。なお、毎授業終了前に学修した内容の要約、感想、疑問点などのワーク・シートに記入して提出する。ワークシートは次回の授業の最初に返却する。 1. 教育学の概念 2. 教育の本質 3. 教育制度 4. 教育課題											
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能											
「教職入門」「教育課程論」。予習・復習をしっかりと行うこと。											
教 科 書					参考書・リザーブドブック						
書 名：『教育原理』 著者名：坂越正樹・湯川秀樹・湯川嘉津美・神長美津子編著 出版社：光生館					なし						
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）							
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。			教諭・保育士として必要な専門知識について理解できる。						◎	
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。										
③	子どもの発達に関する知識を身につける。			子どもの発達に関する知識、教師の職務について基本事項を理解できる。						○	
④	子どもの発達に関する技能を身につける。										
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。			子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観、望ましい教師像について、理解できる。						○	
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。			真摯に学修に取り組み、教育現場などでの基本的な課題を理解できる。						○	
授業科目における社会人基礎力の育成目標											
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性			質問に積極的に答えることができる。						◎
		② 働きかけ力			授業中の私語を注意することができる。						○
		③ 実行力									
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力			課題解決が難しい事例研究において、新しい解決策を見つけることができる。						◎
		② 計画力									
		③ 創造力									
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力			自分で調べた事柄について、十分に説明できる。						◎
		② 傾聴力			他の人の意見をしっかりと聴き、そのことについてコメントができる。						◎
		③ 柔軟性									
		④ 状況把握力									
		⑤ 規律性			授業に遅れず出席できる。						○
		⑥ ストレスコントロール力									
4. 倫理観		① 倫理性			建学の精神「教育は徳なり」を体現できる。						◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コンテスト等)	合 計
		総 合 評 価 割 合	50		30				20	100
評 価 の 指 標	知識に関する評価	50								50
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価				30					30
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価								20	20
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
教育学の全般にわたる知識を獲得するとともに、それらを有機的に関連させて、現代の教育問題を分析し、課題を指摘することができる(80%以上)。					教育学の全般にわたる知識を獲得するとともに、現代の教育問題を指摘することができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	教授・陶冶・訓育とは 「教育」の語源：養育から教育へ（教育の基本的概念）	面接授業 講義・グループワーク・質疑応答	【復習】 ・本講義の目標を理解し、学習計画をたてる。 ・配布資料を熟読し、教育学概論（初等）とは何かを理解する。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価			
第 2 回 ／	教育とは・・・教育の語義 教育の目的を考える(教育の基本的概念)	面接授業 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価		【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	45
第 3 回 ／	社会と教育（教育の基本的概念）	面接授業 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価		【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	90
第 4 回 ／	教育の必要性と可能性・・・人間と環境、野生児の研究 （教育に関する様々な思想）	面接授業 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価		【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	45
第 5 回 ／	第 6 章 近代学校教育の成立と展開・・・【プロジェクト学習】 （教育に関する歴史） 外国の学校の誕生から国民教育制度の成立 まで 日本の「学制」の実施から「教育令」と「改正教育令」の制定まで	面接授業 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価		【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	45
第 6 回 ／	動物学から見た人間の特殊性（教育に関する様々な思想）	面接授業 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価		【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	45
第 7 回 ／	第 6 章 近代学校教育の成立と展開・・・【プロジェクト学習】 （教育に関する歴史） 「教育勅語」の成立 から 戦後の教育改革 まで	面接授業 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価		【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	45
第 8 回 ／	近代教育の成立（教育に関する歴史）	面接授業 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価		【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	45
第 9 回 ／	教育的関係における教えることと学ぶこと	面接授業 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価		【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	45
第 10 回 ／	教えることの復権 (1)学習と教育 (2)障壁としての教育者	面接授業 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価		【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	45
第 11 回 ／	教育と福祉 子どもの権利としての教育と福祉 子どもの権利条約	面接授業 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価		【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	45
第 12 回 ／	生涯学習社会と教育 生涯学習とは	面接授業 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価		【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	45
第 13 回 ／	第 9 章 教育の実践・・・【プロジェクト学習】 教育基本法、学校教育法、「生きる力」の考え方、教え方や学び方の質と「資質・能力の育成」、幼稚園教育における育みたい資質・能力、教育課程の基準	面接授業 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価		【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	45
第 14 回 ／	第 1 1 章 地域社会と学校・・・【プロジェクト学習】 地域の教育力低下と教育基本法第 13 条、地域と学校の連携を推進する政策や取り組みの経過、学校運営協議会の展開、社会の変化と「社会に開かれた教育課程」の要請、事件・事故や自然災害の多発と学校安全のあり方、学校安全の目的と具体的な取り組みの概要	面接授業 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価		【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	45

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SEC12S066S		専門教育科目 児童教育学領域	教育史（初等） History of Education（Elementary）	2 単位	必 修	講 義	2 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	歴史上に現れた様々な教育思想、(特に初等教育)、教育制度について通史的に概観する。教員採用試験の教職教養分野において、教育史に関する試験はある程度の割合を占めている。試験対策を視野に入れた授業を行う。							
	キーワード 西洋教育史 日本教育史		学修教育目標	① 教育の歴史に関する基礎的知識を身に付ける。 ② 多様な教育の理念と関わり、過去から現在に至るまでの教育及び学校の変遷を理解できる。 ③ 教育に関する思想を理解できる。				
授業科目の概要及び学修上の助言								
面接授業とオンデマンドによる遠隔授業を交互に行う（詳細は第 1 回目の授業で説明する）。教材を PDF 等の形式で配信するので、インターネット接続可能な PC、iPad、スマートフォン等を準備しておくこと。西洋古代から現代にいたるまでの主要な教育思想家をとりあげ、その教育思想(特に初等教育)を概観する。また日本の教育史も取り上げる。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
教職の専門科目すべてに関連する。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
なし				書 名：『西洋の教育の歴史と思想』 著者名：山崎英則・徳本達夫 編 出版社：ミネルヴァ書房 書 名：『近現代教育史』 著者名：柴田義松・斉藤利彦 編 出版社：学文社				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。		歴史上の重要な教育思想に関する知識を身につけることができる。					◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。							
③	子どもの発達に関する知識を身につける。							
④	子どもの発達に関する技能を身につける。							
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。							
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。							
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4 つの力)		能力要素(13 の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性	集団や組織の中で自分の役割と責任を判断し、主体的に取り組むことができる。					○
		② 働きかけ力	集団や組織の中でリーダーシップを発揮し、他者や組織を動かしながら目標達成に向けて働きかけることができる。					△
		③ 実行力	自分に必要な目的を理解し、目標を設定して行動することができる。					△
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力	自分を客観的に観察し、適切に状況を把握し、課題を見つけ解決しようとすることができる。					△
		② 計画力	問題解決のプロセスを明らかにし、優先順位をつけて計画を立てることができる。					○
		③ 創造力	様々な知識・技能等を組み合わせ、問題の解決に対して新たな方法を考えることができる。					○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力	自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらうように的確に伝えることができる。					○
		② 傾聴力	相手の話しやすい環境をつくり、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引き出すことができる。					○
		③ 柔軟性	自分のルールややり方に固執するのではなく、相手の意見や立場を尊重し、他人の意見やアドバイスを受け入れ、自己向上につなげようとすることができる。					○
		④ 状況把握力	全体に及ぼす影響を意識し、自分の置かれている環境や状況を把握し、どのような役割が求められるのかを理解する(自分の役割を理解する)ことができる。					○
		⑤ 規律性	規律や礼儀をはじめ、社会人としてのルールや約束を守り、適切な態度・言動をとることができる。					○
		⑥ ストレスコントロール力	ストレスを感じる状況が生じた時、原因に対して適切な対処方法を理解し、ポジティブ(積極的)に行動することができる。					○
4. 倫理観		① 倫理性	建学の精神「教育は徳なり」を深く理解し、教員・保育士としての責任と自覚を持ち、自分の能力を他人のためにいかそうとすることができる。					○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
		総 合 評 価 割 合	45		42				13	100
評 価 の 指 標	知識に関する評価	25		14					3	42
	技能に関する評価								3	3
	応用力に関する評価	10		14					3	27
	チームワーク力に関する評価								1	1
	関心・意欲に関する評価	10		14					3	27
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
授業で学んだ教育史の様々な知識を、教育実習等で授業を行う際あるいは指導案を作成するときに想起し、応用して、使うことができる。					教育史の様々な知識を身につけて、教員採用試験の勉強に役立てることができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション 1. 古代ギリシアの教育 （1）アテネとスパルタの教育	面接授業	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU net. の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 2 回 ／	(2) ソクラテスの教育思想	オンデマンドによる遠隔授業	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU net. の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 3 回 ／	2. 古代ローマの教育 3. 中世キリスト教社会の教育	面接授業	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU net. の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 4 回 ／	4. 近世の教育思想 （1）コメニウスの教育思想①	オンデマンドによる遠隔授業	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU net. の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 5 回 ／	(1) コメニウスの教育思想②	面接授業	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU net. の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 6 回 ／	(2) ロックの教育思想①	オンデマンドによる遠隔授業	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU net. の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 7 回 ／	(2) ロックの教育思想②	面接授業	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU net. の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 8 回 ／	(3) ルソーの教育思想①	オンデマンドによる遠隔授業	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU net. の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 9 回 ／	(3) ルソーの教育思想②	面接授業	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU net. の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 10 回 ／	5. 近代の教育思想 （1）ペスタロッチの教育思想	オンデマンドによる遠隔授業	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU net. の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 11 回 ／	(2) フレーベルの教育思想	面接授業	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU net. の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 12 回 ／	(3) ヘルバルトの教育思想	オンデマンドによる遠隔授業	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU net. の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 13 回 ／	6. 現代の教育思想 （1）デューイの教育思想 (2) その他の教育思想家	面接授業	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU net. の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第 14 回 ／	7. 日本の教育史補説	面接授業	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU net. の Web 教室や TGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SEC12F067S	専門教育科目 児童教育学領域	教育制度論（初等） Theory Of System（Elementary）	2単位	必 修	講 義	2 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標							
学修教育目的	① 国および地方の教育制度の仕組みや特徴を学び、戦後の教育改革の歴史や最近の動向や教育施策を理解し、初等教育の役割を理解することを目的とする。 ② 学校経営の視点にたち、学校づくりの政策的基盤について理解することを目的とする。 ③ 主要国の学校制度や現状を知り、日本との違いを理解して、それぞれの特徴を捉えることを目的とする。						
	キーワード	教育制度 学校経営 学校制度	学修教育目標	① 現在の社会の状況を理解し、その変化が学校教育にもたらす影響とそこから生じる課題、それに対応するための教育政策の動向が理解できる。 ② 公教育制度の意義・原理・構造について、法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身に付け、内在する課題が理解できる。 ③ 学校、教育行政機関の目的とその実現について、経営の観点から理解できる。			
授業科目の概要及び学修上の助言							
小学校教諭一種免許及び幼稚園教諭一種免許の教職課程における「教育の基礎理論に関する科目」の「教育に関する社会的、制度的または経営的事項」に該当する科目である。教育制度の概要から学校づくり、学校改革における課題を学修する。学校に関する最新のニュースには注意しておくこと。							
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能							
「教育社会学（初等）」の内容を踏まえ、学修をすること。							
教 科 書				参考書・リザーブドブック			
なし 授業開始時に学修内容に関するワークシートを配付する。				なし			
No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	教育制度の概要と課題を理解することができる。					◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。						
③	子どもの発達に関する知識を身につける。						
④	子どもの発達に関する技能を身につける。						
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。						
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。						
授業科目における社会人基礎力の育成目標							
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	積極的に知識を得ようとすることができる。					○
	② 働きかけ力						
	③ 実行力						
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	現状を正しく把握して、課題を発見することができる。					○
	② 計画力						
	③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力						
	② 傾聴力	相手の話を正しく聞き取り、理解することができる。					○
	③ 柔軟性						
	④ 状況把握力						
	⑤ 規律性						
	⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観	① 倫理性	相手のことを考えて行動することができる。					○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			50		30				20	100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		50							50
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価				30					30
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価								20	20
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
教育制度と学校経営の現状を理解し、学校改革に向けた課題を認識することができる。					教育制度と学校経営の現状を理解することができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	公教育の原理及び理念	面接授業 講義・グループワーク・質疑応答	【復習】 ・本講義の目標を理解し、学習計画をたてる。 ・配布資料を熟読し、教育制度論(初等)とは何かを理解する。	30
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価			
第 2 回 ／	日本における公教育制度の理念と仕組み	面接授業 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・前回の復習と授業の前にシラバスを読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	30 30
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価			
第 3 回 ／	公教育制度の展開と諸問題	面接授業 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・前回の復習と授業の前にシラバスを読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	30 30
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価			
第 4 回 ／	教育制度をめぐる諸課題 無償教育、義務教育、就学費用	面接授業 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・前回の復習と授業の前にシラバスを読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	30 30
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価			
第 5 回 ／	公教育制度を構成している教育関係法規 その 1 各学校の特徴 学校設置者、私立学校、一条学校以外の教育施設、学校の設置基準	面接授業 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・前回の復習と授業の前にシラバスを読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	30 30
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価			
第 6 回 ／	公教育制度を構成している教育関係法規 その 2 社会教育制度	面接授業 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・前回の復習と授業の前にシラバスを読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	30 30
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価			
第 7 回 ／	教育制度をめぐる諸課題 1970 年代における進学と受験 時代 背景、学校病理	面接授業 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・前回の復習と授業の前にシラバスを読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	30 30
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価			
第 8 回 ／	地域との連携・協働による学校教育活動の意義及び方法	面接授業 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・前回の復習と授業の前にシラバスを読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	30 30
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価			
第 9 回 ／	地域との連携を基とする開かれた学校づくりが進められてきた経緯	面接授業 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・前回の復習と授業の前にシラバスを読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	30 30
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価			
第 10 回 ／	教育制度をめぐる諸課題 その 1 児童生徒の発達や意識の変化 家庭、地域社会の変化	面接授業 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・前回の復習と授業の前にシラバスを読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	30 30
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価			
第 11 回 ／	教育制度をめぐる諸課題 その 2 学校選択制度、学校間格差のもたらす問題、これからの学校教育の課題	面接授業 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・前回の復習と授業の前にシラバスを読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	30 30
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価			
第 12 回 ／	2000 年の教育改革国民会議	面接授業 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・前回の復習と授業の前にシラバスを読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	30 30
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価			
第 13 回 ／	学校の管理下で発生する事件などの実情から、事故対応を含む学校安全の必要性	面接授業 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・前回の復習と授業の前にシラバスを読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	30 30
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価			
第 14 回 ／	教員養成の問題、免許、任用、研修、免職、免許更新制度	面接授業 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・前回の復習と授業の前にシラバスを読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	30 30
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
SEC12S068S		専門教育科目 児童教育学領域		教育社会学（初等） Sociology of Education（Elementary）		2単位	選 択	講 義	2年次	春学期	
授業科目の学修教育目的・目標											
学修教育目的	教育者として必要な、教育に対する社会的な見方・とらえ方を学ぶ。子どもが初等教育を通して社会の中でどのように位置付いていくのかを学ぶ。また、近年の教育問題に焦点を当て、社会学的手法で分析・考察していくことにより理解する。										
キーワード	社会学的手法 批判的思考力 教育問題 エビデンス			学修教育目標	(1) 社会構造の中で教育をとらえ、その機能が理解できる。 (2) 教育の場における様々な問題を社会学的手法で分析・考察し、理解できる。 (3) 学校と地域の連携について、その意義や協働の仕方を事例に基づき理解できる。 (4) 学校保健安全法に基づく学校での危機とその管理について理解できる。						
授業科目の概要及び学修上の助言											
この授業では、「教育」「社会」「学校」の関連について知識を得るというよりも、素朴な疑問をもとにその社会的背景や影響について考えることを重視したい(考える訓練)。そのために、テキストを資料にして各グループで協力して考え、提案と発表を行い、全体のディスカッションにより考えを深めたい。緊張感を持って、真面目に授業に向かうことが必要。											
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能											
本講義は、教育学に関わる専門科目である。すでに教育学関連の基礎的な関連科目、例えば「教職入門」「教育学概論」「教育心理学」といった諸科目を履修している。将来自分が教えるかもしれない子どもたちに恥じぬよう、真摯な態度で、真面目に授業に向かうこと。											
教 科 書					参考書・リザーブブック						
書 名：「天才」は学校で育たない 著者名：汐見稔幸 出版社：ポプラ新書					有本章 他 『教育社会学概論』 ミネルヴァ書房 若槻健・西田芳正 編 『教育社会学への招待』 大阪大学出版会 荻谷剛彦 他 『教育の社会学(新版)』 有斐閣 文部科学省 『学校安全（最新版）』 渡邊正樹 編著 『学校安全と危機管理 改訂版』						
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）							
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。			教育をめぐる必要な専門知識を理解できる。						◎	
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。			教育をめぐる必要な技能を理解できる。						○	
③	子どもの発達に関する知識を身につける。										
④	子どもの発達に関する技能を身につける。										
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。			教育をめぐる諸問題の理解や考察を深めることができる。						○	
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。			真摯に学修に取り組み、教育現場などで課題解決のための仕組みを理解できる。						○	
授業科目における社会人基礎力の育成目標											
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性			質問に積極的に答えることができる。						◎
		② 働きかけ力			授業中に自ら進んで質問することができる。						◎
		③ 実行力									
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力			プレゼンテーションのテーマを発表時の情報伝達内容を意識して決定することができる。						◎
		② 計画力									
		③ 創造力									
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力			自分で調べた事柄について十分に説明できる。						◎
		② 傾聴力			他の人の意見を聞き、そのことについてコメントできる。						◎
		③ 柔軟性									
		④ 状況把握力			出されたチーム課題に対して、チームで意思統一を図ることができる。						◎
		⑤ 規律性									
		⑥ ストレスコントロール力									
4. 倫理観		① 倫理性			建学の精神「教育は徳なり」を体現できる。						◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される
 ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される
 △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く
 ○:通常の状況で発揮する力が身に付く
 △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			45		5	20			30	100
評価 の 指標	知識に関する評価		35							35
	技能に関する評価		10			5			10	25
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価					10				10
	関心・意欲に関する評価				5	5			20	30
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
・教育者として必要な、教育に対する社会的な見方・とらえ方を十分理解している（８０％以上）。 ・必要な知識の理解と知識等を活用した実践力を十分つける（８０％以上）ことができる。					・教育者として必要な、教育に対する社会的な見方・とらえ方を理解している。 ・必要な知識の理解と知識等を活用した実践力をつけることができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション 教育社会学とは、社会学的方法について	面接授業 講義・質疑応答 グループ編成	【復習】 本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価			
第 2 回 ／	社会の中の教育（1） 教育環境としての地域社会の役割と変化	面接授業 講義・質疑応答 グループ討議 課題の提示	【予習】 教科書「教育環境としての地域社会の役割と変化」を読む。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価		【復習】 グループ討議を振り返り、内容を整理する。	45
第 3 回 ／	社会の中の教育（2） 学校のある社会	面接授業 講義・質疑応答 グループ討議 課題の提示	【予習】 教科書「学校のある社会」を読む。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価		【復習】 グループ討議を振り返り、内容を整理する。	45
第 4 回 ／	社会としての学校（1） 子どもの社会学、教室	面接授業 講義・質疑応答 グループ討議 課題の提示	【予習】 教科書「学校教育の発展過程と現状」を読む。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価		【復習】 グループ討議を振り返り、内容を整理する。	45
第 5 回 ／	社会としての学校（2） 教育問題、教師の理想と現実	面接授業 講義・質疑応答 グループ討議 課題の提示	【予習】 教科書「教育改革」を読む。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価		【復習】 グループ討議を振り返り、内容を整理する。	45
第 6 回 ／	学校と地域の連携の歴史	面接授業 講義・質疑応答 グループ討議 課題の提示	【予習】 教科書「子どもの社会学」を読む。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価		【復習】 グループ討議を振り返り、内容を整理する。	45
第 7 回 ／	学校と地域の連携による効果 子ども、学校（教員）、地域住民にとっての効果	面接授業 講義・質疑応答 グループ討議 課題の提示	【予習】 教科書「教室」を読む。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価		【復習】 グループ討議を振り返り、内容を整理する。	45
第 8 回 ／	学校と地域の連携の目指す姿	面接授業 講義・質疑応答 グループ討議 課題の提示	【予習】 教科書「教育問題」を読む。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価		【復習】 グループ討議を振り返り、内容を整理する。	45
第 9 回 ／	コーディネートに必要な基礎的な知識	面接授業 講義・質疑応答 グループ討議 課題の提示	【予習】 教科書「教師の理想と現実」を読む。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価		【復習】 グループ討議を振り返り、内容を整理する。	45
第 10 回 ／	学校安全・危機管理の概要 学校保健安全法等	面接授業 講義・質疑応答 グループ討議 課題の提示	【予習】 教科書「学力問題(学力低下と学力格差)」を読む。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価		【復習】 グループ討議を振り返り、内容を整理する。	45
第 11 回 ／	子どもを取り巻く危険と事件・事故	面接授業 講義・質疑応答 グループ討議 課題の提示	【予習】 教科書「地域社会と学校」を読む。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価		【復習】 グループ討議を振り返り、内容を整理する。	45
第 12 回 ／	学校安全・危機管理の進め方	面接授業 講義・質疑応答 グループ討議 課題の提示	【予習】 教科書「学力向上と格差是正のための教育」を読む。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価		【復習】 グループ討議を振り返り、内容を整理する。	45
第 13 回 ／	体育・スポーツ活動と負傷・障害	面接授業 講義・質疑応答 グループ討議 課題の提示	【予習】 教科書「ジェンダーと教育」を読む。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価		【復習】 グループ討議を振り返り、内容を整理する。	45
第 14 回 ／	学校安全・危機管理における教職員の役割 まとめ 確認と振り返り	面接授業 講義・質疑応答 グループ討議 課題の提示	【予習】 教科書「学歴社会」を読む。 教科書「社会構造と教育」を読む。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価		【復習】 グループ討議を振り返り、内容を整理する。 ・これまでの講義内容を総復習する。 ・ポートフォリオを完成させる。	45

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SEC13S069S		専門教育科目 児童教育学領域		教育課程論（初等） Curriculum Theory（Elementary）		2単位	選 択	講 義	3年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標										
学修教育目的		初等教育における教育課程の重要性を理解し、学校・園での実際の運用や教育行政の法制上、実務上の関与について学修する。 本学修を通して、教育課程編成全体にわたる視野を持ち、教育課程編成に取り組むことができる小学校教師としての基礎力を養成する。								
キーワード		教育課程の編成方法、指導計画、教師としての使命感・倫理観			学修教育目標	教育課程の原理、編成の方法を学び、幼稚園教育・小学校教育を推進するために必要な、実践に即した教育課程編成に関わる基礎的な素養を身につける。 現行『小学校学習指導要領』『幼稚園教育要領』の「領域」「目標」「内容」がわかり、幼稚園教諭・小学校教諭として、教育課程作成に取り組もうとする意欲を持つことができる。 学習指導要領等に基づいたカリキュラム・マネジメントの意義や重要性、カリキュラム評価を理解することができる。				
授業科目の概要及び学修上の助言										
教育課程、カリキュラムとは、学校の教育内容の組織を指し示す。それは望ましい学習が展開されるように配慮して作成される学校の教育内容の組織のことである。本講義では、教育課程とは何か、幼稚園と小学校の教育課程はどのように編成されるか、その編成の違いを明らかにしながら、子ども理解に基づいた教育課程はどのような特徴をもつか等について、基本的な理解ができるようになることを目指す。教育現場での経験に基づき、小学校教師に求められる子ども理解と教材研究の重要性を認識する。										
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能										
「教職入門」「教育学概論」の理解につながる。										
シラバス						参考書・リザーブドブック				
なし 授業開始時に学修内容に関するワークシートを配付する。						なし				
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。			『幼稚園教育要領』、『小学校学習指導要領』及びそれらの解説書の主な内容を知り、カリキュラム・デザインの違いを説明できる。						◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。			子どもの実態や地域の特性を生かした教育・保育内容の具体例を指導案として作成することができる。						○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。			子どもの発達に関するピアジェやヴィゴツキー等の代表的な理論を知って、子ども一人ひとりの理解に活かすことができる。						△
④	子どもの発達に関する技能を身につける。			子どもの発達特性や個人差を理解し、自発的な学びや育ちを促すための指導・援助ができる。						△
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。			小学校教師としての使命感、責任感、倫理観を持って実習や学校支援ボランティアなどに臨むことができる。						△
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。			指導計画を作成し、自らの保育・授業の振り返りと評価に基づき、指導力の改善に努める。						△
授業科目における社会人基礎力の育成目標										
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性			知識や理解を深めるため、授業の予習や復習を積極的に行っている。					◎
		② 働きかけ力								
		③ 実行力								
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力			自らの学びを振り返り、知識や理解の不十分な点に気づくことができる。					◎
		② 計画力								
		③ 創造力								
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力			集団活動において自らの役割を見出し、積極的に活動に参加することができる。					◎
		② 傾聴力			チーム内の多様な意見に耳を傾け、チームをまとめることができる。					◎
		③ 柔軟性								
		④ 状況把握力								
		⑤ 規律性			日頃から社会生活上の基本的なルールを守っている。					○
		⑥ ストレスコントロール力								
4. 倫理観		① 倫理性			教師としての使命感を持って教育実習や学校支援ボランティアに臨んでいる。					◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
		総合評価割合	50		30				20	100
評価 の 指標	知識に関する評価	50								50
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価				30					30
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価								20	20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
教育課程とは何か、小学校や幼稚園の教育課程はどのように編成されるか、その違いはどこにあるのか、わが国の教育課程は歴史的にどのように変遷してきたか、現在の小学校と幼稚園の教育課程はどのような特徴をもつか等について理解し、説明することができる。					教育課程の意義と目的について理解し、教育課程及び学習指導要領編成の内容について説明することができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	教育課程論オリエンテーションー教育課程とはー	面接授業 講義・グループワーク・質疑応答	【復習】 ・本講義の目標を理解し、学習計画をたてる。 ・配布資料を熟読し、教育課程論（初等）とは何かを理解する。	30
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価			
第 2 回 ／	「教育課程」の定義・公教育の原理、教育基本法	面接授業 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・前回の復習と授業の前にシラバスを読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する	30 30
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価			
第 3 回 ／	公教育制度を構成している教育関係法規	面接授業 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・前回の復習と授業の前にシラバスを読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	30 30
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価			
第 4 回 ／	学習指導要領・幼稚園教育要領の性格及び位置付け	面接授業 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・前回の復習と授業の前にシラバスを読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	30 30
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価			
第 5 回 ／	学習指導要領・幼稚園教育要領の性格及び位置付け並びに教育課程編成の目的	面接授業 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・前回の復習と授業の前にシラバスを読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	30 30
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価			
第 6 回 ／	学習指導要領・幼稚園教育要領の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景	面接授業 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・前回の復習と授業の前にシラバスを読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	30 30
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価			
第 7 回 ／	教育課程が社会において果たしている役割や機能	面接授業 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・前回の復習と授業の前にシラバスを読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	30 30
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価			
第 8 回 ／	教育課程編成の基本原理	面接授業 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・前回の復習と授業の前にシラバスを読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	30 30
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価			
第 9 回 ／	教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法	面接授業 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・前回の復習と授業の前にシラバスを読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	30 30
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価			
第 10 回 ／	単元・学期・学年をまたいだ長期的な視野から、また幼児、児童及び生徒や学校・地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画の検討	面接授業 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・前回の復習と授業の前にシラバスを読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	30 30
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価			
第 11 回 ／	学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性	面接授業 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・前回の復習と授業の前にシラバスを読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	30 30
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価			
第 12 回 ／	カリキュラム評価の基礎的な考え方	面接授業 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・前回の復習と授業の前にシラバスを読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	30 30
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価			
第 13 回 ／	教育課程の基本構造、教育課程編成の主体	面接授業 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・前回の復習と授業の前にシラバスを読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	30 30
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価			
第 14 回 ／	学力と教育評価	面接授業 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・前回の復習と授業の前にシラバスを読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	30 30
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
SEC12S070S		専門教育科目 児童教育学領域		教育方法論Ⅰ（初等） Methodology of EducationⅠ（Elementary）		2単位	選 択	講 義	2年次	春学期	
授業科目の学修教育目的・目標											
学修教育目的	本科目は授業を展開する上で技術的な手法や原理を学ぶものであり、歴史的背景を踏まえて、今日の教育システムが抱える問題点（特に初等教育）を考察するものである。										
キーワード	教育方法の歴史 教育情報機器			学修教育目標	社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技術を身に付ける。						
授業科目の概要及び学修上の助言											
教育には、あらゆる分野の知識や知恵が役立つことを知ってほしい。											
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能											
「教育方法論Ⅱ（初等）」と関連する。											
教 科 書					参考書・リザーブドブック						
書 名：『問いからはじめる教育学』 著者名：勝野正章・庄井良信 著 出版社：有斐閣					書 名：『小学校学習指導要領解説・総則編（最新版）』 著者名：文部科学省 出版社：東洋館出版社						
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）							
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。			教育の本質を理解する。						◎	
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。			教育の目的と手段の関係を理解する。						◎	
③	子どもの発達に関する知識を身につける。			年齢ごと、学年ごとの子どもの特性を理解する。						△	
④	子どもの発達に関する技能を身につける。			学習指導案作成などを通して発達段階に応じた対応を理解する。						△	
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。			教師としてあるべき姿を追求する。						○	
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。			教育実習を想定しながら、実践への活用法を考える。						○	
授業科目における社会人基礎力の育成目標											
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性			教員志望者として求められるものをつかめるようにする。						◎
		② 働きかけ力			協働して問題に取り組むよう他者に働きかけ学修を進めることができる。						○
		③ 実行力									
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力			教育における課題を見つけ、その難題に向き合うための基礎を養う。						◎
		② 計画力									
		③ 創造力			従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。						○
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力									
		② 傾聴力			他者の話をよく聴き、様々な資料にふれることで多様な状況、相手の気持ちを理解する。						◎
		③ 柔軟性			自らの考えに囚われることなく意見の違いや立場の違いを理解することができる。						◎
		④ 状況把握力			自分と周囲の人々や物事との状況や関係性を理解し、最適な行動をすることができる。						○
		⑤ 規律性									
		⑥ ストレスコントロール力									
4. 倫理観		① 倫理性			多様な価値観を知り、判断し、行動できるようにする。						◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
		総 合 評 価 割 合	55	15	15			5	10	100
評 価 の 指 標	知識に関する評価	35	15	5						55
	技能に関する評価			10						10
	応用力に関する評価	20								20
	チームワークに関する評価								5	5
	関心・意欲に関する評価							5	5	10
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
子どもの発達段階に応じた指導を、意図的、計画的に実践できる。					子どもの年齢、学年に応じた学習指導や生徒指導、諸活動を構想できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション 教育方法論の意義	講義・質疑応答（面接授業）	【復習】 シラバス・テキストを確認する	45
第 2 回 ／	学びの本質 学びの構造と様態	講義・質疑応答（面接授業）	【復習】 ・配布資料をよく読み直しておく ・教育の目的を確認しておく	45
第 3 回 ／	教育方法の基礎理論 教育方法の歴史的変遷の概観	講義・質疑応答（面接授業）	【復習】 配布資料とテキストを読み直しておく	45
第 4 回 ／	教育方法の実践　－実践事例を通して学ぶ－	講義・質疑応答（面接授業）	【復習】 配布資料とテキストを読み直しておく	45
第 5 回 ／	教育方法のあり方① －求められる資質・能力を育成するための効果的な教育方法	講義・質疑応答（面接授業）	【復習】 配布資料とテキストを読み直しておく	45
第 6 回 ／	教育方法のあり方② －主体的、対話的な学習を引き出す教育方法	講義・質疑応答 ディスカッション（面接授業）	【復習】 配布資料とテキストを読み直しておく	45
第 7 回 ／	対象となる児童及び生徒等への理解 －授業等を構成する基本的な要素	講義・質疑応答（面接授業）	【予習】 「学習指導案」作成について授業構想を考えておく	45
第 8 回 ／	教育評価 教育評価の機能，教育評価の概観	講義・質疑応答 ディスカッション（面接授業）	【復習】 配布資料とテキストを読み直しておく	45
第 9 回 ／	教育方法・技術に関する基礎・基本的な事項	講義・質疑応答 ディスカッション（面接授業）	【復習】 「学習指導案」作成	90
第 10 回 ／	学習指導案の作成と模擬授業① －学習指導、教育方法等を踏まえた学習指導案の作成	講義・質疑応答 ディスカッション（面接授業）	【復習】 配布資料とテキストを読み直しておく	45
第 11 回 ／	学習指導案の作成と模擬授業② －実践事例から学ぶ　模擬授業	講義・質疑応答 ディスカッション（面接授業）	【予習】 自分が小・中学校等で過ごした学級を想起しておく	45
			【復習】 配布資料とテキストを読み直しておく	
第 12 回 ／	教育情報機器① －教育に用いる機器と種類について，その利用形態や効果	講義・質疑応答 ディスカッション（面接授業）	【予習】 小・中・高校時の通知表の形式を想起しておく	45
			【復習】 配布資料とテキストを読み直しておく	
第 13 回 ／	教育情報機器② －デジタル社会のリテラシーと I C T の利活用とその指導法	講義・質疑応答（面接授業）	【復習】 配布資料とテキストを読み直しておく	45
第 14 回 ／	まとめ　確認と振り返り	講義・質疑応答（面接授業）	【復習】 これまでの内容を確認し、自分なりの教育観を想起する	45

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
SEC33S070A	専門教育科目 児童教育学領域	教育方法論Ⅱ（初等） Methodology of Education Ⅱ（Elementary）		2単位	選 択	講 義	3年次	春学期	
授業科目の学修教育目的・目標									
学修教育目的	幼児期にふさわしい教育の方法についての理解を深めながら、子どもたち一人一人の主体的な育ちを支える具体的な援助や指導のあり方について理論的・実践的に学ぶ。								
	キーワード 幼児教育 小学校教育 情報機器の活用	学修教育目標	社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技術を身に付ける。						
授業科目の概要及び学修上の助言									
教育には、あらゆる分野の知識や知恵が役立つことを知ってほしい。									
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能									
「教育方法論Ⅰ（初等）」と関連する。									
教 科 書				参考書・リザーブドブック					
追って指示する。				書 名：『幼稚園教育要領（最新版）』 著者名：文部科学省 出版社：教育出版					
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。		教育の本質を理解する。						◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。		教育の目的と手段の関係を理解する。						◎
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		年齢ごと、学年ごとの子どもの特性を理解する。						△
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		学習指導案作成などを通して発達段階に応じた対応を理解する。						△
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		教師としてあるべき姿を追求する。						○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		教育実習を想定しながら、実践への活用法を考える。						○
授業科目における社会人基礎力の育成目標									
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性	教員志望者として求められるものをつかめるようにする。						◎
		② 働きかけ力	協働して問題に取り組むよう他者に働きかけ学修を進めることができる。						○
		③ 実行力							
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力	教育における課題を見つけ、その難題に向き合うための基礎を養う。						◎
		② 計画力							
		③ 創造力	従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。						○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力							
		② 傾聴力	他者の話をよく聴き、様々な資料にふれることで多様な状況、相手の気持ちを理解する。						◎
		③ 柔軟性	自らの考えに囚われることなく意見の違いや立場の違いを理解することができる。						◎
		④ 状況把握力	自分と周囲の人々や物事との状況や関係性を理解し、最適な行動をすることができる。						○
		⑤ 規律性							
		⑥ ストレスコントロール力							
4. 倫理観		① 倫理性	多様な価値観を知り、判断し、行動できるようにする。						◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			55	15	15			5	10	100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		35	15	5					55
	技能に関する評価				10					10
	応用力に関する評価		20							20
	チームワーク力に関する評価								5	5
	関心・意欲に関する評価							5	5	10
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
子どもの発達段階に応じた指導を、意図的、計画的に実践でき、教育・保育現場で起こりうるあらゆる事態に対処できる。					子どもの年齢、学年に応じた学習指導や生徒指導、諸活動を想定でき、教育・保育現場で起こりうる事態に備えられる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	幼児教育方法の基礎 －幼児期の教育にふさわしい方法	講義・質疑応答（面接授業）	【復習】 配布資料を確認する	45
第 2 回 ／	幼児教育方法の系譜	講義・質疑応答（面接授業）	【復習】 配布資料を読み直す	45
第 3 回 ／	子どもの発達と幼児教育 － 3 ～ 5 歳児の発達特性と教育	講義・質疑応答（面接授業）	【復習】 配布資料を読み直す	45
第 4 回 ／	環境構成と幼児教育 －子どもの主体性と環境、物的環境(情報環境を含む)と人的環境	講義・質疑応答（面接授業）	【復習】 配布資料を読み直す	45
第 5 回 ／	遊びと学習の関係 －なぜ遊びが学習につながるのか、遊びの意義と特徴	講義・質疑応答（面接授業）	【復習】 ・ 配布資料を読み直す ・ 遊びの教育的意義を考える	45
第 6 回 ／	遊びの指導 －幼稚園教育要領における遊びの位置づけ、遊びの種類とその展開	講義・質疑応答、ディスカッション（面接授業）	【復習】 配布資料を読み直す	45
第 7 回 ／	生活の指導 －基本的生活習慣の自立に向けた指導、道徳性の芽生えを培う指導	講義・質疑応答（面接授業）	【予習】 就学前に身につけておきたい基本的生活習慣について想起する 【復習】 配布資料を読み直す	45
第 8 回 ／	総合的な活動の指導と展開 －遊びと活動、行事の進め方	講義・質疑応答、ディスカッション（面接授業）	【復習】 配布資料を読み直す	45
第 9 回 ／	幼児教育における様々な形態 －個人の活動とグループ活動、一斉保育と自由保育、チーム保育	講義・質疑応答、ディスカッション（面接授業）	【復習】 配布資料を読み直す	45
第 10 回 ／	個と集団のかかわり	講義・質疑応答、ディスカッション（面接授業）	【復習】 配布資料を読み直す	45
第 11 回 ／	知的好奇心の育成 －知的好奇心を育む基盤としての安定感、知的好奇心を育む保育方法と技術（情報技術を含む）	講義・質疑応答、ディスカッション（面接授業）	【復習】 配布資料を読み直す	45
第 12 回 ／	幼児教育と小学校教育の連携 －教科の学びの萌芽に満ちた遊び	講義・質疑応答、ディスカッション（面接授業）	【予習】 就学前・後の子どもの違いを想起する 【復習】 配布資料を読み直す	45
第 13 回 ／	情報機器とその活用 －電子紙芝居の利用 －マルチメディア（音楽・映像）教材、双方向通信の活用 －インターネット(映像コンテンツ)、ソフト等を利用した教材の使用	講義・質疑応答（面接授業）	【復習】 ・ 配布資料を読み直す ・ これまでの内容を確認しておく	45
第 14 回 ／	まとめ 確認と振り返り	講義・質疑応答（面接授業）	【復習】 ・ 配布資料を読み直す ・ これまでの内容を確認しておく	45

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SEC13S071S	専門教育科目 児童教育学領域	特別支援教育（初等） Special Needs Education (Elementary)		1 単位	選 択	講 義	3 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	通常の学級にも在籍をしている発達障害や軽度知的障害をはじめとするさまざまな障害等により、特別の支援を必要としている幼児、児童が授業において学習活動に参加をしている実感や達成感を持ちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるようにそれぞれの困難さや特性、発達のみちすじなどについて理解を深め、関係機関や他の教員と連絡、連携をとり、組織的に支援をしていくことのできる知識、技術、支方法について理解をし、実践ができるようにする。							
	キーワード 発達障害 特別の教育的ニーズ 特別支援教育コーディネーター 発達のみちすじ	学修教育目標	・発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童に対する支援の方法について例示をすることができる。 ・「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置づけを理解している。 ・不登校や社会的マイノリティ等、障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童の把握や支援の意義と方法を理解している。 ・特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の支援計画及び、個別の教育支援計画を作成する意義と方法を理解している。 ・特別支援教育コーディネーターの役割と連携の重要性について理解をしている。					
授業科目の概要及び学修上の助言								
特別支援教育の現状を概説し、発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害のある幼児、児童及び生徒が、発達の観点からの教育的支援をなぜ必要とするのかを様々な角度から論じる。 これまでの特殊教育と特別支援教育の違いを、歴史的背景を概観しながら理解するとともに、「障害」のある幼児、児童及び生徒の支援を充実させていくために、「障害」についての基本的な知識、支援方法について習得する。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
特になし								
教 科 書					参考書・リザーブドブック			
学研「教員と教員になりたい人のための特別支援教育のテキスト：気付き、工夫して、つなげる」					なし			
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。							
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。							
③	子どもの発達に関する知識を身につける。							
④	子どもの発達に関する技能を身につける。							
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		特別な教育的ニーズのある児童について理解し、支援の意義と方法を学びながら、教諭としての使命感や責任感を学ぶ。					
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。							
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性	自分の強み・弱みを把握するとともに、支援の必要な児童の強み・弱みを把握し、主体的に取り組むことができる。					◎
		② 働きかけ力						
		③ 実行力						
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 問題発見力	学校現場で起きている事象について認識し、情報収集や分析ができる。					○
		② 計画力						
		③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力	グループワークやペアワークで、課題の内容を把握し話そうとすることを順序立てて伝えることができる。					○
		② 傾聴力						
		③ 柔軟性	グループワークやペアワークで、意見の異なる相手の背景や事情を理解することができる。					○
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性	児童の意思決定や権利を守りながら、支援をすることができる。					○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コンテスト等)	合計
		総合評価割合	50			20			30	100
評価 の 指標	知識に関する評価	45							20	65
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価								10	10
	チームワーク力に関する評価				10					10
	関心・意欲に関する評価	5			10					15
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
特別支援教育の現状を把握し、その意義を充分理解している。 特別な教育的ニーズのある児童の学習上又は生活上の困難とその対応を充分理解している。 特別支援教育に対して自分の意見を持ち、相手に伝わるように表現することができる。 各項目の理解度が、80%以上である。					特別支援教育の現状を把握し、その意義を理解している。 特別な教育的ニーズのある児童の学習上又は生活上の困難とその対応を理解している。 特別支援教育に対して自分の意見を持ち、表現することができる。 各項目の理解度が、60～80%である。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	特別支援教育とは・特別支援教育の歴史・制度 （発達障害支援法を軸に）	講義、演習 面接授業	復習：授業内容に関するコメント用シート	15
第 2 回 ／	特別なニーズのある子どもたちの地域生活支援 －学校・家庭・地域・関係機関との連携による支援	講義、グループワーク 面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関するコメント用シート	30 15
第 3 回 ／	発達障害児・自閉スペクトラム障害児の理解と支援 －知的障害児の理解と支援	講義、グループワーク 面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関するコメント用シート	30 15
第 4 回 ／	肢体不自由児、病弱児の理解と支援 －視覚障害、聴覚障害児の理解と支援	講義、演習 面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関するコメント用シート	30 15
第 5 回 ／	社会的マイノリティの子どもたち（外国人、弱者 貧困）や不登校の子どもたちの実際とかかわり～特別な教育的ニーズのある子ども、家庭の支援～	講義、演習 面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関するコメント用シート	30 15
第 6 回 ／	支援の実際を考える～個別教育支援計画と指導について	講義、演習 面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関するコメント用シート	30 15
第 7 回 ／	支援の実際を考える～声掛け 教材作り～	講義、グループワーク 面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関するコメント用シート	30 15
第 8 回 ／	教室でともに育つための指導について －困っている子を困った子にしない学級づくりについて考える	講義、グループワーク 面接授業	予習：前回の復習 復習：授業内容に関するコメント用シート	30 15

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
SEC12S072S		専門教育科目 児童教育学領域		国語科概論 Introduction to Japanese Language		2 単位	選 択	講 義	2 年次	春学期	
授業科目の学修教育目的・目標											
学修教育目的	『小学校学習指導要領(国語)』の目標に則して国語指導の在り方について学ぶ。小学校の教材にあたりながら、国語表現の基礎的な事項(送り仮名、主語述語、敬語等)についても学ぶ。										
	キーワード		小学校国語	学修教育目標	日本語に対する基礎的な知識を理解し、小学校教員として恥ずかしくない日本語常識を身につけ、その教授法について知ることができる。						
授業科目の概要及び学修上の助言											
授業形態としてはシラバスにのっとり、講義には視聴覚教材やプリントを用意する。学習指導要領に重心を置く。小学生にとってのふさわしい教材の発見や指導の仕方なども学ぶ。											
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能											
他の専門教育科目はすべて関連性があるのでよく予習復習すること。履修に必要な最低の予備知識としては、できれば自分の小学生のころの教科書やノートを探して手元に置いてほしい。											
教 科 書					参考書・リザーブブック						
小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示版）解説国語編					・ 保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示版） ・ 幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示版）						
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）							
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。			主として学習指導要領の知識と理解を深めることができる。						◎	
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。			実践的な教材の発見等を通して指導技術を身につける。						○	
③	子どもの発達に関する知識を身につける。										
④	子どもの発達に関する技能を身につける。										
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。										
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。										
授業科目における社会人基礎力の育成目標											
分類(4 つの力)		能力要素(13 の要素)			授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性			自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。						◎
		② 働きかけ力									
		③ 実行力									
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力			現状を正しく認識するための情報収集や分析ができる。						◎
		② 計画力			計画を立てプレゼンをする力を養う。						◎
		③ 創造力									
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力									
		② 傾聴力			内容の確認や質問等を行いながら、相手の意見を正確に理解することができる。						◎
		③ 柔軟性									
		④ 状況把握力									
		⑤ 規律性									
		⑥ ストレスコントロール力									
4. 倫理観		① 倫理性			相手の意思決定や権利を守りながら行動することができる。						○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			59		30				11	100
評価 の 指標	知識に関する評価		45		10					55
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価				10					10
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価		14		10				11	35
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
学習指導要領が理解できており、かつ教員になるに必要な基本的な姿勢が十分に身についているかを見る。					学習指導要領の主な内容が理解できており、かつ教員になるに必要な資質についても理解を示すことができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	授業ガイダンス、国語科概論について	講義・レジュメはパワーポイント 対面授業	・学修したプリント教材の復習 ・次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
第 2 回 ／	小学校学習指導要領① 目標、内容、話すこと、聞くこと ・書くこと、読むこと	講義・レジュメはパワーポイント・ プリント教材使用 対面授業	・学修したプリント教材の復習 ・次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
第 3 回 ／	小学校学習指導要領② 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	講義・レジュメはパワーポイント・ プリント教材使用 対面授業	・学修したプリント教材の復習 ・次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
第 4 回	平仮名、片仮名、ローマ字について ―教科書教材を通して―	講義・レジュメはパワーポイント・ プリント教材使用・国語常識小テスト 対面授業	・学修したプリント教材の復習 ・次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
第 5 回	学年別漢字配当表の読み書き ―教科書教材を通して―	講義・レジュメはパワーポイント・ プリント教材使用・国語常識小テスト 対面授業	・学修したプリント教材の復習 ・次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
第 6 回	ことわざ、故事成句、慣用句の意味を学ぶ ―教科書教材を通して―	講義・レジュメはパワーポイント・ プリント教材使用・国語常識小テスト 対面授業	・学修したプリント教材の復習 ・次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
第 7 回	仮名遣いと送り仮名 ―教科書教材を通して―	講義・レジュメはパワーポイント・ プリント教材使用・コメントシート 等提出・国語常識小テスト 対面授業	・学修したプリント教材の復習 ・次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
第 8 回	漢字の成り立ちと構成について ―教科書教材を通して―	講義・レジュメはパワーポイント・ プリント教材使用・国語常識小テスト 対面授業	・学修したプリント教材の復習 ・次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
第 9 回	文の構成についての初歩的な理解と表現の工夫について ―教科書教材を通して―	講義・レジュメはパワーポイント・ プリント教材使用・コメントシート 等提出・国語常識小テスト 対面授業	・学修したプリント教材の復習 ・次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
第 10 回	昔話、神話、伝承を読む ―教科書教材を通して―	講義・レジュメはパワーポイント・ プリント教材使用・コメントシート 等提出・国語常識小テスト 対面授業	・学修したプリント教材の復習 ・次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
第 11 回	易しい文語調の短歌や俳句、古文漢文を読む ―教科書教材を通して―	講義・レジュメはパワーポイント・ プリント教材使用・コメントシート 等提出・国語常識小テスト 対面授業	・学修したプリント教材の復習 ・次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
第 12 回	近代以降の口語調の文章について学ぶ ―教科書教材を通して―	講義・レジュメはパワーポイント・ プリント教材使用・コメントシート 等提出・国語常識小テスト 対面授業	・学修したプリント教材の復習 ・次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
第 13 回	敬語の使い方に慣れる―教科書教材を通して―	講義・レジュメはパワーポイント・ プリント教材使用・コメントシート 等提出・国語常識小テスト 対面授業	・学修したプリント教材の復習 ・次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
第 14 回 ／	国語と日本語 ―日本語の国際化に向けて―	講義・レジュメはパワーポイント・ プリント教材使用・コメントシート 等提出・国語常識小テスト 対面授業	・学修したプリント教材の復習	予習 30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SEC12S074S	専門教育科目 児童教育学領域	算数科概論 Introduction to Mathematics		2 単位	選 択	講 義	2 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	算数科の内容を数学的・教育学的な視点からとらえ，算数を系統的な見地から学修する。							
キーワード	・算数科の目標 ・数学的活動 ・算数科における各領域 ・評価の観点・規準	学修教育目標	数と計算，量と測定，図形，図形，関数など各領域の数学的意味と教育学的意味を理解することができる。					
授業科目の概要及び学修上の助言								
算数科における各領域の内容とその領域に応じた指導方法の概略を学修します。その際，具体的な数学的活動を通して，理解を深めていきます。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
教科教育法（算数）								
教 科 書			参考書・リザーブドブック					
書 名：『小学校学習指導要領解説(平成 29 年告示)算数編』 著者名：文部科学省 出版社：日本文教出版			授業中に適宜指示する。					
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。		算数科における基礎的な理論や指導するために必要な内容・方法等の専門的な知識を身につける。					◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。		単元全体を見通した指導案をつくることことができる。					○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		学年（1 年～6 年）に応じた指導内容の系統性を理解する。					○
④	子どもの発達に関する技能を身につける。							
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感，責任感，倫理観を身につける。							
⑥	学修成果を総合的に活用し，教育現場などで課題解決のために取り組むことことができる。							
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4 つの力)		能力要素(13 の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性	集団や組織の中で自分の役割と責任を判断し，主体的に取り組むことことができる。					◎
		② 働きかけ力						
		③ 実行力						
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力						
		② 計画力	問題解決のプロセスを明らかにし，優先順位をつけて計画を立てることことができる。					○
		③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力	自分の意見を分かりやすく整理し，相手に理解してもらうように的確に伝えることことができる。					◎
		② 傾聴力	相手の話しやすい環境をつくり，適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引きだすことことができる。					○
		③ 柔軟性						
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性	規律や礼儀をはじめ，社会人としてのルールや約束を守り，適切な態度・言動をとることことができる。					○
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性	建学の精神「教育は徳なり」を深く理解し，教員・保育士としての責任と自覚を持ち，自分の能力を他人のためにいかそうとすることことができる。					○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い，特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い，高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い，学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コンテスト等)	合 計
		総 合 評 価 割 合	50				20		30	100
評 価 の 指 標	知識に関する評価	30							20	50
	技能に関する評価						10			10
	応用力に関する評価	20					10			30
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価								10	10
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
・ 算数科における基礎的な理論を十分理解している。 ・ 指導内容と指導方法についての十分な理解をもとに，指導案を作成することができる。 ・ 各項目の理解度が 80%以上である。					・ 算数科における基礎的な理論を理解している。 ・ 指導内容と指導方法についての理解をもとに，指導案を作成することができる。 ・ 各項目の理解度が 60%以上である。					

※評価の指標で示す数値内訳は， おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	ガイダンス，算数・数学教育の意義	・講義 ・面接授業		
第 2 回 ／	算数・数学教育の変遷と今日的課題	・講義 ・面接授業	算数・数学教育についての復習	30
	振り返りを書く			
第 3 回 ／	数学的な活動，数学的な表現について	・講義 ・面接授業	数学的活動，数学的な表現についての予習	30
	振り返りを書く			
第 4 回 ／	学習指導要領（算数科）の目標と内容	・講義 ・面接授業	学習指導要領についての予習	30
	振り返りを書く			
第 5 回 ／	「数と計算」領域の内容(1)　－ 整数について －	・講義 ・面接授業	「数と計算」領域の予習	30
	振り返りを書く			
第 6 回 ／	「数と計算」領域の内容(2)　－ 小数・分数について －	・講義 ・面接授業	「数と計算」領域の復習	30
	振り返りを書く			
第 7 回 ／	「測定」領域の内容　－ 量の概念と測定の 4 段階について －	・講義 ・面接授業	「測定」領域の復習	30
	振り返りを書く			
第 8 回 ／	「図形」領域の内容(1)　－ 図形の構成要素 －	・講義 ・面接授業	「図形」領域の予習	30
	振り返りを書く			
第 9 回 ／	「図形」領域の内容(2)　－ 図形の相互関係 －	・講義 ・面接授業	「図形」領域の復習	30
	振り返りを書く			
第 10 回 ／	「変化と関係」領域の内容　－ 関数について －	・講義 ・面接授業	「変化と関係」領域の復習	30
	振り返りを書く			
第 11 回 ／	「データの活用」領域の内容　－ 統計について －	・講義 ・面接授業	「データの活用」領域の復習	30
	振り返りを書く			
第 12 回 ／	教材と情報機器の研究及び活用と指導案の作成(1) － 領域ごとの系統性を考慮して －	・講義 ・面接授業	指導案作成のための資料収集	30
	指導案を作成する			
第 13 回 ／	教材と情報機器の研究及び活用と指導案の作成(2) － 単元間の関係を考慮して －	・講義 ・面接授業	指導案の作成	30
	指導案を作成する			
第 14 回 ／	算数・数学教育のまとめ，評価と指導について	・講義 ・面接授業	算数・数学教育についての復習	30
	振り返りを書く			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
SEC11F076S	専門教育科目 児童教育学領域	生活科概論 Introduction to Domestic Behavior		2単位	選 択	講 義	1 年次	秋学期	
授業科目の学修教育目的・目標									
学修教育目的	生活科教育についての基礎的な理論や学習活動を展開するうえで必要な内容構成・指導方法について学修する。								
	キーワード ・生活科の目標 ・評価の3観点		学修教育目標	生活科の変遷をたどり、生活科の必要性を理解する。また、生活科の教科特性に注意し、授業展開を考えることができる。					
授業科目の概要及び学修上の助言									
生活科における内容とそれに応じた指導方法の概略を学修します。その際、具体的な活動を通して、理解を深めていきます。									
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能									
教科教育法(生活)									
教 科 書				参考書・リザーブドブック					
書 名：小学校学習指導要領解説 生活科（平成29年告示） 著者名：文部科学省 出版社：東洋館出版社				なし					
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。		生活科における基礎的な理論や指導するための内容・方法の専門的な知識を身につける。						◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。		単元全体を見通した学習をつくることができる。						○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		学年（1年～2年）に応じた指導内容の系統性を理解する。						○
④	子どもの発達に関する技能を身につける。								
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。								
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。								
授業科目における社会人基礎力の育成目標									
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性		集団や組織の中で自分の役割と責任を判断し、主体的に取り組むことができる。						◎
	② 働きかけ力								
	③ 実行力		自分に必要な目的を理解し、目標を設定して行動することができる。						◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力								
	② 計画力		問題解決のプロセスを明らかにし、優先順位をつけて計画を立てることができる。						○
	③ 創造力								
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらうように的確に伝えることができる。						◎
	② 傾聴力		相手の話しやすい環境をつくり、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引きだすことができる。						○
	③ 柔軟性								
	④ 状況把握力								
	⑤ 規律性		規律や礼儀をはじめ、社会人としてのルールや約束を守り、適切な態度・言動をとることができる。						○
	⑥ ストレスコントロール力								
4. 倫理観	① 倫理性		建学の精神「教育は徳なり」を深く理解し、教員・保育士としての責任と自覚を持ち、自分の能力を他人のために活かそうとすることができる。						○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
 ※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コンテスト等)	合 計
		総 合 評 価 割 合	50				30		20	100
評 価 の 指 標	知識に関する評価	20							10	30
	技能に関する評価						20			20
	応用力に関する評価	30								30
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価						10		10	20
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
・生活科における基礎的な理論を十分理解している。 ・指導内容と指導方法についての十分な理解をもとに、作品を作成することができる。 ・各項目の理解度が 80%以上である。					・生活科における基礎的な理論を理解している。 ・指導内容と指導方法についての理解をもとに、作品を作成することができる。 ・各項目の理解度が 60%以上である。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	ガイダンス，子どもの生活の変化と学びの変化	面接授業 ・講義 ・演習		
第 2 回 ／	生活科誕生の経緯 ― 生活科とは ―	面接授業 ・講義 ・演習	生活科についての予習	30
	作品・振り返りシート			
第 3 回 ／	生活科の目標と内容(1) ― 学習指導要領の概要 ―	面接授業 ・講義 ・演習	生活科についての復習	30
	作品・振り返りシート			
第 4 回 ／	生活科の目標と内容(2) ― 24 ヶ月のカリキュラム ―	面接授業 ・講義 ・演習	カリキュラムについての復習	30
	作品・振り返りシート			
第 5 回 ／	生活科の目標と内容(3) ― 小学校第 1 学年の内容 ―	面接授業 ・講義 ・演習	生活科についての復習	30
	作品・振り返りシート			
第 6 回 ／	生活科の目標と内容(4) ― 小学校第 2 学年の内容 ―	面接授業 ・講義 ・演習	生活科についての復習	30
	作品・振り返りシート			
第 7 回 ／	生活科と総合的な学習の時間との関連について	面接授業 ・講義 ・演習	生活科についての復習	30
	作品・振り返りシート			
第 8 回 ／	生活科と総合的な学習の時間における体験活動やフィールドワークの意義	面接授業 ・講義 ・演習	学習指導要領についての予習	30
	作品・振り返りシート			
第 9 回 ／	生活科と総合的な学習の時間における体験活動やフィールドワークの実 際	面接授業 ・講義 ・演習	学習指導要領についての予習	30
	ワークシート			
第 10 回 ／	生活科の指導計画・指導内容について	面接授業 ・講義 ・演習	学習指導要領についての予習	30
	ワークシート			
第 11 回 ／	生活科授業の実際	面接授業 ・講義 ・演習	ワークシートのまとめ（復習）	30
	ワークシート			
第 12 回 ／	生活科学習指導案の構想と作成（1）	面接授業 ・講義 ・演習	ワークシートのまとめ（復習）	30
	振り返りシート			
第 13 回 ／	生活科学習指導案の構想と作成（2）	面接授業 ・講義 ・演習	ワークシートのまとめ（復習）	30
	振り返りシート			
第 14 回 ／	生活科で育みたい資質・能力とその評価	面接授業 ・講義 ・演習	ワークシートのまとめ（復習）	30
	振り返りシート			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
SEC11F078S		専門教育科目 児童教育学領域		体育科概論 Introduction to Physical Education		2 単位	選 択	講 義	1 年次	秋学期	
授業科目の学修教育目的・目標											
学修教育目的	小学校体育に必要な体育学の基礎と小学校体育の保健領域の内容について学習し学習指導要領の理解を深め、授業を実践していくために必要な基本事項を理解し習得することを目的とする。										
	よい体育授業			学修教育目標	・教科の特性を理解し、小学校教育における体育の必要性を把握することで、運動に親しむ資質や能力の育成がなぜ必要なのかを理解することができる。 ・身体の発育発達や運動能力の発達といった身体の構造を把握することで、なぜ体力向上が必要なのかを理解することができる。 ・保健領域のねらいを把握することで、なぜ健康の保持増進が必要かを理解することができる。						
授業科目の概要及び学修上の助言											
体育教科に必要な知識を学ぶ。（スポーツの本質、スポーツ指導法、学習形態、学習方法）											
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能											
スポーツマンシップ、フェアプレーの精神、学習指導要領解説（体育編）											
教 科 書					参考書・リザーブドブック						
					書名：小学校学習指導要領解説 体育編 著者名：文部科学省 出版社：東洋館出版社						
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）							
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。			体育教科の特性を理解することができる。						◎	
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。			学習方法を理解することができる。						△	
③	子どもの発達に関する知識を身につける。										
④	子どもの発達に関する技能を身につける。										
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。			ルールや約束を守り授業に参加することができる。						○	
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。			体育教科における諸問題を理解することができる。						○	
授業科目における社会人基礎力の育成目標											
分類(4 つの力)		能力要素(13 の要素)			授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性			集団や組織（チーム）の中で自分の役割と責任を判断し、主体性を持って取り組むことができる。						◎
		② 働きかけ力			リーダーシップを発揮し、他者（チームメイト）を動かしながら目標達成の働きかけを行うことができる。						◎
		③ 実行力			自分に必要な目的を理解し目標を設定して行動することができる。						◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力			自分を客観的に観察し現状を把握し、課題を見つけ解決しようとすることができる。						◎
		② 計画力			問題解決のプロセスを明らかにし、優先順位つけて計画を立てることができる。						◎
		③ 創造力									
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力			自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらえるように適確に伝えることができる。						◎
		② 傾聴力			相手が話しやすい環境を作り、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引き出すことができる。						◎
		③ 柔軟性									
		④ 状況把握力			全体に及ぼす影響を意識して、考えながら行動することができる。						◎
		⑤ 規律性			ルールや約束を守り、良識ある行動をとることができる。						◎
		⑥ ストレスコントロール力									
4. 倫理観		① 倫理性			自分の持てる能力を他の人の為に活かし周りに喜びを与えることができる。						◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価									
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)
総 合 評 価 割 合			50		20	10			20
評 価 の 指 標	知識に関する評価		50		20	10			80
	技能に関する評価								
	応用力に関する評価								
	チームワーク力に関する評価								
	関心・意欲に関する評価								20
具 体 的 な 達 成 の 目 安									
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安				
体育教科に必要なスポーツの本質、スポーツ指導法、学習形態、学習方法、学習評価を理解する。					体育教科に必要なスポーツの本質、スポーツ指導法、学習形態を理解する。				

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション 授業の進め方，評価について，受講時の諸注意事項 体育科とは コメントシート	面接授業 講義形式 コメントシート	・ 体育、スポーツについて考える（体育、スポーツに求められるもの）	60
第 2 回 ／	体育学の基礎的理解 コメントシート	面接授業 講義形式 ペアワーク（体育、スポーツに求められるものを考える） コメントシート	・ 良い授業について考える	60
第 3 回 ／	体育科の学習内容論 コメントシート	面接授業 講義形式 ペアワーク（良い授業について考える） コメントシート	・ 学習指導の形態について考える	60
第 4 回 ／	体育科の学習指導とその形態 コメントシート	面接授業 講義形式 ペアワーク（学習指導の形態について考える） コメントシート	・ 評価の種類を調べる	60
第 5 回 ／	体育科の評価論 コメントシート	面接授業 講義形式 ペアワーク（指導と評価の一体化について考える） コメントシート	・ スキャモンの発育曲線を調べる	60
第 6 回 ／	身体の発育と発達 コメントシート	面接授業 講義形式 ペアワーク（スキャモンの発育曲線を分析） コメントシート	・ 体力向上がなぜ必要かを考える	60
第 7 回 ／	運動能力・体力の発達 コメントシート	面接授業 講義形式 ペアワーク（体力向上の必要性を考える） コメントシート	・ 体育における安全確保、安全管理について考える	60
第 8 回 ／	安全な身体活動のために コメントシート	面接授業 講義形式 ペアワーク（体育の安全について考える） コメントシート	・ 体力要素を調べ、必要なトレーニングについて考える	60
第 9 回 ／	身体運動論（トレーニング論） コメントシート	面接授業 講義形式 ペアワーク（必要な体力要素を考える） コメントシート	・ 環境が健康に及ぼす影響を考える	60
第 10 回 ／	保健領域（1） 毎日の生活と健康 コメントシート	面接授業 講義形式 ペアワーク（環境と健康の関係性を考える） コメントシート	・ 薬物乱用について考える	60
第 11 回 ／	保健領域（2） 思春期の体の変化 喫煙 飲酒 薬物乱用 コメントシート	面接授業 講義形式 ペアワーク（健康を害するおそれのあるものについて考える） コメントシート	・ メンタルヘルスについて考える	60
第 12 回 ／	保健領域（3） 心の健康 病気の予防 コメントシート	面接授業 講義形式 ペアワーク（心のあり方が健康にどのような影響を及ぼすかを考える） コメントシート	・ 傷害の発生要因について考える	60
第 13 回 ／	保健領域（4） けがの防止 1（活動中のけがの防止） コメントシート	面接授業 講義形式 ペアワーク（どのような環境が傷害に繋がるかを考える） コメントシート	・ 心肺蘇生法を調べる	60
第 14 回 ／	体育科の必要性（まとめ） コメントシート	面接授業 講義形式 ペアワーク（体育科の必要性や役割を考える） コメントシート	・ 体育科の必要性や役割をまとめる	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SEC11F079S	専門教育科目 児童教育学領域	音楽科概論 Introduction to Music		2単位	選 択	講 義	1 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的								
	幼稚園・保育所における音楽表現や小学校における音楽教育に必要なピアノ演奏法に必要な知識と技術を習得する。							
キーワード	楽典・ピアノ演奏・弾き歌い		学修教育目標	ピアノ演奏技法の基礎を習得する。 ー 主要三和音による簡易伴奏のピアノ演奏法を習得する。 身体表現のためのリズム曲のピアノ演奏法を習得する。（幼稚園・保育所・小学校） 小学校歌唱共通教材曲や子どもの歌の伴奏法、および弾き歌いの技法を習得する。（小学校）				
授業科目の概要及び学修上の助言								
幼児教育や初等教育において、教師が行うピアノ伴奏や弾き歌いに必要となる知識・技能を習得する。自己の知識や技能の向上を図るとともに、教師としての指導力・実践力の獲得をめざす。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
・幼児教育、初等教育における自らの音楽経験 ・ト音記号・へ音記号で表記される楽譜の読み方								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
書 名：2訂版 歌唱教材伴奏法 バイエルとツェルニーによる 著者名： 出版社：教育芸術社				書 名：標準バイエル教則本 著者名： 出版社：全音楽譜出版				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。		楽典に関する基礎的知識を身につける。					◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。		ピアノ伴奏に必要となるピアノ演奏技能、弾き歌いの基本的な技能を習得する。					◎
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		幼児・児童の声域及び音楽的発達の特徴に関する知識を身につける。					○
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		幼児・児童の音楽的発達に即した演奏技法を身につける。					◎
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		子どもの思いや願いに寄り添う指導・支援の在り方について省察することができる。					△
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		教育実習における器楽指導を想定し、人前で演奏する機会を積極的につくることができる。					◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性		課題意識をもって授業に臨むことができる。				◎
		② 働きかけ力		他者に積極的に質問や相談、提案をすることができる。				○
		③ 実行力		自身が計画したことを成し遂げることができる。				○
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力		問題意識を常にもち、課題について整理し、取り組むことができる。				△
		② 計画力		問題解決のために、適切な計画を立てることができる。				◎
		③ 創造力		知識と技能との関連について思考・判断することができる。				○
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力		必要な時に自分の考えを表現できる。				○
		② 傾聴力		他者の表現のよさに気付くことができる。				○
		③ 柔軟性		困ったときなどは、それを機会に学ぶ姿勢がもてる。				△
		④ 状況把握力		さまざまな状況を把握し、的確な判断ができる。				◎
		⑤ 規律性		他者と協力してより質の高い音楽表現の創造をめざすことができる。				○
		⑥ ストレスコントロール力		さまざまなストレスに対して対応できる力を養うことができる。				○
4. 倫理観		① 倫理性		相手の立場に立って行動することができる。				△

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
		総 合 評 価 割 合	50	20		30				100
評 価 の 指 標	知識に関する評価	20	20							40
	技能に関する評価	20			10					30
	応用力に関する評価	10								10
	チームワーク力に関する評価				10					10
	関心・意欲に関する評価				10					10
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
・ 楽典に関する基礎的知識を確実に身につけることができる。 ・ 曲想を理解し、それを表すために適切なテンポや強弱を工夫しながらピアノ演奏をすることができる。					・ 楽典に関する基礎的知識を概ね身につけることができる。 ・ 楽譜に記された記号等を理解し、一定程度正しくピアノ演奏をすることができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	ガイダンス	面接授業 講義	予習：楽典について 復習：楽典予備課題	予習：30 復習：30
	参加態度			
第 2 回 ／	初歩的な楽典 ー 楽譜の読み方、楽譜と鍵盤の相互関係の理解、タッチの方法等	面接授業 講義・演習	予習：楽典予備課題 復習：今回の課題	予習：30 復習：30
	ワークシート、参加態度			
第 3 回 ／	音、音の読み方、記譜法について	面接授業 講義・演習	予習：前回の課題 復習：今回の課題	予習：30 復習：30
	ワークシート、参加態度			
第 4 回 ／	音程について	面接授業 講義・グループワーク	予習：前回の課題 復習：今回の課題	予習：30 復習：30
	ワークシート、参加態度			
第 5 回 ／	個別指導（1）音と音程について個別指導	面接授業 個別演習	予習：前回の課題 復習：今回の課題	予習：30 復習：30
	演奏技能、参加態度			
第 6 回 ／	個別指導（2）楽譜と音・音程について個別指導	面接授業 個別演習	予習：前回の課題 復習：今回の課題	予習：30 復習：30
	演奏技能、参加態度			
第 7 回 ／	個別指導の総評と弱点克服ならびに小テスト	面接授業 グループワーク・発表	予習：前回の課題 復習：今回の課題	予習：30 復習：30
	発表の内容、参加態度			
第 8 回 ／	音階について	面接授業 講義・演習	予習：前回の課題 復習：今回の課題	予習：30 復習：30
	ワークシート、参加態度			
第 9 回 ／	個別指導（1）音階	面接授業 個別演習	予習：前回の課題 復習：今回の課題	予習：30 復習：30
	演奏技能、参加態度			
第 10 回 ／	個別指導（2）総評と総仕上げ	面接授業 グループワーク・発表	予習：前回の課題 復習：今回の課題	予習：30 復習：30
	発表の内容、参加態度			
第 11 回 ／	和音について	面接授業 講義・演習	予習：前回の課題 復習：今回の課題	予習：30 復習：30
	ワークシート、参加態度			
第 12 回 ／	メロディについて	面接授業 講義・演習	予習：前回の課題 復習：今回の課題	予習：30 復習：30
	ワークシート、参加態度			
第 13 回 ／	個別指導（1）独奏と伴奏について	面接授業 個別演習	予習：前回の課題 復習：今回の課題	予習：30 復習：30
	演奏技能、参加態度			
第 14 回 ／	個別指導（2）総評と総仕上げ	面接授業 グループワーク・発表	予習：前回の課題 復習：今回の課題	予習：30 復習：30
	発表の内容、参加態度			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SEC11F080S		専門教育科目 児童教育学領域		図工科概論 Introduction to Arts and Crafts		2 単位	選 択	講 義	1 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標										
学修教育目的		子どもの表現能力を引き出す教育についての理論と実際を学修する。また、子どもの造形表現の発達や造形の意味についても理解を深める。								
キーワード		図工科概論 子ども・造形・表現・素材・教材・特性		学修教育目標		子どもの造形表現の発達段階を学習し、造形教育のありようを理解し、説明できる。 実際の体験を通じて、造形素材のもつ特性や教材としての可能性に注目し、素材を生かした教材作りができる。				
授業科目の概要及び学修上の助言										
・理論と実際を学修することで、相互に理解を深め造形の概念の統合を図る。 ・作品の評価基準については、グループワーク等でのディスカッションを通し、共に考え造形表現の意味について考察する。 ・授業での配布物はワークシートとして保存し、受講時に持参する。 ・毎回、授業のたびに課題レポートを提出。また、単元ごとに小テストを実施する。 ・事前学習・ふり返りを重視する。 ・作品の評価等については、随時、グループワークや発表を実施し活発な討議を期待する。 ・授業では、ワークシートと個々にポートフォリオを作成し授業内容の習得状況と振り返りをする。										
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能										
・保育所（園）、幼稚園施設などへのボランティアやインターンシップ活動には積極的に参加を促し、現地レポーターとして授業等で発表する。 ・保育所、幼稚園、小学校等における行事の参観や美術館のイベントに積極的に出向き、自身の感性をより豊かにするように推奨・期待する。 毎回の授業での配布物は、ファイリング保存しポートフォリオとして活用する。毎回の受講時には、「iPad」を持参する。										
教 科 書					参考書・リザーブブック					
書 名：造形表現・図画工作 著者名：磯山錦司 他 出版社：建帛社					授業時にて適宜紹介する。					
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。			子どもの心身の発達が理解できる。						△
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。			様々な素材の表現方法を知る。						○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。			素材体験を通して、子どもの表現活動についての発達段階を知る。						△
④	子どもの発達に関する技能を身につける。			素材の特性や教材としての可能性に触れ、子どもの造形表現について理解できる。						○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。									
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。			実際の体験を通じて、造形素材のもつ特性や教材を生かし造形教育の可能性に注目する。						○
授業科目における社会人基礎力の育成目標										
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性			自分なりに判断して自発的にとりくむことができる。					◎
		② 働きかけ力								
		③ 実行力								
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力								
		② 計画力								
		③ 創造力			自身の発想を生かし、豊かな創造性が発揮できる。					○
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力			自分の意見を具体的に分かりやすく伝えることができる。					○
		② 傾聴力			相手の意見を最後までしっかり聞くことができる。					○
		③ 柔軟性								
		④ 状況把握力								
		⑤ 規律性								
		⑥ ストレスコントロール力								
4. 倫理観		① 倫理性								

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
		総 合 評 価 割 合		45	10	8	19	10	8	
評 価 の 指 標	知識に関する評価		10	3	3	4		2		22
	技能に関する評価		20	3	2	4	4	4		37
	応用力に関する評価		5	2		6	4	2		19
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価		10	2	3	5	2			22
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
造形表現の理論と実践の相互に理解を深め、統合した取り組みができる。 また、子どもの造形表現の発達や造形の意味について理解する。					実際の体験を通じて、子どもの表現教育についての理論と実際を理解する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション （講義内容の説明、進め方、成績評価の説明等） 子どもの発達と造形表現	＊ 1 4 回全て対面授業 講義、グループトーク、発表、まとめ	事前にシラバスを読んでおく。 授業時に適時指示した課題（以下、毎回、時間共に同じ）	60
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 2 回 ／	立方体の制作、及びそのデッサン	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 3 回 ／	立体構成	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 4 回 ／	ボックスアート	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 5 回 ／	制作した作品の相互評価と講評	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 6 回 ／	石膏体験（1）素材（石膏）についての特徴、取扱の留意点、作品制作	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 7 回 ／	石膏体験（2）個別作品講評ならびに総評	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 8 回 ／	紙粘土体験（1）素材（紙粘土）についての特徴、取扱の留意点、作品制作	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 9 回 ／	紙粘土体験（2）個別作品講評ならびに総評	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 10 回 ／	制作した作品の相互評価と講評	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 11 回 ／	自然素材をモチーフとした創作体験（1）素材の選択と特徴、作品制作	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 12 回 ／	自然素材をモチーフとした創作体験（2）作品制作と講評	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 13 回 ／	デザイン（1）デザインの重要性、作品制作と個別指導	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 14 回 ／	制作した作品の相互評価と講評	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
SEC11F082S		専門教育科目 児童教育学領域		音楽演習Ⅰ（声楽） Exercise to MusicⅠ（Vocal）		1単位	必 修	演 習	1年次	秋学期	
授業科目の学修教育目的・目標											
学修教育目的	発声法、子どもの歌の歌唱・合唱等、教育の場で必要な声楽の基礎知識や技能を学び、子どもへの音楽表現の基礎と子どもの音楽表現に対する楽しさを導くことを目指す。										
キーワード	音楽教育・声楽			学修教育目標	歌唱では、無理のない発声法により子どもの歌や小学唱歌やその他歌曲を歌唱できる歌唱法を修得することを目指す。合唱では、他のパートと合わせることによるハーモニー感覚を体得することを目指す。						
授業科目の概要及び学修上の助言											
実技中心です。歌唱指導する際のポイントに留意しながら積極的に受講すること。											
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能											
「音楽科概論」「教科教育法（音楽）」「音楽演習Ⅰ（器楽）」「音楽演習Ⅱ（声楽応用）」「音楽演習Ⅱ（器楽応用）」「教職実践実習（初等）」「教育実習（小学校）」と関連する。											
教 科 書					参考書・リザーブブック						
書 名：ポケットいっぱいのうた 著者名：鈴木恵津子 出版社：教育芸術社					書 名：新・声楽指導教本 著者名：小林満 出版社：教育芸術社						
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）							
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。			楽譜がすらすら読める。ソルフェージュや楽典により、音楽基礎知識を習得する。							◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。			無理のない発声で、求められている歌唱表現ができる。							◎
③	子どもの発達に関する知識を身につける。			子どもの年齢によって臨機応変に対応できる能力をつけるために、できるだけ多くの曲を知る。							△
④	子どもの発達に関する技能を身につける。			わらべうた・こどもの歌・唱歌等、幅広い曲を歌唱できるようにする。							○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。			これから指導者となる者の自覚を持ち、行動できる。							○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。			様々なことに気づく能力をつける。自分の意思を発言でき、協調性を持って子ども達と接することができる。							◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標											
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性			課題意識をもって授業に臨むことができる。						◎
		② 働きかけ力			他者に積極的に質問や相談、提案をすることができる。						◎
		③ 実行力			自身が計画したことを成し遂げることができる。						◎
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力			問題意識を常にもち、課題について整理し、取り組むことができる。						◎
		② 計画力			問題解決のために、適切な計画を立てることができる。						△
		③ 創造力			知識と技能との関連について思考することができる。						◎
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力			必要な時に自分の考えを表現できる。						◎
		② 傾聴力			他者の表現のよさに気付くことができる。						◎
		③ 柔軟性			困ったときなどは、それを機会に学ぶ姿勢がもてる。						○
		④ 状況把握力			さまざまな状況を把握し、的確な判断ができる。						○
		⑤ 規律性			他者と協力してより質の高い音楽表現をめざすことができる。						△
		⑥ ストレスコントロール力			さまざまなストレスに対して対応できる力を養うことができる。						△
4. 倫理観		① 倫理性			相手の立場に立って行動することができる。						△

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			50	5	10	35				100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		20	2	5	5				32
	技能に関する評価		25	3		15				43
	応用力に関する評価				2	3				5
	チームワーク力に関する評価					3				3
	関心・意欲に関する評価		5		3	9				17
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
楽譜を難なく読める。無理のない発声法で豊かな音楽表現ができ、尚且つ周りの様子を 確認して子ども達に歌唱指導できる。					無理のない正しい発声法で豊かな音楽表現できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	ガイダンス 発声法と身体の使い方	対面授業	ガイダンスと発声法	90
第 2 回 ／	音階の読み方	オンデマンド	音階の読み方を理解する	15
第 3 回 ／	呼吸について（1）音程、リズム、発音	課題研究	音階の読み方を理解した上で、課題作品を録音する	30
第 4 回 ／	呼吸について（2）総合・発表	対面授業	個人指導を含めた実技演習	90
第 5 回 ／	楽譜の読み方	オンデマンド	楽譜の読み方を理解する	30
第 6 回 ／	楽譜の読み方 総合 反復記号	課題研究	楽譜の読み方を理解した上で、課題作品を録音する	30
第 7 回 ／	演習	対面授業	実技演習	90
第 8 回 ／	日本語の発音について	オンデマンド	日本語の発音についての動画を視聴したのちに、プリントワーク	30
第 9 回 ／	歌唱	課題研究	模擬授業に向けての課題作成	60
第 10 回 ／	模擬授業	対面授業	模擬授業	90
第 11 回 ／	調について	オンデマンド	調判定についての動画を視聴したのち、プリントワーク	60
第 12 回 ／	演習	対面授業	実技演習	90
第 13 回 ／	総合－ 個別指導 課題曲による歌唱と指導	課題研究	発表する作品を練習し、録音する	30
第 14 回 ／	音楽の基礎能力	課題研究	総合的に理解できているかを確認する	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SEC32S083S		専門教育科目 児童教育学領域		音楽演習Ⅰ（器楽） Exercise to MusicⅠ（Instrumental）		1単位	必 修	演 習	2年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標										
学修教育目的		基礎的な音楽理論についての理解と器楽の特質について学修する。鍵盤ハーモニカ、リコーダー、ハンドベル、木琴、鉄琴、打楽器などの器楽の基礎的な奏法を、またピアノ奏法を習得する。								
キーワード		器楽表現活動・ピアノ伴奏・楽典			学修教育目標		器楽合奏を指導できること。他のさまざまな楽器と合奏することにより、豊かなハーモニーが作り出せることを学修してほしい。			
授業科目の概要及び学修上の助言										
幼児教育や初等教育において用いられることの多い楽器について、基礎的知識を身につけるとともに、基本的奏法を習得する。また、歌唱曲及び器楽曲のピアノ伴奏に必要な知識と演奏技能を習得する。自己の知識や技能の向上を図るとともに、教師としての指導力・実践力の獲得をめざす。										
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能										
・幼児教育、初等教育における自らの音楽経験 ・ト音記号・ヘ音記号で表記される楽譜の読み方										
教 科 書					参考書・リザーブドブック					
書 名：2訂版 歌唱教材伴奏法 バイエルとツェルニーによる 著者名： 出版社：教育芸術社					なし					
No.	学 科 教 育 目 標				学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。				楽器に関する基礎的知識、及び三和音等伴奏に関する基礎的知識を身につける。					◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。				音楽活動に用いる楽器の基本的奏法及ピアノ伴奏の基本的奏法を身につける。					◎
③	子どもの発達に関する知識を身につける。				幼児・児童の声域及び音楽的発達の特徴に関する知識を身につける。					○
④	子どもの発達に関する技能を身につける。				幼児・児童の音楽的発達に即した演奏技法を身につける。					○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。				子どもの思いや願いに寄り添う指導・支援の在り方について省察することができる。					△
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。				教育実習における器楽指導を想定し、人前で演奏する機会を積極的につくることができる。					◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標										
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性			課題意識をもって授業に臨むことができる。					○
		② 働きかけ力			他者に積極的に質問や相談、提案をすることができる。					△
		③ 実行力			自身が計画したことを成し遂げることができる。					◎
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力			問題意識を常にもち、課題について整理し、取り組むことができる。					○
		② 計画力			問題解決のために、適切な計画を立てることができる。					○
		③ 創造力			知識と技能との関連について思考することができる。					◎
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力			必要な時に自分の考えを表現できる。					◎
		② 傾聴力			他者の表現のよさに気付くことができる。					○
		③ 柔軟性			困ったときなどは、それを機会に学ぶ姿勢がもてる。					△
		④ 状況把握力			さまざまな状況を把握し、的確な判断ができる。					○
		⑤ 規律性			他者と協力してより質の高い音楽表現をめざすことができる。					○
		⑥ ストレスコントロール力			さまざまなストレスに対して対応できる力を養うことができる。					○
4. 倫理観		① 倫理性			相手の立場に立って行動することができる。					○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
		総 合 評 価 割 合	50		20	30				100
評 価 の 指 標	知識に関する評価	10		20						30
	技能に関する評価	20			10					30
	応用力に関する評価	20								20
	チームワーク力に関する評価				10					10
	関心・意欲に関する評価				10					10
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
・ 各楽器の基本的奏法を習得するとともに、音楽活動における楽器の役割や器楽指導上の留意点を十分に理解することができる。 ・ 曲想を理解し、それを表すために適切なテンポや強弱を工夫しながらピアノ伴奏をすることができる。					・ 各楽器の基本的奏法を習得し、その役割や効果を理解することができる。 ・ 楽譜に記された記号等を理解し、一定程度正しくピアノ伴奏をすることができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	楽器学の基礎	面接授業 講義	予習：楽器について 復習：今回の学修内容	予習：30 復習：30
	参加態度・小テスト			
第 2 回 ／	体鳴楽器	面接授業 個別演習・グループワーク	予習：前回の学修内容 復習：今回の学修内容	予習：30 復習：30
	演奏技能, 参加態度			
第 3 回 ／	膜鳴楽器	面接授業 個別演習・グループワーク	予習：前回の学修内容 復習：今回の学修内容	予習：30 復習：30
	演奏技能, 参加態度			
第 4 回 ／	弦鳴楽器	面接授業 個別演習・グループワーク	予習：前回の学修内容 復習：今回の学修内容	予習：30 復習：30
	演奏技能, 参加態度			
第 5 回 ／	気鳴楽器	面接授業 個別演習・グループワーク	予習：前回の学修内容 復習：今回の学修内容	予習：30 復習：30
	演奏技能, 参加態度			
第 6 回 ／	電鳴楽器	面接授業 個別演習・グループワーク	予習：前回の学修内容 復習：今回の学修内容	予習：30 復習：30
	演奏技能, 参加態度			
第 7 回 ／	三和音の演奏	面接授業 個別演習・グループワーク	予習：前回の学修内容 復習：今回の演習課題	予習：30 復習：30
	演奏技能, 参加態度・テキスト課題			
第 8 回 ／	コードネーム	面接授業 個別演習・グループワーク	予習：前回の学修内容 復習：今回の演習課題	予習：30 復習：30
	演奏技能, 参加態度・テキスト課題			
第 9 回 ／	和音	面接授業 個別演習・グループワーク	予習：前回の学修内容 復習：今回の演習課題	予習：30 復習：30
	演奏技能, 参加態度・テキスト課題			
第 10 回 ／	伴奏の種類と演奏	面接授業 個別演習・グループワーク	予習：前回の学修内容 復習：今回の演習課題	予習：30 復習：30
	演奏技能, 参加態度			
第 11 回 ／	移調	面接授業 個別演習・グループワーク	予習：前回の学修内容 復習：今回の演習課題	予習：30 復習：30
	演奏技能, 参加態度			
第 12 回 ／	ピアノ奏法（1）独奏の模範演奏ならびに個別指導	面接授業 個別演習・発表	予習：前回の学修内容 復習：今回の演習課題	予習：30 復習：30
	演奏技能, 参加態度			
第 13 回 ／	ピアノ奏法（2）伴奏の模範演奏ならびに個別指導	面接授業 個別演習・発表	予習：前回の演習課題 復習：今回の演習課題	予習：30 復習：30
	演奏技能, 参加態度			
第 14 回 ／	ピアノ奏法（3）課題曲による奏法と個別指導 及び講義のまとめ	面接授業 個別演習・発表	予習：前回の演習課題 復習：今回の演習課題	予習：30 復習：30
	演奏技能, 参加態度			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SEC33S083A	専門教育科目 児童教育学領域	音楽演習Ⅱ（器楽応用） Exercise to MusicⅡ（Instrumental）		1 単位	選択必修	演 習	3 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	器楽演奏において指導者に求められる資質は、曲の内容を把握しどのように表現するか、また子どもにどのように伝え、音楽表現力を引き出して高められる指導をするかである。そのため必要な読譜力・歌唱力・演奏技法を一層向上させることを目指す。これにより子どもに器楽を使用した音楽表現の力を高めることができる。							
	器楽演奏 ピアノ伴奏	学修教育目標	音楽表現のためのリズム曲の指導と、子どもの歌のピアノ伴奏とその指導ができることを目指す。					
授業科目の概要及び学修上の助言								
授業は演習形式で進める。授業前半では実技を、後半では模擬授業を中心に展開する。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
特になし。								
教 科 書				参考書・リザーブブック				
なし				追って指示する。				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。		器楽演奏に必要な音楽理論の知識を身につける。					◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。		子どもの歌のピアノ伴奏と指導技能を身につける。					◎
③	子どもの発達に関する知識を身につける。							
④	子どもの発達に関する技能を身につける。							
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。							
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。							
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	課題意識をもって授業に臨むことができる。						◎
	② 働きかけ力	他者に積極的に質問や相談、提案をすることができる。						◎
	③ 実行力	自身が計画したことを成し遂げることができる。						◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	問題意識を常にもち、課題について整理し、取り組むことができる。						◎
	② 計画力	問題解決のために、適切な計画を立てることができる。						◎
	③ 創造力	知識と技能との関連について思考することができる。						◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	必要な時に自分の考えを表現できる。						○
	② 傾聴力	他者の表現のよさに気付くことができる。						○
	③ 柔軟性	困ったときなどは、それを機会に学ぶ姿勢がもてる。						○
	④ 状況把握力	さまざまな状況を把握し、的確な判断ができる。						○
	⑤ 規律性	他者と協力してより質の高い音楽表現をめざすことができる。						△
	⑥ ストレスコントロール力	さまざまなストレスに対して対応できる力を養うことができる。						△
4. 倫理観	① 倫理性	相手の立場に立って行動することができる。						△

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			50	10	10	20			10	100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		15	10	10					35
	技能に関する評価		15			10				25
	応用力に関する評価		10			10				20
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価		10						10	20
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
音楽理論の知識を身につけ、子どもの歌のピアノ演奏及び弾き歌いができる。					音楽理論の知識を身につけ、ピアノ技術を一層向上させる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	ガイダンス、音楽理論の基礎	対面授業	実技練習課題 音楽理論プリント	60
第 2 回 ／	演習（1）ピアノ課題	オンデマンド	実技練習課題 音楽理論プリント	60
第 3 回 ／	演習（2）ピアノ課題	課題研究	実技練習課題 音楽理論プリント	60
第 4 回 ／	演習（3）ピアノ課題	対面授業	実技練習課題 音楽理論プリント	60
第 5 回 ／	演習（4）ピアノ伴奏課題、弾き歌い	オンデマンド	実技練習課題 音楽理論プリント	60
第 6 回 ／	演習（5）ピアノ伴奏課題、弾き歌い	課題研究	実技練習課題 音楽理論プリント	60
第 7 回 ／	演習（6）ピアノ伴奏課題、弾き歌い	対面授業	実技練習課題 音楽理論プリント	60
第 8 回 ／	演習（7）ピアノ伴奏課題、弾き歌い	オンデマンド	実技練習課題 音楽理論プリント	60
第 9 回 ／	演習（8）コード伴奏課題、弾き歌い	課題研究	実技練習課題 音楽理論プリント	60
第 10 回 ／	演習（9）コード伴奏課題、弾き歌い	対面授業	実技練習課題 音楽理論プリント	60
第 11 回 ／	模擬授業	オンデマンド	模擬授業の準備 実技練習課題 音楽理論プリント	60
第 12 回 ／	模擬授業	対面授業	実技練習課題 音楽理論プリント	60
第 13 回 ／	音楽理論総合	課題研究	実技練習課題 音楽理論プリント	60
第 14 回 ／	総合 課題曲によるピアノ奏法と指導	課題研究	実技練習課題 音楽理論プリント	60
	レポート			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段：英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SEC11F084S		専門教育科目 児童教育学領域		美術創作Ⅰ Creation to ArtⅠ		1単位	必 修	演 習	1年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標										
学修教育目的	美術創作においては、表現素材や技法の特性とその多様性に注目し、表現内容にふさわしい素材と技法が選択できること。これにより子どもはふさわしい素材を通じて造形表現ができることを知る。									
	感じる力		学修教育目標	表現内容と表現方法を通じて素材体験や表現を感得することを目指す。また、作品のディスカッションを通じて客観的な評価へ到達する。						
キーワード										
授業科目の概要及び学修上の助言										
子供の発育段階に応じた感性のあり方、ものを生み出す力、表現することの意味を美術創作の基礎的な表現方法を学びつつ考察する。共感力が必要である。										
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能										
履修に必要な予備知識や技能は特になし。										
教 科 書					参考書・リザーブドブック					
なし					なし					
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。			美術表現による教育のための基礎的内容を理解する。						◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。			美術表現による教育のための基礎的内容を身につける。						◎
③	子どもの発達に関する知識を身につける。			発達段階に於ける感性を考察し、理解を深める。						○
④	子どもの発達に関する技能を身につける。			発達段階に於ける感性を考察し、それに応じた表現方法を学ぶ。						○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。			相手の立場に立ち物事を考える力を持つ。						○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。			柔軟な思考力を身につける。						○
授業科目における社会人基礎力の育成目標										
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性			自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。					◎
		② 働きかけ力			状況に応じて効果的に巻き込むための手段を活用することができる。					△
		③ 実行力			小さな成果に喜びを感じ、目標達成に向かって粘り強く取り組み続けることができる。					◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力			現状を正しく認識するための情報収集や分析ができる。					◎
		② 計画力			進捗状況や不測の事態に合わせて、柔軟に計画を修正できる。					○
		③ 創造力			複数のもの（もの、考え方、技術など）を組み合わせ、新しいものを作り出すことができる。					◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力			話そうとすることを自分なりに十分に理解して伝えている。					◎
		② 傾聴力			相手の話を素直に聞くことができる。					◎
		③ 柔軟性			自分の意見を持ちながら、他人の良い意見も共感を持って受け入れることができる。					◎
		④ 状況把握力			周囲の人の状況（人間関係、忙しさ等）に配慮して、良い方向へ向かうように行動することができる。					○
		⑤ 規律性			相手に迷惑をかけないよう、最低限守らなければならないルールや約束・マナーを理解している。					△
		⑥ ストレスコントロール力			ストレスを感じることは一過性、または当然のことと考え、重く受けとめすぎないようにしている。					△
4. 倫理観		① 倫理性			相手の立場に立って行動することができる。					△

※1 ◎授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
		総 合 評 価 割 合	45			55				100
評 価 の 指 標	知識に関する評価	5			10					15
	技能に関する評価	10			10					20
	応用力に関する評価	10			10					20
	チームワーク力に関する評価	5			10					15
	関心・意欲に関する評価	15			15					30
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
美術を学び、その表現方法を知ることにより実践で役に立つまでの理解と思考力を持ち得る。					美術を学び、作品表現の為の素材の特性を理解し、作る楽しさや表現の喜びを感じることで、生み出す力の大切さを知る。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	絵画の史的変遷について	面接授業 講義	自分の好きな絵画を調べておく。	15
	絵画への関心と知識			
第 2 回 ／	絵画の構造と体系	課題研究による授業	美術史の思想や運動について調べる。	90
	絵画への関心と知識			
第 3 回 ／	創作実習（1）絵画制作実習	面接授業 実習	自分の好きな美術の分野や作家を調べる。	15
	制作意欲 表現力			
第 4 回 ／	鑑賞教育の意義と問題	課題研究による授業 鑑賞	鑑賞教育について調べる。	90
	自分の意見をしっかりと述べることができる。			
第 5 回 ／	絵画と指導（1）絵画制作実習と個別指導	面接授業 実習	具象絵画と抽象絵画の違いを調べる。	15
	発想力 表現力 技術力			
第 6 回 ／	創作実習（2）デザイン作品制作実習	課題研究による授業	色の特性を調べる。	90
	アイデアの発想力 技術力			
第 7 回 ／	絵画と指導（2）絵画制作（続）制作の指導法	面接授業 実習	制作した作品を検証する。	15
	自作品の分析 他作品の評価			
第 8 回 ／	現代美術について	課題研究による授業	現代美術について調べる。	90
	アイデアの発想力			
第 9 回 ／	創作実習（3）図画工作の実習と指導	面接授業 実習	構成について考える。	15
	制作意欲 表現力 技術力			
第 10 回 ／	創作実習（4）デザイン作品制作実習	課題研究による授業	物と言葉をデザインする。	90
	発想力 表現力 技術力			
第 11 回 ／	創作実習（5）絵画制作実習	面接授業 実習	色彩の効果と描画材料について調べる。	15
	発想力 表現力 技術力			
第 12 回 ／	図画工作の実習と指導（1）素材の特徴と使用例	課題研究による授業	工作に適した素材を調べる。	90
	発想力 表現力 技術力			
第 13 回 ／	図画工作の実習と指導（2）作品制作と個別指導	面接授業 実習	今までに制作した工作を思い出してみる。	15
	発想力 表現力 技術力			
第 14 回 ／	図画工作と作品講評、制作の指導法	課題研究による授業	他者の作品を読み取る。理解する。	90
	自作品の分析			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SEC32S084A		専門教育科目 児童教育学領域		美術創作Ⅱ Creation to Art Ⅱ		1 単位	選択必修	演 習	2 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標										
学修教育目的	「美術創作Ⅰ」を更に発展させ、実作を通じて造形表現の広がりと限界、造形表現の多様性と制約等、造形表現をめぐる諸問題を取り上げ、創作活動とは何かを問い直す契機とする。子どもの造形表現を高める創作活動との多様性と限界を見極める契機としたい。									
	乳幼児の造形活動の取り組みと理解			学修教育目標	創作活動を通じて表現過程を追体験し、美術創作の指導に役立てることを目指す。					
授業科目の概要及び学修上の助言										
・乳幼児の造形活動に関する絵本・専門書を出来るだけ読んでおく。 ・課題についてよく理解して授業に臨むこと。										
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能										
・幼稚園や保育園での造形活動で一般的な材料用具を駆使し、子ども達の発達段階に即した題材を演習する。										
教 科 書					参考書・リザーブドブック					
適時、教材プリントを配布する。					書 名：みんなで造形 4,5 歳児 “絵を描こう！” 著者名：舟井 賀世子 出版社：サクラクレパス出版部 書 名：みんなで造形 2,3 歳児 “描こうよ！作ろうよ！” 著者名：舟井 賀世子 出版社：サクラクレパス出版部					
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。			・教育・保育理念を理解する。 ・教育課程を理解する。						◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。			実践を通して具体的な保育技術・実践内容の習得をする。						○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。			身体の育ち・情緒の育ち・ことばの育ち・知的な育ちを知る（ピアジェ・ファンツ・モンテッソリーなど）。						△
④	子どもの発達に関する技能を身につける。			保育現場の実践資料を基に実技をする。						◎
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。			多様な演習課題を通して感性や想像力を高めると共に小幼保の造形指導に対応できる能力や知識を身につける。						○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。			子どもの発達に見合った教材・環境作りへの理解を深め、技術力・能力を高めることをねらいとする。						○
授業科目における社会人基礎力の育成目標										
分類(4 つの力)		能力要素(13 の要素)			授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性			自分の取り組みの目的・役割を認識する。					◎
		② 働きかけ力			状況に応じて効果的に巻き込むための手段を活用することができる。					△
		③ 実行力			小さな成果に喜びを感じ、目標達成に向かって粘り強く取り組み続けることができる。					◎
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力			保育のねらいを理解し意識する。					◎
		② 計画力			経験・環境・発達に合わせて指導計画が立案できる。					○
		③ 創造力			自分なりの思いを色や形でイメージを豊かに広げる。					◎
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力			壁面製作の取り組みの話し合いに主体的に考えを伝える。					◎
		② 傾聴力			相手の話を素直に聞くことができる。					◎
		③ 柔軟性			友達の思いや意見に共感し、寄り添う気持を持つ。					◎
		④ 状況把握力			自分にできること・他人ができることを的確に判断して行動することができる。					△
		⑤ 規律性			チームでの規律を尊重することができる。					△
		⑥ ストレスコントロール力			ストレスを感じることは一過性、または当然のことと考え、重く受け止めすぎないようにしている。					△
4. 倫理観		① 倫理性								

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメントシート等)	合 計
総 合 評 価 割 合			20		10	40	30			100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		10		10					20
	技能に関する評価		10			10	10			30
	応用力に関する評価					10				10
	チームワークに関する評価					10	10			20
	関心・意欲に関する評価					10	10			20
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
・ 多様な実践を通して、思いを育てる造形表現の手だてなどを学ぶとともに保育者としての豊かな感性を育て、発想力・技術力を高めることをねらいとする。 ・ 色や形で表現することの楽しさを身体や感性で理解する。 ・ 表現を幼児とともに楽しみながら、指導していくための力を身につける。					・ 乳幼児の主体的な表現活動を理解し、保育者として個性や自主性の育成を大切にした指導ができる能力や技術・応用力を身につけることをねらいとする。 ・ 幼児の造形あそびを知る。 ・ 様々な画材の特性を知り、技法を習得する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	乳児期の造形的発達を知る（1） ①なぐり描きの発達・特徴を知る	乳児の絵画発達を資料・作品から学ぶ。 面接授業	みんなで造形 4,5 歳児 “絵を描こう！”	60
	レポート提出			
第 2 回 ／	乳児期の造形的発達を知る（2） ①乳児の造形あそび（絵の具を使つてのごっこ遊び）	乳幼児の色彩表現の発達・色の作り方を実践を通して学ぶ。 面接授業	みんなで造形 4,5 歳児 “絵を描こう！”	60
	課題提出			
第 3 回 ／	乳児期の造形的発達を知る（3） ①乳児の造形あそび（のり・はさみの指導法・応用）	作ることの発達に合わせたの取り組みを実践する。 課題研究による授業	みんなで造形 2,3 歳児 “描こうよ！作ろうよ！”	60
	課題提出			
第 4 回 ／	壁面製作（1）	製作の目的・方法を学び、理解し、共同で取り組む。 面接授業	「新造形表現・実技編」 三晃書房	60
	作品展示			
第 5 回 ／	壁面製作（2）	前回同様取り組む。 課題研究による授業	「新造形表現・実技編」 三晃書房	60
	作品展示			
第 6 回 ／	幼児期の造形的発達を知る（1） 描画の発達段階と題材例（3・4・5 歳児）	幼児期の発達の特徴を作品を通して理解し絵のよみとり・見方を学び描く。 面接授業	「新造形表現・理論編」 三晃書房	60
	作品提出			
第 7 回 ／	幼児期の造形的発達を知（2） ①題材・材料の組み合わせ・色の作り方	幼児にとって取り組みやすい題材を知り描く。 課題研究による授業	みんなで造形 4,5 歳児 “絵を描こう！”	60
	課題提出			
第 8 回 ／	行事の造形（平面）	幼稚園・保育園では行事にちなんだ活動が行なわれることが多い。いくつかの行事に適した題材に取り組む。 面接授業	「新造形表現・実技編」 三晃書房	60
	作品提出			
第 9 回 ／	行事の造形（立体）	前回同様行事の造形に取り組む。 課題研究による授業	「新造形表現・実技編」 三晃書房	60
	作品提出			
第 10 回 ／	見立てあそびから作品展への展開（3・4・5 歳児）（1）	作ることの発達について理解し作品展の取り組みを立案し製作する。 面接授業	みんなで造形 4,5 歳児 “絵を描こう！”	60
	製作活動			
第 11 回 ／	見立てあそびから作品展への展開（3・4・5 歳児）（2）	発達を配慮し、廃材を使い色・形で立体化して製作に取り組む。 課題研究による授業	みんなで造形 4,5 歳児 “絵を描こう！”	60
	製作活動			
第 12 回 ／	見立てあそびから作品展への展開（3・4・5 歳児）（3）	取り組みを深め、出来たものを展示する。 課題研究による授業	みんなで造形 4,5 歳児 “絵を描こう！”	60
	作品展示			
第 13 回 ／	ポップアップカード（1）（技法の基礎）	保育者としてポップアップカードの技法を知ることには有意義である。技法を用いてのカード作りを行う。 面接授業	「新造形表現・実技編」 三晃書房	60
	作品提出			
第 14 回 ／	ポップアップカード（2）（応用①）	前回同様取り組む。 課題研究による授業	「新造形表現・実技編」 三晃書房	60
	作品提出			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
SEC11F085S		専門教育科目 児童教育学領域		体育実技（子ども体操） Physical Education (Children's Gymnastics)		1 単位	必 修	実 技	1 年次	秋学期	
授業科目の学修教育目的・目標											
学修教育目的	前半は幼児体育の基本的な運動と指導者としての基礎技能の体得・安全な実技指導について学び、後半においては子どもの持つ豊かな感性が表現できるよう、子どもの身体表現方法の技法について学修する。これにより子ども独自の身体表現ができるように指導できるようにする。										
キーワード	発育 発達 あそび 指導法			学修教育目標	子どもの表現能力を高めるために必要なことを、適切な時期に与えることができる技能の獲得を目指す。						
授業科目の概要及び学修上の助言											
この授業は、子ども達と身体運動を通して係わることのできる実践力を養うことと、自分自身で実演できることを目的としている。授業においては、幼児を対象とした身体運動を紹介し、それを実技として実施し、さらに学生自身に授業を立案させ、模擬授業として実践させる。 準備学習として、参考書を中心とした事前学習を 1 h、授業後の振り返りと、授業内容を踏まえて再度参考書を中心とした学習で知識の定着をはかる事後学習を 1 h 程度行うことが望ましい。											
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能											
幼児期は月齢での差も大きい為、幼児期の発育発達について基礎的な知識を習得していることが望ましい。											
教 科 書					参考書・リザーブブック						
なし					書 名：体育あそび 著者名：米谷 光弘 出版社：ひかりのくに株式会社 書 名：幼児のリズム体操集 著者名：松本 民子 出版社：チャイルド社 書 名：保育のあそび 200 著者名：高橋 系吾、山本 ツタ子 監修 出版社：チャイルド本社						
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）							
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。			発育段階に応じた指導内容を習得する。						○	
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。			発育段階に応じた指導方法を習得する。						○	
③	子どもの発達に関する知識を身につける。			発達とあそびについて理解を深める。						◎	
④	子どもの発達に関する技能を身につける。			発達を促すあそびの実践力を身に付ける。						○	
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。			あそびは、情緒、基礎運動能力、コミュニケーション能力を同時に育むことを理解し、重要性を認識する。						○	
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。			コミュニケーションをとりながら、表情豊かに実践できる力を養う。						◎	
授業科目における社会人基礎力の育成目標											
分類(4 つの力)		能力要素(13 の要素)			授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性			指導者としての自覚、意思を明確に持つ。						◎
		② 働きかけ力			自分の役割を認識し、チーム全体で課題達成を目指す。						◎
		③ 実行力			達成目標を明確化し、確実に実行する。						◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力			現代における幼児の発育の現状を認識し、課題を明らかにする。						◎
		② 計画力			課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する。						◎
		③ 創造力			既存の思考に囚われず、柔軟な発想で課題を解決する。						◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力			自分の意見をわかりやすく伝える。						◎
		② 傾聴力			相手の意見を丁寧に聴く。						◎
		③ 柔軟性									
		④ 状況把握力			自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する。						◎
		⑤ 規律性			大学生として、マナー、ルールを守り、法令順守を心がける。						◎
		⑥ ストレスコントロール力									
4. 倫理観		① 倫理性									

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50			50				100
評価 の 指標	知識に関する評価		50							50
	技能に関する評価					30				30
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価					20				20
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
幼児期における体育の授業づくりの原理と方法を理解し、実技演習において実施することができる。 「体育遊び」の指導ポイントを理解し、実技演習を行うことができる。					幼児期の身体発達や運動発達など特性を踏まえて、実際の子どもの活動の姿や指導のあり方について理解できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回	オリエンテーション ①授業を受ける姿勢について ②単位を修得するとは ③授業の進め方、評価について ④受講時の諸注意事項 ⑤幼児体育について	オンラインでの課題研究 コメントシート	・ 幼児体育についてまとめる	60
／	コメントシート			
第 2 回	幼児の運動遊びと体操 1 （ゆったりとした体操） ①体操の目的を意識しながら動きを覚える	面接授業 コメントシート	・ ゆったりとした体操の目的理解し体操のポイントをまとめる	60
／	コメントシート			
第 3 回	幼児の運動遊びと体操 2 （ゆったりとした体操） ①体操の動きを覚えポイントを作成	面接授業 コメントシート	・ 各自の課題を発見し解決策を考える	60
／	コメントシート			
第 4 回	幼児の運動遊びと体操 3 （ゆったりとした体操） ①体操のポイントを理解し、自己観察と他者観察を行う	面接授業 自己観察、他者観察シート コメントシート	・ 自己観察、他者観察から体操のポイントを整理し、レベルアップ方法を考え実技テストに備える	60
／	自己観察、他者観察シート、コメントシート			
第 5 回	幼児の運動遊びと体操 4 （ゆったりとした体操） ①他者観察・評価	面接授業 評価シート コメントシート	・ 他者観察、評価から得た内容を参考にし、ゆったりとした体操の必要性をまとめる	60
／	評価シート、コメントシート			
第 6 回	幼児の運動遊びと体操 5 （リズムカルな体操） ①体操の目的を意識しながら動きを覚える	面接授業 コメントシート	・ リズムカルな体操の目的理解し体操のポイントをまとめる	60
／	コメントシート			
第 7 回	幼児の運動遊びと体操 6 （リズムカルな体操） ①体操の動きを覚えポイントを作成	面接授業 コメントシート	・ 各自の課題を発見し解決策を考える	60
／	コメントシート			
第 8 回	幼児の運動遊びと体操 7 （リズムカルな体操） ①体操のポイントを理解し、自己観察と他者観察を行う	面接授業 自己観察、他者観察シート コメントシート	・ 自己観察、他者観察から体操のポイントを整理し、レベルアップ方法を考え実技テストに備える	60
／	自己観察、他者観察シート、コメントシート			
第 9 回	幼児の運動遊びと体操 8 （リズムカルな体操） ①他者観察・評価	面接授業 評価シート コメントシート	・ 他者観察、評価から得た内容を参考にし、リズムカルな体操の必要性をまとめる	60
／	評価シート、コメントシート			
第 10 回	幼児の運動遊びと体操 9 （ラジオ体操） ①体操のポイントを理解し、自己観察と他者観察を行う	面接授業 コメントシート	・ 自己観察、他者観察から体操のポイントを整理し、レベルアップ方法を考え実技テストに備える	60
／	コメントシート			
第 11 回	幼児の運動遊びと体操 1 0 （ラジオ体操） ①他者観察・評価	面接授業 評価シート コメントシート	・ 他者観察、評価から得た内容を参考にし、ラジオ体操の必要性をまとめる	60
／	評価シート、コメントシート			
第 12 回	幼児の運動遊びと体操 1 1 （ヒップホップな体操） ①体操のポイントを理解し、自己観察と他者観察を行う	面接授業 コメントシート	・ ヒップホップな体操の目的理解し体操のポイントをまとめる	60
／	コメントシート			
第 13 回	幼児の運動遊びと体操 1 2 （ヒップホップな体操） ①他者観察・評価	面接授業 自己観察、他者観察シート コメントシート	・ 他者観察、評価から得た内容を参考にし、ヒップホップな体操の必要性をまとめる	60
／	自己観察、他者観察シート、コメントシート			
第 14 回	幼児の運動遊びと体操 1 4 ①発達段階に応じたリズムダンスとその指導法のまとめ	面接授業 コメントシート	・ 幼児体操の必要性をまとめる	60
／	コメントシート			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SEC12S087S	専門教育科目 児童教育学領域	教育相談の基礎（初等） Base of Educational Counseling（Elementary）		2単位	選 択	講 義	2年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	幼児・児童の教育上の問題に関し、教師がカウンセリング相談をする上で、幼児・児童および親に対して望ましい適切な援助や助言を実施するための教育相談をはじめとして、人の心をケアするカウンセリング実務の技法について学ぶことを目的とする。							
	キーワード 教育相談 カウンセリング 援助 助言	学修教育目標	幼児・児童・保護者をはじめとする他者に対して、より適切な援助ができるために、自己理解をベースにしつつ、人間の心に関する理解を深めていき、カウンセリングの諸理論や方法等、カウンセリングに関する基礎的な知識を身につける。					
授業科目の概要及び学修上の助言								
教師になるために必要な教育相談の理論と技法を学ぶ。本講義は教職関連課目であるため、15回の授業を通して、授業態度や物事に取り組む姿勢について身に付けていく必要がある。「教師になる」という高い目的意識が求められる科目であることを自覚して履修すること。 主体的な学びとなるよう、各自授業ノートを準備し、学びに活かしていくことが必須である。 事前に授業資料を公開するので、各自確認し印刷して授業に臨むこと。 さらに、講義形式ではあるが、ペアワークやディスカッションを取り入れながら授業を進めていくため、積極的な姿勢で授業に臨むこと。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
「教育心理学」と関係づけて学んでいくことで学びが深くなっていきます。								
教 科 書				参考書・リザーブブック				
書 名：生徒指導提要（最新版） 著者名：文部科学省 出版社：教育図書				適宜、指示する。				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。							
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。							
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		「教育相談」に関する基礎的な知識を理解できる。 ◎					
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		「教育相談」に関する基礎的な技能を修得することができる。 ○					
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。							
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。							
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性						
		② 働きかけ力		授業中の私語を注意することができる。 △				
		③ 実行力						
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力		これまでにない新しい解決策を見つけ出すことができる。 ◎				
		② 計画力						
		③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力						
		② 傾聴力		他の人の意見を聞き、そのことについてコメントができる。 ◎				
		③ 柔軟性						
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性		他者のことを考えながら意見を述べることができる。 ○				

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			50						50	100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		35							35
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		15						20	35
	チームワークに関する評価								5	5
	関心・意欲に関する評価								25	25
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
「教育相談」に関する基礎的な知識を十分に理解している。 「教育相談」の基礎的な技法を十分に習得できている。 各項目の理解度が 80%以上である。					「教育相談」に関する基礎的な知識を理解している。 「教育相談」の基礎的な技法を習得できている。 各項目の理解度が 60%～80%である。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	教育現場における臨床心理学的諸問題（１） －「不登校・引きこもり・いじめ」等の問題について	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第 2 回 ／	教育現場における臨床心理学的諸問題（２） －教育相談におけるスクール・カウンセリングの技法	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第 3 回 ／	教育現場における臨床心理学的諸問題（３） －保護者対応について	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第 4 回 ／	教育相談における心理アセスメント －心理検査を用い、幼児・児童の自己理解や対人関係のあり方の把握	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第 5 回 ／	心理アセスメント（１） －教育現場や社会で用いられているさまざまな心理アセスメントについて	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第 6 回 ／	心理アセスメント（２） －心理検査による自己理解	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第 7 回 ／	カウンセリング技法について（１） －幼児・児童や保護者との信頼関係の確立	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第 8 回 ／	カウンセリング技法について（２） －具体的なカウンセリング技法	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第 9 回 ／	幼児・児童に対する療法 －認知行動療法、ロジャースの自己理論と来談者中心療法、箱庭療法	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第 10 回 ／	教育相談の具体的な進め方（１） －目標、進め方	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第 11 回 ／	教育相談の具体的な進め方（２） －「不登校・引きこもり・いじめ」等に対する進め方	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第 12 回 ／	教育相談の具体的な進め方（３） －相談体制、組織的取組み	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第 13 回 ／	教育相談の具体的な進め方（４） －学校外諸機関との連携と必要性	対面授業 講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第 14 回 ／	教師のメンタルヘルス	対面授業 講義・質疑応答	復習：試験範囲の振り返り	30
	コメントシート			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SPE12F100S		専門教育科目 教育・保育実習領域		子ども発達学基礎演習 Basic Exercise on Child Development Study		1 単位	必 修	演 習	2 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標										
学修教育目的		・現在の教育を取り囲む環境、特に幼少年期の教育が重要視される中で、教育の現状や課題を認識し、幅広い教養や教育に関わる専門的知識を現場の施設や教職員から学ぶ。 ・教育に関するテーマを早い時期から方向付けることを視野に入れる。								
キーワード		子どもの発達・教育の現状や課題 模擬授業		学修教育目標	・子どもの発達を踏まえて、保育所・幼稚園・小学校の指導の実際を理解することができる。					
授業科目の概要及び学修上の助言										
（概要）現在の教育を取り囲む環境、特に幼少年期の教育が重要視される中で、教育の現状や課題を認識し、幅広い教養や子どもの発達と教育に関わる専門的知識を現役の教職員から学び、指導案が書けるようにする。 （助言）現場の先生方の講話が理解できるように事前に指示した課題に取り組んだ後、授業を受けるとともに、多くの指導案を読みなれるようにする。										
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能										
（関連）上学年で履修する各現場での教育実習。 （予備知識）保育所保育指針・幼稚園教育要領・小学校学習指導要領の事前学習。										
教 科 書					参考書・リザーブドブック					
自作資料使用					・保育所保育指針（平成 29 年 3 月公示版） ・幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月公示版） ・小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月公示版）					
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。			保・幼・小各年代における子どもの発達の違いについて理解することができる。						○
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。			個別の場面における子どもとの関係の取り方について演習することができる。						△
③	子どもの発達に関する知識を身につける。			具体の事例に沿って子どものものの見方や考え方を理解することができる。						◎
④	子どもの発達に関する技能を身につける。			具体の事例に沿って子どもとコミュニケーションをとる演習ができる。						○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。			教職をめざす学生としての自覚が表れるような、学習態度が見て取れる。						◎
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。			近隣の学校訪問や、演習課題への取り組みに自分なりの目当てをもって真剣に取り組もうとする。						◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標										
分類(4 つの力)		能力要素(13 の要素)			授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性			場面や組織の中で自分の役割と責任を判断し、主体的に取り組むことができる。					◎
		② 働きかけ力								
		③ 実行力								
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力			自分を客観的に観察し、適切に状況を把握し、課題を見つけ解決しようとすることができる。					○
		② 計画力								
		③ 創造力								
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力								
		② 傾聴力			相手の話しやすい環境をつくり、適切なタイミングで質問する等相手の意見を引き出すことができる。					◎
		③ 柔軟性								
		④ 状況把握力								
		⑤ 規律性			環境や礼儀をはじめ、社会人としてのルールや約束を守り、適切な態度・言動をとることができる。					○
		⑥ ストレスコントロール力								
4. 倫理観		① 倫理性								

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			40	30		30				100
評価の指標	知識に関する評価		8	6		6				20
	技能に関する評価		8	6		6				20
	応用力に関する評価		8	6		6				20
	チームワーク力に関する評価		8	6		6				20
	関心・意欲に関する評価		8	6		6				20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
自分自身の問題として教職の課題を捉え、子どもの発達を踏まえて、保育所・幼稚園・小学校の指導の実際を理解することができる。 また、実技への取り組みにおいて、自らも楽しんで取り組むことができる。					子どもの発達を踏まえて、保育所・幼稚園・小学校の指導の実際を理解することができる。また、実技への取り組みにおいて、最後まで取り組むことができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	イントラダクション(事前・社会人基礎力シートの記入を含む) 本「子ども発達学基礎演習」の構成、授業の進め方、授業の受け方	講義 対面授業	・絵本とは何か	40
	授業の進め方、授業の受け方が理解できる。			
第 2 回 ／	保育から生まれた絵本	講義 対面授業	・絵本総論—絵本とは何か—	40
	講師先生の伝えたいことを理解することができる。			
第 3 回 ／	国語科教育の観点から言葉を綴る	講義と演習 対面授業	・書評を書くことを通して絵本を理解する	40
	書評・紹介文を書く			
第 4 回 ／	地域の中での図書館の意義、連携とは	外部講師を招いての講義 対面授業	・図書館等での出会い～絵本の活用及び地域連携の可能性～	40
	講師先生の伝えたいことを理解することができる。			
第 5 回 ／	社会的発達に絵本がもたらす意義	講義 対面授業	・子どもの知的・社会的発達と絵本との関わり	40
	講師先生の伝えたいことを理解することができる。			
第 6 回 ／	相談機関での子どもたちと絵本で出会う	講義 対面授業	・心のケアと絵本の可能性	40
	講師先生の伝えたいことを理解することができる。			
第 7 回 ／	保育と子どもと絵本の世界	講義 対面授業	・子どもの心を捉えれ離さないもの	40
	講師先生の伝えたいことを理解することができる			
第 8 回 ／	物語りが生まれる現場から	外部講師を招いての講義 対面授業	・さまざまなジャンルの絵本	40
	講師先生の伝えたいことを理解することができる。			
第 9 回 ／	絵本・仕事・キャリア教育	講義 対面授業	・書店での出会い	40
	講師先生の伝えたいことを理解することができる。			
第 10 回 ／	指導案の書き方①（幼稚園・保育所）	講義 対面授業	・保育所保育指針・幼稚園指導要領の指定個所の予習	40
	子どもの発達段階に応じた幼稚園の指導案の書き方が理解できる。			
第 11 回 ／	指導案の書き方②（小学校）	外部講師を招いての講義 対面授業	・保育所保育指針「言葉」「表現」 ・幼稚園教育要領「言葉」 ・小学校学習指導要領国語科解説「読む」読み取り	40
第 12 回 ／	教育現場訪問 演習—読み聞かせ—	外部講師を招いての講義 対面授業	・「観察の視点」に副った現場訪問のレポート ・グループ別模擬授業の準備	40
	講師先生の伝えたいことを理解することができる。			
第 13 回 ／	グループ別模擬授業（1）	グループ別模擬授業（演習） 対面授業	・グループ別模擬授業の準備	40
	これまでの授業を通して、子どもの発達を踏まえて自分自身の問題として教職の課題を捉え、子どもの発達を踏まえて、幼稚園・小学校の実際を理解することができる。			
第 14 回 ／	グループ別模擬授業（2）	グループ別模擬授業（演習） 対面授業	・グループ別模擬授業の準備	60
	これまでの授業を通して、子どもの発達を踏まえて自分自身の問題として教職の課題を捉え、子どもの発達を踏まえて、幼稚園・小学校の実際を理解することができる。			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとにに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SPE14F101S		専門教育科目 教育・保育実習領域		教職実践演習（初等） Exercise for Teaching Profession (Elementally)		2単位	必 修	演 習	4年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標										
学修教育目的	教職に関する基本的な理解を確かなものとし、教職現場における対人関係能力、児童生徒を理解し、学級経営の基本的な能力および教科内容の理解とそれを活かした授業を構想し、実現する力など、基本的な指導力に関する能力を修得する。									
	キーワード		基本的な指導力に関する能力の修得		学修教育目標	学校教育の場で直面する問題点を整理し、それに対応する実践的な能力を身に付ける。自己評価・相互評価を通じて各自が養成段階で修得すべき最小限必要な資質能力（教員としての使命感や責任感，教育的愛情をもって教科指導や生徒指導などの職務を著しい支障が生じることが無く実践できる資質能力）の確立を行う。				
授業科目の概要及び学修上の助言										
（概要） 教職に関わる課題・教科教育（特に授業現場）における課題それぞれのテーマごとに、ロールプレイング・グループディスカッション・模擬授業などを行い、問題点を整理し対応策を考える。 （助言）・教育に対する使命感や責任感をもち、子どもに対する愛情が豊かであること。 ・社会性や対人関係、コミュニケーションの能力が適切であること。										
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能										
（他の科目）教育実習(小学校)、教育実習(幼稚園)、教育実習(保育所) （予備知識）・児童、園児の理解や学級経営等に関する必要な能力の基礎を身に付けていること。 ・教科等の指導力の基礎を形成していること。										
教 科 書					参考書・リザーブドブック					
学習指導要領（最新版） 文部科学省					授業ごとに必要資料を配付					
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。			各幼稚園、小学校、保育所での実習のための事前指導で学んだこと、又、実習で学んだことを知識と実感をもって理解することができる。						◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。			座学を通して幼稚園、小学校、保育所の子どもについての理解を深め、実習体験をもとに指導するという技術を身につけることができる。						○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。			子どもたちの成長の歩みを確かに把握し理解しようとしている。						○
④	子どもの発達に関する技能を身につける。			座学や実習を通してなお足りない技能を修得しようとしている。						△
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。			実習を通して、いっそう強く教職の現場人になりたいと切望し、その職にふさわしい資質を身につける努力を惜しまない。						○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。			これまでの教職の学修を、教職履修カルテをもとに振り返り、卒業までに取り組まなければならない課題について努めようとしている。						○
授業科目における社会人基礎力の育成目標										
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性			各幼稚園、小学校、保育所での実習のための事前指導で学んだこと、又、実習で学んだことを知識と実感をもって理解することができる。					◎
		② 働きかけ力			座学を通して幼稚園、小学校、保育所の子どもについての理解を深め、実習体験をもと指導するという技術を身につけることができる。					
		③ 実行力			子どもたちの成長の歩みを確かに把握し理解しようとしている。					
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力			座学や実習を通してなお足りない技能を修得しようとしている。					○
		② 計画力			実習を通して、いっそう強く教職の現場人になりたいと切望し、その職にふさわしい資質を身につける努力を惜しまない。					○
		③ 創造力			これまでの教職の学修を、教職履修カルテをもとに振り返り、卒業までに取り組まなければならない課題について努めようとしている。					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力			各幼稚園、小学校、保育所での実習のための事前指導で学んだこと、又、実習で学んだことを知識と実感をもって理解することができる。					◎
		② 傾聴力			座学を通して幼稚園、小学校、保育所の子どもについての理解を深め、実習体験をもと指導するという技術を身につけることができる。					
		③ 柔軟性			子どもたちの成長の歩みを確かに把握し理解しようとしている。					
		④ 状況把握力			座学や実習を通してなお足りない技能を修得しようとしている。					○
		⑤ 規律性			実習を通して、いっそう強く教職の現場人になりたいと切望し、その職にふさわしい資質を身につける努力を惜しまない。					
		⑥ ストレスコントロール力			これまでの教職の学修を、教職履修カルテをもとに振り返り、卒業までに取り組まなければならない課題について努めようとしている。					
4. 倫理観		① 倫理性			各幼稚園、小学校、保育所での実習のための事前指導で学んだこと、又、実習で学んだことを知識と実感をもって理解することができる。					○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			50		10	20			20	100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		25						10	35
	技能に関する評価					10				10
	応用力に関する評価		25							25
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価				10	10			10	30
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
教員の使命や職務に関すること、教育現場における社会性・対人能力に関すること、児童・生徒の理解と学級経営に関すること、および教科内容と授業の構想・実現に関することに関して、基本的な認識と能力を身につけている。					教員の使命や職務に関すること、教育現場における社会性・対人能力に関すること、児童・生徒の理解と学級経営に関することに関して基本的な認識と能力を身につけている。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法（全対面授業）	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	○「教職に関わる課題の理解と実践演習」 イントロダクション A（学習の振り返り・教職の意義及び教員の役割）	・講義 対面授業	・授業者からの提出課題に対する取り組み	
第 2 回 ／	学校教育の課題（地域・保護者との連携，学校評価）	・講義 ・グループによるディスカッション 対面授業	・授業ノートの整理 ・授業者からの提出課題に対する取り組み	30
	振り返りシートを書く。			
第 3 回 ／	学級経営の課題（学級の活性化，不登校・学級崩壊への対応）	・講義 ・グループによるディスカッション 対面授業	・授業ノートの整理 ・授業者からの提出課題に対する取り組み	30
	振り返りシートを書く。			
第 4 回 ／	学校組織・協働（校務分掌，危機管理，資質向上と研修・服務）	・講義 ・グループによるディスカッション 対面授業	・授業ノートの整理 ・授業者からの提出課題に対する取り組み	30
	振り返りシートを書く。			
第 5 回 ／	特別活動・総合的な学習の時間の取り組み（意義と課題）	・講義 ・グループによるディスカッション 対面授業	・特別活動と総合的な学習の時間の共通点と相違点 （予習）	30
	振り返りシートを書く。			
第 6 回 ／	特別支援教育の現状と課題	・講義 ・グループによるディスカッション 対面授業	・授業ノートの整理 ・授業者からの提出課題に対する取り組み	30
	振り返りシートを書く。			
第 7 回 ／	事例研究 A（学校教育・学級経営の側面での課題について）	・講義 ・グループによる演習（体育館） 対面授業	・実習期間中の指導案整理 ・授業者からの提出課題に対する取り組み	30
	振り返りシートを書く。			
第 8 回 ／	○「教科教育（特に授業現場）における課題の理解と実践演習」 イントロダクション B（教科に関する基礎知識の確認・補完）	・講義 ・グループによるディスカッション 対面授業	・授業ノートの整理 ・授業者からの提出課題に対する取り組み	30
第 9 回 ／	教科に関する知識の授業への具体化・1（指導案）	・講義 ・グループによるディスカッション 対面授業	・授業ノートの整理 ・授業者からの提出課題に対する取り組み	30
第 10 回 ／	教科に関する知識の授業への具体化・2-1（模擬授業） 実技中心の授業	・講義 ・グループによるディスカッション 対面授業	・模擬授業のための黒板計画作成	30
第 11 回 ／	教科に関する知識の授業への具体化・2-2（模擬授業） グループワークを含む授業	・講義 ・グループによるディスカッション 対面授業	・模擬授業のための指導案作成	30
第 12 回 ／	教科に関する知識の授業への具体化・2-3（模擬授業） 習熟度に差があるクラスでの授業	・講義 ・グループによるディスカッション 対面授業	・模擬授業振り返り	30
第 13 回 ／	授業運営（教科の指導力，生徒への対応）	・講義 ・グループによるディスカッション 対面授業	・授業ノートの整理 ・授業者からの提出課題に対する取り組み	30
第 14 回 ／	○「まとめ」 教員としての能力・資質の確認（自己分析・評価を含む）	・講義 ・グループによるディスカッション 対面授業	・授業ノートの整理 ・授業者からの提出課題に対する取り組み	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SPE53F124S		専門教育科目 教育・保育実習領域	保育実習指導Ⅰ Childcare Laboratory WorkⅠ		1 単位	自 由	講 義	3 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標									
学修教育目的	「保育実習Ⅰ（保育所）」「保育実習Ⅰ（施設）」の意義・目的を理解し、実習内容を理解し、課題を明確化する。子どもの人権やプライバシー保護と守秘義務等について理解する。実習計画の作成・実践・観察・記録・評価の方法について理解する。実習後は、実習の総括と自己評価を行い、それに基づき各自の学習課題の明確化を行う。								
キーワード	保育実習指導 1 心構え・目的・意義・計画・実践 観察・記録・評価・乳幼児理解		学修教育目標	・保育所・児童養護施設等の機能と保育者の職務について学んだことが説明できる。 ・乳幼児の実態を知り、適切な援助法などについて学び実践へとつなげることができる。 ・日々の体験・評価・反省などふり返りを通して、次回の実習に向けての自己課題を明確にし、課題解決への実践力を身につけ実践することができる。 ・保育所・児童養護施設等での実習を通して、乳幼児への理解と保育者としての自覚と態度を身につけ実践することができる。					
授業科目の概要及び学修上の助言									
この授業は、保育所実習の事前・事後指導の役割を果たすものである。具体的には実習を通して、保育を創造していくために必要な心構えや技能を学び、乳幼児の実態、保育者の役割、指導計画の作成及び実践などを通して保育所の実践について基本的なことを学ぶ。 保育実習体験レポート。 ・保育所実習報告会（＊時期は実習終了後に設定） 備考：この授業の履修は、保育所実習報告会の出席を条件とし、報告会においての発表が保育所及び施設実習の単位認定に必要である。									
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能									
1. 保育実習に臨むにあたり、自分に必要な保育技術と知識を習得し、他の授業で学んだ事を復習するとともに、不足している点は自主的に補足できるようにとりくみ、実習直前に慌てることがないように計画的に準備する。 2. 保育実習園先でのオリエンテーションで与えられた課題を、いつでもすぐにできるように練習を積んでおく。 ①ピアノ（伴奏・弾き歌い）の練習 例えば、簡単な幼児の曲など、日々、練習を重ねる。 ②手遊びの練習 ③手づくり教材の準備 例えば、エプロンシアター、パネルシアター、手袋人形、ペープサートなど。 ④読み聞かせ・素話の練習 ＊実習前には、絵本の持ち方、めくり方、ことばの速度などに気を付けて練習を重ねる。 3. 保育所（園）、幼稚園施設などへのボランティアやインターンシップ活動への推奨・期待する。									
教 科 書			参考書・リザーブドブック						
「保育実習の手引き」・「保育実習記録ノート」（授業で配布する） 書 名：幼稚園・保育所・施設実習ワーク〈認定こども園対応改訂版〉 著者名：小林育子・長島和代・権藤真織・小櫃智子 出版社：萌文書林			保育所実習・教育指導案作成等に関わる書籍類など授業時にて適宜紹介する。						
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。		保育実習に必要な心構えや保育実践についての基本を理解する。						◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。								
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		子どもの心身の発達や個々の特性について理解する。						○
④	子どもの発達に関する技能を身につける。								
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		保育実習の意義・目的を理解し実習の内容と自身の課題を明確にする。						○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		子どもとともに育ち子どものために生きる保育者としての自覚と態度を養う。						△
授業科目における社会人基礎力の育成目標									
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性		これまでに学修してきた保育の知識や実技などを生かし、自発的に取り組むことができる。					◎
		② 働きかけ力		状況に応じて効果的に巻き込むための手段を活用する。					△
		③ 実行力		自らが設定した目標が達成できるよう努力する。					◎
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 問題発見力		現状認識と課題を明らかなのするために、他者の意見を積極的に求める。					◎
		② 計画力		課題解決に向けて目標をもって努力することができる。					△
		③ 創造力							
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力		自分の意見を具体的に分かりやすく伝えることができる。					○
		② 傾聴力		相手の意見を最後までしっかり聞くことができる。					○
		③ 柔軟性							
		④ 状況把握力		周囲の人の状況を配慮して行動することができる。					△
		⑤ 規律性							
		⑥ ストレスコントロール力							
4. 倫理観		① 倫理性							

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
		総合評価割合				30	50			20
評価 の 指標	知識に関する評価				20	5				25
	技能に関する評価					30				30
	応用力に関する評価				10	10				20
	チームワーク力に関する評価					5			5	10
	関心・意欲に関する評価								15	15
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
保育所・児童養護施設等での実習を通して、乳幼児への理解と保育者としての自覚と態度を身につけ実践することができる。また、日々の体験・評価・反省などふり返りを通して、次回の実習に向けての自己課題を明確にし、課題解決への実践力を身につけ実践することができる。					「保育実習Ⅰ（保育所）」「保育実習Ⅰ（施設）」の意義・目的、実習内容を理解し、保育実習に必要な心構えや保育実践についての基本を理解する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	事前指導	講義の後、課題レポートを行う。 面接授業	近隣の保育所情報を調べ、まとめる。	30
	保育実習の意義			
	課題レポートによる知識の評価及び授業参加状況による意欲の評価			
第 2 回 ／	保育所や認定こども園の概要・生活について	講義の後、演習を行う。 面接授業	保育所・認定こども園についてまとめる。	30
	ディスカッションによる意欲・知識・応用力等の評価			
第 3 回 ／	子ども理解について	講義の後、演習を行う。 面接授業	年齢別の子どもの発達をまとめる。	30
	演習による意欲・知識・応用力等の評価			
第 4 回 ／	子どもの観察方法	講義の後、演習を行う。 面接授業	学修内容についてまとめる。	30
	演習による意欲・知識・応用力等の評価			
第 5 回 ／	プライバシーの保護と守秘義務	講義の後、課題レポートを行う。 面接授業	学修内容についてまとめる。	30
	課題レポートによる知識の評価および授業参加状況による意欲の評価			
第 6 回 ／	教材(絵本・折り紙・手遊びなど)について	内容を解説した後、演習を行う。 面接授業	手遊びの準備をする。	30
	演習による意欲・技能等の評価			
第 7 回 ／	児童福祉施設における実習の意義 児童福祉施設で働く人の役割と使命	講義の後、演習を行う。 面接授業	学修内容についてまとめる。	30
	ディスカッションによる意欲・知識・応用力等の評価			
第 8 回 ／	施設別の実習内容① 乳児院について	講義の後、演習を行う。 面接授業	乳児院についてまとめる。	30
	ディスカッションによる意欲・知識・応用力等の評価			
第 9 回 ／	施設別の実習内容② 児童養護施設について	講義の後、演習を行う。 面接授業	児童養護施設についてまとめる。	30
	ディスカッションによる意欲・知識・応用力等の評価			
第 10 回 ／	実習日誌の書き方のポイント	内容を解説した後、演習を行う。 面接授業	実習日誌の書き方の練習① 保育所実習	45
	演習による意欲・技能等の評価			
第 11 回 ／	実習日誌の書き方	内容を解説した後、演習を行う。 面接授業	実習日誌の書き方の練習② 施設実習	45
	演習による意欲・技能等の評価			
第 12 回 ／	保育実習の心構えと態度(事前訪問に関する内容を含む)	講義の後、演習を行う。 面接授業	実習の心構えを確認する。	30
	ディスカッションによる意欲・知識・応用力等の評価			
第 13 回 ／	保育実習に向けての準備（提出書類・名札づくりなど）	内容を解説した後、名札づくりを行う。 面接授業	名札を完成させる。	45
	演習による意欲の評価			
第 14 回 ／	事後指導と自己の課題の明確化	内容を解説した後、演習と自己課題のまとめを行う。 面接授業	お礼状を仕上げ、学修内容についてまとめる。	30
	実習の総括と自己評価・お礼状について			
	演習による意欲・応用力等の評価			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
SPE54S124A		専門教育科目 教育・保育実習領域	保育実習指導Ⅱ Childcare Laboratory Work Ⅱ	1 単位	自 由	講 義	4 年次	春学期	
授業科目の学修教育目的・目標									
学修教育目的	「保育実習Ⅱ（保育所）」の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。実習や各教科目の学修によって得た知識・技術を活かした保育実践のための具体的計画の作成・実践を学習する。保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善の方法を理解する。実習後は、実習の総括と自己評価を行い、それに基づき各自の課題の明確化を行う。								
キーワード	施設実習 意義・目的・内容・課題・保育者	学修教育目標	・保育所・児童養護施設等の機能と保育者の職務についての学びを深め、実践へとつなげることができる。 ・乳幼児・児童の実態に即した適切な援助法などを理解し実践できる。 ・日々の体験・評価・反省などふり返りを通して、自己課題を明確にし、課題解決へとつなげることができる。 ・保育所・児童養護施設等での実習を通して、乳幼児・児童への理解を深め、保育者としての自覚と責任感を持って実践することができる。						
授業科目の概要及び学修上の助言									
この授業は、保育実習の事前・事後指導の役割を果たすものである。具体的には実習を通して、保育を創造していくために必要な心構えや技能を学び、乳幼児の実態、保育者の役割、指導計画の作成及び実践などを通して保育所の実践について基本的なことを学ぶ。さらに、保育実習（Ⅰ）・（Ⅱ）を踏まえ、保育実習に関わる全ての単位を取得した上で、実習に臨むことができる。 指導案作成に当たっては、子どもひとり一人のよさや可能性を生かし、個々に応じた総合的な指導に努める。また、子どもの行動や理解力を把握し、予想される活動を計画的に環境の構成に努める。実習終了後、大学において実習の総括と評価を行い新たな学習課題を明確にする。施設実習体験レポートを作成し報告会を実施する。（※時期は実習終了後に設定） 備考：この授業の履修は、保育所実習報告会の出席を条件とし、報告会においての発表が保育実習の単位認定に必要である。									
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能									
1. 保育（施設）実習に臨むにあたり、自分に必要な保育技術と知識を習得し、他の授業で学んだ事を復習するとともに、不足している点は自主的に補足できるようにとりくみ、実習直前に慌てることがないように計画を持って準備する。 2. 保育実習園先でのオリエンテーションで与えられた課題をいつでもすぐにはできるように練習を積んでおく。 ①ピアノ（伴奏・弾き歌い）の練習 例えば、簡単な幼児の曲など、日々、練習を重ねる。 ②手遊びの練習 ③手づくり教材の準備 例えば、エプロンシアター、パネルシアター、手袋人形、ペープサートなど。 ④読み聞かせ・素話の練習 ＊実習前には、絵本の持ち方、めくり方、ことばの速度などに気を付けて練習を重ねる。 3. 保育所（園）、幼稚園施設などへのボランティアやインターンシップ活動への推奨・期待する。									
教 科 書			参考書・リザーブブック						
「保育実習の手引き」・「保育実習記録ノート」（授業で配布する） 書 名：幼稚園・保育所・施設実習ワーク・認定こども園対応改訂版 著者名：小林育子・長島和代・権藤真織・小櫃智子 出版社：萌文書林			保育所実習・教育指導案作成等に関わる書籍類など授業時にて適宜紹介する。						
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。								
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。		指導案に沿った保育の準備を行い、授業内で模擬保育を実施することによって自らの評価と課題を明確にする。						◎
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		子どもの心身の発達や個々の特性について理解する。						◎
④	子どもの発達に関する技能を身につける。								
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		保育実習の意義・目的を理解し実習の内容と自身の課題を明確にする。						◎
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		子どもの可能性を生かし、個々に応じた総合的な指導に努める。						○
授業科目における社会人基礎力の育成目標									
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性		これまでに学修してきた保育の知識や実技などを生かし、自発的に取り組むことができる。					◎
		② 働きかけ力		状況に応じて効果的に巻き込むための手段を活用する。					○
		③ 実行力							
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力		現状認識と課題を明らかなのするために、他者の意見を積極的に求める。					◎
		② 計画力		課題解決に向けて目標をもって努力することができる。					△
		③ 創造力							
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力		自分の意見を具体的に分かりやすく伝えることができる。					○
		② 傾聴力		相手の意見を最後までしっかり聞くことができる。					○
		③ 柔軟性							
		④ 状況把握力		周囲の人の状況を配慮して行動することができる。					△
		⑤ 規律性							
		⑥ ストレスコントロール力							
4. 倫理観		① 倫理性							

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合					30	50			20	100
評 価 の 指 標	知識に関する評価				20	5				25
	技能に関する評価					30				30
	応用力に関する評価				10	10				20
	チームワーク力に関する評価					5			5	10
	関心・意欲に関する評価								15	15
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
実習を通して、乳幼児・児童への理解を深め、保育者としての自覚と責任感を持つ。					実習を通して、子どもとともに育ち子どものために生きる保育者としての自覚と態度を養う。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	事前指導	内容を解説した後、発表を行う。 面接授業	保育実習Ⅰを振り返り、発表の準備をしておく。	45
	オリエンテーション・保育実習Ⅰの振り返り 発表および授業参加状況による意欲の評価			
第 2 回 ／	実習の意義・目的の理解	内容を解説した後、課題レポートを行う。 面接授業	学修内容についてまとめる。	30
	課題レポートによる知識の評価および授業参加状況による意欲の評価			
第 3 回 ／	実習内容と課題の明確化	内容を解説した後、課題レポートを行う。 面接授業	学修内容についてまとめる。	30
	課題レポートによる知識の評価および授業参加状況による意欲の評価			
第 4 回 ／	保育実習の内容(保育所・児童養護施設)	内容を解説した後、課題レポートを行う。 面接授業	学修内容についてまとめる。	30
	課題レポートによる知識の評価および授業参加状況による意欲の評価			
第 5 回 ／	実習生としての心構え（守秘義務・職業倫理等）	内容を解説した後、課題レポートを行う。 面接授業	学修内容についてまとめる。	30
	課題レポートによる知識の評価および授業参加状況による意欲の評価			
第 6 回 ／	指導計画の立て方① 3歳未満	内容を解説した後、演習を行う。 面接授業	『保育所保育指針解説書』を参考に、子どもの発達をまとめる。	30
	演習による意欲・知識・応用力等の評価			
第 7 回 ／	指導計画の立て方② 3歳以上	内容を解説した後、演習を行う。 面接授業	指導計画作成のための参考資料を集める。	30
	演習による意欲・知識・応用力等の評価			
第 8 回 ／	指導計画の作成	内容を解説した後、指導計画を作成する。 面接授業	指導計画を完成させる。	45
	指導計画作成による意欲・知識・技能・応用力等の評価			
第 9 回 ／	指導計画案に沿った保育の準備	模擬保育の準備を行う。 面接授業	模擬保育の準備をする。	45
	模擬保育準備活動による意欲・知識・技能・応用力等の評価			
第 10 回 ／	模擬保育①	模擬保育を行う。 面接授業	模擬保育の反省等をまとめる。	30
	模擬保育による意欲・技能・応用力等の評価			
第 11 回 ／	模擬保育②	模擬保育を行う。 面接授業	模擬保育の反省等をまとめる。	30
	模擬保育による意欲・技能・応用力等の評価			
第 12 回 ／	実習、事前訪問・オリエンテーションに向けて	講義の後、グループディスカッションを行う。 面接授業	実習の心構え、提出書類等を確認する。	30
	ディスカッションによる意欲・知識・応用力等の評価			
第 13 回 ／	保育実習に向けて	講義の後、グループディスカッションを行う。 面接授業	保育教材の準備をする。	45
	ディスカッションによる意欲・知識・応用力等の評価			
第 14 回 ／	実習の総括と自己評価	内容を解説した後、演習を行う。 面接授業	学修内容についてまとめる。	30
	演習による意欲・応用力等の評価			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
SPE53F125S		専門教育科目 教育・保育実習領域	保育実習Ⅰ（保育所） Childcare TrainingⅠ（Nursery School）		2単位	自 由	実 習	3年次	秋学期	
授業科目の学修教育目的・目標										
学修教育目的	保育所における実習を通して、保育所、児童福祉施設等の役割や機能を理解する。子どもの生活の観察や子どもとの関わり、保育の指導計画の作成、実施、評価を通して子どもへの理解を深め、子どもの保育の実際を学び、保育士の役割や職業倫理について具体的総合的に理解する。反省会では保育士としての資質・技能を再評価することを促す。									
	キーワード 保育実習Ⅰ 意義・目的・観察・評価・記録		学修教育目標	・保育実習の意義や内容を理解し、子どもの人権に最大限の配慮ができる。 ・実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法を学び、実践できる。 ・保育実習事後指導を通じて自己評価を行い、新たな課題の発見や目標を明確にできる。						
授業科目の概要及び学修上の助言										
1. 乳幼児の実態と環境を考慮した指導案を作成する。 ・保育所での1日の生活の流れをしっかりと把握しておく。 ・子どもに伝える際に、どの様な表現で伝えていくか、具体的なことばを考えておく。 2. 保育実習先でのオリエンテーションで与えられた課題。 例えば、課題曲の歌を歌う、またはピアノの演奏をする・絵本・紙芝居・エプロンシアター・ペープサート等を、子ども達の前でスムーズにできるように実習が始まる前に計画して練習を積んでおく。 ・ピアノでの簡単な幼児の曲（四季の歌・歌曲集などを参考に）が弾けるように、日々練習を積み重ねる。 ・時間を見つけ、例えば、制作物・ゲーム・体操などを準備して置き、いつでもすぐにできるようにしておく。 3. 保育所（園）、幼稚園施設などへのボランティアやインターンシップ活動への推奨・期待する。 保育実習Ⅱ. においては、保育実習指導Ⅰ・Ⅱ.（事前指導）を受講することが必修条件である。 ・観察実習を通して、「保育を見る目を養う」ことを基本に、実習生自身のまなざしでしっかりと捉え理解する。										
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能										
保育所実習においては、保育所施設の実践に日々参与しながら、それらの観察を通して見えてきたことを日々の記録（日誌）を書き、乳幼児の実態や保育者の役割などの理解を深める。 ・評価基準は規定の実習日数に合わせて、実習施設での評価を基に、評価項目1. 実習に対する姿勢、態度、2. 十分な子ども理解、3. 保育への対応、4. 実習記録の内容である。これらの項目を教育実習中に実習生が心がけて、努力すべく内容である。										
教 科 書				参考書・リザーブドブック						
「保育実習の手引き」・「保育実習記録ノート」				書 名：平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定子ども園教育保育要領解説書 著者名：内閣府 文部科学省 厚生労働省 出版社：チャイルド本社						
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）							
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。		保育者に求められる知識や技能について、ねらいや内容等を理解する。							◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。									
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		乳幼児期における心身の発達が理解できる。							◎
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		子どもとの関わりを通して遊びの内容やねらいを理解する。							◎
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		保育実習の意義・目的を理解し実習の内容と自身の課題を明確にする。							○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		実習を通して、子どもとともに育ち子どものために生きる保育者としての自覚と態度を養う。							○
授業科目における社会人基礎力の育成目標										
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性	これまでに学修してきた保育の知識や実技などを生かし、自発的に取り組むことができる。						△	
		② 働きかけ力	状況に応じて効果的に巻き込むための手段を活用する。						○	
		③ 実行力								
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力	現状認識と課題を明らかなるために、他者の意見を積極的に求める。						○	
		② 計画力	課題解決に向けて目標をもって努力することができる。						△	
		③ 創造力								
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力	自分の意見を具体的に分かりやすく伝えることができる。						△	
		② 傾聴力	相手の意見を最後までしっかり聞くことができる。						○	
		③ 柔軟性								
		④ 状況把握力	周囲の人の状況を配慮して行動することができる。						△	
		⑤ 規律性								
		⑥ ストレスコントロール力								
4. 倫理観		① 倫理性								

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合					60	40				100
評 価 の 指 標	知識に関する評価				40	20				60
	技能に関する評価				10	10				20
	応用力に関する評価				5	5				10
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価				5	5				10
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
子どもの保育の実際を学び、保育士の役割や職業倫理について具体的総合的に理解する。 実また、実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法を学び、実践できる。					保育所における実習を通して、保育所、児童福祉施設等の役割や機能を理解する。また、 子どもの生活の観察や子どもとの関わり、保育の指導計画の作成、実施、評価を通して子 どもへの理解を深める。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／				
第 2 回 ／				
第 3 回 ／				
第 4 回 ／				
第 5 回 ／				
第 6 回 ／				
第 7 回 ／				
第 8 回 ／				
第 9 回 ／				
第 10 回 ／				
第 11 回 ／				
第 12 回 ／				
第 13 回 ／				
第 14 回 ／				

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
SPE54S125A		専門教育科目 教育・保育実習領域		保育実習Ⅱ（保育所） Childcare TrainingⅡ（Nursery School）		2単位	自 由	実 習	4年次	春学期	
授業科目の学修教育目的・目標											
学修教育目的	養護と教育が一体となって行われる保育実践を通して、保育所の社会的役割と意義を理解する。子どもの観察や関わりの視点を明確にし、保育の理解を深める。保護者・家庭への支援と関係機関や地域との連携・協働についても理解する。保育士養成課程の各教科目の学修や「保育実習Ⅰ（保育所）」の経験を踏まえ、保育の全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・観察・記録・評価を行い、理解を深めるとともに多様な保育の展開と保育士の業務内容や職業倫理について理解する。										
キーワード	保育実習 指導計画・実施・評価・自己課題			学修教育目標	・保育実習の指導計画に基づく指導案の作成・実施・評価の活動を通して、保育所の実践についての基礎的な形成を学び、保育への問題意識を深めながら自らの実践へとつなげることができる。 ・自己課題を把握し、将来目標とする保育士像を具体化し、学びを高める意識を持って実践することができる。						
授業科目の概要及び学修上の助言											
1. 乳幼児の実態と環境を考慮した指導案を作成する。 ・保育所での1日の生活の流れをしっかりと把握しておく。 ・子どもに伝える際に、どの様な表現で伝えていくか、具体的なことばを考えておく。 2. 保育実習先でのオリエンテーションで与えられた課題。 例えば、課題曲の歌を歌う、またはピアノの演奏をする・絵本・紙芝居・エプロンシアター・ペープサート等を、子ども達の前でスムーズにできるように実習が始まる前に計画して練習を積んでおく。 ・ピアノでの簡単な幼児の曲（四季の歌・歌曲集などを参考に）が弾けるように、日々練習を積み重ねる。 ・時間を見つけ、例えば、制作物・ゲーム・体操などを準備して置き、いつでもすぐに行えるようにしておく。 3. 保育所（園）、幼稚園施設などへのボランティアやインターンシップ活動への推奨・期待する。 保育実習Ⅱ. においては、保育実習指導1・Ⅱ.（事前指導）を受講することが必修条件である。 ・観察実習を通して、「保育を見る目を養う」ことを基本に、実習生自身のまなざしでしっかりと捉え理解する											
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能											
保育所実習においては、保育所施設の実践に日々参与しながら、それらの観察を通して見えてきたことを日々の記録（日誌）を書き、乳幼児の実態や保育者の役割などの理解を深める． ・評価基準は規定の実習日数に合わせて、実習施設での評価を基に、評価項目 1. 実習に対する姿勢、態度、2. 十分な子ども理解、3. 保育への対応、4. 実習記録の内容である。これらの項目を教育実習中に実習生が心がけて、努力すべく内容である。											
教 科 書					参考書・リザーブドブック						
なし					なし						
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）							
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。			保育者に求められる知識や技能について、ねらいや内容等を理解する。						◎	
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。										
③	子どもの発達に関する知識を身につける。			乳幼児期における心身の発達が理解できる。						◎	
④	子どもの発達に関する技能を身につける。			子どもとの関わりを通して遊びの内容やねらいを理解する。						◎	
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。			保育実習の意義・目的を理解し実習の内容と自身の課題を明確にする。						◎	
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。			実習を通して、子どもとともに育ち子どものために生きる保育者としての自覚と態度を養う。						◎	
授業科目における社会人基礎力の育成目標											
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性			これまでに学修してきた保育の知識や実技などを生かし、自発的に取り組むことができる。						
		② 働きかけ力			状況に応じて効果的に巻き込むための手段を活用する。						○
		③ 実行力									
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力			現状認識と課題を明らかなのするために、他者の意見を積極的に求める。						○
		② 計画力			課題解決に向けて目標をもって努力することができる。						△
		③ 創造力									
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力			自分の意見を具体的に分かりやすく伝えることができる。						△
		② 傾聴力			相手の意見を最後までしっかり聞くことができる。						◎
		③ 柔軟性									
		④ 状況把握力			周囲の人の状況を配慮して行動することができる。						○
		⑤ 規律性									
		⑥ ストレスコントロール力									
4. 倫理観		① 倫理性									

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合					60	40				100
評 価 の 指 標	知識に関する評価				40	20				60
	技能に関する評価				10	10				20
	応用力に関する評価				5	5				10
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価				5	5				10
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
実習を通して、乳幼児の理解を深め、保育者としての自覚と責任感を持つ。 自己評価を行い、自己課題を把握して将来目標とする保育士像を具体化しながら学びを 高める意識を持って実践することができる。					指導案の作成・実施・評価の活動を通して、保育への問題意識を深めながら保育所の実 践についての基礎的な形成が理解できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回				
／	授業担当教員、大学の担当教員、実習保育所の指導担当者の指導を受け、保育所で 2 週間の実習を行う。 実習スケジュールの詳細は、実習保育所の指示に従う。			
第 2 回				
／	授業外学修課題として、事前に指示した課題、及び太成学院大学作成の「保育実習日誌」の記載を行う。			
第 3 回				
／				
第 4 回				
／				
第 5 回				
／				
第 6 回				
／				
第 7 回				
／				
第 8 回				
／				
第 9 回				
／				
第 10 回				
／				
第 11 回				
／				
第 12 回				
／				
第 13 回				
／				
第 14 回				
／				

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SPE54S126S		専門教育科目 教育・保育実習領域		保育実習Ⅰ（施設） Childcare TrainingⅠ（Institution）		2単位	自 由	実 習	4年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標										
学修教育目的	児童養護施設・障がい児施設などの児童福祉施設における実習を通して、施設の役割や機能を理解する。施設における子どもの生活の実際を観察し、個々の子どもに応じた援助や関わり、健康管理や安全対策について保育実践を通して具体的に学ぶ。反省会では保育士としての資質・技能を再評価することを促す。									
	キーワード		学修教育目標		保育実習の意義や内容を理解し、子どもの人権に最大限の配慮ができる。 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法を学び、実践できる。 保育実習事後指導を通じて自己評価を行い、新たな課題の発見や目標を明確にできる。					
授業科目の概要及び学修上の助言										
1. 施設の役割と機能 施設における子どもの生活と保育士の援助やかかわりについて、観察を通して理解を深め、施設の役割と機能を理解する。 2. 子どもの理解 かかわりをとおして子ども理解を深め、また個々の状態に応じた援助やかかわりの必要性を学び実践に努める。 3. 施設における子どもの生活と環境 活動や援助のための計画について理解し、子どもの心身の状態に応じた生活と対応のあり方を学ぶ。また、子どもの活動に適した環境や健康管理、安全対策の重要性について理解し、実践に努める。 4. 計画と記録 支援計画と支援計画に基づく支援の実際について理解し、実践に努める。また、実習日誌など記録に基づく省察・自己評価を行う。 5. 専門職としての保育士の役割と倫理 施設養護における保育士の業務内容について理解を深め、職員間の役割分担や連携のあり方、保育士の役割と職業倫理について十分理解する。										
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能										
保育所実習においては、施設の実践に日々参与しながら、それらの観察を通して見えてきたことを日々の記録（日誌）を書き、乳幼児の実態や保育者の役割などの理解を深める。 ・評価基準は規定の実習日数に合わせて、実習施設での評価を基に、評価項目 1. 実習に対する姿勢、態度、2. 十分な子ども理解、3. 保育への対応、4. 実習記録の内容である。これらの項目を実習中に実習生が心がけて、努力すべき内容である。										
教 科 書					参考書・リザーブドブック					
「保育実習の手引き」・「保育実習記録ノート」					なし					
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。			保育者に求められる知識や技能について、ねらいや内容等を理解する。						◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。									
③	子どもの発達に関する知識を身につける。			子どもの心身の発達が理解できる。						◎
④	子どもの発達に関する技能を身につける。			子どもとの関わりを通して遊びの内容やねらいを理解する。						○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。			保育実習の意義・目的を理解し実習の内容と自身の課題を明確にする。						○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。			実習を通して、子どもとともに育ち子どものために生きる保育者としての自覚と態度を養う						○
授業科目における社会人基礎力の育成目標										
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性		これまでに学修してきた保育の知識や実技などを生かし、自発的に取り組むことができる。						
		② 働きかけ力		状況に応じて効果的に巻き込むための手段を活用する。						○
		③ 実行力								
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力		現状認識と課題を明らかなのするために、他者の意見を積極的に求める。						◎
		② 計画力		課題解決に向けて目標をもって努力することができる。						△
		③ 創造力								
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力		自分の意見を具体的に分かりやすく伝えることができる。						△
		② 傾聴力		相手の意見を最後までしっかり聞くことができる。						○
		③ 柔軟性								
		④ 状況把握力		周囲の人の状況を配慮して行動することができる。						○
		⑤ 規律性								
		⑥ ストレスコントロール力								
4. 倫理観		① 倫理性								

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合					60	40				100
評 価 の 指 標	知識に関する評価				40	20				60
	技能に関する評価				10	10				20
	応用力に関する評価				5	5				10
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価				5	5				10
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
実習を通して子どもの理解を深め、個人の人権に最大限に配慮できる保育者としての自覚と責任感を持つ。また、保育実習事後指導を通じて自己評価を行い、新たな課題の発見や目標を明確にできる。					施設における子どもの生活の実際を観察し、個々の子どもに応じた援助や関わり、健康管理や安全対策について保育実践を通して具体的に学ぶ。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回				
／	授業担当教員、大学の担当教員、実習施設の指導担当者の指導を受け、施設で2週間の実習を行う。 実習スケジュールの詳細は、実習施設の指示に従う。 授業外学修課題として、事前に指示した課題、及び太成学院大学作成の「保育実習日誌」の記載を行う。			
第 2 回				
／				
第 3 回				
／				
第 4 回				
／				
第 5 回				
／				
第 6 回				
／				
第 7 回				
／				
第 8 回				
／				
第 9 回				
／				
第 10 回				
／				
第 11 回				
／				
第 12 回				
／				
第 13 回				
／				
第 14 回				
／				

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SPE54F127A	専門教育科目 教育・保育実習領域	保育実習Ⅲ（施設） Childcare Training Ⅲ（Institution）	2単位	自 由	実 習	4 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標							
学修教育目的	児童養護に関する意義・体系・歴史を理解し、実習を通して児童福祉施設の機能、内容と専門的技術を習得し、保育士として最低限必要な資質を形成する。						
キーワード	施設実習・児童養護 保育・問題意識・福祉実践・指導計画	学修教育目標	・施設実習の指導計画に基づく活動を通して施設での実践について学び、保育への問題意識を深め、実践につなげることができる。 ・自己課題を把握し、将来目標とする保育士や児童福祉施設の職員として社会福祉実践の担い手となれるよう認識したうえで実践することができる。				
授業科目の概要及び学修上の助言							
1. 施設における支援の実際として、 （1）受容し、共感する態度を身につけ実践する、（2）個人差や生活環境に伴う子ども（利用者）のニーズを把握し、子どもに対する理解を深める、（3）個別支援計画の作成と実践を行う、（4）子ども（利用者）の家族への支援と対応について学ぶ、（5）各施設における多様な専門職との連携・協働について学ぶ、（6）地域社会との連携・協働について学ぶ。 2. 保育士の多様な業務と職業倫理について理解を深める。 3. 保育士としての自己課題を明確化できるよう努める。							
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能							
保育所実習においては、所施設の実践に日々参与しながら、それらの観察を通して見えてきたことを日々の記録（日誌）を書き、乳幼児の実態や保育者の役割などの理解を深める。 ・評価基準は規定の実習日数に合わせて、実習施設での評価を基に、評価項目 1. 実習に対する姿勢、態度、2. 十分な子ども理解、3. 保育への対応、4. 実習記録の内容である。これらの項目を実習中に実習生が心がけて、努力すべく内容である。							
教 科 書				参考書・リザーブドブック			
「保育実習の手引き」・「保育実習記録ノート」				なし			
No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	保育者に求められる知識や技能について、ねらいや内容等を理解する。					◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。						
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	子どもの心身の発達が理解できる。					◎
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	子どもとの関わりを通して遊びの内容やねらいを理解する。					◎
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	保育実習の意義・目的を理解し実習の内容と自身の課題を明確にする。					◎
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	実習を通して、子どもとともに育ち子どものために生きる保育者としての自覚と態度を養う。					◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標							
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）	① 主体性	これまでに学修してきた保育の知識や実技などを生かし、自発的に取り組むことができる。					
	② 働きかけ力	状況に応じて効果的に巻き込むための手段を活用する。					◎
	③ 実行力						
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）	① 課題発見力	現状認識と課題を明らかなのするために、他者の意見を積極的に求める。					○
	② 計画力	課題解決に向けて目標をもって努力することができる。					△
	③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）	① 発信力	自分の意見を具体的に分かりやすく伝えることができる。					△
	② 傾聴力	相手の意見を最後までしっかり聞くことができる。					○
	③ 柔軟性						
	④ 状況把握力	周囲の人の状況を配慮して行動することができる。					○
	⑤ 規律性						
	⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観	① 倫理性						

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合					60	40				100
評 価 の 指 標	知識に関する評価				40	20				60
	技能に関する評価				15	12				27
	応用力に関する評価				5	4				9
	チームワーク力に関する評価					2				2
	関心・意欲に関する評価					2				2
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
実習を通して、子どもの理解を深め、保育者としての自覚と責任感を持つ。自己評価を行い、課題の発見や目標を明確にできる。					実習を通して児童福祉施設の機能、内容を習得する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／				
第 2 回 ／		授業担当教員、大学の担当教員、実習施設の指導担当者の指導を受け、施設で2週間の実習を行う。 実習スケジュールの詳細は、実習施設の指示に従う。 授業外学修課題として、事前に指示した課題、及び太成学院大学作成の「保育実習日誌」の記載を行う。		
第 3 回 ／				
第 4 回 ／				
第 5 回 ／				
第 6 回 ／				
第 7 回 ／				
第 8 回 ／				
第 9 回 ／				
第 10 回 ／				
第 11 回 ／				
第 12 回 ／				
第 13 回 ／				
第 14 回 ／				

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SCP32F104S		専門教育科目 子ども心理学領域		幼児児童心理学 Psychology to Infancy		2単位	必 修	講 義	2 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標										
学修教育目的	ヒトの一生における幼児期・児童期の特徴や、幼児児童心理学の基本的な概念の理解を深める。幼児期および児童期の認知発達、パーソナリティの発達、あるいは生活環境について学修する。									
	キーワード	心理発達 生涯発達 乳幼児期から児童期 家庭・学校	学修教育目標	1. 定型発達を理解することにより、子どものよりよい発達を促す環境と援助について理解する 2. 子どもの学びの過程や特性の基本手知識を習得し、発達の課題に応じた援助や関わりを考えることができる						
授業科目の概要及び学修上の助言										
授業科目の概要 本科目では乳幼児期から児童期に至る心理発達における基礎的な理論を学ぶ。 学修上の助言 学修課題を意欲的に取り組むこと。										
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能										
他の科目との関連 人間の心・教育心理学・発達心理学・障がい児心理学 履修に必要な予備知識や技能 心理学領域科目の履修が望ましい。										
教 科 書						参考書・リザーブドブック				
書 名：幼児・児童の発達心理学 著者名：中澤 潤 監修 中道主人・榎本淳子（編） 出版社：ナカニシヤ出版						なし				
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。			心理学の専門的な用語を学び、子どもの発達の変化について説明することができる。						○
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。									
③	子どもの発達に関する知識を身につける。			幼児児童心理学の用語を説明することができる。						◎
④	子どもの発達に関する技能を身につける。									
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。			発達支援について説明することができる。						◎
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。			本授業で学んだ知識を、教育現場にどのように活かすことができるかを説明することができる。						○
授業科目における社会人基礎力の育成目標										
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性			集団や組織の中で自分の役割と責任を判断し、主体的に取り組むことができる。					○
		② 働きかけ力			集団や組織の中でリーダーシップを発揮し、他者や組織を動かしながら目標達成に向けて働きかけることができる。					△
		③ 実行力								
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力			自分を客観的に観察し、適切に状況を把握し、課題を見つけ解決しようとすることができる。					○
		② 計画力			問題解決のプロセスを明らかにし、優先順位をつけて計画を立てることができる。					○
		③ 創造力			様々な知識・技能等を組み合わせ、問題の解決に対して新たな方法を考えることができる。					○
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力								
		② 傾聴力								
		③ 柔軟性								
		④ 状況把握力								
		⑤ 規律性								
		⑥ ストレスコントロール力								
4. 倫理観		① 倫理性			建学の精神「教育は徳なり」を深く理解し、教員・保育士としての責任と自覚を持ち、自分の能力を他人のためにいかそうとすることができる。					△

※1 ◎授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			44						56	100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		44						36	80
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価								10	10
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価								10	10
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
乳幼児期から児童期に至る心理発達における基礎的な理論を理解し，説明できる。					乳幼児期から児童期に至る心理発達における基礎的な理論を理解できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション ー幼児児童心理学の概観ー	面接授業	社会人基礎力事前・事後評価シートの記入	30
	コメントシート			
第 2 回 ／	人間の発達と幼児児童期の位置づけ	面接授業	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30 30
	コメントシート			
第 3 回 ／	からだと運動 ー未分化から分化へー	面接授業	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30 30
	コメントシート			
第 4 回 ／	記憶 ー記憶の様々な側面ー	面接授業	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30 30
	コメントシート			
第 5 回 ／	思考 ー具体的な思考から抽象的な思考へー	面接授業	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30 30
	コメントシート			
第 6 回 ／	概念発達 ー素朴な概念から科学的概念へー	面接授業	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30 30
	コメントシート			
第 7 回 ／	言語 ー話し言葉から書き言葉へー	面接授業	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30 30
	コメントシート			
第 8 回 ／	遊び ー遊びが育むものー	面接授業	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30 30
	コメントシート			
第 9 回 ／	自己と情動 ー情動表出の調整についてー	面接授業	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30 30
	コメントシート			
第 10 回 ／	社会性 ー他律から自律へー	面接授業	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30 30
	コメントシート			
第 11 回 ／	対人関係（1） 親子関係について	面接授業	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30 30
	コメントシート			
第 12 回 ／	対人関係（2） 仲間関係について	面接授業	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30 30
	コメントシート			
第 13 回 ／	集団生活 ー幼稚園・保育園から小学校へー	面接授業	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30 30
	コメントシート			
第 14 回 ／	子どもの障がいと非定型発達の理解	面接授業	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30 30
	コメントシート			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SCP33S106S	専門教育科目 子ども心理学領域	子どもの家庭支援の心理学 Psychology of Child and Family Support		2単位	必 修	講 義	3年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を理解し、その視点から家庭や家族の意義や機能、親子関係や家族関係について学修する。また、子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解し、そこで育つ子どもの精神保健とその課題について学修する。							
キーワード	子育て家庭、親子関係、家族関係、生涯発達	学修教育目標	・生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。 ・家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を修得する。 ・子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 ・子どもの精神保健とその課題について理解する。					
授業科目の概要及び学修上の助言								
人間の発達を理解した上で、様々な発達段階の人間が構成する家族について理解する。様々な家庭の状況とそれを取り巻く環境と課題を理解し、支援のあり方について学ぶ。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
「子ども家庭福祉論」「子ども家庭支援論」等の科目と合わせ必要な知識を学び、「子育て支援演習」につなげ、子育て家庭の支援に関して総合的な力を養う。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
書 名：子ども家庭支援の心理学入門 著者名：大倉得史・新川泰弘 編著 出版社：ミネルヴァ書房				授業内で適宜指示する。				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。		家庭の意義とその機能について理解する。 子育て家庭を取り巻く社会的状況について理解する。					◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。		子育て家庭の支援体制について理解する。 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。					○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		年齢に応じた発達の特徴と初期経験の重要性を理解する。					○
④	子どもの発達に関する技能を身につける。							
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		保育者としての立場で子育て支援を考えることができる。					○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。							
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性	自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。					○
		② 働きかけ力	状況に応じて効果的に巻き込むための手段を活用することができる。					○
		③ 実行力	強い意志を持ち、困難な状況から逃げずに取り組み続けることができる。					○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 問題発見力	成果のイメージを明確にして、その実現のために現段階でなすべきことを的確に把握できる。					○
		② 計画力	作業のプロセスを明らかにして優先順位をつけ、実現性の高い計画を立てられる。					○
		③ 創造力	成功イメージを常に意識しながら、新しいものを生み出すためのヒントを探している。					○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力	事例や客観的なデータ等を用いて、具体的にわかりやすく伝えることができる。					○
		② 傾聴力						
		③ 柔軟性						
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性						

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		25	25				100
評価 の 指標	知識に関する評価		40		15	10				65
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価					5				5
	チームワーク力に関する評価					5				5
	関心・意欲に関する評価		10		10	5				25
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
子育て家庭の課題を発達の観点から見た家族関係や社会状況に基づき理解し、必要な支援を考えることができる。 子どもの心身の健康に関する課題について理解し、必要な支援を考えることができる。					子育て家庭の課題を発達の観点から見た家族関係や社会状況に基づき理解することができる。 子どもの心身の健康に関する課題について理解することができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション なぜ家庭支援が必要か？	面接授業 講義・演習	(予習)各回のテキストを通読しておくこと。日頃より、子育て家庭に関わる諸問題について関心を持ち、新聞等から情報を得るよう努めること。 (復習)日頃の情報収集や自分の興味関心を講義内容と結びつけて考察し、演習課題等に反映させること。	予習 30 復習 30
	小レポート			
第 2 回 ／	親子関係・家族関係における発達の理論	面接授業 講義・演習	同上	同上
	小レポート			
第 3 回 ／	乳幼児期の子どもの発達と家庭	面接授業 講義・演習	同上	同上
	小レポート			
第 4 回 ／	児童期の子どもの発達と家庭	面接授業 講義・演習	同上	同上
	小レポート			
第 5 回 ／	青年期以降の発達の特徴と課題	面接授業 講義・演習	同上	同上
	小レポート			
第 6 回 ／	家族・家庭の意義と機能	面接授業 講義・演習	同上	同上
	小レポート			
第 7 回 ／	子育て環境の社会状況的变化	面接授業 講義・演習	同上	同上
	小レポート			
第 8 回 ／	子育て家庭を取り巻く社会的状況と課題	面接授業 講義・演習	同上	同上
	小レポート			
第 9 回 ／	子育て・仕事とライフコース	面接授業 講義・演習	同上	同上
	小レポート			
第 10 回 ／	特別な配慮を必要とする家庭への支援	面接授業 講義・演習	同上	同上
	小レポート			
第 11 回 ／	発達支援が必要な子どもと家庭の理解と援助	面接授業 講義・演習	同上	同上
	小レポート			
第 12 回 ／	子どもの生活環境・生育環境と生活習慣の獲得	面接授業 講義・演習	同上	同上
	小レポート			
第 13 回 ／	子どもの心の健康問題と子ども家庭支援	面接授業 講義・演習	同上	同上
	小レポート			
第 14 回 ／	子ども家庭支援をめぐる現代の社会的状況と課題	面接授業 講義・演習	同上	同上
	小レポート			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SCP33S105S		専門教育科目 子ども心理学領域		幼児児童心理学演習 Early Childhood psychology exercise		1 単位	必 修	演 習	3 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標										
学修教育目的		実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義を理解する。子どもの体験や遊びの過程において、子どもを理解するための基本的な考え方と具体的な方法を理解する。また、保育実践における子どもの状況や課題に応じた発達援助の具体的方法を理解する。								
キーワード		乳幼児期から児童期 定型発達 環境と支援		学修教育目標		ヒトの一生における幼児期・児童期の特徴や、幼児児童心理学の基本的な概念の理解を深める。定型発達を理解することにより、幼児児童のよりよい発達を促す環境と支援について考えことができるようになる。				
授業科目の概要及び学修上の助言										
授業科目の概要 本科目では乳幼児期から児童期に至るよりよい心理発達を促す環境と支援について実践的に学ぶ。 学修上の助言 学修課題を意欲的に取り組むこと。										
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能										
他の科目との関連 幼児児童心理学・人間の心・教育心理学・発達心理学・障がい児心理学 履修に必要な予備知識や技能 心理学領域科目の履修が望ましい。										
教 科 書					参考書・リザーブブック					
書 名：【シリーズ知のゆりかご】保育の心理学演習 著者名：青木紀久代 編 出版社：みらい					なし					
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。			心理学の専門的な用語を学び、子どもの発達の変化について説明することができる。						○
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。									
③	子どもの発達に関する知識を身につける。			幼児児童心理学の用語を説明することができる。						○
④	子どもの発達に関する技能を身につける。			幼児児童心理学の知識を技能に応用することができる。						◎
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。			発達支援について説明することができる。						◎
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。			本授業で学んだ知識を、教育現場にどのように活かすことができるかを説明することができる。						○
授業科目における社会人基礎力の育成目標										
分類(4 つの力)		能力要素(13 の要素)		授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性		集団や組織の中で自分の役割と責任を判断し、主体的に取り組むことができる。						○
		② 働きかけ力		集団や組織の中でリーダーシップを発揮し、他者や組織を動かしながら目標達成に向けて働きかけることができる。						○
		③ 実行力		自分に必要な目的を理解し、目標を設定して行動することができる。						○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力		自分を客観的に観察し、適切に状況を把握し、課題を見つけ解決しようとすることができる。						○
		② 計画力		問題解決のプロセスを明らかにし、優先順位をつけて計画を立てることができる。						○
		③ 創造力		様々な知識・技能等を組み合わせ、問題の解決に対して新たな方法を考えることができる。						○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力		自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらうように的確に伝えることができる。						○
		② 傾聴力		相手の話しやすい環境をつくり、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引き出すことができる。						○
		③ 柔軟性		自分のルールややり方に固執するのではなく、相手の意見や立場を尊重し、他人の意見やアドバイスを受け入れ、自己向上につなげようとするすることができる。						○
		④ 状況把握力		全体に及ぼす影響を意識し、自分の置かれている環境や状況を把握し、どのような役割が求められるのかを理解する(自分の役割を理解する)ことができる。						○
		⑤ 規律性		規律や礼儀をはじめ、社会人としてのルールや約束を守り、適切な態度・言動をとることができる。						○
		⑥ ストレスコントロール力		ストレスを感じる状況が生じた時、原因に対して適切な対処方法を理解し、ポジティブ(積極的)に行動することができる。						○
4. 倫理観		① 倫理性		建学の精神「教育は徳なり」を深く理解し、教員・保育士としての責任と自覚を持ち、自分の能力を他人のためにいかそうとすることができる。						○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			55		20	15			10	100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		30		20	10			5	65
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		25			5				30
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価								5	5
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
乳幼児期から児童期に至るよりよい心理発達を促す環境と支援について理解し、説明できる。					乳幼児期から児童期に至るよりよい心理発達を促す環境と支援について理解できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション ① この授業で何を学ぶか ②発達の基本概念	講義、演習 オンデマンド	社会人基礎力事前・事後評価シートの記入	30
	演習			
第 2 回 ／	発達を通じた子どもの理解（2 章）	講義、演習 オンデマンド	復習：授業内容のまとめ	30 30
	演習			
第 3 回 ／	発達を通じた子ども理解（2 章後半）	講義、演習 対面 グループワーク	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30 30
	子どもの権利から行事を考える			
第 4 回 ／	3 章 環境としての保育者と子どもの発達	講義、演習 オンデマンド	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30 30
	オンデマンドを通じた課題			
第 5 回 ／	4 章 子どもの発達とあそび	講義、演習 対面（グループワーク）	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30 30
	発達とあそびについての 演習講義 あそびについてのディスカッション			
第 6 回 ／	年齢に応じたおもちゃづくり①	講義、演習 オンデマンド	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30 30
	課題にそって おもちゃを製作する			
第 7 回 ／	年齢に応じたおもちゃづくり②	講義、演習 対面（グループワーク）	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30 30
	演習 グループでおもちゃづくり			
第 8 回 ／	5 章 認知の発達	講義、演習 オンデマンド	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30 30
	オンデマンドにそって課題作成			
第 9 回 ／	6 章 言葉の発達① わらべ歌 あそびうた	演習 対面	予習：テーマに関する要点整理、 復習：テーマのまとめ	30 30
	演習			
第 10 回 ／	年齢に応じた絵本	演習 対面	予習：テーマに関する要点整理 復習：テーマのまとめ	30 30
	演習			
第 11 回 ／	7 章 子どもの発達と臨床的課題	演習 オンデマンド	予習：テーマに関する要点整理、発表準備 復習：テーマのまとめ	30 30
	オンデマンドにそっての課題作成			
第 12 回 ／	障がいのある子への支援の実際	演習 対面	予習：テーマに基づき、必要なものの準備 復習：テーマのまとめ	30 30
	演習 支援グッズの製作			
第 13 回 ／	発達の課題に応じた援助や関わり	演習 オンデマンド	予習：テーマに関する要点整理、発表準備 復習：テーマのまとめ	30 30
	演習			
第 14 回 ／	まとめ	演習 対面	予習：テーマに関する要点整理、 復習：テーマのまとめ	30 30
	演習			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとにに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）									
ナンバリング		授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SCM32F108S		専門教育科目 子ども医療保健学領域	子どもの保健 Health of Child		2単位	必 修	講 義	2年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標									
学修教育目的									
	子どもの心身の健全な発達や健康増進のために、身体的発育・発達を理解し、それぞれの発達段階に必要な保健に対する考えかたを理解する。また、観察や健康診断、保護者との情報共有等による子どもの心身の健康状態を把握する方法を理解し、疾病の特徴やその予防、適切な対応について学ぶ。								
キーワード	子どもの健康 子どもの心身の発達		学修教育目標	1. 子どもにとっての健康とその重要性の理解。 2. 子どもの身体に関する基礎的な生理機能を科学的に理解する。 3. 受精から出生後の子どもの発達、発育について具体的に理解する。 4. 小児のかかりやすい疾患について学ぶ。					
授業科目の概要及び学修上の助言									
授業の前半は主に子どもの身体の発達を修得し、後半では子どもの生理機能について科学的に理解し、子どものかかりやすい疾病について学ぶ。									
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能									
「子どもの保健Ⅱ」「子どもの保健演習」									
教 科 書				参考書・リザーブドブック					
書 名：子どもの保健 著者名：佐藤 直子／中根 淳子 編著 出版社：ななみ書房				子どもの保健（巷野悟郎編・診断と治療社）・厚生労働省・文部科学省出版 各種ガイドライン等					
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。			子どもの健康について基礎的な知識を身につける。					◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。			子どもの健康を守るために必要な技能を知る。					○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。			子どもの健康な心身の発達に必要な基礎的な知識を知る。					◎
④	子どもの発達に関する技能を身につける。			子どもの健康な心身の発達に必要な基礎的な技能を知る。					○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。			子どもの健康に関して専門職としての使命感、責任感、倫理観を知る。					◎
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。			授業で得た子どもの健康に関しての知識を教育現場で生かすことができる。					○
授業科目における社会人基礎力の育成目標									
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性		子どもの健康について積極的に学ぶ。					○
		② 働きかけ力		状況に応じて効果的に巻き込むための手段を活用することができる。					△
		③ 実行力		小さな成果に喜びを感じ、目標達成に向かって粘り強く取り組み続けることができる。					○
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力		現状を正しく認識するための情報収集や分析ができる。					○
		② 計画力							
		③ 創造力		複数のもの（もの、考え方、技術など）を組み合わせ、新しいものを作り出すことができる。					△
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力		話そうとすることを自分なりに十分に理解して伝えている。					△
		② 傾聴力							
		③ 柔軟性		自分の意見を持ちながら、他人の良い意見も共感を持って受け入れることができる。					△
		④ 状況把握力							
		⑤ 規律性							
		⑥ ストレスコントロール力							
4. 倫理観		① 倫理性		相手の立場に立って行動することができる。					○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
		総 合 評 価 割 合	50		40				10	100
評 価 の 指 標	知識に関する評価	30		20					5	55
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価			10						10
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価	20		10					5	35
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
子どもの健康について科学的な根拠に基づいた知識を習得する。					子どもの健康について基礎的な知識を修得する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション ・子どもの健康と保健の意義	講義 面接授業	自分の今までの健康について考え考察する。	30
第 2 回 ／	子どもの発育・発達	講義 面接授業	自分の母子手帳の記録を参考に発達を考える。	20
第 3 回 ／	乳幼児の身体発達	講義 面接授業		
第 4 回 ／	生理機能の発達（呼吸機能・循環機能・免疫機能）	オンデマンドによる遠隔授業	胎児と出生後の循環の違いを調べる。	30
第 5 回 ／	生理機能の発達（消化機能・尿排泄機能・水分代謝・体温調節）	オンデマンドによる遠隔授業		
第 6 回 ／	生理機能の発達（内分泌機能・睡眠、覚醒リズム・感覚機能）	オンデマンドによる遠隔授業	・自分の一週間の生活リズムを記録し、健康状態との関係を考察する。 ・感覚機能は脳のどの部分で働くのか調べる。	40
第 7 回 ／	生理機能の発達（神経機能・精神機能・情緒、行動発達）	オンデマンドによる遠隔授業		
第 8 回 ／	小児の主な病気（小児の主な病気の特徴・保育の現場でよくある疾患 1）	オンデマンドによる遠隔授業	小児の疾患について原因、症状、対処法などを調べる。	30
第 9 回 ／	小児の主な病気（保育の現場でよくある疾患 2）	オンデマンドによる遠隔授業	小児の疾患について原因、症状、対処法などを調べる。	30
第 10 回 ／	子どもの精神保健	オンデマンドによる遠隔授業		
第 11 回 ／	環境と衛生管理・安全管理	オンデマンドによる遠隔授業		
第 12 回 ／	保育現場の事故防止と安全対策	オンデマンドによる遠隔授業		
第 13 回 ／	健康および安全の実施体制	オンデマンドによる遠隔授業		
第 14 回 ／	子どもの発達過程をまとめて発表する	講義 面接授業	子どもの発達過程をイラストや表にして発表する。	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
SCM33F109S		専門教育科目 子ども医療保健学領域		子どもの保健演習 Child Health Exercise		1 単位	必 修	演 習	3 年次	秋学期	
授業科目の学修教育目的・目標											
学修教育目的	保健的観点踏まえた保育環境援助について学修する。「子どもの保健」講義得た知識もとに、保育現場での健康安全管理、体調不良への適切な対応、感染症対策、配慮を必要とする子どもへの対応について具体的事例もとに理解する。また、健康と安全管理のための組織的取り組みとその評価、家庭・自治体・専門機関等との連携の具体的方法についても学修する。										
	キーワード	子どもの心身の発達と健康			学修教育目標	子どもの健康状態の把握、異常の発見、病気の予防や救急処置、事故防止や安全な保育環境づくりなどについて理解し、実践できる知識と技能を身に付ける。					
授業科目の概要及び学修上の助言											
「子どもの保健Ⅰ」「子どもの保健Ⅱ」で習得した知識をさらに授業の中で実習し、身につける。											
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能											
「子どもの保健Ⅰ」「子どもの保健Ⅱ」											
教 科 書					参考書・リザーブブック						
書 名：新版 子どもの保健Ⅱ 著者名：佐藤 益子／中根 淳子 編著 出版社：ななみ書房					なし						
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）							
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。			「子どもの保健Ⅰ」、「子どもの保健Ⅱ」で学んだことをさらに深める。						◎	
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。			子どもの健康に関する知識を実際の保育場で活かせるように学校実習を通して身につける。						◎	
③	子どもの発達に関する知識を身につける。			子どもの心身の発達と健康課題の知識を知る。						○	
④	子どもの発達に関する技能を身につける。			子どもの心身に発達に応じた健康指導、健康管理ができるようにする。						○	
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。			子どもの健康に関して保育者としての責任感を養う。						○	
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。			実際の保育現場において活用できるような知識、技能を身につける。						○	
授業科目における社会人基礎力の育成目標											
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性			自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。						○
		② 働きかけ力			状況に応じて効果的に巻き込むための手段を活用することができる。						△
		③ 実行力			修得した知識や技術を具体的な行動として実行できる。						◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力			現状を正しく認識するための情報収集や分析ができる。						△
		② 計画力			実際に保育現場で保育どのように活用するのか計画を立てる。						◎
		③ 創造力			子どもへの指導方法を考え、工夫できる。						○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力			話そうとすることを自分なりに十分に理解して伝えている。						○
		② 傾聴力			相手の話を素直に聞くことができる。						△
		③ 柔軟性			自分の意見を持ちながら、他人の良い意見も共感を持って受け入れることができる。						○
		④ 状況把握力			周囲の人の状況（人間関係、忙しさ等）に配慮して、良い方向へ向かうように行動することができる。						○
		⑤ 規律性			相手に迷惑をかけないよう、最低限守らなければならないルールや約束・マナーを理解している。						△
		⑥ ストレスコントロール力			ストレスを感じることは一過性、または当然のことと考え、重く受けとめすぎないようにしている。						△
4. 倫理観		① 倫理性			相手の立場に立って行動することができる。						△

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
		総 合 評 価 割 合	50		30	20				100
評 価 の 指 標	知識に関する評価	40		10						50
	技能に関する評価			10	10					20
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価	10		10	10					30
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
科学的な知識に基づいた演習が理解できる。					理解度80%を目標とする。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション 保育における保健活動	講義 面接授業		
第 2 回 ／	保育者の自己管理とその必要性	講義・演習 面接授業	手洗いの仕方を学ぶ	20
第 3 回 ／	乳幼児の身体測定	講義・演習 面接授業	乳幼児の人形を用いて、身体測定を実習する。	70
第 4 回 ／	子どもの保健と環境	講義・演習 面接授業	自分の生理機能を測定してみる。	40
第 5 回 ／	子どもの発達援助と保健活動	講義・演習 面接授業	乳幼児の人形を用いて、抱き方、衣服の着脱を実習する。	50
第 6 回 ／	身体の清潔	講義・DVD・演習 面接授業	乳児の人形を用いて沐浴を実習する。	80
第 7 回 ／	感染症の予防と対策	オンデマンドによる遠隔授業		
第 8 回 ／	個別的な配慮を必要とする子供への対応 1	オンデマンドによる遠隔授業	子どもの疾患とその対応について調べる。	40
第 9 回 ／	個別的な配慮を必要とする子供への対応 2	オンデマンドによる遠隔授業	子どもの疾患とその対応について調べる。	40
第 10 回 ／	事故防止および健康管理・安全管理	講義・DVD 面接授業		
第 11 回 ／	救急処置および救急蘇生法	講義・DVD・演習 面接授業	DVD を見て乳幼児の人形を使い、心肺蘇生法を実習する。	50
第 12 回 ／	乳幼児の事故と応急手当	講義・演習 面接授業	包帯の巻き方や三角巾の使用方法を実習する。	60
第 13 回 ／	子どもに起こりやすい症状とケア	オンデマンドによる遠隔授業	子どもに起こりやすい症状とケアを調べる。	60
第 14 回 ／	幼児への健康指導	講義・口頭発表 面接授業	幼児への健康指導	50

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
SCM13S107S		専門教育科目 子ども医療保健学領域		子ども医療概論 Introduction to Child Medical Care		2 単位	必 修	講 義	3 年次	春学期	
授業科目の学修教育目的・目標											
学修教育目的	児童・生徒はそれぞれの生活背景があり、個々の健康課題をもっている。保健学習は、「教科外の諸活動を主要な領域として展開される教育活動で、生活の中での健康に関わる子どもの考え方や行動のしかたを育てることに重きを置いて取り組まれる活動」である。しかし、実践に結び付かない保健学習や科学的根拠のない保健指導は好ましくない。特に、最近は、感染症や環境問題が将来を担う子ども達健康問題に及ぼす影響が注目されている。 よって、本講義では、社会環境や医療問題・環境問題から子ども、家族がおかれている状況、子どもと家族に対する課題や役割を考える。子どもの心身の健康保持増進を図る保健活動の意義や子どもについての理解を深めることを目的とする。										
	キーワード	小児医療・発育発達・遺伝・環境問題・生活習慣		学修教育目標	・小児疾患の種類と発育段階による特徴的な症状を理解することができる。 ・幼稚園や小学校教諭に必要な小児医療の病態や治療に関する基礎的知識が習得できる。 ・小児疾患の発症要因と予防対策を理解することができる。 ・特徴的な症状を呈する小児疾患に適切なケアが提供できる基本的技術が習得できる。 ・小児疾患や家庭内事故を予防・防止するための保健指導が提供できる。						
授業科目の概要及び学修上の助言											
幼少児は可塑性に富んでいるので、どのような家庭で養育されるかによって獲得する行動も異なってくる。幼稚園や小学校の教諭は、急速に発育発達しつつある幼少児の発症時に適切に対処すると同時に、発症予防に関する知識や技術を教唆しなければならない。具体的には、基本的生活習慣である食事、睡眠、運動などの行動様式を学習する段階で、身体発育に応じた行動体力や病気への防衛体力である免疫力や予防につながる生活リズムを獲得していくのである。 発症の前段階で未然に発症を予防や早期発見で重篤な症状に陥ることを阻止することは可能である。講義中には、病態のスライドもありますが、健やかな成長を願う子ども達のための教諭の責務として、小児疾患に関する基本的知識を理解し、効果的な保健指導に役立ててほしい。											
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能											
病気の発症要因は、遺伝、環境、生活習慣に大別できることから、発育発達学や病理学をはじめ、生理学や遺伝学、精神衛生学、公衆衛生学、環境学など広範な専門領域が基盤にあり、それぞれの基礎的知識を事前に有することで、より学習内容が理解できる。しかし、これらの学問を事前に学習することは不可能であり、各自が興味ある領域を一つ選択して検索することで、他の領域との関連性が理解できるようになるものである。											
教 科 書					参考書・リザーブブック						
小児疾患に関する基本的内容を抜粋し、毎時プリントを配布します。					特に指定はありませんが、小児医療や小児保健領域の関連書籍は有用です。						
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）							
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。			病理学や栄養学、生理学など医科学の基本的知識とともに精神障害や感染症、アレルギー疾患など今日的な小児医療に関する基礎的知識を習得することができる。							◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。			子ども達の急病や症状の急変とともに頭痛や腹痛、嘔吐など日常的に数多く見られる愁訴に対し、迅速かつ適切な対応できる技術や能力を身につけることができる。							◎
③	子どもの発達に関する知識を身につける。			発達段階の特徴的な感染症や病態の変化などを理解することができる。							◎
④	子どもの発達に関する技能を身につける。			発達段階の行動特性を理解し、日常的な症状や傷害に適切な処置ができる知識や技能が獲得できる。							○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。			子ども達の健康増進を実現させるため、免疫力を高め病気を予防するための生活習慣への介入や傷害防止や感染症予防、食中毒予防など有用な保健指導を実践することができる。							◎
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。			子ども達の発症予防の観点から、家庭との連携を通して食事、睡眠、運動などの生活習慣の改善とともに子ども達の健康意識を高揚させる保健指導を企画・推進することができる。							○
授業科目における社会人基礎力の育成目標											
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性			子ども達の疾病予防を目指した、有用かつ効果的な保健指導を実践することができる。						◎
		② 働きかけ力			適切な生活習慣への介入を通して、疾病予防や感染症予防教育を推進することができる。						◎
		③ 実行力			生活習慣と健康が関わっている内容の具体的な行動様式が持てるよう指導することができる。						○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力			日常的な健康観察を適切に評価し、疾病発症の前段階を見逃すことのない知識や能力が獲得できる。						◎
		② 計画力			子ども達の健康を観察する能力を通して健康状態に的確に対応できる具体的な保健指導ができる。						◎
		③ 創造力			発育について理解できる指導を通して、健康で安全な生活を営む資質や能力を育てることができる。						○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力			最新の医科学情報を的確に判断し、望ましい生活習慣を身につける保健指導に活用できる。						◎
		② 傾聴力			子ども達の行動や言動から、不安や悩みなど精神面の不安定さに対応することができる。						○
		③ 柔軟性			発達段階の子ども達の特徴的な行動様式を理解し、個々の子どもに応じた保健指導ができる。						◎
		④ 状況把握力			急病や災害・事故発生時に、症状悪化や被害の拡大を防ぐ的確かつ迅速な行動ができる。						◎
		⑤ 規律性			疾病予防や感染症予防の観点から、清潔習慣を確立させる保健指導を推進することができる。						○
		⑥ ストレスコントロール力			多様な生活体験を通してメンタルヘルスの発達を促す保健指導ができる。						△
4. 倫理観		① 倫理性			発達段階の個人差を理解し、差別や偏見のない基本的権利である健康を獲得させる指導ができる。						◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	30	10				10	100
評価の指標	知識に関する評価		30	15	5					50
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		10	10					10	30
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価		10	5	5					20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
・小児疾患の治療や免疫機構に関する基本的な知識がある。 ・過去の保健指導を精査し、小児期に有用な保健指導指針が構築できる。 ・子ども達の養育環境を的確に評価し、エビデンスに基づいた助言ができる。 ・最新の医科学情報を積極的に収集し、独自のテキストが作成できる。 ・将来の環境問題に積極的に取り組むことができる。					・小児疾患の種類や発症要因、予防医学に関する基本的知識がある。 ・医科学情報を収集し、疾病予防や生活習慣改善の資料として活用できる。 ・日常的な行動観察から、小児期特有の疾患の早期に発見できる。 ・急性の疾患や傷害に対する迅速かつ適切に対応できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	健康概念と疾病異常 ① 小児疾患の歴史的背景と今日的な健康概念 ② 子どもの疾病の特徴と原因	健康の概念を通して、小児期の疾病について、P.P を中心とした講義を展開する。 面接授業	復習：健康概念と小児疾患の発症要因の理解	20
	確認テスト（小テスト）			
第 2 回 ／	小児期の身体発達と行動評価 ① 発育段階と身体的機能の評価 ② 情緒的発達と情緒の分化	発育発達期の身体的、精神的疾患の特徴について、P.P を中心とした講義を展開する。 面接授業	復習：発育発達期の身体的機能の理解 予習：遺伝子病や染色体異常の検索	20 20
	確認テスト（小テスト）			
第 3 回 ／	遺伝子と先天異常 ① 遺伝病と染色体異常の理解 ② 主な先天疾患や染色体異常	発生学も含め、先天異常や染色体異常について、P.P を中心とした講義を展開する。 面接授業	復習：先天疾患や染色体異常の理解 予習：小児生活習慣病の検索	20 20
	確認テスト（小テスト）			
第 4 回 ／	小児期の生活習慣病 ① 生活習慣病の危険因子 ② 小児期の肥満症と高血圧症	現在の子ども達の生活習慣の問題点から、小児生活習慣病について、P.P を中心とした講義を展開する。 面接授業	復習：小児生活習慣病の理解 予習：呼吸器の構造と機能を検索	20 20
	確認テスト（小テスト）			
第 5 回 ／	小児期の呼吸器系疾患 ① 呼吸器疾患の概要 ② 特徴的な小児期の呼吸器疾患	環境問題も含め、小児に診られる呼吸器疾患とその予後について、P.P を中心とした講義を展開する。 面接授業	復習：小児期に多い呼吸器疾患の理解 予習：循環器の構造と機能を検索 レポートⅠの提出準備	20 20 30
	確認テスト（小テスト）			
第 6 回 ／	小児期の循環器系疾患 ① 循環器疾患の概要 ② 小児期の主な循環器と不整脈	先天異常や臓器移植も含め小児の循環器疾患について、P.P を中心とした講義を展開する。 面接授業	復習：小児期に多い循環器疾患の理解 予習：肝臓・消化器の構造と機能を検索	20 20
	確認テスト（小テスト）・レポート提出Ⅰ			
第 7 回 ／	小児期の肝機能・消化器系疾患 ① 肝疾患・消化器系疾患の概要 ② 小児期の内科的慢性疾患と肝疾患	若年性糖尿病も含め小児期に多い消化器系疾患について、P.P を中心とした講義を展開する。 面接授業	復習：小児期に多い消化器疾患の理解 予習：腎臓・排泄器の構造と機能を検索	20 20
	確認テスト（小テスト）			
第 8 回 ／	小児期の腎・泌尿器系疾患 ① 腎疾患の概要 ② 小児期の特徴的な腎疾患や泌尿器疾患	慢性腎炎や院内学級の実態など、小児期に診られる腎臓病、泌尿器疾患について、P.P を中心とした講義を展開する。 面接授業	復習：小児期の腎臓・泌尿器疾患の理解 予習：ホルモン・免疫系の種類や機序を検索	20 20
	確認テスト（小テスト）			
第 9 回 ／	小児期の内分泌異常と免疫疾患 ① 内分泌・免疫機能の概要 ② 小児期の血液異常と内分泌異常	ホルモン異常や糖代謝異常など、小児期の内分泌疾患と免疫機能について、P.P を中心とした講義を展開する。 面接授業	復習：内分泌異常や免疫疾患の理解 予習：骨格・筋系の名称と機能を検索	20 20
	確認テスト（小テスト）			
第 10 回 ／	小児期の整形外科的疾患 ① 身体機能と整形外科的疾患の概要 ② 小児期の特徴的な運動器の外傷や障害	側弯症や骨粗鬆症と発育期の運動機能障害について、P.P を中心とした講義を展開する。 面接授業	復習：小児期の運動機能障害の理解 予習：脳の構造と神経系の名称を検索 レポートⅡの提出準備	20 20 30
	確認テスト（小テスト）			
第 11 回 ／	小児期中枢神経系疾患 ① 中枢神経系疾患の概要 ② 小児期の神経系疾患や運動機能障害	大脳機能やてんかん、麻痺など小児の神経系疾患について、P.P を中心とした講義を展開する。 面接授業	復習：小児期の神経系障害の理解 予習：主な感染症の種類と感染源を検索	20 20
	確認テスト（小テスト）・レポート提出Ⅱ			
第 12 回 ／	小児期の感染症や食中毒 ① 感染症や食中毒の概要 ② 小児期の主な感染症と食中毒	小児期に多い感染症の種類と予防および食中毒について、P.P を中心とした講義を展開する。 面接授業	復習：小児期に多い感染症の種類と食中毒の理解 予習：アレルギーの種類を検索	20 20
	確認テスト（小テスト）・レポート提出Ⅱ			
第 13 回 ／	小児期のアレルギー疾患と皮膚疾患 ① アレルギー疾患の概要 ② 小児期のアレルギー疾患と皮膚疾患	現在のアレルギー疾患に関する知見と小児期に多い皮膚疾患について、P.P を中心とした講義を展開する。 面接授業	復習：小児期のアレルギー疾患や皮膚疾患の理解 予習：感覚器の構造と機能を検索	20 20
	確認テスト（小テスト）			
第 14 回 ／	小児期の感覚器系疾患 ① 感覚器系疾患の概要 ② 小児期の眼科・耳鼻咽喉疾患・口腔疾患	生活習慣に起因した感覚器の異常について、P.P を中心とした講義を展開する。 面接授業	復習：小児期の感覚器系疾患の理解 予習：配布資料の整理と定期考査準備	20 40
	確認テスト（小テスト）			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SCF31S110S		専門教育科目 キャリア形成領域		表現入門 Introduction to Japanese Expression		2 単位	選 択	講 義	1 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標										
学修教育目的	国際化、情報化時代における国語学習である。学生が日本文化全体を含めた日本語に対する基礎的な知識を理解し、社会人として恥ずかしくない日本語常識を身につける。高等学校において既に学習しているはずの文字や文章にかかわる項目以外に、口語（音声）表現における敬語等待遇表現などの基本的な知識をも整理復習して、さらにその活用方法を学ぶ。その他、就職活動に不可欠な履歴書・エントリーシートなども扱い、自己を正確に分析する能力をも身につける。									
	キーワード	国語常識	学修教育目標	学生が日本語に対する基礎的な知識を理解し、社会人として恥ずかしくない日本語常識を身につけることができる。						
授業科目の概要及び学修上の助言										
教科書に沿って逐次問題演習をしていくので、必ず教科書を持参して授業に臨むこと。										
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能										
特になし										
教 科 書					参考書・リザーブドブック					
書 名：キャリアアップ国語表現法 21 訂版 著者名：丸山顕徳、その他 出版社：嵯峨野書院					なし					
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。									
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。									
③	子どもの発達に関する知識を身につける。									
④	子どもの発達に関する技能を身につける。									
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。			発信力をつけたり、問題解決能力など社会で必要な基本的な力を養う。						○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。			日本語に対する基礎的な知識を理解し、社会人として恥ずかしくない日本語常識を身につける。						◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標										
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性	自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。							◎
		② 働きかけ力	協働して問題に取り組むよう他者に働きかけ学修を進めることができる。							○
		③ 実行力	実際に解答を板書して他者の同意を求める。							◎
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力	成功イメージを常に意識しながら、新しいものを生み出すためのヒントを探している。							◎
		② 計画力	課題の解決に向けた具体的・実践的な方法を明らかにすることができる。							△
		③ 創造力	従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。							△
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力	自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。							○
		② 傾聴力	自分の意見を持ちながら、他人の良い意見も共感を持って受け入れることができる。							◎
		③ 柔軟性	自らの考えに囚われることなく意見の違いや立場の違いを理解することができる。							○
		④ 状況把握力	自分と周囲の人々や物事との状況や関係性を理解し、最適な行動をすることができる。							◎
		⑤ 規律性	社会のルールや人との約束を守り、責任ある行動をとることができる。							◎
		⑥ ストレスコントロール力	ストレスを成長の機会と前向きに捉え葛藤を克服することができる。							○
4. 倫理観		① 倫理性	相手の意思決定や権利を守りながら行動することができる。							○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			59			35			6	100
評価 の 指標	知識に関する評価		40			30				70
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		9							9
	チームワーク力に関する評価								6	6
	関心・意欲に関する評価		10			5				15
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
国語常識として必要な殆どすべての知識を身につけることができた。					国語常識としてよく使われる知識については修得できた。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	面接授業・ 授業ガイダンス 就職試験（国語常識）との関係。	面接授業・講義・レジュメはパワーポイント iPad 等使用・問題演習	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
	問題演習			
第 2 回 ／	教科書の第 3 課「同訓異義語」の問題	課題学習。教科書の問題演習をする	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
	問題演習			
第 3 回 ／	教科書の第 4 課「音訓と熟語」の問題	課題学習。教科書の問題演習をする	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
	問題演習			
第 4 回 ／	教科書の第 5 課「熟語の構造」の問題	課題学習。教科書の問題演習をする	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
	問題演習			
第 5 回 ／	面接授業・第 3 課、4 課、第 5 課の解答合わせと教科書の第 6 課「四字熟語」の問題	面接授業・教科書の問題演習をする	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
	問題演習			
第 6 回 ／	教科書の第 7 課「仮名遣いと送り仮名」の問題	課題学習。教科書の問題演習をする	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
	問題演習			
第 7 回 ／	教科書の第 13 課「レトリック」の問題	課題学習。教科書の問題演習をする	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
	問題演習			
第 8 回 ／	教科書の第 14 課「慣用表現の誤用」の問題	課題学習。教科書の問題演習をする	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
	問題演習			
第 9 回 ／	面接授業・第 7 課、第 13 課、第 14 課の解答合わせと教科書の第 26 課「待遇表現①」の問題	面接授業・教科書の問題演習をする	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
第 10 回 ／	教科書の第 27 課「待遇表現②」の問題	課題学習。教科書の問題演習をする	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
	問題演習			
第 11 回 ／	教科書の第 28 課「接客・電話の対応」の問題	課題学習。教科書の問題演習をする	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
	問題演習			
第 12 回 ／	教科書の第 8 課「文のしくみ」の問題	課題学習。教科書の問題演習をする	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
	問題演習			
第 13 回 ／	面接授業・第 27 課、第 28 課、第 8 課の解答合わせと第 9 課「文章構成」の「基本問題」のみ	面接授業・教科書の問題演習をする	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
	問題演習			
第 14 回 ／	面接授業・提出物を確認し、質問を受けプリントの問題をする	面接授業・プリントの問題をする	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
SCF31F111S		専門教育科目 キャリア形成領域		文章作成法 Japanese Composition		2単位	選 択	講 義	1年次	秋学期	
授業科目の学修教育目的・目標											
学修教育目的		国語の表現力を鍛えることは、知性や感性を磨き豊かな日常生活を送るために不可欠である。日本語表現に関する特質を学び、社会人として必要な文章表現能力を涵養する。現代社会における複雑な人間関係の中で積極的であるために、的確な表現力を身に付け、正確に自己の考えを相手に伝達できるコミュニケーション能力を養う。 目標として、社会人としてのコミュニケーションに必要な文章表現能力を身に付けることを目指す。									
キーワード		適確な表現力・コミュニケーション能力		学修教育目標	社会人としてのコミュニケーションに必要な文章表現能力を身につけることができる。						
授業科目の概要及び学修上の助言											
（概要）書くことに慣れ、短文を重ねることで長文が書けるようにする。 （助言）毎時間の学修の復習と、課題作文等に対し継続して取り組むこと。											
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能											
（関連）他教科でのレポート等の課題に取り組む時に、本科目で学習した文章表現力を生かし、短文を重ねて表現することができる。 （予備知識）要約する力。											
教 科 書					参考書・リザーブブック						
書 名：実戦・日本語の技術 著者名：本多勝一 出版社：朝日新聞出版					書 名：大学生のための日本語表現トレーニング 著者名：安部 朋世 他 出版社：三省堂						
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）							
①	心理の専門知識を身につける。										
②	心理の分析方法を身につける。										
③	心理カウンセリングの知識を身につける。										
④	心理カウンセリングの技法を身につける。										
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。			社会人として必要な文章表現能力を涵養する。						◎	
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。			社会人としてのコミュニケーションに必要な文章表現能力を身に付ける。						◎	
授業科目における社会人基礎力の育成目標											
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性			表現したい事柄に自ら気づくことができるようにする。						○
		② 働きかけ力									
		③ 実行力									
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力									
		② 計画力									
		③ 創造力			書きたい内容を取材し、どのように構成すればよいのか考えることができるようにする。						◎
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力									
		② 傾聴力			他人が書いた文章の、よさを見つけたり、私ならこう書くという批評的な観点から文章を読んだり、聞いたりすることができる。						◎
		③ 柔軟性									
		④ 状況把握力									
		⑤ 規律性			正確に自己の考えを相手に伝達できるコミュニケーション能力を養うために、助言や指摘をきちんと受け止め、校正することができる。						○
		⑥ ストレスコントロール力									
4. 倫理観		① 倫理性									

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			50	20			30			100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		10	4			6			20
	技能に関する評価		10	4			6			20
	応用力に関する評価		10	4			6			20
	チームワークに関する評価		10	4			6			20
	関心・意欲に関する評価		10	4			6			20
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
社会人としてのコミュニケーションに必要な文章表現能力を身につけることができた。					受講前と比して、表現力やコミュニケーション能力を高めることができた。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	授業ガイダンス。（事前・社会人基礎力含む） 実際に書いてみる。（実践演習①） 授業のすすめ方と科目の必要性について。現地点での自分自身の文章力を知る。	対面授業 講義と演習(作文)	「自分の長所」をできるだけ多く書き出してくる。 (A4 用紙を縦長使用。「私の長所」と題を付けて、学籍番号・名前・授業日を記入 し、授業日に持参の上授業終了時に提出。)	30
	学修の進め方を理解し、本時の作文課題「私の 100 長所」について、長所 50 カ所以上を記述できている。			
第 2 回 ／	原稿用紙の使い方。「どう校正するか」という課題を通して基本的な原稿用紙の使用方法について復習する。	対面授業 講義と演習(作文)	テキスト「実戦・日本語の作文技術」 7・欠陥文をどう直すか 復習	30
	演習(作文)を通して正しく原稿用紙が使えている。			
第 3 回 ／	文章力自己点検（1）短文の誤りを訂正する	対面授業 講義と演習(作文)	テキスト「実戦・日本語の作文技術」 2・「わかりやすい」ということ 復習	40
	仮名遣い・送り仮名・句読点・文のねじれに着目して訂正できる。			
第 4 回 ／	文章力自己点検（2）文章力自己点検	対面授業 講義と演習(作文)	テキスト「実戦・日本語の作文技術」 4・「就職の順序」 復習	40
	漢字の使い分け・見やすい表記・あいまいな文に着目して訂正できる。			
第 5 回 ／	コミュニケーション能力を磨く	対面授業 外部講師による講義	入社試験を想定した自己アピール作文を 4 0 0 字で記述してくる。 (授業日に持参の上授業開始前に提出。)	40
	放送局関係者（アナウンサー）の講義に関心を持って参加できる。			
第 6 回 ／	公募作品に挑戦（1）	対面授業 講義と演習(作文)	TGU e-Learning システムに提示した課題（作文）のプロットを記述してくる。	30
	新聞、雑誌等の公募作品の与えられた課題に取り組もうとする。			
第 7 回 ／	演習Ⅰ(1) 文章一般	対面授業 講義と演習(作文)	テキスト「実戦・日本語の作文技術」 3・かかる言葉と受ける言葉 復習	30
	文章を書く時「結論を先に述べる」ことに留意する必要があることが理解できる。			
第 8 回 ／	演習Ⅰ 学生が教える（1）	対面授業 演習（教える）と講義	テキスト「実戦・日本語の作文技術」 2・「わかりやすい」ということ を元に演習できるよう予習しておく	60
	予習に基づいて内容を他の学生に伝える（教える）ことができる。			
第 9 回 ／	課題別演習Ⅱ(1) レポート	対面授業 講義と演習(作文)	参考書「大学生のための日本語表現トレーニング」 ドリル編第 21 章「レポートの構成」 p 65～66 予習 (授業日に持参の上授業開始前に提出。)	30
	レポートの書き方の要点が理解できる。			
第 10 回 ／	課題別演習Ⅱ(2) 論文・評論文・エッセイ	対面授業 講義と演習(作文)	公募作文として 600 字の「評論文」または「エッセイ」に取り組む。(具体課題は第 8 回授業日に指示)	40
	論文の書き方の要点が理解できる。			
第 11 回 ／	課題別演習Ⅱ(3) 説明文・報道文	対面授業 講義と演習(作文)	1 週間の間の新聞記事の中から 1 編を選んで、報道文の書き方 600 字レポート (授業日に持参の上授業終了後に提出。)	40
	説明文の書き方の要点が理解できる。			
第 12 回 ／	演習Ⅲ 敬意を表す表現	対面授業 講義と演習	TGU e-Learning システムに添付した就職試験問題に取り組む。	30
	敬語の使い方を理解できる。(就職試験にチャレンジ)			
第 13 回 ／	各自作文・小論文の実践演習（実践演習②）	対面授業 講義と演習(作文)	第 1 回授業で書いた「私の長所」のどこを直したいのか直したい部分に下線を引いて持ってくる。 (授業日に持参の上授業終了後に提出。)	20
	書き直しすることによって分かりやすい文章が書ける。			
第 14 回 ／	(実践演習③ー創作ー)(事後・社会人基礎力含む)	対面授業 講義と演習(作文)	公募作品の朗読練習をしておく。	10
	他人が書いた作品(文章)のよさを見つけることができる。			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SCF32S112S		専門教育科目 キャリア形成領域		介護概論 Introduction to Care		2単位	選 択	講 義	2年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標										
学修教育目的	教員資格を目指すにあたり、事前課題である「介護等体験」を理解し現場での実習をスムーズに実施できることを主目的とする。社会福祉施設や特別支援学校における支援内容・方法について考え、演習を通して、教育者に必要な姿勢や考え方を養う。本講義では、高齢者介護の知識や介護技術を中心に介護体験がより良く行えるよう、また、実習の意義や必要性についての理解を深める。									
	キーワード 高齢者介護 利用者理解 実習の意義 実習態度			学修教育目標	社会福祉施設および特別支援学校における介護等体験の意義や体験内容を理解し、実習にあたっての自身の心構えや学びたい目標を事前に準備をすることができる。					
授業科目の概要及び学修上の助言										
介護等体験で関わる高齢者や障害のある人について、置かれた状況や必要とする支援内容、また、日常生活を営む上で、その人の有する能力を活用し、その人らしい生活を営めるよう支援するための原理原則について、講義、ワークを通じて基礎知識の習得と定着をはかる。										
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能										
新聞および各種メディアの報道に関心を持ち、特に福祉・介護等生活領域での問題やトピックスを理解するよう心がける。										
教 科 書					参考書・リザーブドブック					
書 名：改訂 人にやさしい介護技術 著者名：野村 敬子 編著 出版社：中央法規					単元ごとにレジュメと参考資料を配布します。					
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。			学童が成長していく過程をライフサイクルから捉え、その中で障がいを持って成長する事を理解し人権について考えることができる。						○
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。			障がい児の特性を理解しその特性に応じた関わり方の違いと技術を学ぶ。						○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。			障がい児の発達を理解し、その成長の先に高齢者問題があることも含めて理解でき、制度との関係を学ぶ。						○
④	子どもの発達に関する技能を身につける。			障がい児の特性に応じた生活支援の方法や喀痰吸引制度について学ぶ。						○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。			介護を必要とする人の生活のしづらさを理解し、相手の立場に立って必要な支援を考えることができる。						○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。			障がい児・者、高齢者問題から社会福祉を広義に理解し、現代社会における福祉の現状と課題を理解できる。						○
授業科目における社会人基礎力の育成目標										
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性			受け身ではなく積極的な姿勢で授業に臨むことができる。					○
		② 働きかけ力			他者に積極的に質問や相談、提案をすることができる。					○
		③ 実行力			自身が計画したことを成し遂げることができる。					○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力			問題意識を常にもち、課題について整理し、取り組むことができる。					○
		② 計画力			問題解決のために、適切な計画を立てることができる。					○
		③ 創造力			問題解決にあたり、さまざまな思考をすることができる。					○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力			自分の考えを他者にわかりやすく伝えることができる。					○
		② 傾聴力			相手の話をしっかり聴き、思いや願いを理解することができる。					○
		③ 柔軟性			その場の状況に合わせた援助方法を選択し、実施できる。					○
		④ 状況把握力			冷静かつ客観的に必要な情報を収集することができる。					○
		⑤ 規律性			ルールを守り与えられた役割について責任をもって遂行することができる。					○
		⑥ ストレスコントロール力			さまざまなストレスに対して対応できる力を養うことができる。					△
4. 倫理観		① 倫理性			いかなる状況であっても人としての尊厳をまもり、援助者として必要な態度をとることができる。					○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コンテスト等)	合 計
総 合 評 価 割 合			50	10	20	20				100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		50	10	20	20				100
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
支援を必要とする人の立場に立ち、その人の思いや希望に沿った支援が実施できる。					支援を必要とする人の思いや希望を理解し、必要とされる支援について考えることができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	介護概論を学ぶ意義 1 オリエンテーション 自己紹介、授業の目標、授業の進め方、介護を学ぶ必要性	講義・対面授業	テキストに目を通しておく。	30
第 2 回 ／	介護を支える制度	講義・対面授業	介護保険制度・社会保障の概要について調べておく。	60
第 3 回 ／	介護の場と特性（在宅と施設）	講義・対面授業	高齢者介護において、地域に住みながら利用できるサービスにはどのようなものがあるか調べておく。	60
第 4 回 ／	対人援助におけるコミュニケーションの技法 コミュニケーションの重要性、言語的・非言語的コミュニケーション、傾聴と共感	講義および演習、グループワーク 対面授業	日常生活において、家族や友人等、人間関係で困ったことや悩んだことの経験を各自でまとめておく。	60
	ミニテスト			
第 5 回 ／	介護を必要とする人の理解 身体に障害を有する人の理解、認知症の人の理解	講義・対面授業	認知症の種類とそれぞれの症状について、各自で調べておく。	60
	ミニテスト			
第 6 回 ／	視覚障害のある人の手引き歩行	講義および演習・対面授業	視覚障害のある人が生活するとはどういう事かどのような環境が求められるかをまとめておく。	60
第 7 回 ／	基本的介護技法 1 移乗・移動の介護、車いすの基本的操作	講義および演習、グループワーク 対面授業	課題レポート 車いすで学内を移動、その体験を通じて気づいたことや、介助者が配慮すべき点等をまとめる。	60
	ミニテスト			
第 8 回 ／	関連職種との連携、チームケアの必要性	講義・対面授業	介護領域で関連する職種について、名称と主な業務について調べておく。	30
第 9 回 ／	アンガーマネジメント、アサーション、セルフケア	講義・対面授業	自身がコミュニケーションを図る際に気を付けていることについて振り返りまとめておく。介護を必要とする人の具体的な支援を総括し、パワーポイントにまとめる準備をしておく。	60
第 10 回 ／	基本的介護技法 2 衣類の着脱の介護	講義および演習、グループワーク 対面授業	骨折やけがなどで通常行っている着替えができなくなったとき、自分ならどうするか（どうしてほしいか）まとめておく。	60
	ミニテスト			
第 11 回 ／	基本的介護技法 3 食事の介護方法	講義および演習、グループワーク 対面授業	自身の食事に関するこだわりや食事習慣についてまとめておく。	60
	ミニテスト			
第 12 回 ／	基本的介護技法 4 排泄の介護	講義および演習、グループワーク 対面授業	排泄に対する援助を必要とする人の気持ちや援助の留意点についてまとめる。	60
	ミニレポート			
第 13 回 ／	介護者への支援・虐待防止、介護を必要とする人の支援・まとめ	講義およびグループワーク 対面授業	「虐待」についての事件や関連のある出来事について、各自で調べてまとめておく。（高齢者分野以外でもよい。）介護を必要とする人の具体的な支援を総括し、パワーポイントにまとめる準備をしておく。	60
第 14 回 ／	介護現場で働く人の心構えと求められるニーズ	講義および演習、グループワーク 対面授業	介護現場で働く人の心構えを理解し、そこで働く者には、どのようなニーズが求められているかを理解する。	60
	ミニレポート			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング		授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
SCF33S113S		専門教育科目 キャリア形成領域		介護体験 Care Experiences for Person with Handicap		2単位	選 択	実 習	3年次	春学期	
授業科目の学修教育目的・目標											
学修教育目的		教職に就くことを前提とした学生のために，特別支援学校の児童・生徒と教職員及び，社会福祉施設の利用者と職員に，貴重な学習や生活の時間を提供してもらい介護等体験が実施されることを十分に理解し，その責任と積極的・主体的に介護等体験に望む意識を持つことを，授業のねらいとする。									
キーワード		教職・特別支援学校・社会福祉施設・介護等体験			学修教育目標		◎社会福祉施設等の内容，介護等体験への姿勢，基本的マナー，言葉使い，個人情報の秘匿，私語，身だしなみ等について理解する。 ◎次に挙げる目的を自分なりに意識して臨む。 ・弱者への人権意識をどれだけ高められるか。 ・ノーマライゼーションの思想をどれくらい受容できるか。 ・相手との共感的・受容的人間関係という観点で成長できるか。				
授業科目の概要及び学修上の助言											
(概要) 教職に就くことを前提とした学生が，特別支援学校及び社会福祉施設での体験実習を通して，教職の責任と介護等体験に積極的・主体的に臨む意識を持つことができるようになるための科目。 (助言) 単なる知識で分かったとするのではなく，体験実習を通して自ら考え，実感することができるようにしたい。											
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能											
(関連) 介護等体験と，小学校・中学校での教育実習とを受講生自らが，意識して関連づけながら履修すること。 (予備知識) これまでの保・幼・小・中・高等で，身体や心に障害を持った仲間との出会い。身内にいる高齢者との関わり等。											
教 科 書					参考書・リザーブドブック						
自作プリント資料					なし						
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）							
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。										
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。			実習校や施設で，在籍する児童・生徒，成人や高齢者等の皆さんに話しかけ，聞き取ることができる。						◎	
③	子どもの発達に関する知識を身につける。										
④	子どもの発達に関する技能を身につける。										
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感，責任感，倫理観を身につける。			規律を守り，礼儀をわきまえ，適切な態度・行動をとることができる。						○	
⑥	学修成果を総合的に活用し，教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。			与えられた計画による実習の履修だけではなく，実習現場の状況を把握し，課題について計画的に取り組むことができる。						○	
授業科目における社会人基礎力の育成目標											
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)			授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性									
		② 働きかけ力			入所者や在籍の児童・生徒への積極的な挨拶や話しかけができる。						○
		③ 実行力									
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力			施設や支援学校で働く人たちの行動や言葉から，その意図を理解し何をなすべきかを考えることができる。						○
		② 計画力									
		③ 創造力									
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力									
		② 傾聴力			入所者や在籍の児童・生徒に話しかけたとき，そのことに対する態度や様子から，相手の気持ちや意図を理解しようとしている。						◎
		③ 柔軟性									
		④ 状況把握力			瞬時に生起，展開する事態に慌てることなく，落ち着いて状況をつかむことができる。						◎
		⑤ 規律性									
		⑥ ストレスコントロール力									
4. 倫理観		① 倫理性									

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い，特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い，高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い，学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合					35		35	30		100
評 価 の 指 標	知識に関する評価				7		7	6		20
	技能に関する評価				7		7	6		20
	応用力に関する評価				7		7	6		20
	チームワーク力に関する評価				7		7	6		20
	関心・意欲に関する評価				7		7	6		20
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
特別支援学校の児童・生徒と教職員及び，社会福祉施設の利用者と職員から学び，介護等体験が実施されることの意義を十分に理解し，責任と積極的・主体的に介護等体験に臨むことができる。					特別支援学校の児童・生徒と教職員及び，社会福祉施設の利用者と職員から学び，介護等体験が実施されることの意義を十分に理解することができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は， おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	事前学修① ～介護体験の意義について～ (事前・社会人基礎力評価を含む)	講義 面接授業	介護体験を受ける心構え(事前作文)	40
	介護体験の意義について理解できる。			
第 2 回 ／	事前学修② ～社会福祉施設とは～	講義 —社会福祉施設から講師招聘— 面接授業	事前配布資料予習—要点レポート—	40
	社会福祉施設の概要について理解できる。			
第 3 回 ／	事前学修③ ～特別支援学校とは～	講義 —特別支援学校から講師招聘— 面接授業	事前配布資料予習—要点レポート—	40
	特別支援学校の概要について理解できる。			
第 4 回 ／	介護体験から社会人基礎力を身につける ～事前自己評価シートの記入～	講義と事前自己評価シートの記入 面接授業	社会人基礎力資料事前予習—要点レポート—	40
	事前自己評価シートの記入を通して傾聴力、状況把握力を身につけようとしている。			
第 5 回 ／	介護体験① ～社会福祉施設での実習（第 1 日目）～	社会福祉施設での実習	実習施設からの課題の取り組み	40
	社会福祉施設に慣れ、あいさつができる。			
第 6 回 ／	介護体験② ～社会福祉施設での実習（第 2 日目）～	社会福祉施設での実習	実習施設からの課題の取り組み	40
	社会福祉施設での学びの課題を見つけることができる。			
第 7 回 ／	介護体験③ ～社会福祉施設での実習（第 3 日目）～	社会福祉施設での実習	実習施設からの課題の取り組み	40
	社会福祉施設での学びの課題に自分なりに取り組むことができる。			
第 8 回 ／	介護体験④ ～社会福祉施設での実習（第 4 日目）～	社会福祉施設での実習	実習施設からの課題の取り組み	40
	社会福祉施設での学びの課題に取り組みの振り返りができる。			
第 9 回 ／	介護体験⑤ ～社会福祉施設での実習（第 5 日目）～	社会福祉施設での実習	実習施設からの課題の取り組み	30
	社会福祉施設での学びの成果と課題を振り返ることができる。			
第 10 回 ／	介護体験⑥ ～特別支援学校での実習（第 1 日目）～	特別支援学校での実習	実習支援学校からの課題の取り組み	40
	特別支援学校での実習に課題を持って取り組むことができる。			
第 11 回 ／	介護体験⑦ ～特別支援学校での実習（第 2 日目）～	特別支援学校での実習	実習支援学校からの課題の取り組み	40
	自分の実習での取り組み目標の達成に心がけることができる。			
第 12 回 ／	事後学修① ～社会福祉施設での実習の振り返り～ グループワークを通して情報の共有、まとめるを行う	講義と演習(実習まとめ) 面接授業	実習事前まとめ	40
	グループワークを通して情報の共有、まとめるを行うことができる。			
第 13 回 ／	事後学修② ～特別支援学校での実習の振り返り～ グループワークを通して情報の共有、まとめるを行う	講義と演習(実習まとめ) 面接授業	実習事前まとめ	40
	グループワークを通して情報の共有、まとめるを行うことができる。			
第 14 回 ／	事後学修③ ～グループ発表～ 特別支援学校・社会福祉施設での振り返りのまとめと発表	講義と演習(発表) 面接授業	プレゼン事前準備	40
	介護体験から社会人基礎力を身につける ～事後自己評価シートの記入～ 介護体験の振り返りのまとめと発表ができる。 事後自己評価シートの記入を通して傾聴力、状況把握力を身につけることができる。			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
SCF31S114S	専門教育科目 キャリア形成領域	ボランティア実習 Volunteer Training		2単位	選 択	実 習	1年次	春学期	
授業科目の学修教育目的・目標									
学修教育目的	ボランティア実習は、学生自身がボランティア活動を通して社会と関わる中で、積極的に福祉活動に従事し、様々な福祉問題に前向きに取り組もうとするボランティア精神を身につけることを目的とする。								
	キーワード	ボランティア	学修教育目標	ボランティア活動に参加し、ボランティアについて理解することができる。 社会での活動を通じて、大学で学ぶ専門的な知識や技術をより実践的に修得し、社会人基礎力におけるそれぞれの能力要素を伸ばすことができる。					
授業科目の概要及び学修上の助言									
ボランティア活動に参加する。安易な気持ちで参加するのではなく、目的意識を持って活動に参加し、責任をもってやり遂げること。									
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能									
特になし。									
教 科 書				参考書・リザーブブック					
なし				なし					
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。								
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。								
③	子どもの発達に関する知識を身につける。								
④	子どもの発達に関する技能を身につける。								
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		責任を持ってやり遂げることができる。						
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		さまざまな問題に対し、解決方法を考えて取り組むことができる。						
授業科目における社会人基礎力の育成目標									
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性		自ら行動することができる。					◎
		② 働きかけ力		周囲の人と積極的に関わることができる。					○
		③ 実行力		目標を設定して行動することができる。					○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力		状況を把握してすべきことを見つけることができる。					△
		② 計画力		実行計画をたてることができる。					△
		③ 創造力		解決方法を見つけることができる。					△
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力		自分の意見や考えをわかりやすく伝えることができる。					○
		② 傾聴力		相手の話をよく聞いて、意見や考えを引き出すことができる。					◎
		③ 柔軟性		相手の意見や考えを理解して受け入れることができる。					◎
		④ 状況把握力		その場で何が求められているかを考え、理解することができる。					○
		⑤ 規律性		社会的なルールやマナーだけでなく、その場の約束事を守って行動できる。					○
		⑥ ストレスコントロール力		相手の状態やその場の状況を考えて冷静に対応することができる。					○
4. 倫理観		① 倫理性		相手のことを考えて行動することができる。					◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
		総 合 評 価 割 合								
評 価 の 指 標	知識に関する評価									
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
実習先の状況を理解して適切な行動をとることができる。					実習先で適切な行動をとることができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	事前指導（オリエンテーション）		実習先へボランティア実習の受け入れについて依頼する	60
第 2 回 ／	実習（1）（実習先での活動）	実習	日々の記録（活動日誌）作成	60
	活動日誌			
第 3 回 ／	実習（2）（実習先での活動）	実習	日々の記録（活動日誌）作成	60
	活動日誌			
第 4 回 ／	実習（3）（実習先での活動）	実習	日々の記録（活動日誌）作成	60
	活動日誌			
第 5 回 ／	実習（4）（実習先での活動）	実習	日々の記録（活動日誌）作成	60
	活動日誌			
第 6 回 ／	実習（5）（実習先での活動）	実習	日々の記録（活動日誌）作成	60
	活動日誌			
第 7 回 ／	実習（6）（実習先での活動）	実習	日々の記録（活動日誌）作成	60
	活動日誌			
第 8 回 ／	実習（7）（実習先での活動）	実習	日々の記録（活動日誌）作成	60
	活動日誌			
第 9 回 ／	実習（8）（実習先での活動）	実習	日々の記録（活動日誌）作成	60
	活動日誌			
第 10 回 ／	実習（9）（実習先での活動）	実習	日々の記録（活動日誌）作成	60
	活動日誌			
第 11 回 ／	実習（10）（実習先での活動）	実習	日々の記録（活動日誌）作成	60
	活動日誌			
第 12 回 ／	実習（11）（実習先での活動）	実習	日々の記録（活動日誌）作成	60
	活動日誌			
第 13 回 ／	実習（12）（実習先での活動） 総実習時間：45 時間	実習	日々の記録（活動日誌）作成	60
	活動日誌			
第 14 回 ／	事後指導		事後レポートの作成、活動日誌のまとめ	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

授 業 科 目 区 分	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SCF32S115S	専門教育科目 キャリア形成領域	インターンシップ（学校） Internship（School）	2単位	選 択	実 習	2年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標							
学修教育目的	学校現場での就業体験により、卒業後を見据えた将来像をより明確にすることができる。						
	キーワード	就業体験 学校	学修教育目標	教育現場の実際を経験し、取り組まなくてはならない課題を明確にすることができる。 教育現場で必要とされる社会人基礎力を身に付ける。			
授業科目の概要及び学修上の助言							
高等学校・中学校・小学校・幼稚園・保育所等での就業体験を行う。 安易な気持ちで参加するのではなく、目的意識を持ち、教育する側に立っているという自覚をもって参加すること。							
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能							
実習先の特性をよく理解しておくこと。							
教 科 書				参考書・リザーブドブック			
なし				なし			
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。						
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。						
③	子どもの発達に関する知識を身につける。						
④	子どもの発達に関する技能を身につける。						
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		実習先でふさわしい態度・行動をとることができる。○				
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		実習先での課題を明確にし解決策を導くことができる。◎				
授業科目における社会人基礎力の育成目標							
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）			
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性		自ら行動することができる。◎			
		② 働きかけ力		周囲の人と積極的に関わることができる。◎			
		③ 実行力		目標を設定して行動することができる。○			
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力		状況を把握してすべきことを見つけることができる。◎			
		② 計画力		実行計画をたてることができる。○			
		③ 創造力		解決方法を見つけることができる。◎			
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力		自分の意見や考えをわかりやすく伝えることができる。◎			
		② 傾聴力		相手の話をよく聞いて、意見や考えを引き出すことができる。◎			
		③ 柔軟性		相手の意見や考えを理解して受け入れることができる。◎			
		④ 状況把握力		その場で何が求められているかを考え、理解することができる。○			
		⑤ 規律性		社会的なルールやマナーだけでなく、その場の約束事を守って行動できる。○			
		⑥ ストレスコントロール力		相手の状態やその場の状況を考えて冷静に対応することができる。◎			
4. 倫理観		① 倫理性		相手のことを考えて行動することができる。◎			

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
		総 合 評 価 割 合								
評 価 の 指 標	知識に関する評価									
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
実習先の状況を理解して、積極的に課題解決に取り組むことができる。					実習先の状況を把握して、ふさわしい行動をとることができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	詳細は各インターンシップのオリエンテーション等で説明する。			
第 2 回 ／				
第 3 回 ／				
第 4 回 ／				
第 5 回 ／				
第 6 回 ／				
第 7 回 ／				
第 8 回 ／				
第 9 回 ／				
第 10 回 ／				
第 11 回 ／				
第 12 回 ／				
第 13 回 ／				
第 14 回 ／				

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SCF32S116S	専門教育科目 キャリア形成領域	インターンシップ（企業） Internship (Business Enterprise)		2単位	選 択	実 習	2年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	企業等での就業体験を行い、明確な職業意識と倫理観をもった職業人の育成と学外を含めた幅広い人間関係の醸成を図る。							
	キーワード 就業体験 企業	学修教育目標	企業等の実際を経験し、取り組まなくてはならない課題を明確にすることができる。 社会で必要とされる社会人基礎力を身に付ける。					
授業科目の概要及び学修上の助言								
企業での就業体験に参加する。 安易な気持ちで参加するのではなく、目的意識を持ち、自覚をもって参加すること。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
実習先の特性をよく理解しておくこと。								
教 科 書					参考書・リザーブドブック			
なし					なし			
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。							
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。							
③	子どもの発達に関する知識を身につける。							
④	子どもの発達に関する技能を身につける。							
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		実習先でふさわしい態度・行動をとることができる。○					
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		実習先での課題を明確にし解決策を導くことができる。◎					
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性		自ら行動することができる。◎				
		② 働きかけ力		周囲の人と積極的に関わることができる。◎				
		③ 実行力		目標を設定して行動することができる。○				
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力		状況を把握してすべきことを見つけることができる。◎				
		② 計画力		実行計画をたてることができる。○				
		③ 創造力		解決方法を見つけることができる。◎				
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力		自分の意見や考えをわかりやすく伝えることができる。◎				
		② 傾聴力		相手の話をよく聞いて、意見や考えを引き出すことができる。◎				
		③ 柔軟性		相手の意見や考えを理解して受け入れることができる。◎				
		④ 状況把握力		その場で何が求められているかを考え、理解することができる。○				
		⑤ 規律性		社会的なルールやマナーだけでなく、その場の約束事を守って行動できる。○				
		⑥ ストレスコントロール力		相手の状態やその場の状況を考えて冷静に対応することができる。◎				
4. 倫理観		① 倫理性		相手のことを考えて行動することができる。◎				

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
		総 合 評 価 割 合								
評 価 の 指 標	知識に関する評価									
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
実習先の状況を理解して、積極的に課題解決に取り組むことができる。					実習先の状況を把握して、ふさわしい行動をとることができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	詳細は各インターンシップのオリエンテーション等で説明する。			
第 2 回 ／				
第 3 回 ／				
第 4 回 ／				
第 5 回 ／				
第 6 回 ／				
第 7 回 ／				
第 8 回 ／				
第 9 回 ／				
第 10 回 ／				
第 11 回 ／				
第 12 回 ／				
第 13 回 ／				
第 14 回 ／				

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SCF32S117S	専門教育科目 キャリア形成領域	インターンシップ（コーオプ） Internship (Part-time Job)		2単位	選 択	実 習	2年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	自己の職業適性を考え卒業後の職業選択の一助とするために、職種・業種を考慮に入れて就業先を選択し、実習を行う。							
	キーワード 就業体験 コーオプ	学修教育目標	自己の将来を見据えた職業選択ができる。 社会で必要とされる社会人基礎力を身に付ける。					
授業科目の概要及び学修上の助言								
自己の職業適性を考え卒業後の職業選択の一助とするために、職種・業種を考慮に入れて就業先を選択し、実習を行う。 安易な気持ちで参加するのではなく、目的意識を持ち、就労に対する対価を受け取っているという自覚をもって参加すること。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
実習先の特性をよく理解しておくこと。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
なし				なし				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。							
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。							
③	子どもの発達に関する知識を身につける。							
④	子どもの発達に関する技能を身につける。							
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		実習先でふさわしい態度・行動をとることができる。 ○					
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		実習先での課題を明確にし解決策を導くことができる。 ◎					
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性		自ら行動することができる。 ◎				
		② 働きかけ力		周囲の人と積極的に関わることができる。 ◎				
		③ 実行力		目標を設定して行動することができる。 ○				
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力		状況を把握してすべきことを見つけることができる。 ◎				
		② 計画力		実行計画をたてることができる。 ○				
		③ 創造力		解決方法を見つけることができる。 ◎				
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力		自分の意見や考えをわかりやすく伝えることができる。 ◎				
		② 傾聴力		相手の話をよく聞いて、意見や考えを引き出すことができる。 ◎				
		③ 柔軟性		相手の意見や考えを理解して受け入れることができる。 ◎				
		④ 状況把握力		その場で何が求められているかを考え、理解することができる。 ○				
		⑤ 規律性		社会的なルールやマナーだけでなく、その場の約束事を守って行動できる。 ○				
		⑥ ストレスコントロール力		相手の状態やその場の状況を考えて冷静に対応することができる。 ◎				
4. 倫理観		① 倫理性		相手のことを考えて行動することができる。 ◎				

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
		総 合 評 価 割 合								
評 価 の 指 標	知識に関する評価									
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
実習先の状況を理解して、積極的に課題解決に取り組むことができる。					実習先の状況を把握して、ふさわしい行動をとることができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	詳細は各インターンシップのオリエンテーション等で説明する。			
第 2 回 ／				
第 3 回 ／				
第 4 回 ／				
第 5 回 ／				
第 6 回 ／				
第 7 回 ／				
第 8 回 ／				
第 9 回 ／				
第 10 回 ／				
第 11 回 ／				
第 12 回 ／				
第 13 回 ／				
第 14 回 ／				

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSS13S122S	専門教育科目 ゼミ	基礎ゼミ I Foundation Seminar I		1 単位	必 修	演 習	3 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	卒業論文作成に向けた総合演習（卒論ゼミ）形式で進める。これまでの課程で獲得した知識を他へ自己表現する能力（プレゼンテーション能力）を身につける。							
	キーワード	卒業研究	学修教育目標	・各回のテーマに応じて必要となる知識を獲得することができる。 ・テーマに関するディスカッションに、積極的に関わることができる。				
授業科目の概要及び学修上の助言								
詳細は「基礎ゼミ I ・ II テーマ一覧表」で確認すること。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
詳細は「基礎ゼミ I ・ II テーマ一覧表」で確認すること。								
教 科 書				参考書・リザーブブック				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。							
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。			「基礎ゼミ I ・ II テーマ一覧表」及び、第 1 回目の授業で説明する。				
③	子どもの発達に関する知識を身につける。							
④	子どもの発達に関する技能を身につける。							
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。							
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。							
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4 つの力)	能力要素(13 の要素)		授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）	① 主体性		自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。					○
	② 働きかけ力		すすんで質問し、周囲に働きかけることができる。					○
	③ 実行力		目的を理解し、目標を設定して行動することができる。					○
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）	① 課題発見力		現状を把握して、課題を抽出することができる。					○
	② 計画力		課題解決のためのプロセスを明らかにして、計画を立てることができる。					○
	③ 創造力		考えを深め、新しい解決方法を考え出すことができる。					○
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）	① 発信力		自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらえるように適確に伝えることができる。					○
	② 傾聴力		相手が話しやすい環境を作り、適切なタイミングで質問し、相手の意見を引き出すことができる。					○
	③ 柔軟性		相手の意見や立場を尊重し、自分の価値観と異なる意見を受け入れることができる。					○
	④ 状況把握力		自分の置かれている環境、状況を把握し、どのような役割が求められるかを理解することができる。					○
	⑤ 規律性		ルールや約束を守り、良識ある行動をとることができる。					○
	⑥ ストレスコントロール力		ストレスに対し、原因を取り除く、支援を求めるなど適切な対処方法を理解し行動することができる。					○
4. 倫理観	① 倫理性		建学の精神「教育は徳なり」を理解し、他人のために行動することができる。					○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合										
評価 の 指標	知識に関する評価									
	技能に関する評価				到達度の評価方法は第1回目の授業 で担当教員から説明する。					
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	各回の学修内容の詳細は授業の中で連絡する。 尚、教員ごとのテーマは別紙「テーマ一覧」を参照すること。	第 1 回目の授業で説明する。	各回の予習・復習の詳細は第 1 回目の授業の中で説明する。	
第 2 回 ／				
第 3 回 ／				
第 4 回 ／				
第 5 回 ／				
第 6 回 ／				
第 7 回 ／				
第 8 回 ／				
第 9 回 ／				
第 10 回 ／				
第 11 回 ／				
第 12 回 ／				
第 13 回 ／				
第 14 回 ／				

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
SSS13F122A	専門教育科目 ゼミ	基礎ゼミⅡ Foundation SeminarⅡ		1 単位	必 修	演 習	3 年次	秋学期	
授業科目の学修教育目的・目標									
学修教育目的	総合演習形式で卒業論文作成に向けた演習を行う。受講生の討論から対比的に学ぶことで、様々な知識を身につける。自らが獲得した知識に対する他者からの評価を建設的に受け止めることができる。								
	キーワード	卒業研究	学修教育目標	・まとめた内容を他者が理解できるよう説明できる。 ・他者の意見を取り入れて自らの知識・理解の枠を広げることができる。 ・他者の発表に対して建設的な意見を述べるることができる。					
授業科目の概要及び学修上の助言									
詳細は「基礎ゼミⅠ・Ⅱ テーマ一覧表」で確認すること。									
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能									
詳細は「基礎ゼミⅠ・Ⅱ テーマ一覧表」で確認すること。									
教 科 書				参考書・リザーブドブック					
別途、教員から指示する。				別途、教員から指示する。					
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。		「基礎ゼミⅠ・Ⅱ テーマ一覧表」及び、第1回目の授業で説明する。						
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。								
③	子どもの発達に関する知識を身につける。								
④	子どもの発達に関する技能を身につける。								
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。								
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。								
授業科目における社会人基礎力の育成目標									
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性		自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる						○
	② 働きかけ力		すすんで質問し、周囲に働きかけることができる。						○
	③ 実行力		目的を理解し、目標を設定して行動することができる。						○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力		現状を把握して、課題を抽出することができる。						○
	② 計画力		課題解決のためのプロセスを明らかにして、計画を立てることができる。						○
	③ 創造力		考えを深め、新しい解決方法を考え出すことができる。						○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらえるように適確に伝えることができる。						○
	② 傾聴力		相手が話しやすい環境を作り、適切なタイミングで質問し、相手の意見を引き出すことができる						○
	③ 柔軟性		相手の意見や立場を尊重し、自分の価値観と異なる意見を受け入れることができる。						○
	④ 状況把握力		自分の置かれている環境、状況を把握し、どのような役割が求められるかを理解することができる。						○
	⑤ 規律性		ルールや約束を守り、良識ある行動をとることができる。						○
	⑥ ストレスコントロール力		ストレスに対し、原因を取り除く、支援を求めるなど適切な対処方法を理解し行動することができる。						○
4. 倫理観	① 倫理性		建学の精神「教育は徳なり」を理解し、他人のために行動することができる。						○

※1 ○:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される
 ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される
 △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ○:効果的に発揮できる力が身に付く
 ○:通常の状況で発揮する力が身に付く
 △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
		総 合 評 価 割 合								
評 価 の 指 標	知識に関する評価				到達度の評価方法は第1回目の授業 で担当教員から説明する。					
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	各回の学修内容の詳細は授業の中で連絡する。 尚、教員ごとのテーマは別紙「テーマ一覧」を参照すること。	第 1 回目の授業で説明する。	各回の予習・復習の詳細は第 1 回目の授業の中で説明する。	
第 2 回 ／				
第 3 回 ／				
第 4 回 ／				
第 5 回 ／				
第 6 回 ／				
第 7 回 ／				
第 8 回 ／				
第 9 回 ／				
第 10 回 ／				
第 11 回 ／				
第 12 回 ／				
第 13 回 ／				
第 14 回 ／				

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSS14S123S	専門教育科目 ゼミ	ゼミ I Seminar I		1 単位	必 修	演 習	4 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的								
	卒業論文のためのテーマを設定し解決のための仮説の組み立てを行う。							
キーワード	卒業研究		学修教育目標	・テーマに関する先行論文を検索・研究し、理解して発表できる。 ・自らの研究内容に対して批判的に考察できる。 ・他者の発表に対して、批判的に意見を述べることができる。				
授業科目の概要及び学修上の助言								
第 1 回目の授業で担当教員から説明する。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
第 1 回目の授業で担当教員から説明する。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
別途、教員から指示する。				別途、教員から指示する。				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。							
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。							
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		第 1 回目の授業で担当教員から説明する。					
④	子どもの発達に関する技能を身につける。							
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。							
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。							
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4 つの力)	能力要素(13 の要素)		授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性		自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。					◎
	② 働きかけ力		すすんで質問し、周囲に働きかけることができる。					◎
	③ 実行力		目的を理解し、目標を設定して行動することができる。					◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力		現状を把握して、課題を抽出することができる。					◎
	② 計画力		課題解決のためのプロセスを明らかにして、計画を立てることができる。					◎
	③ 創造力		考えを深め、新しい解決方法を考え出すことができる。					◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらえるように適確に伝えることができる。					◎
	② 傾聴力		相手が話しやすい環境を作り、適切なタイミングで質問し、相手の意見を引き出すことができる。					◎
	③ 柔軟性		相手の意見や立場を尊重し、自分の価値観と異なる意見を受け入れることができる。					◎
	④ 状況把握力		自分の置かれている環境、状況を把握し、どのような役割が求められるかを理解することができる。					◎
	⑤ 規律性		ルールや約束を守り、良識ある行動をとることができる。					◎
	⑥ ストレスコントロール力		ストレスに対し、原因を取り除く、支援を求めるなど適切な対処方法を理解し行動することができる。					◎
4. 倫理観	① 倫理性		建学の精神「教育は徳なり」を理解し、他人のために行動することができる。					◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合										
評 価 の 指 標	知識に関する評価				到達度の評価方法は第1回目の授業 で担当教員から説明する。					
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	各回の学修内容の詳細は授業の中で連絡する。 尚、教員ごとのテーマは別紙「テーマ一覧」を参照すること。	第 1 回目の授業で説明する。	各回の予習・復習の詳細は第 1 回目の授業の中で説明する。	
第 2 回 ／				
第 3 回 ／				
第 4 回 ／				
第 5 回 ／				
第 6 回 ／				
第 7 回 ／				
第 8 回 ／				
第 9 回 ／				
第 10 回 ／				
第 11 回 ／				
第 12 回 ／				
第 13 回 ／				
第 14 回 ／				

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

ナンバリング	授 業 科 目 区 分	授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
SSS14F123A	専門教育科目 ゼミ	ゼミⅡ SeminarⅡ		1単位	必修	演習	4年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	今まで学んできたことを基礎として、各自が設定したテーマについて考察した内容をまとめ、テーマに対する知識・理解を定着させる。また、相互批判を受け止め、互いに高めあう関係を構築することができる能力を身につける。							
	キーワード	卒業研究	学修教育目標	・テーマに関する研究をまとめることができる。 ・自らの研究内容に対する他者の批判的意見を受け入れさらに内容を改善できる。 ・相互学修を通して他者と共に成長することができる能力を身につける。				
授業科目の概要及び学修上の助言								
第1回目の授業で担当教員から説明する。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
第1回目の授業で担当教員から説明する。								
教科書				参考書・リザーブドブック				
別途、教員から指示する。				別途、教員から指示する。				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。							
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。							
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		第1回目の授業で担当教員から説明する。					
④	子どもの発達に関する技能を身につける。							
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。							
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。							
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。						◎
	② 働きかけ力	すすんで質問し、周囲に働きかけることができる。						◎
	③ 実行力	目的を理解し、目標を設定して行動することができる。						◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	現状を把握して、課題を抽出することができる。						◎
	② 計画力	課題解決のためのプロセスを明らかにして、計画を立てることができる。						◎
	③ 創造力	考えを深め、新しい解決方法を考え出すことができる。						◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらえるように適確に伝えることができる。						◎
	② 傾聴力	相手が話しやすい環境を作り、適切なタイミングで質問し、相手の意見を引き出すことができる。						◎
	③ 柔軟性	相手の意見や立場を尊重し、自分の価値観と異なる意見を受け入れることができる。						◎
	④ 状況把握力	自分の置かれている環境、状況を把握し、どのような役割が求められるかを理解することができる。						◎
	⑤ 規律性	ルールや約束を守り、良識ある行動をとることができる。						◎
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスに対し、原因を取り除く、支援を求めるなど適切な対処方法を理解し行動することができる。						◎
4. 倫理観	① 倫理性	建学の精神「教育は徳なり」を理解し、他人のために行動することができる。						◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
		総 合 評 価 割 合								
評 価 の 指 標	知識に関する評価				到達度の評価方法は第1回目の授業 で担当教員から説明する。					
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
第1回目の授業で担当教員から説明する。										

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	各回の学修内容の詳細は授業の中で連絡する。 尚、教員ごとのテーマは別紙「テーマ一覧」を参照すること。	第 1 回目の授業で説明する。	各回の予習・復習の詳細は第 1 回目の授業の中で説明する。	
第 2 回 ／				
第 3 回 ／				
第 4 回 ／				
第 5 回 ／				
第 6 回 ／				
第 7 回 ／				
第 8 回 ／				
第 9 回 ／				
第 10 回 ／				
第 11 回 ／				
第 12 回 ／				
第 13 回 ／				
第 14 回 ／				

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。